

「性的マイノリティについての意識： 2019年（第2回）全国調査」 報告会

2020年11月29日（日曜日）13：00～15：30

主催：「性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査」
調査班

| プログラム | | |
|----------------|----|---|
| 13:00 | 河口 | ・開会アナウンス、ご挨拶、調査概要 |
| 13:05 | 平森 | ・性的マイノリティを扱うさまざまな調査の中の本調査の位置付け ・2015年と2019年のサンプル構成 |
| 13:15 | 河口 | ・知識と認識 |
| 13:30 | 風間 | ・恋愛感情・行為に対する嫌悪感と抵抗感 ・友人に対する抵抗感 |
| 13:45 | 釜野 | ・存在の認識 ・身近な人に対する嫌悪感 |
| <14:00 休憩 15分> | | |
| 14:15 | 石田 | ・同性婚の賛否 |
| 14:30 | 吉仲 | ・教育（義務教育で教えることの賛否、教員になってほしくない人） ・学んだ経験・研修経験 |
| 14:45 | 平森 | ・施策に対する意識 |
| <14:55 休憩 10分> | | |
| 15:05 | | 質疑応答 |
| 15:25-15:30 | 河口 | おわりのご挨拶 |

**本日の報告は以下の科学研究費の
プロジェクトによるものです。**

**「セクシュアル・マイノリティをめぐる
意識の変容と施策に関する研究」
(課題番号18H03652)**

本報告会までの経緯

科研費による研究

第1期（2007～09年度）「日本におけるクィア・スタディーズの可能性」

第2期（2010～12年度）「日本におけるクィア・スタディーズの展開」

第3期（2013～16年度）「日本におけるクィア・スタディーズの構築」→
「性的マイノリティについての意識 2015年全国調査」

第4期（2018～22年度）「セクシュアル・マイノリティをめぐる意識と施策に関する研究」

研究の目的

性的マイノリティの置かれた社会環境の改善には、性的指向・性自認にかかわる施策の充実のみでなく、性的マイノリティに対する一般市民の寛容な意識が必要であるとの立場から、性的マイノリティに対する一般市民の意識の把握を目的としています。

2015年に行った調査結果と2019年の調査結果の比較を行うことをとおして、人びとの意識がどのように変化したか、そしてそれは何により変化したのかを理解することも目的としています。

2015年調査の概要

- (1)母集団：日本に居住する満20～79歳の男女個人
- (2)調査地域：全国
- (3)標本抽出法：住民基本台帳を用いた層化二段無作為抽出法
(全国130地点)
- (4)調査票配布数：2600票
- (5)回収数：1259票
- (6)回収率：48.4%

2015年調査の概要（続き）

(7)調査方法:調査員による訪問留置訪問回収法

＊一部郵送により返却

(8)調査期間:2015年3月

※2015年調査の報告書は、広島修道大学河口和也研究室のウェブサイトに掲載されています。(URLとQRコード)

<http://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/>



2019年調査の概要

- (1)母集団：日本に居住する満20～79歳の男女個人
- (2)調査地域：全国
- (3)標本抽出法：住民基本台帳を用いた層化二段無作為抽出法
(全国275 地点)
- (4)調査票配布数：5,500 票
- (5)回収数：2709票 (有効回収数：2632票)
- (6)回収率：49.3% (有効回収率：47.9%)

2019年調査の概要（続き）

(7)調査方法：調査員による訪問留置訪問回収法

＊希望者への郵送返送及びWEB回答併用。不在者へのポスティングも実施。

(8)調査期間：2019年6月27日～7月15日（予備期間～7月22日）

2019年意識調査グループメンバー

| メンバー 氏名 | 所 属 | 分 担 |
|---------|----------------|----------------|
| 石田仁 | 明治学院大学 | 調査立案 + 調査分析 |
| 風間孝 | 中京大学 | 調査立案 + 調査分析 |
| 釜野さおり | 国立社会保障・人口問題研究所 | 意識調査責任者 + 調査分析 |
| 河口和也 | 広島修道大学 | 研究代表者 + 調査分析 |
| 平森大規 | ワシントン大学 | 調査立案 + 調査分析 |
| 吉仲崇 | 会社員 | 調査立案 + 調査分析 |

本日の報告の流れ

1. 本調査の位置づけ／2015年と2019年各調査のサンプル構成 （平森）
2. 知識と認識 （河口）
3. 恋愛感情・行為に対する嫌悪感と抵抗感／友人に対する抵抗感 （風間）
4. 存在の認識／身近な人に対する嫌悪感 （釜野）
（休憩 15分）
5. 同性婚の賛否 （石田）
6. 教育／学んだ経験・研修経験 （吉仲）
7. 施策に対する意識 （平森）
（休憩 10分）
8. 質疑応答 （全員）

ご参加のみなさまへのお願い

(1)マイクオフ(ミュート)、カメラオフ(ビデオの停止)でお願いいたします。



(2)録音撮影はご遠慮ください。

(3)お名前の表示方法は自由です。

ご質問等への対応について

○本報告会における質問やコメントはマイクによるご発言ではなく、専用の質疑記入フォーム

(<https://www.form-answer.com/applications/FYBKE>)
で受け付けます。(zoomのチャット機能は質疑では使用しません)

○ご質問の数によりましては、類似したご質問をまとめてお答えさせていただくことをご了承ください。

2回以上ご質問をされる方は

○2度目の送信時には次の様な画面がでてしまいます。大変恐れ入りますが、「フォームを表示する」のリンクをクリックして再度入力ください。

エラー

すでにお申し込み頂いています。再度、お申込みいただける場合は、以下のリンクからお願いします。

[フォームを表示する](#)

○質疑とは別に、報告会の感想等についてのアンケート記入をお願いする予定です（記入任意）。こちらのアンケートは報告会終了近くにご案内します。

本報告会配布資料の引用について

本資料の引用のさいは、以下の情報を含めていただきますようお願いいたします。

釜野さおり・石田仁・風間孝・平森大規・吉仲崇・河口和也

2020 『性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査報告会配布資料』 JSPS科研費（18H03652）「セクシュアル・マイノリティをめぐる意識の変容と施策に関する研究」（研究代表者 広島修道大学 河口和也）調査班編

サンプル構成 「性的マイノリティについての 意識：2019年（第2回） 全国調査」

平森大規（hiramori@uw.edu）
ワシントン大学大学院社会学研究科博士候補生

「性的マイノリティについての意識：2019年
（第2回）全国調査」 報告会
2020年11月29日（オンライン開催）

- 確率標本：日本在住すべての個人が等確率で選ばれる仕組み、「くじびき」や「サイコロ」のように、誰が調査対象者として選ばれるかを偶然にゆだねる
- 日本在住の人々の実態の正確な縮図になるような設計
- マイノリティの複雑な実態を調べるのが目的ではない

[illegible]

W

性的マイノリティをテーマとする量的調査の 様々な手法



- > **オープン型ウェブ調査**（例：nji VOICE、REACH Online、Aro/Ace調査）
 - 非確率標本：調査実施者が広報を行い、協力者を集める
 - 集まった回答は社会全体の正確な縮図にはならない
 - 調査テーマに強い関心の持つ層が自発的に回答するため、一般的な調査では把握困難な人口層の実態を捉えることができる

認定NPO法人虹色ダイバーシティ・国際基督教大学ジェンダー研究センター 共同プロジェクト



LGBT のひと、LGBT ではないひと、ALLY のひと。
職場について、あなたの声を聞かせてください。

LGBTと職場環境に関するWebアンケート調査

実施期間：2020年6月1日(月) ➡ 7月16日(木)

対象者：日本の職場で働いた経験のある方（雇用形態やセクシュアリティは問いません）



LGBT 当事者の意識調査 ～いじめ問題と職場環境等の課題～

宝塚大学看護学部 教授 日高 庸晴

問い合わせ先：hidaka-office@takara-univ.ac.jp

電話：06-6376-0853（代）

■■調査概要■■

- 調査タイトル：LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」
- 調査対象：LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ当事者
- 調査期間：2016年7月15日～10月31日
- 調査方法：オンライン調査
(LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ当事者が利用するサイトやアプリにバナー広告を掲出、SNSを通じて研究参加者を募った)
- 有効回答数：15,141件（海外在住者77件含む）
本稿では国内在住者のみ**15,064件**の分析結果を報告する。
(内訳) 10代：4.8%、20代：37.6%、30代：29.4%、40代：21.7%、
50歳以上：6.5%
* アジア地域で最大規模
- 実施機関：宝塚大学看護学部日高研究室

https://twitter.com/dai_coco0321/status/1267291419871305729



三宅大二郎 @dai_coco0321 · 5月31日

【アセクシュアル/アロマンティック・スペクトラムの方へ】

アンケートにご協力お願いします！

日本で初の大規模なAro/Aceに関する調査です。

詳細は元ツイートをご確認ください。

【皆さまへ】

できるだけ多くの声を集めるため、情報の拡散にご協力ください。
元ツイートをRTいただくと幸いです。



Aro/Ace調査2020 @aroace_survey · 5月31日

【Aro/Ace調査2020】

多くの声を集めることで、誰もが生きやすい社会への変革を期待します。

〈対象〉

アセクシャル、アロマンティック、その他周辺セクシャリティ

〈期間〉

2020年6月1日～6月30日

〈回答URL〉

docs.google.com/forms/d/17lAoO...

15～30分で回答できるので、ぜひご協力ください。

@asexuality

https://health-issue.jp/reach_online2016_report.pdf

性的マイノリティをテーマとする量的調査の 様々な手法



- > **クローズド型ウェブ調査**（例：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査」、連合「LGBTに関する職場の意識調査」）
 - 非確率標本：ウェブ調査会社が自社に「モニタ」として登録している人が調査対象になる、謝礼が付与されるため無関心層や非マイノリティも回答
 - 調査会社モニタの人口学的特徴は日本社会の全体像の正確な縮図になっているとは言えない、大規模調査の場合はマイノリティにもリーチ可能

dentsu

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>

電通ダイバーシティ・ラボが「LGBT調査2018」を実施 — LGBT層に該当する人は8.9%、「LGBT」という言葉の浸透率は約

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本 敏博）においてダイバーシティ&インクルージョン領域に対応する専門組織「電通ダイバーシティ・ラボ」（以下「DDL」）は、7月に全国20～59歳の個人60,000名を対象に、LGBTを含む性的少数者＝セクシュアルマイノリティ（以下「LGBT」層）に関する広範な調査を行いました。その結果、LGBTに該当する人は8.9%、「LGBT」という言葉の浸透率は68.5%となりました。

<https://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2019002-0110-2.pdf>



2019

報道関係各位

2016年8月25日

LGBTに関する職場の意識調査

～日本初となる非当事者を中心に実施したLGBT関連の職場意識調査～

日本労働組合総連合会（略称：連合、所在地：東京都千代田区、会長：神津 里季生）は、職場における性的マイノリティに対する意識を把握するため、2016年6月30日～7月4日の5日間、「LGBTに関する職場の意識調査」を、インターネットリサーチにより実施し、全国の20歳～59歳の有職男女1,000名＜民間企業等の職場における意識を把握することが目的のため、自営業者（家族従業者含む）、家内労働者は除いた。＞の有効サンプルを集計しました。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）

- ・「LGBT等（性的マイノリティ）当事者」は8%
- ・職場における「LGBT」に関する差別を「なくすべき」8割強
- ・職場におけるLGBT関連のハラスメントを受けたり見聞きしたりした人は2割強
「LGBT」が身近にいる人では約6割に
- ・ハラスメントの原因 約6割が「差別や偏見」と回答
- ・管理職では認知度や受容度が高い反面、抵抗感等もやや高い傾向に

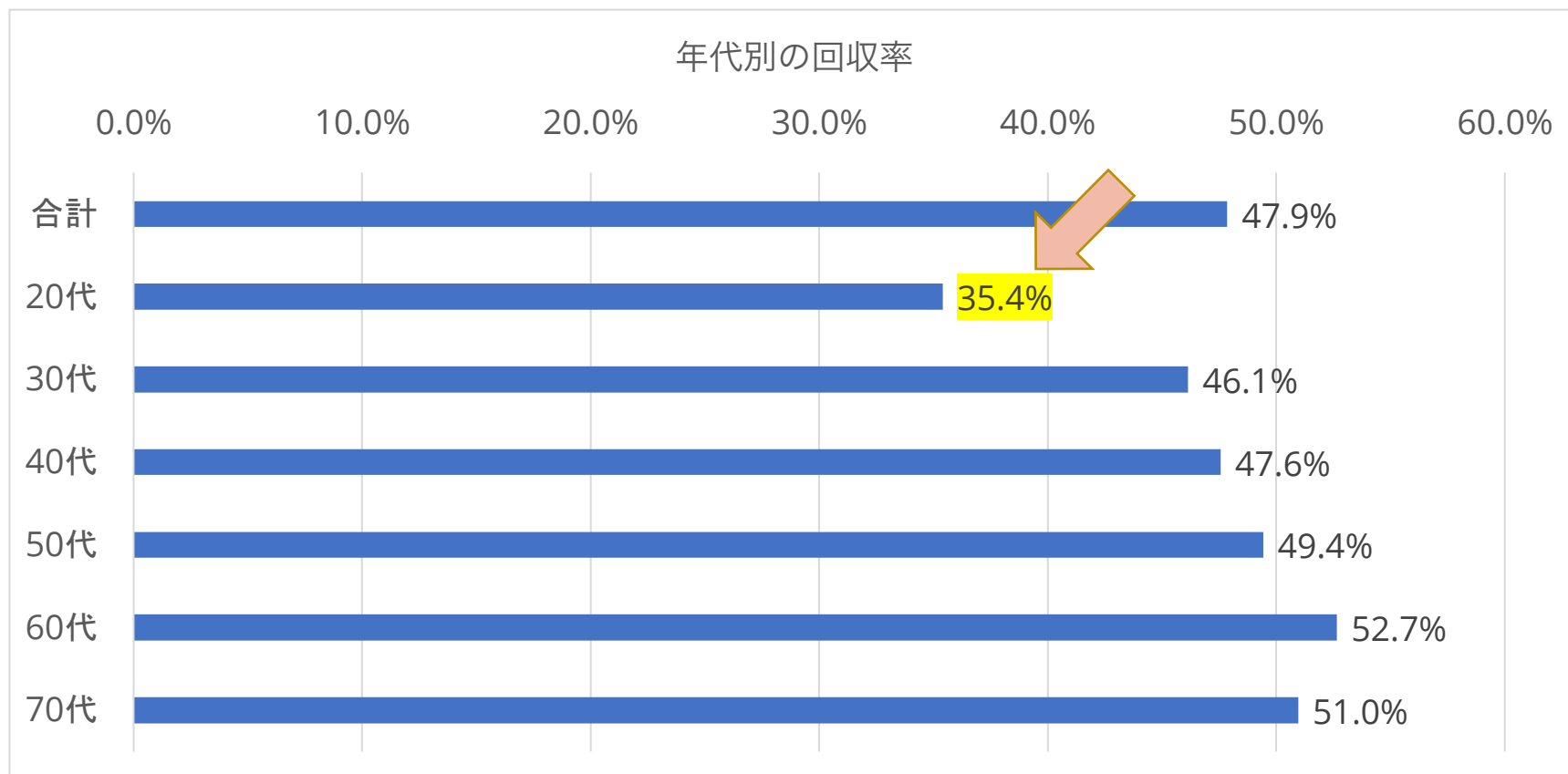
性的マイノリティをテーマとする量的調査の 様々な手法



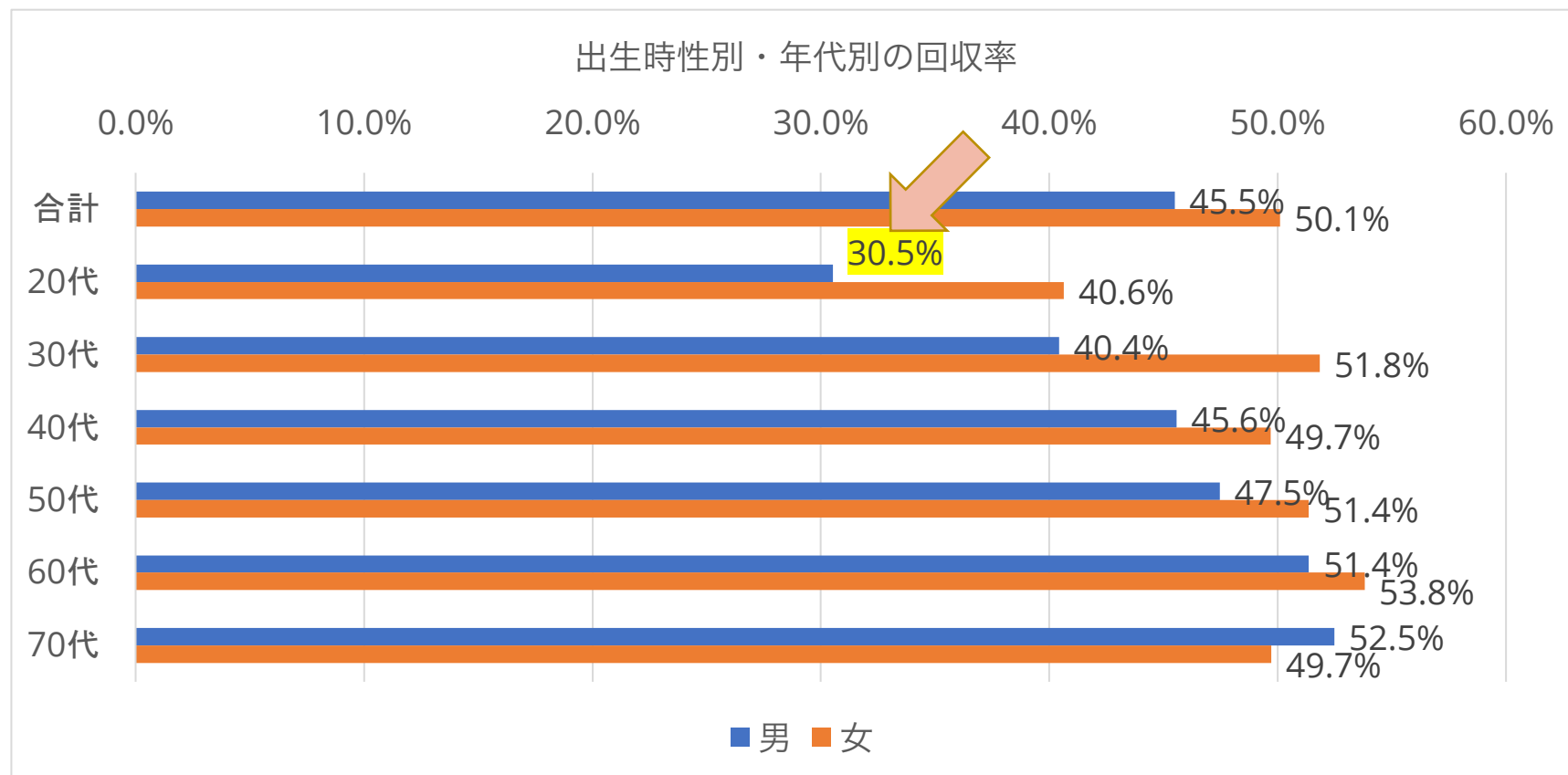
- > 全国無作為抽出調査（例：本調査（性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査））
 - > オープン型ウェブ調査（例：nji VOICE、REACH Online、Aro/Ace調査）
 - > クローズド型ウェブ調査（例：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査」、連合「LGBTに関する職場の意識調査」）
- どの調査手法を使うと何を言えるのか、何は言えないのか？——それぞれの長所・短所を踏まえ、研究課題/調査目的に応じた手法を採用すべき
- > 近年増えつつある性的マイノリティに関する統計データをどう読み解いていけばよいか？
 - > 数字で表わされるデータは「中立的・客観的」であると思われがち
 - > 「調査対象者やその抽出方法」「調査票における質問文の言い回し」「質問の選択肢は適切か」「分析結果の解釈は妥当か」など、調査結果を批判的な観点から考察する必要性



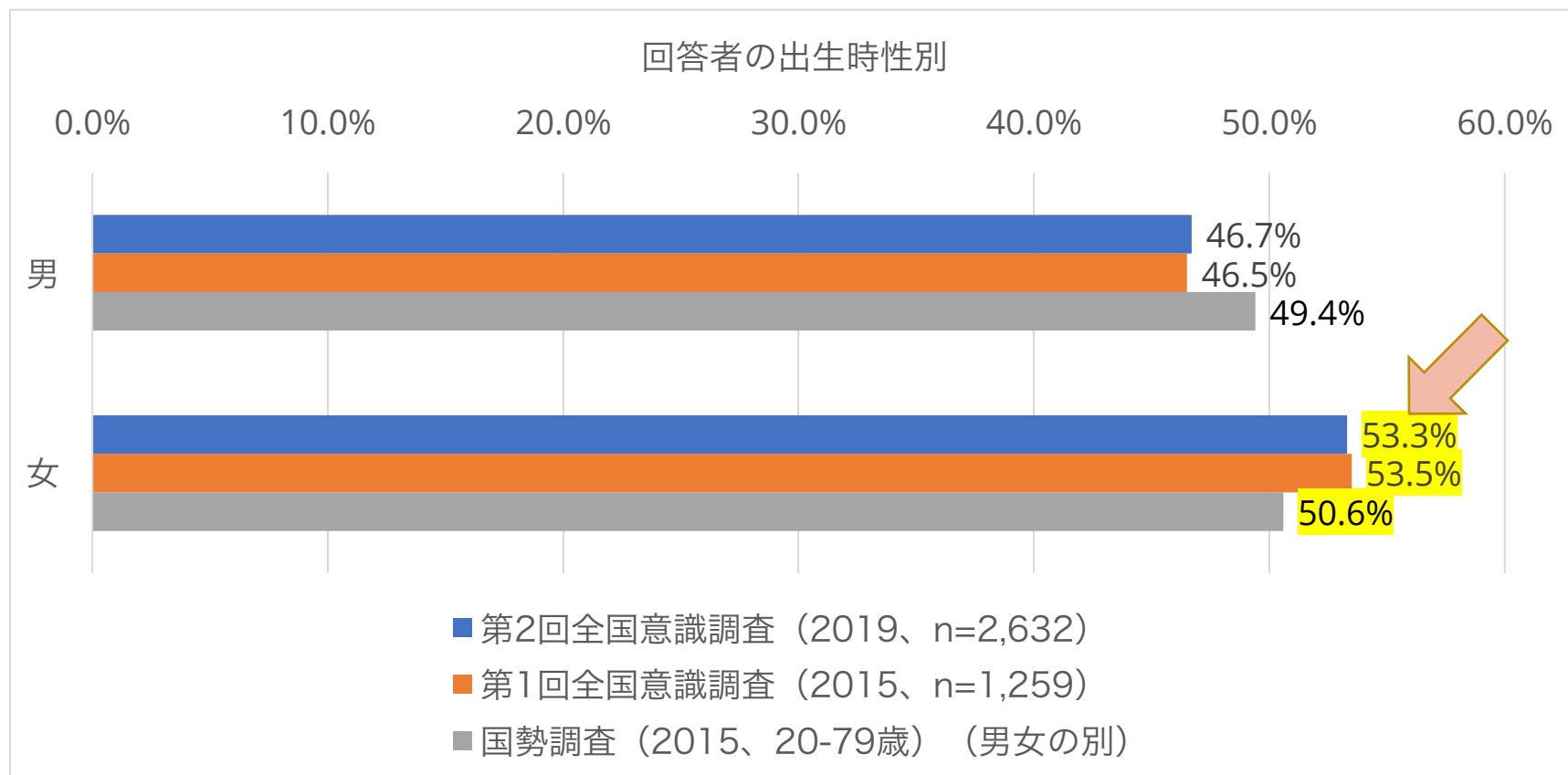
年代別にみた回収状況



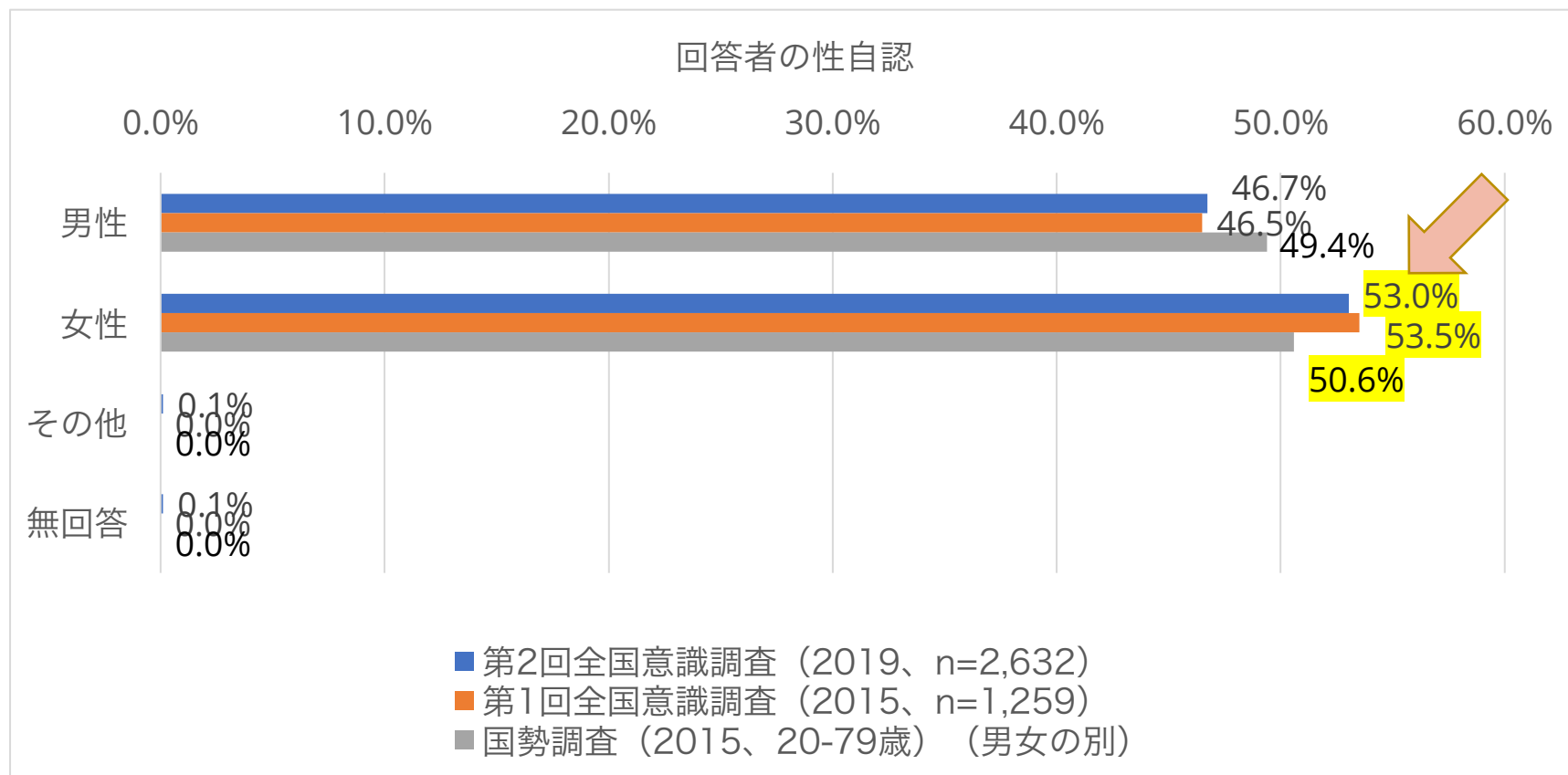
出生時性別と年代別にみた回収状況



サンプル構成（回答者の出生時性別）



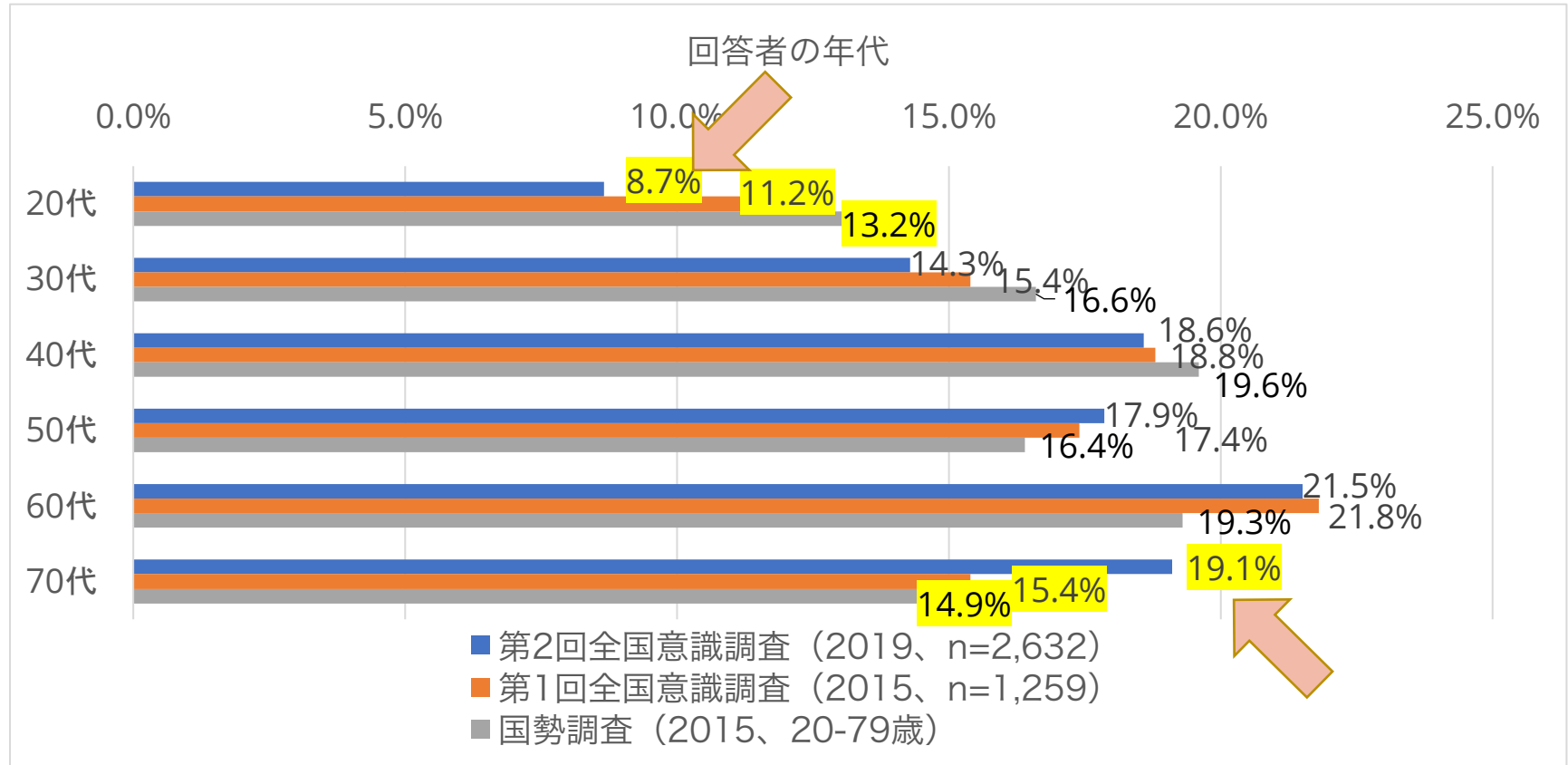
サンプル構成（回答者の性自認）



※本報告会では、回答分布を性別にみる場合、回答者の性自認に基づいて比較を行います(男性・女性のみの結果を表示)



サンプル構成（回答者の年代）



サンプル構成（まとめ）

> サンプル構成の検討からわかったこと

- 年代別にみると、20代の回収率が低い
- 特に20代男性（出生時性別）の回答率が低い
- 日本全体の性別人口分布と比較して、女性（性自認、出生時性別）からの回答が多い
 - > 第1回調査と第2回調査で大きな傾向の違いなし
- 日本全体の年代別人口分布と比較して、20代からの回答が少なく、70代からの回答が少ない
 - > 第1回調査よりも第2回調査の方が差がより大きい傾向

→本調査（第2回全国意識調査）は全国無作為抽出調査であり、理論的には日本在住20歳～79歳の実態を反映できる設計になっているが、実際の回収状況については、「バイアス」がみられた

この調査の結果を日本全国の20歳以上79歳以下の人を代表するものとして報告する際には、本データでは回収状況の良い「女性」の実態が過大に反映され、回収状況の悪い「若年層」の実態が過小に反映されている点について留意する必要がある

知識と認識

河口和也

「知識」の設問内容(2015)

次の(ア)と(イ)について述べられていることは正しいと思いますか、正しくないと思いますか。それぞれについて 1、2、3 から 1 つ選んで○をつけてください。

(ア)「日本では、同性愛は精神病とされている」(○は 1 つ)

1 正しい 2 正しくない 3 わからない

(イ)「日本では、戸籍上の性別を変えることができる」(○は 1 つ)

1 正しい 2 正しくない 3 わからない

「知識」の設問内容(2019)

次の(ア)と(イ)について述べられていることは正しいと思いますか、正しくないと思いますか。それぞれについて 1、2、3 から 1 つ選んで○をつけてください。

(ア)「日本**の精神医学界**では、同性愛は精神病とされている」(○は 1 つ)

1 正しい 2 正しくない 3 わからない

(イ)「日本では、**性同一性障害を理由に**戸籍上の性別を変えることができる」(○は 1 つ)

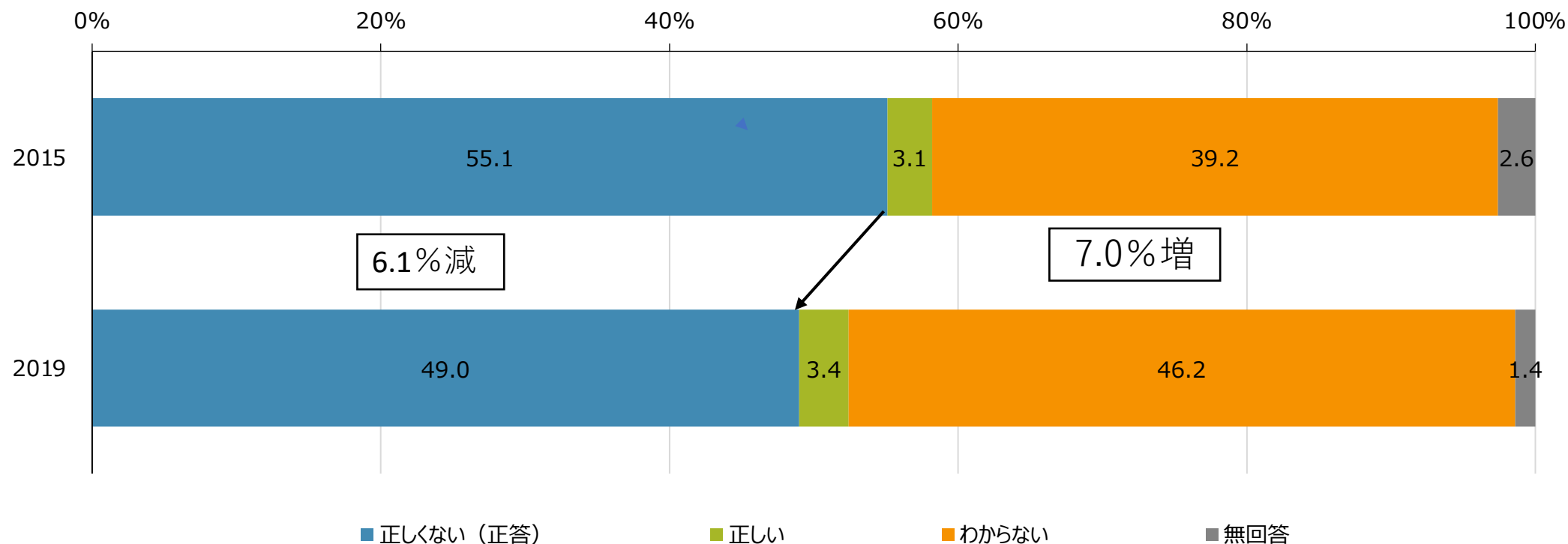
1 正しい 2 正しくない 3 わからない

※ 赤字は2019年調査で追加された文言

「日本では同性愛は精神病とされている」(全体)

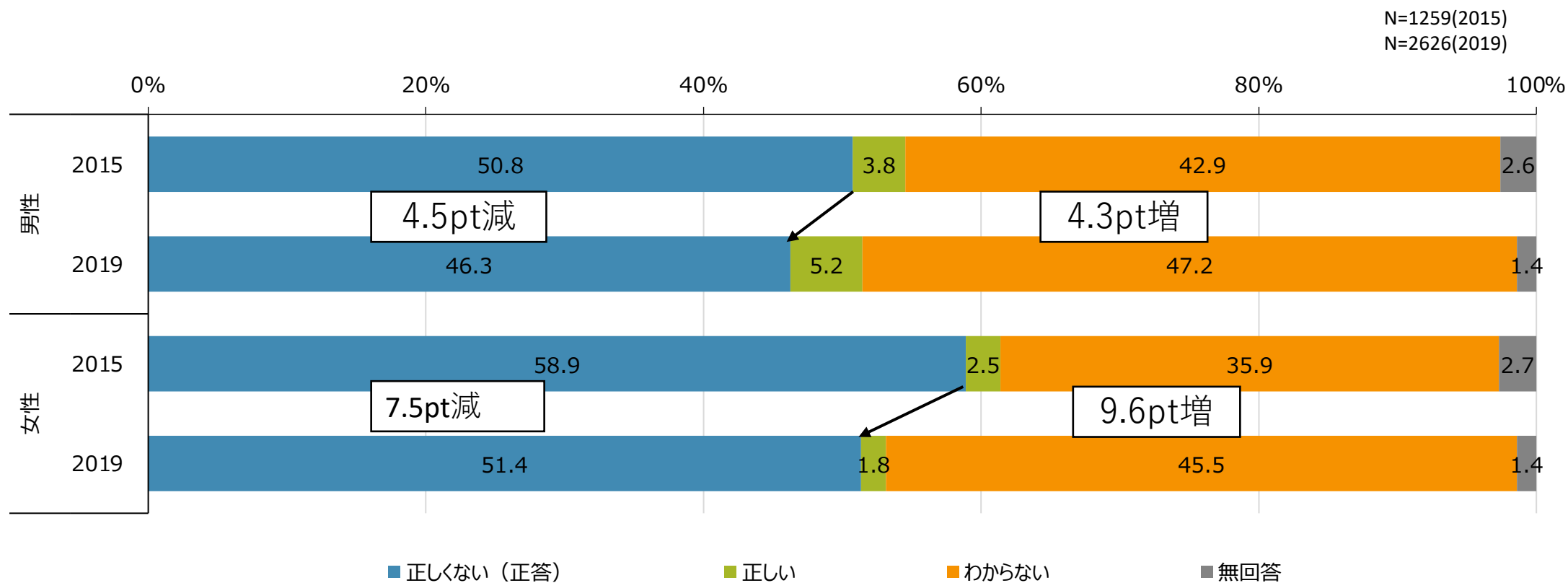
N=1259 (2015)

N=2632(2019)



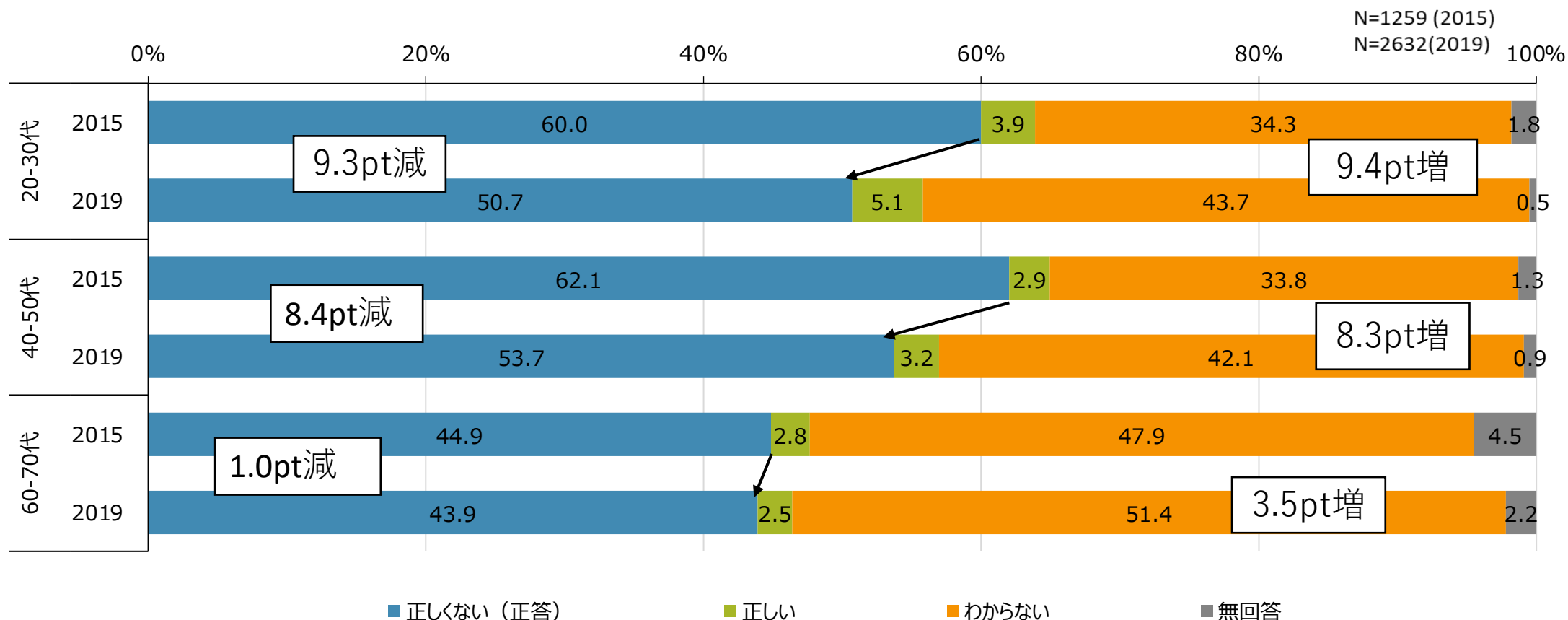
2015年に比べて2019年では、正答の割合が6.1pt減少した。誤答割合はほぼ変化なし。

「日本では同性愛は精神病とされている」(性別)



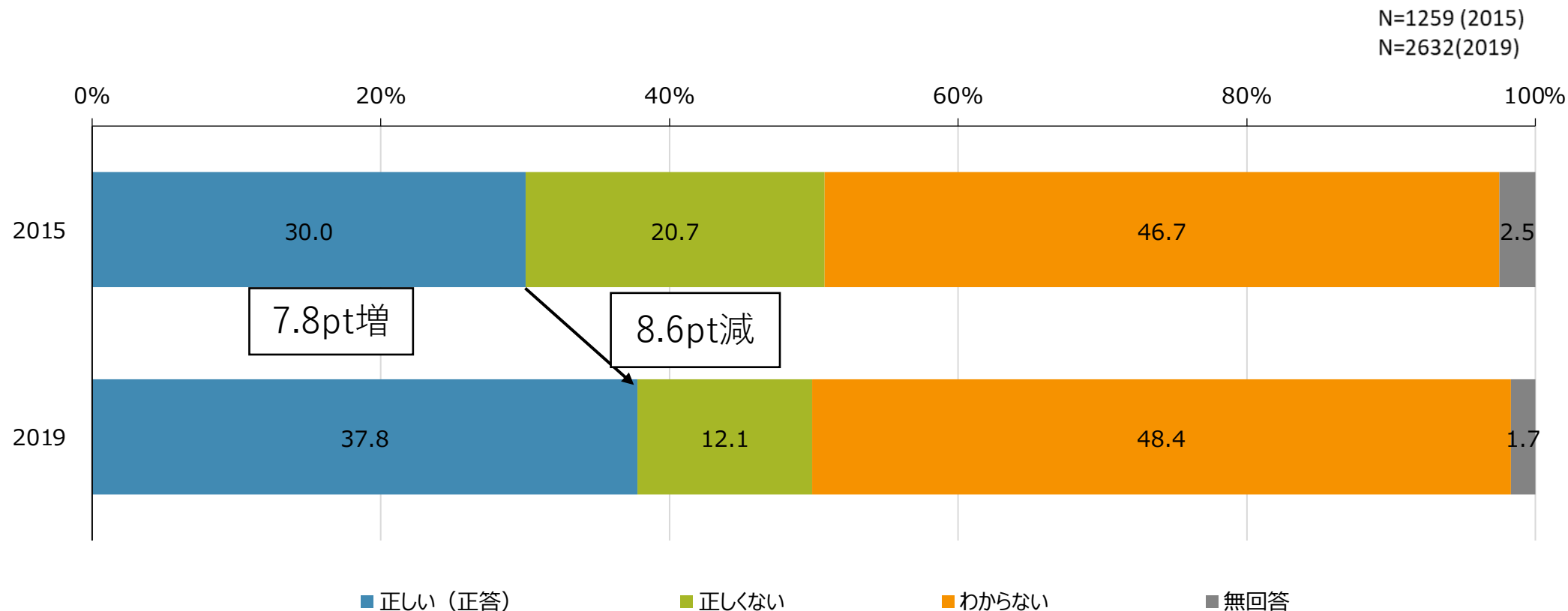
2015年も2019年も男性より女性のほうが正答割合は高い。いずれの性別でも正答割合は減少。

「日本では同性愛は精神病とされている」(年代別)



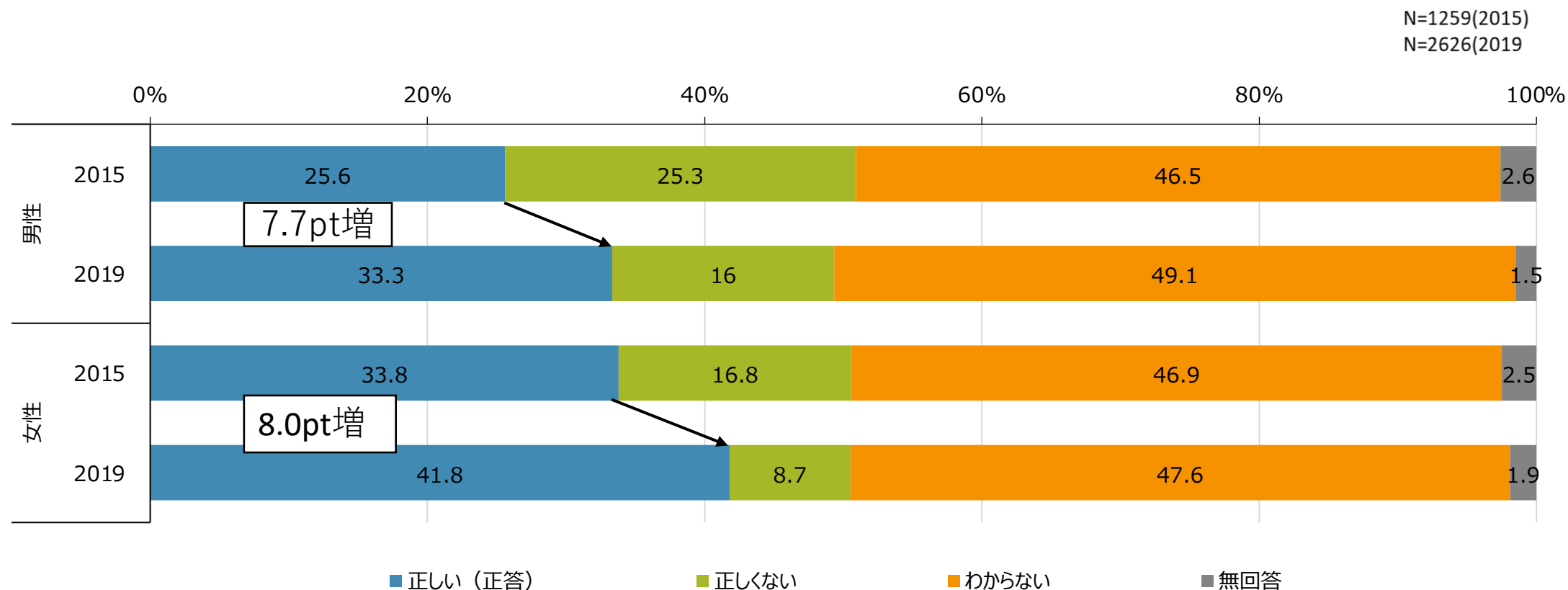
2015年も2019年も40-50代で正答割合が最も高く、次いで20-30代、60-70代の順になっている。
2019年には「わからない」とする人の割合は、若い層で増えている。

「日本では戸籍上の性別を変えることができる」(全体)



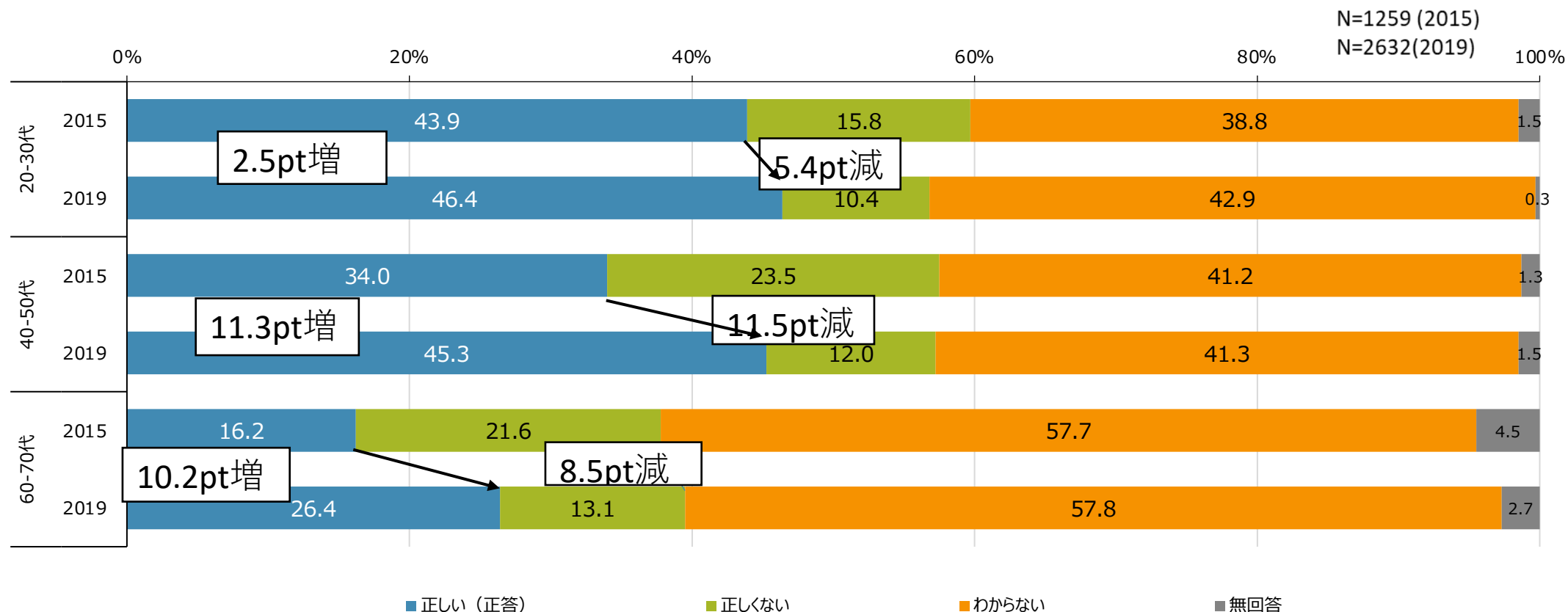
戸籍上の性別変更ができることについては、正答割合が2019年に大きく増えている。また、誤答割合はその分減少している。

「日本では戸籍上の性別を変えることができる」(性別)



2015年でも2019年でも女性のほうが正答割合が高い。いずれの性別でも、2019年に正答割合は比較的大きく増加している。

「日本では戸籍上の性別を変えることができる」(年代別)



2015年も2019年も若い層(20-30代)では正答割合は高い。また、2015年と2019年を比較すると、40-50代と60-70代で正答割合が大きく増加している。

「知識」のまとめ

- ・性別で比較すると、2015年でも2019年でも女性のほうが正答率が高い。
- ・「同性愛は精神病とされている」という知識の正答割合は、全体的には低くなった。
- ・「同性愛は精神病」に関する正答割合は、40-50代（中年層）でもっとも高く、その次に20-30代（若年層）が位置し、60-70代（高齢層）が最も低くなっている。
- ・「日本では戸籍上の性別を変えることができる」という知識の正答割合は、2019年に全体的に高くなっている。
- ・「戸籍の性別変更」に関する知識の正答割合は、二つの時期（2015年と2019年）で60-70代がもっとも低くなっている。その正答割合は2015年には20-30代がもっとも高かったのに対して、2019年には40-50代がもっとも高くなっている。2019年には中年層と高齢層で正答割合の大きな増加がみられた。

「認識」の設問内容

(2015と2019年は同じ設問)

次のア～ウについてのあなたのお考えをおたずねします。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを1、2、3、4から1つ選んで○をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

(ア) 同性愛は思春期の一時的なものである

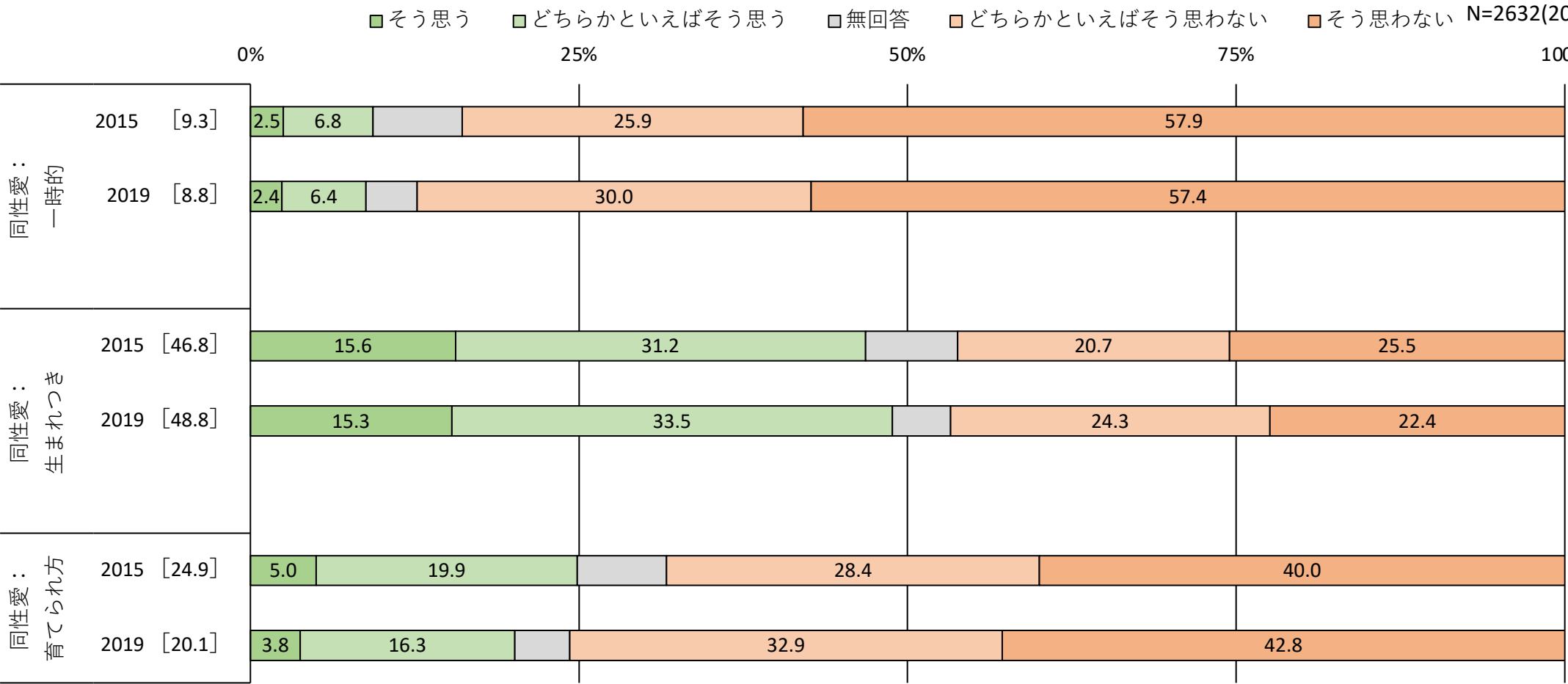
(イ) 同性愛は、生まれつきのものである

(ウ) 同性愛者になるのは、育てられ方の影響がある

同性愛に関する認識（全体）

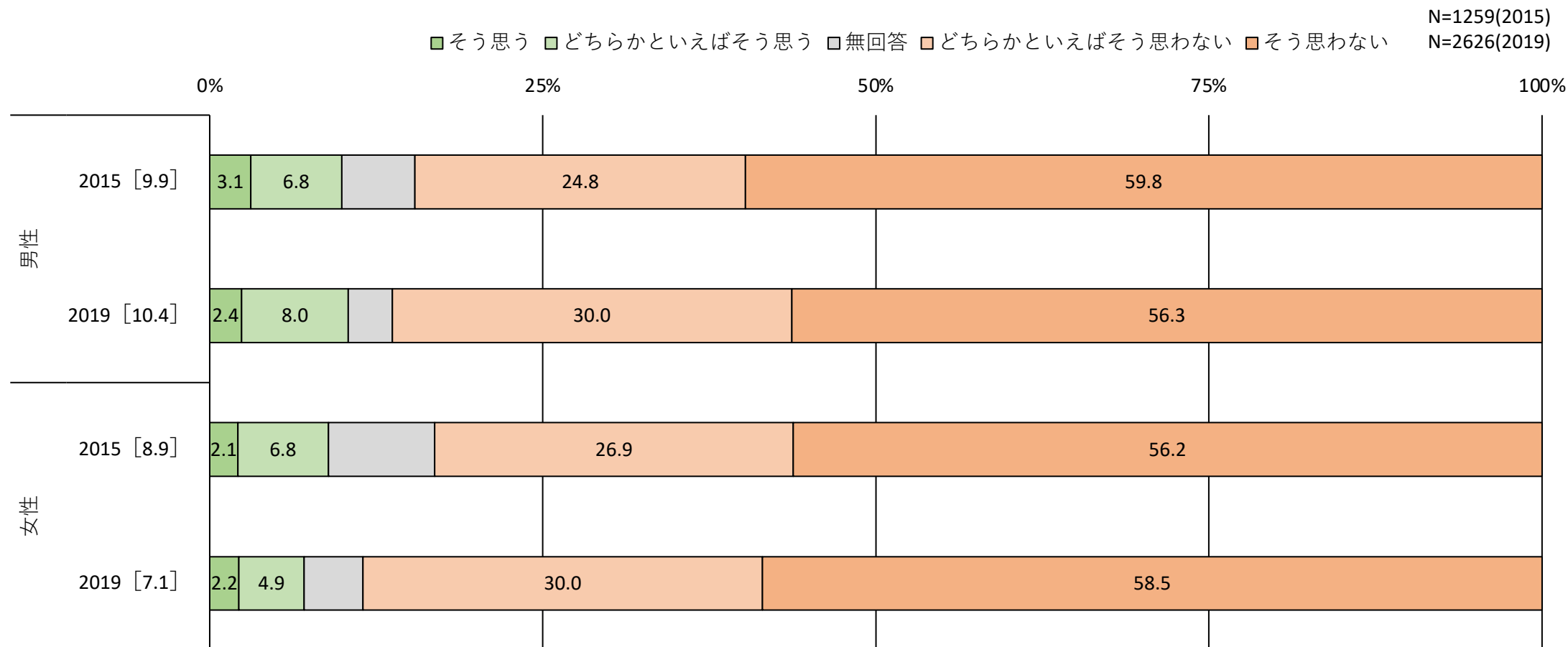
N=1259 (2015)

N=2632(2019)



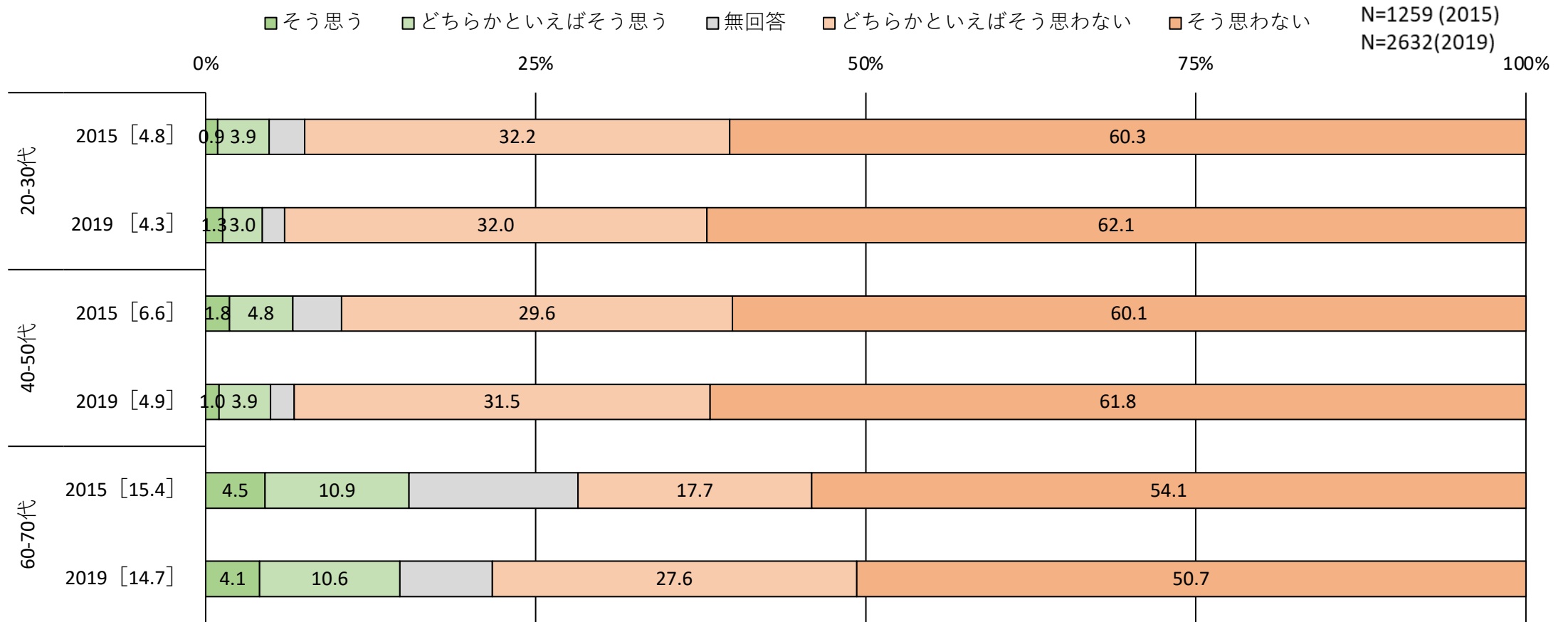
2015年でも2019年でも「同性愛は生まれつきものである」と考える人の割合はかなり高い。2019年には、「同性愛は育てられ方の影響」と考える人の割合は若干減少している。

「同性愛は一時的なものである」(性別)



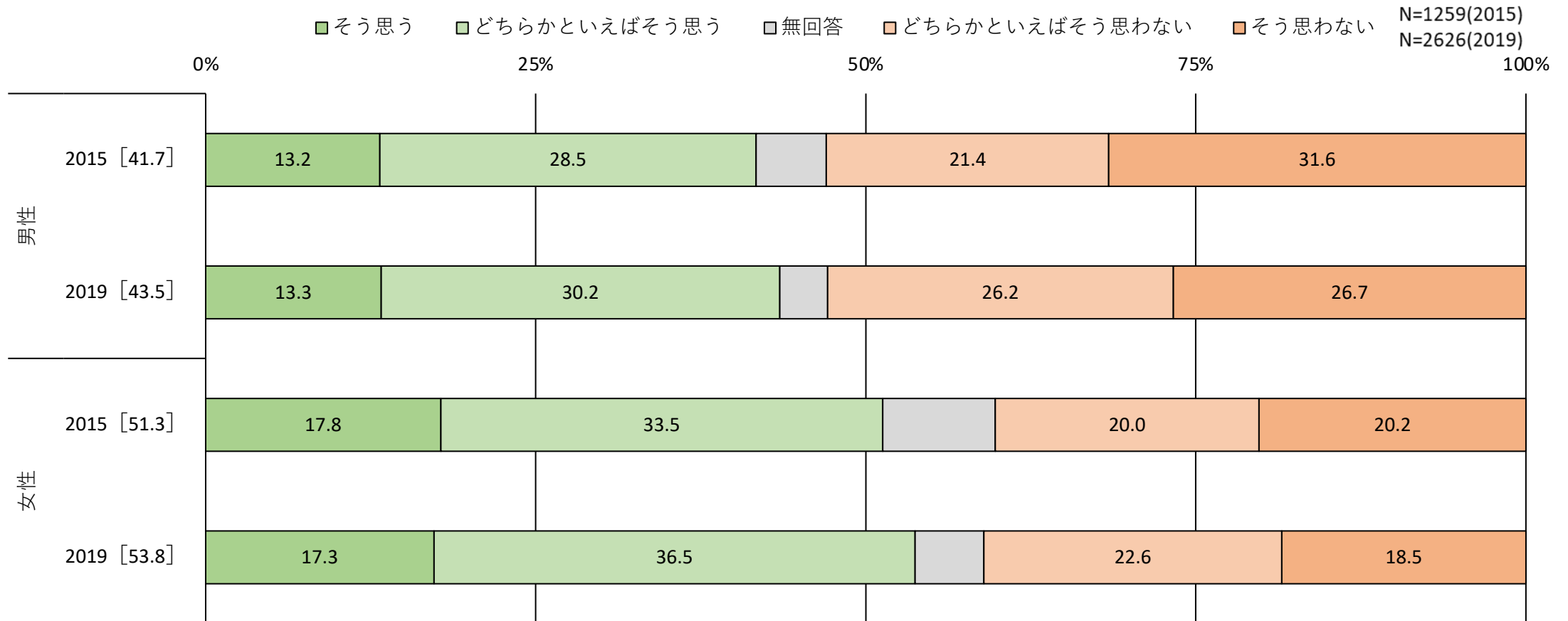
「同性愛は一時的なもの」と考える人の割合は、2015年、2019年いずれも低く、性別による違いはほとんどみられない。

「同性愛は一時的なものである」(年代別)



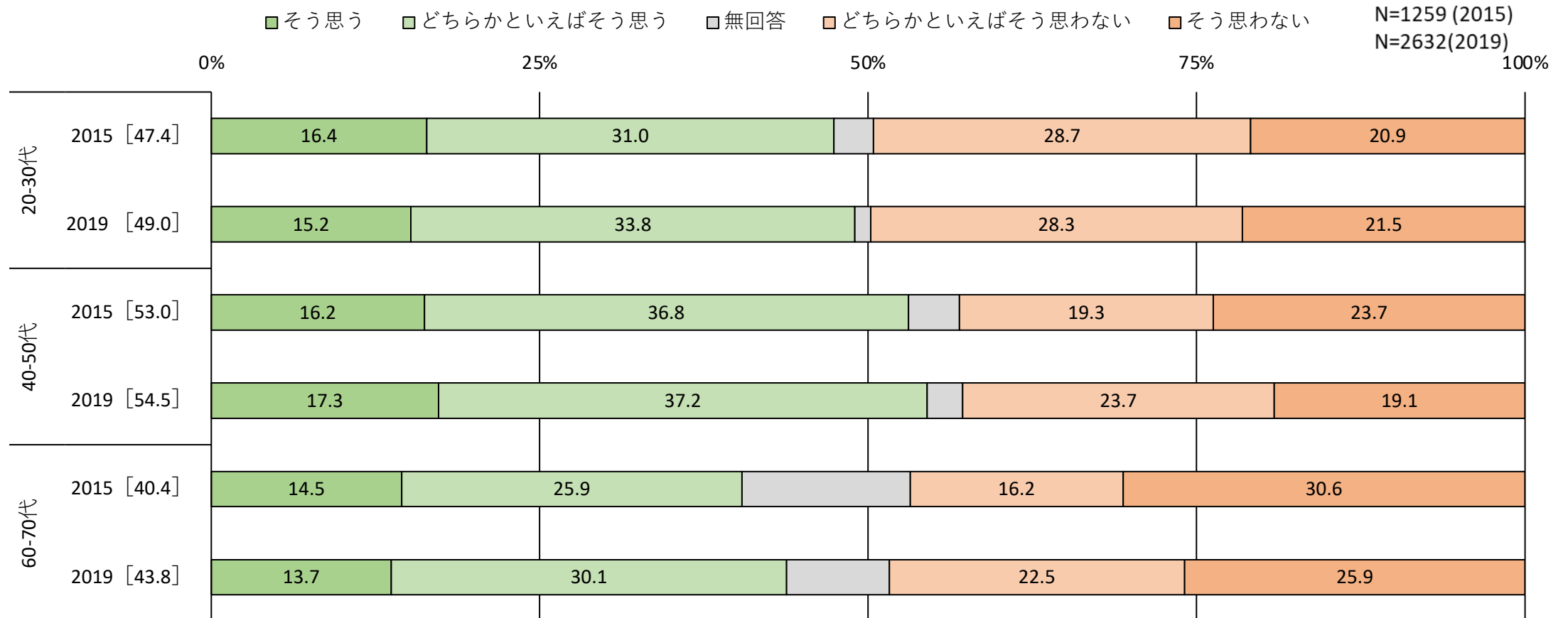
「同性愛は一時的なもの」という考え方は、年代で比較すると高齢層で強く共有されている。また、2015年と2019年のあいだでの経年変化はほとんどない。

「同性愛は生まれつきのものである」(性別)



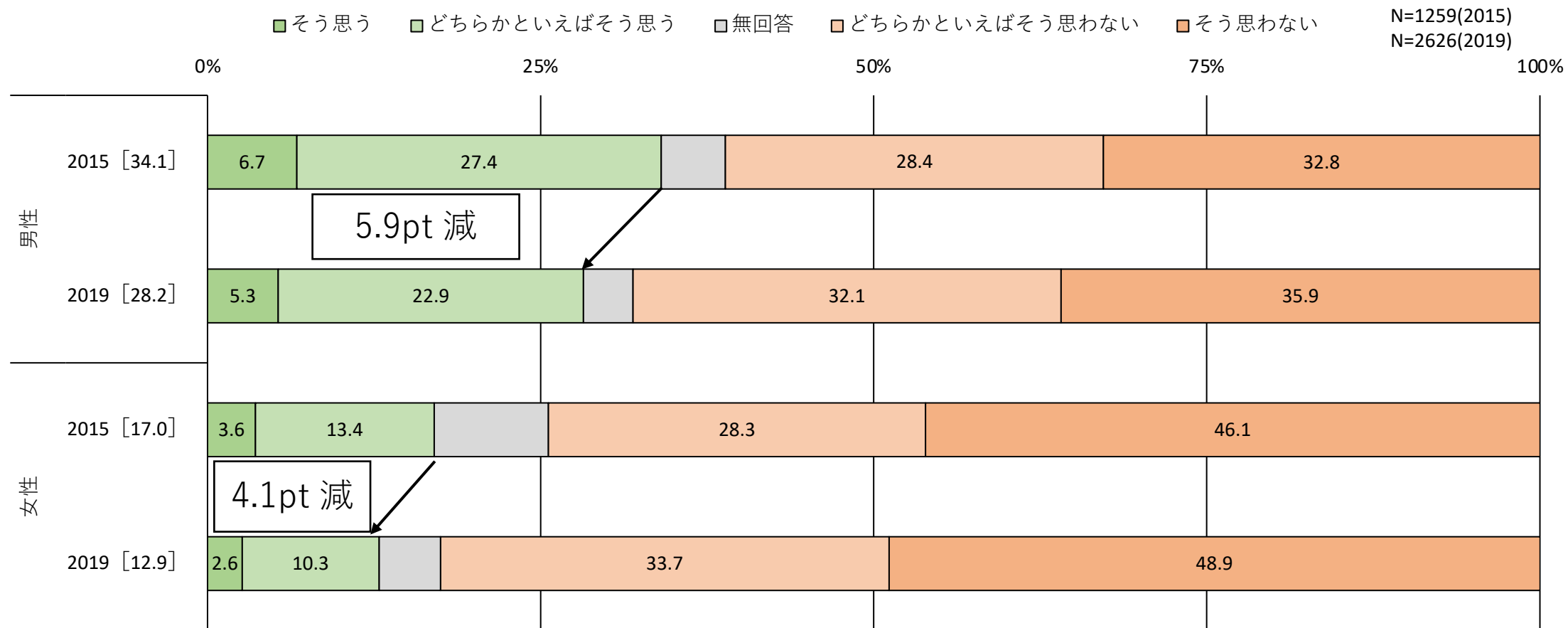
「同性愛は生まれつきのもの」と考える人の割合は、いずれの性別においても高いが、女性のほうがより
そう思う傾向が強い。2015年から2019年のあいだではいずれの性別でもほとんど変化はみられない。

「同性愛は生まれつきのものである」(年代別)



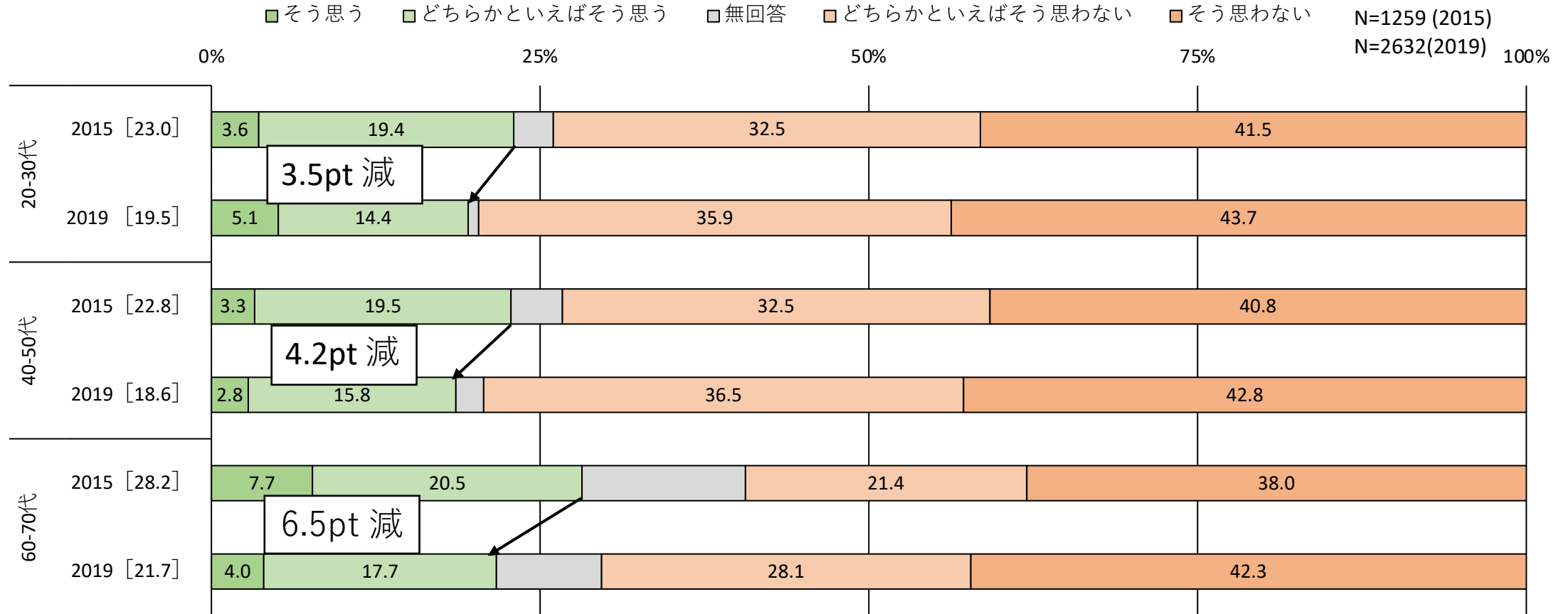
「同性愛は生まれつきのもの」という認識は、年代では40-50代でもっとも共有され、次に20-30代が続く。2015年と2019年のあいだでの経年変化はほとんどみられない。

「同性愛は育てられ方の影響がある」(性別)



「同性愛は育てられ方の影響がある」と認識では、男性のほうがその傾向が強い。しかし、2015年と2019年を比較すると、いずれの性別においても、このように考える人の割合は減少している。

「同性愛は育てられ方の影響がある」(年代別)



「同性愛は育てられ方の影響」という考え方については、2019年になるといずれの年代でもその割合は減少している。高齢層での減少の幅が大きい。

(同性愛に関する) 認識のまとめ

- 2015年でも2019年でも「同性愛は生まれつきものである」と考える人の割合はかなり高い。「同性愛は一時的なものである」と捉える人の割合はかなり低くなっている。2019年には、「同性愛は育てられ方の影響」と考える人の割合は若干減少している。
- 性別でみると、「同性愛は一時的なもの」と考える人の割合は、2015年、2019年いずれも低く、性別による違いはほとんどみられない。
- 「同性愛は一時的なもの」という考え方は、年代で比較すると高齢層で強く共有されている。また、2015年と2019年のあいだでの経年変化はほとんどない。
- 「同性愛は生まれつきのもの」と考える人の割合は、いずれの性別においても高いが、女性のほうがよりそう思う傾向が強い。2015年から2019年のあいだではいずれの性別でもほとんど変化はみられない。
- 「同性愛は生まれつきのもの」という認識は、年代別では40-50代でもっとも共有され、次に20-30代が続く。2015年と2019年のあいだでの経年変化はほとんどみられない。
- 「同性愛は育てられ方の影響がある」と認識では、男性のほうがその傾向が強い。しかし、2015年と2019年を比較すると、いずれの性別においても、このように考える人の割合は減少している。
- 「同性愛は育てられ方の影響」という考え方については、2019年になるといずれの年代でもその割合は減少。高齢層での減少の幅が大きい。

体の性別を変えたいと望む人に関する認識の設問（2019年のみ）

問20 次のエ・オについてのあなたのお考えをおたずねします。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを1、2、3、4から1つ選んで○をつけてください。

（エ）体の性別を変えたいと望むのは、生まれつきのものである

（オ）体の性別を変えたいと望むのは、育てられ方の影響がある

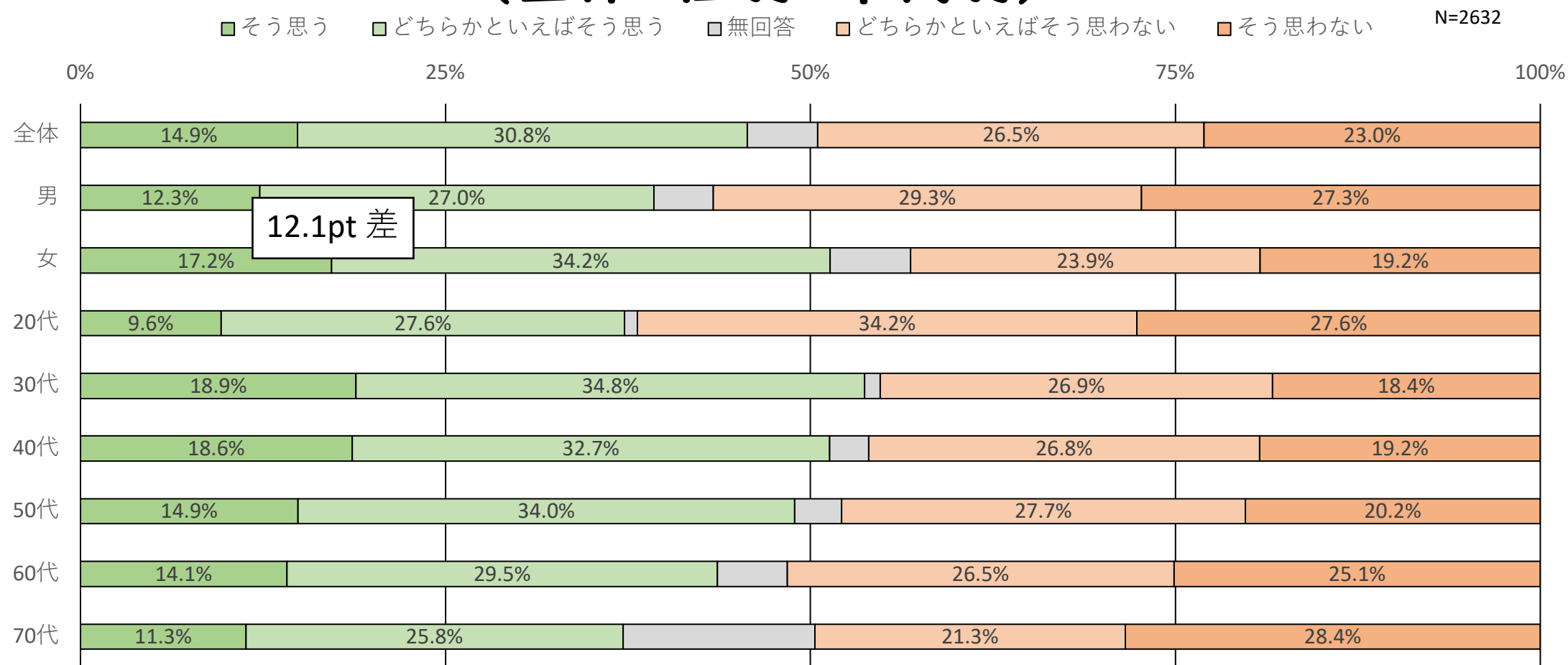
1. そう思う

2. どちらかといえばそう思う

3. どちらかといえばそう思わない

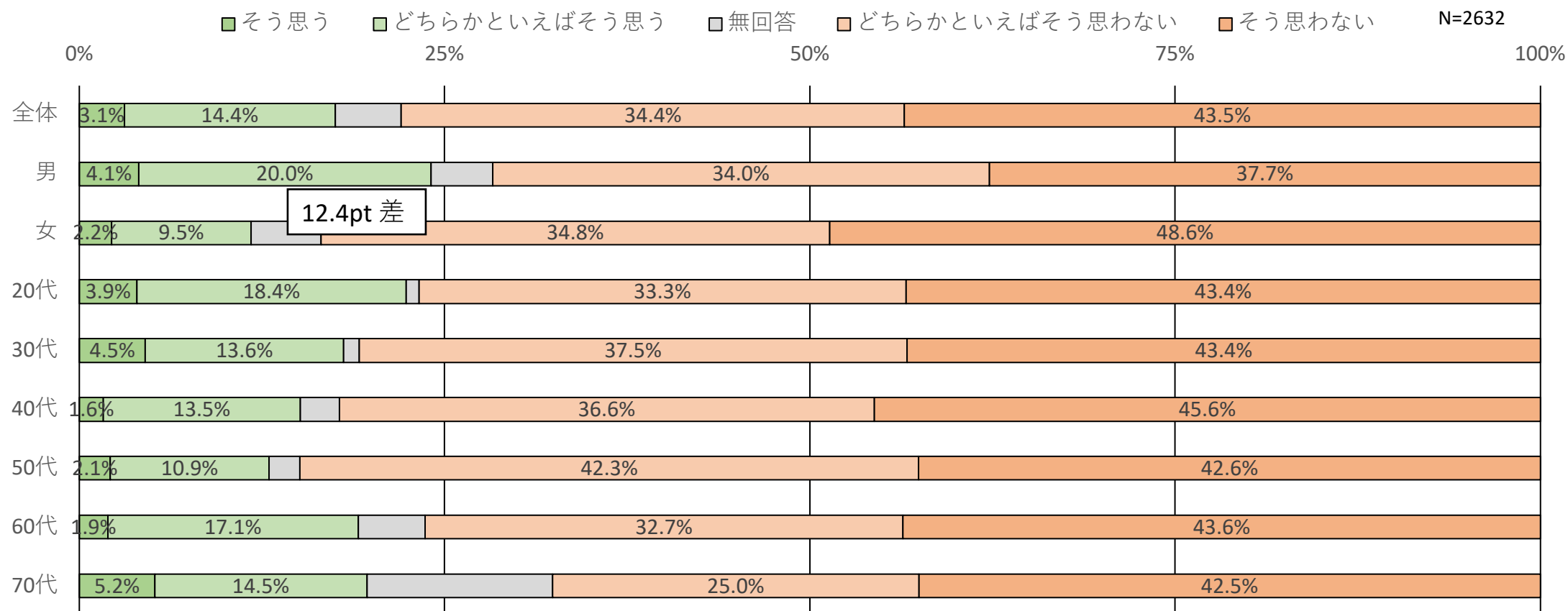
4. そう思わない

「体の性別を変えたいと望むのは、生まれつきのものである」 (全体・性別・年代別)



「体の性別を変えたいと望むのは生まれつき」という認識は、全体では「そう思う」割合が45.7%、「そう思わない」割合は49.5%でほぼ拮抗している。性別では、女性のほうが「生まれつき」と考える傾向が強い。年代別では30代でその割合が最も高く、40代がそれに続き、いずれも半数以上を占めている。

「体の性別を変えたいと望むのは、育てられ方の影響がある」 (全体・性別・年代別)



全体では、「育てられ方の影響」があると思う人の割合は全体では17.5%とそれほど高くない。性別で見ると、男性のほうが「育てられ方の影響」と考える人の割合が顕著に高く、年代別では、20代で最も高く、次いで70代と60代が続く。

(体の性別を変えたいと望むことにたいする)「認識」のまとめ

●「体の性別を変えたいと望むのは生まれつき」という認識は、全体で「そう思う」と「そう思わない」はほぼ拮抗。性別では、女性のほうが「生まれつき」と考える傾向が強い。年代別では30代でその割合が最も高く、40代がそれに続き、いずれも半数以上を占めている。

●全体では、「育てられ方の影響」があると思う人の割合は全体では17.5%と、比較的低い。性別で見ると、男性のほうが「育てられ方の影響」と考える人の割合が顕著に高く、年代別では、20代で最も高く、次いで70代と60代が続く。

性的マイノリティへの 嫌悪感・抵抗感

担当：風間孝（中京大学）

発表内容

1. 同性間・両性間の恋愛感情と恋愛感情を抱かないことへの嫌悪感
2. 同性間・両性間の性行為と性行為を望まないことへの嫌悪感
3. 仲の良い友人が同性愛者・両性愛者・性愛感情を抱かないとわかったときの抵抗感

（青字：2019年調査での新規項目）

恋愛感情

問 25 次のア～サについてのあなたのお考えやお気持ちをおたずねします。それぞれについて、あなたのお気持ちやお考えにもっとも近いものを1、2、3、4から1つ選んで○をつけてください。

(それぞれ○は1つ)

| | | そう思う | そういえばどちらかと | そう思わない | どちらかと | そう思わない |
|-----|---------------------|-------------|------------|--------|-------|--------|
| | | [おかしい]と表記 ← | | | | |
| (ア) | 男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| (イ) | 女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| (ウ) | 男女両方に恋愛感情を抱くのはおかしい | 1 | 2 | 3 | 4 | |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|---|---|---|---|
| (ク) | 男性にも女性にも恋愛感情を抱かない男性は、おかしい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (ケ) | 男性にも女性にも恋愛感情を抱かない女性は、おかしい | 1 | 2 | 3 | 4 |

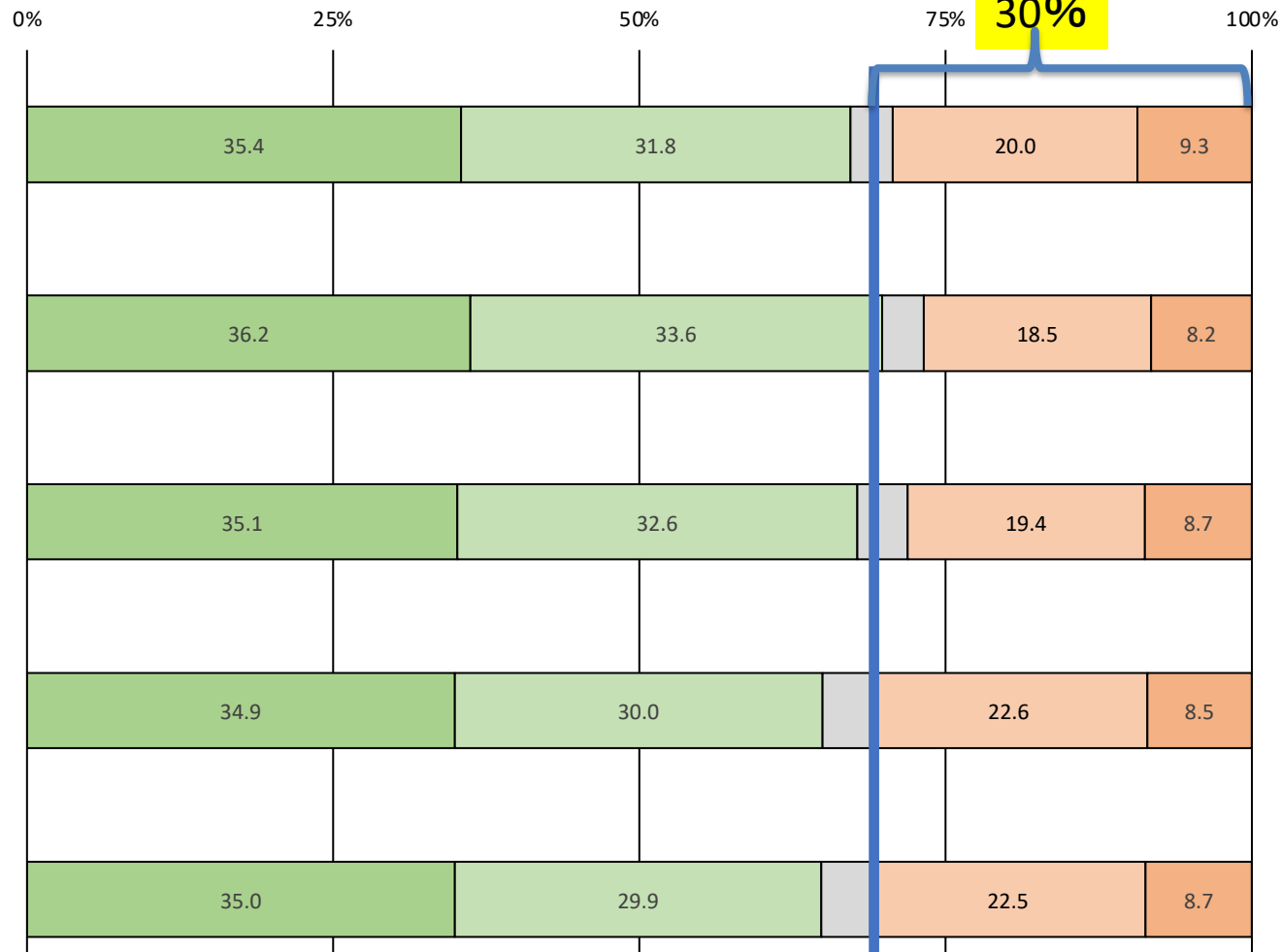
恋愛感情(全体;2019年度)

①:2015年

②:2019年

「そう思う」「どちらか
といえばそう思う」
の合計

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



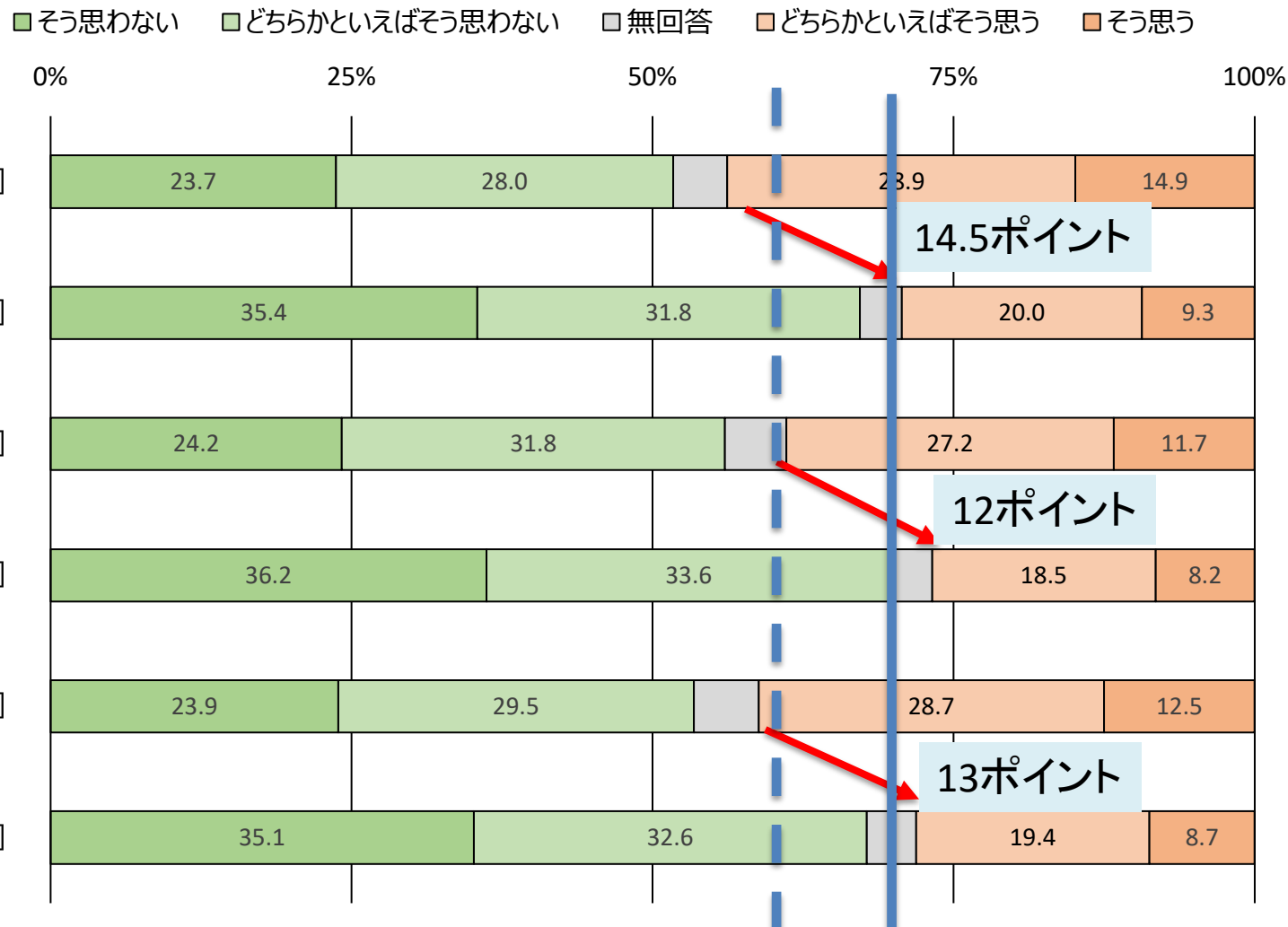
30%

①どの項目も「おかしい」は3割前後；②男性にも女性にも恋愛感情を抱かないも「おかしい」が3割であり、男どうし、男女両方への嫌悪感と大差は見られない 4

恋愛感情(全体; 15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

「そう思う」「どちらか
といえばそう思う」
の合計



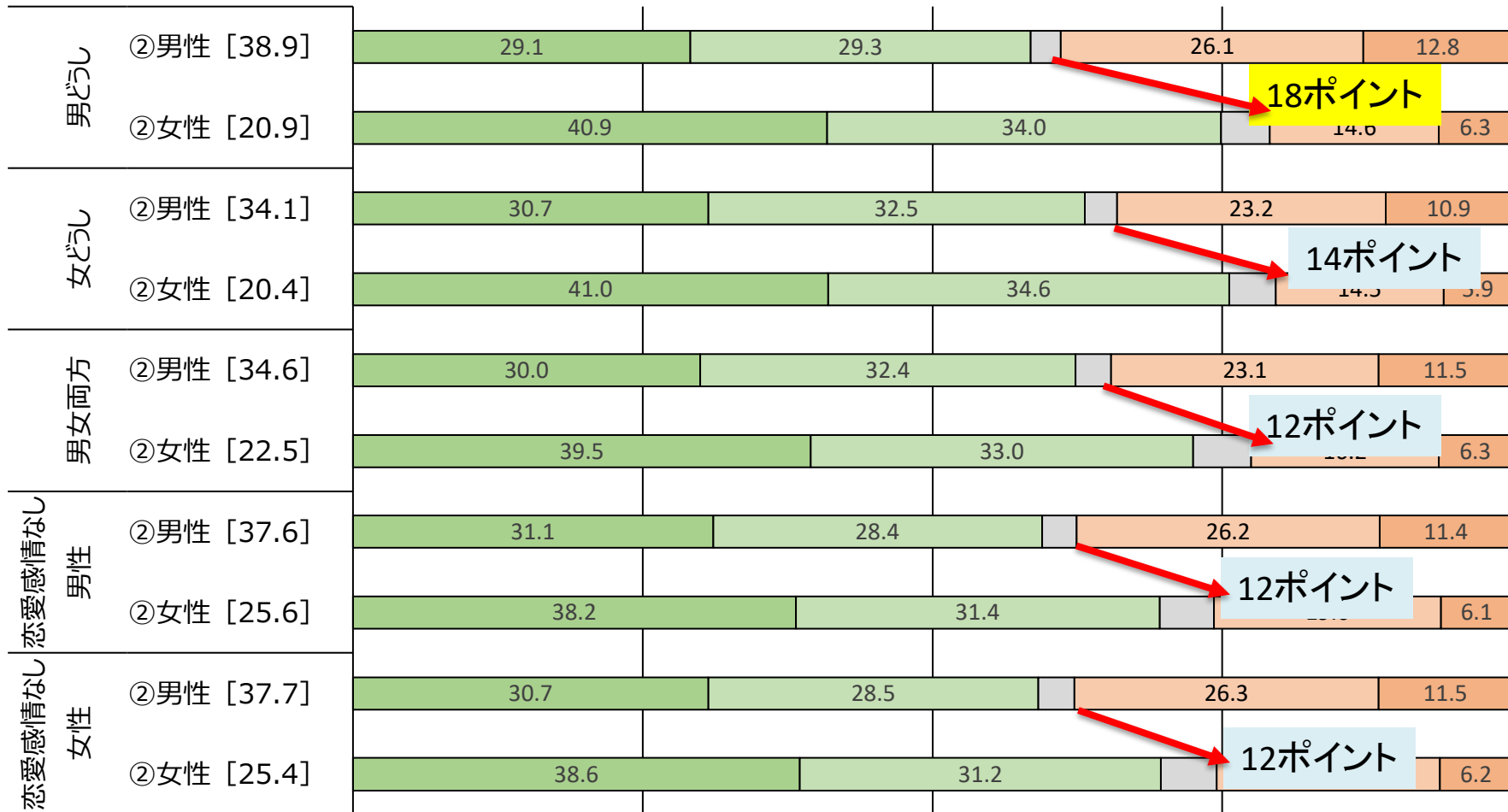
①15年では同性・両性への恋愛感情「おかしい」は約4割だったが、
19年では3割弱に減少した

恋愛感情(性別;19年度)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%

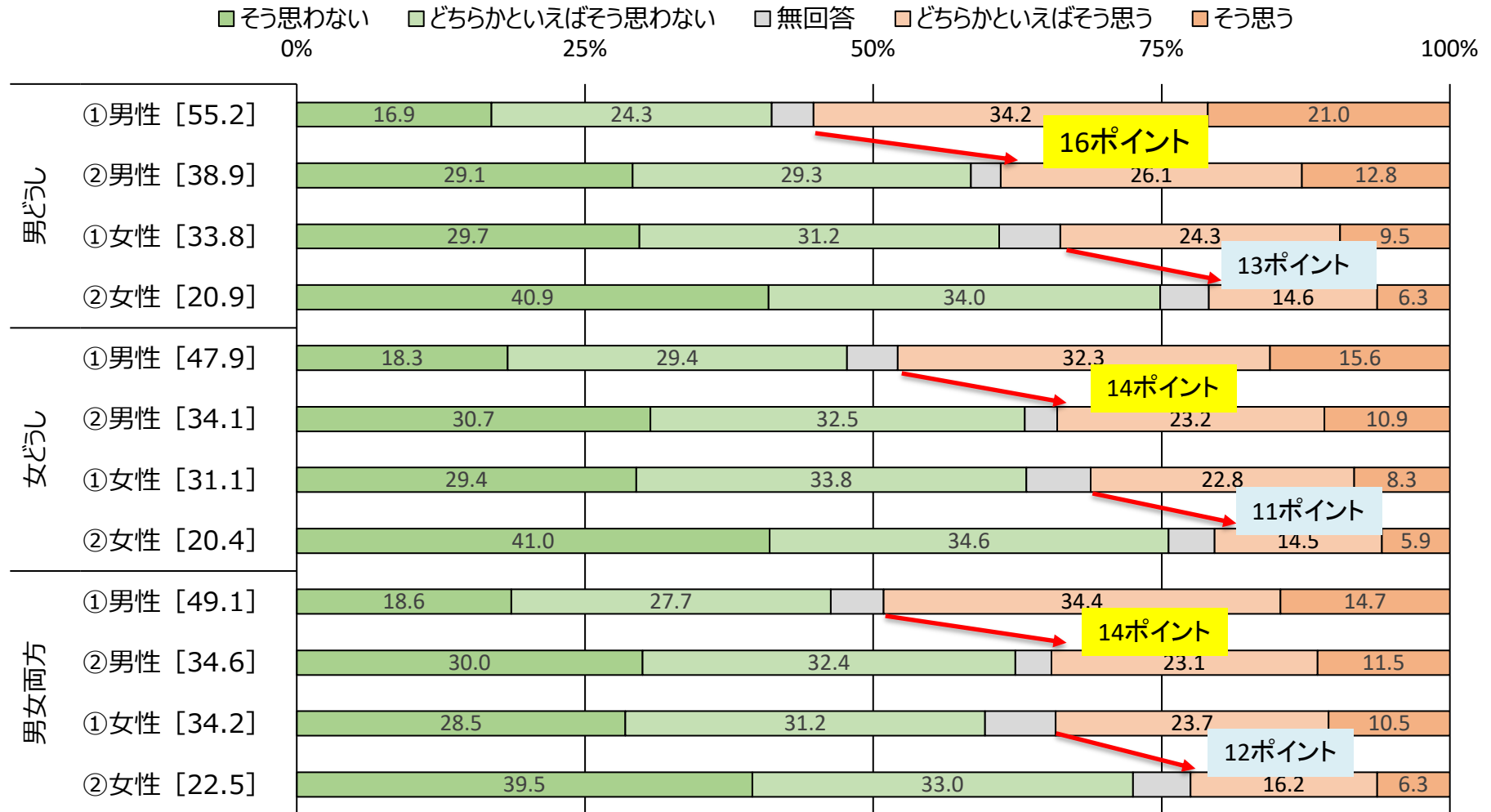


①全項目で男性のほうが「おかしい」が多い；

②男女の差が最大（18ポイント）だったのは男どうしの恋愛感情であった 6

恋愛感情(性別; 15年vs19年)

①:2015年
②:2019年



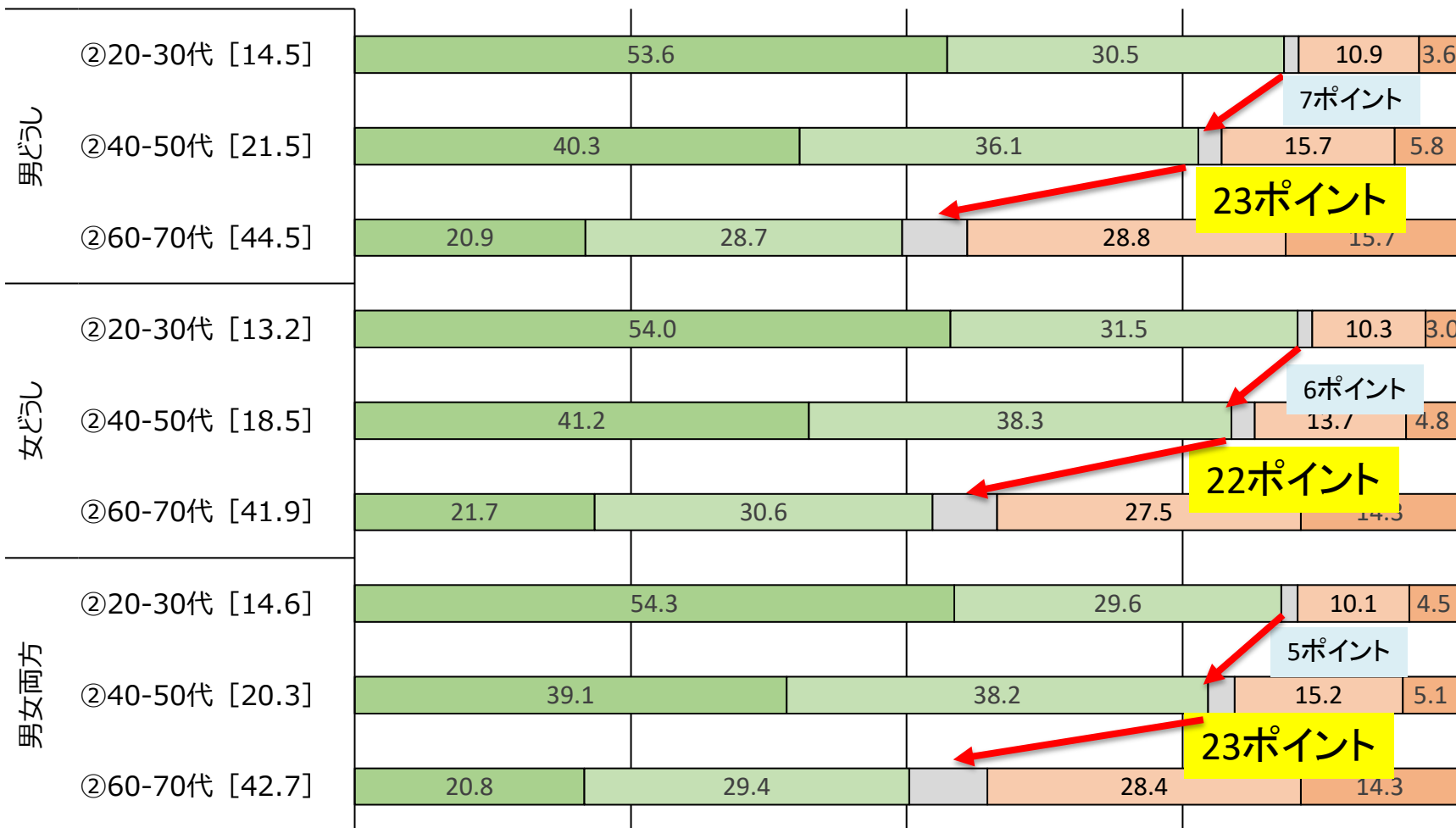
- ①15年と19年を比べると、男女ともに「おかしい」が減少した；
- ②減少幅は男性のほうが大きい

恋愛感情(年代別; 19年度)

①: 2015年
②: 2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

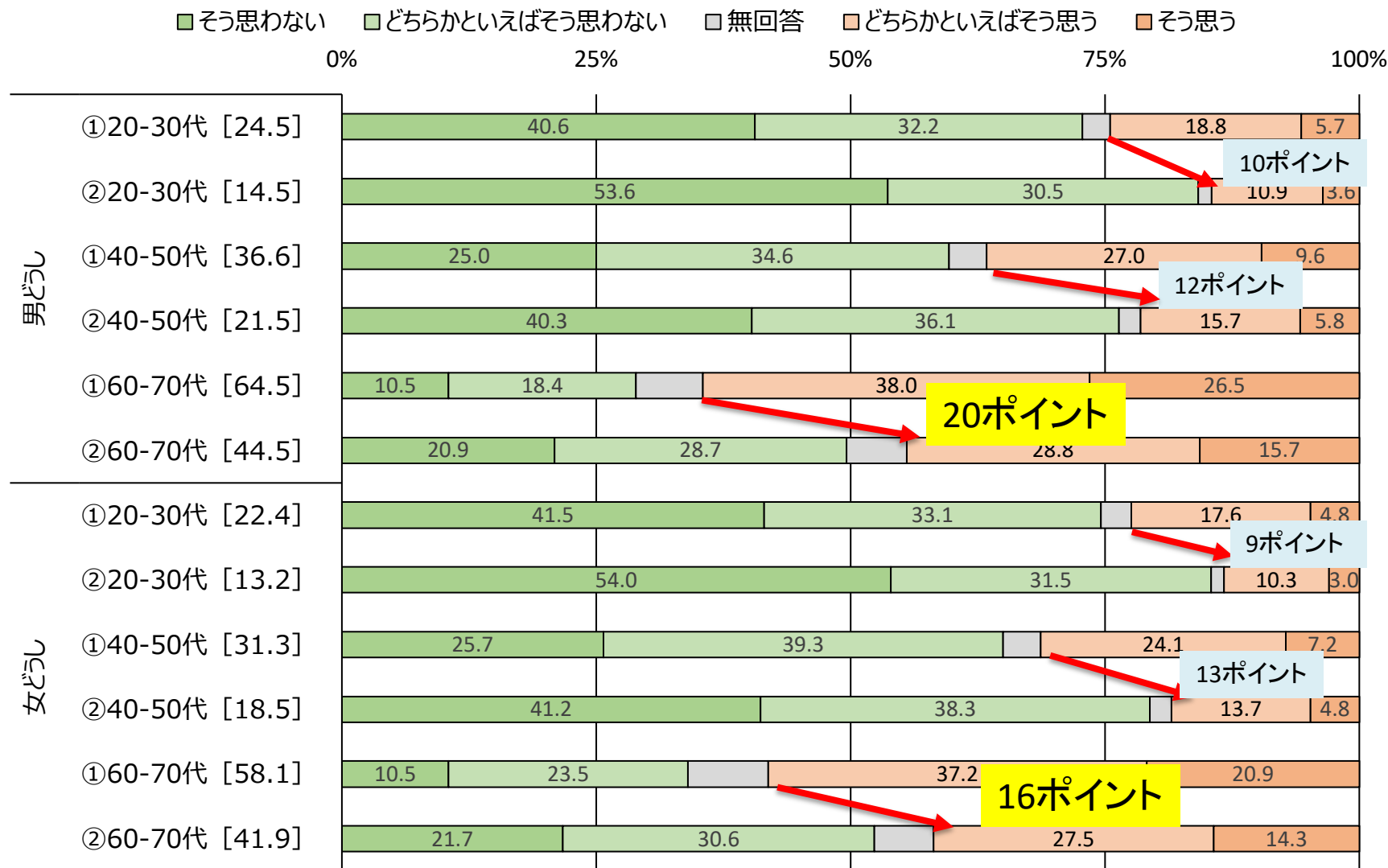
0% 25% 50% 75% 100%



①年代が上がるとともに「おかしい」の割合が多くなっている；②20-30代・40-50代と比べ、60-70代の割合が多くなっている

恋愛感情(1)(年代別; 15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

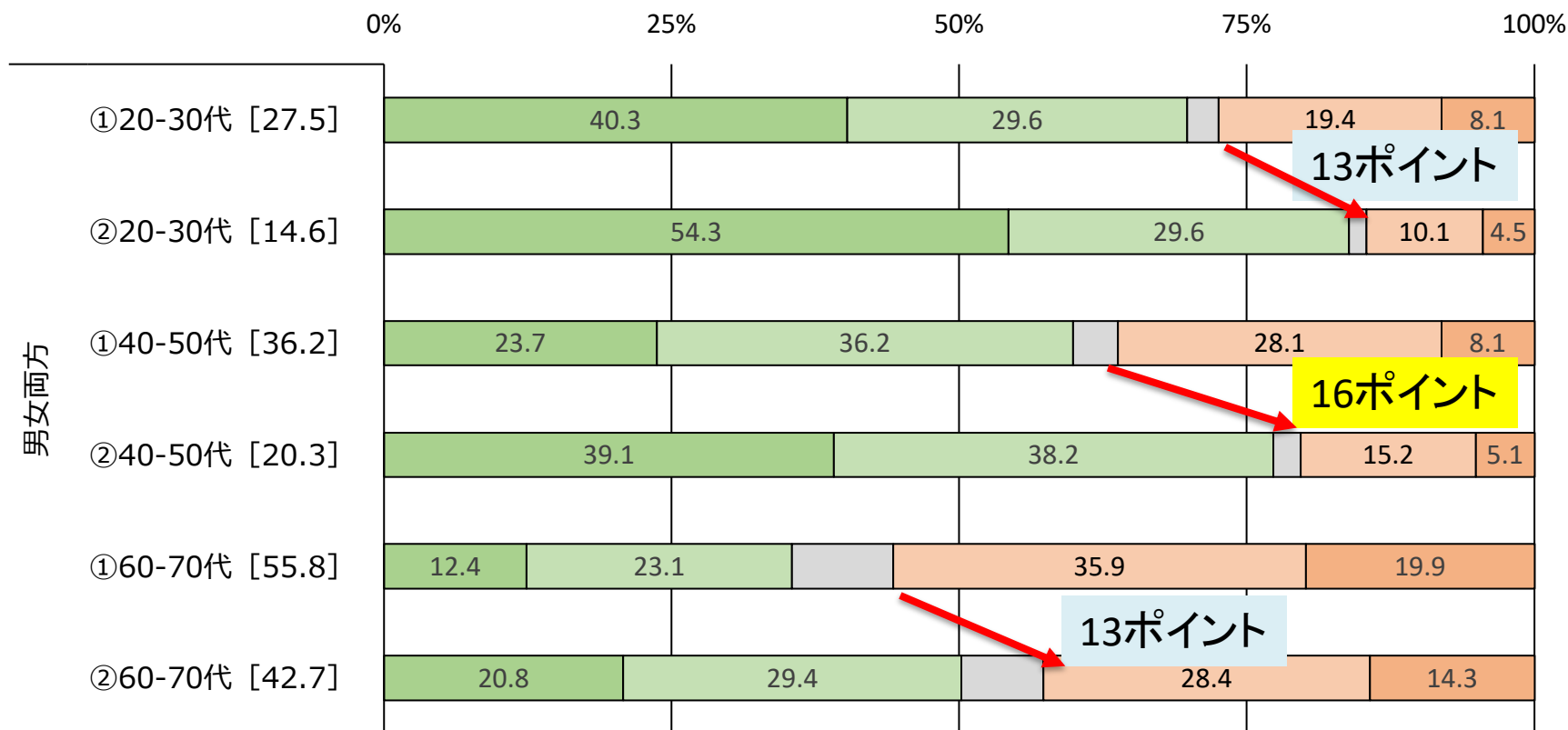


- ①どの年代でも15年と比べ、19年では「おかしい」が減少した；
②最も減少幅が大きかったのは60-70代であった

恋愛感情(2)(年代別; 15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



- ①どの年代でも15年と比べ、19年では「おかしい」が減少した；
②減少幅が最も大きかったのは40-50代であった

性行為

問 25 次のア～サについてのあなたのお考えやお気持ちをおたずねします。それぞれについて、あなたのお気持ちやお考えにもっとも近いものを1、2、3、4から1つ選んで○をつけてください。

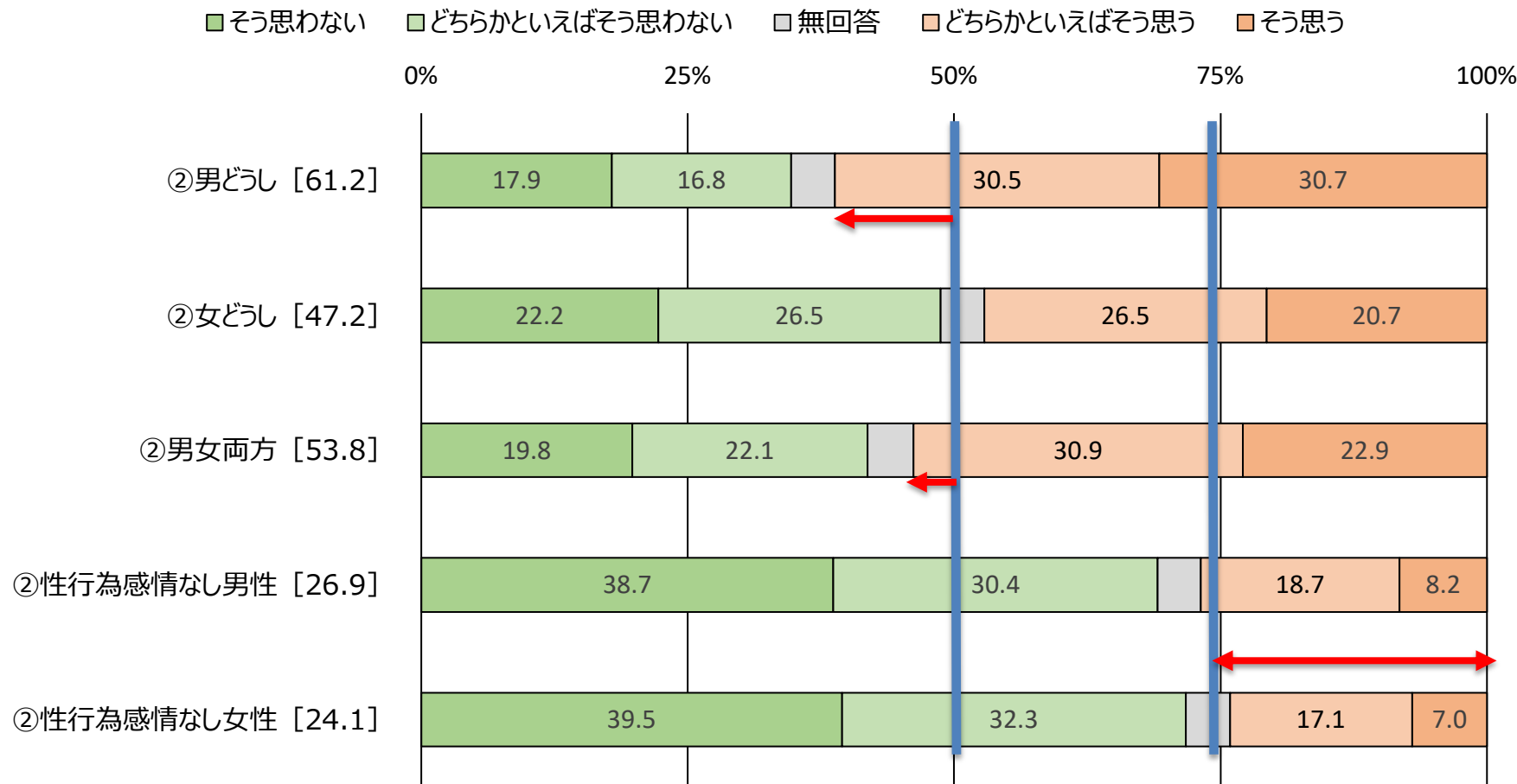
(それぞれ○は1つ)

| | | <div> <div> そう 思う </div> <div> そう 思う </div> <div> ど ち ら か と </div> <div> い え ば </div> </div> | <div> ど ち ら か と </div> <div> い え ば </div> <div> そう 思 わ な い </div> |
|--|--|--|---|
|--|--|--|---|

[気持ちが悪い]と表記 ←

性行為(全体;19年度)

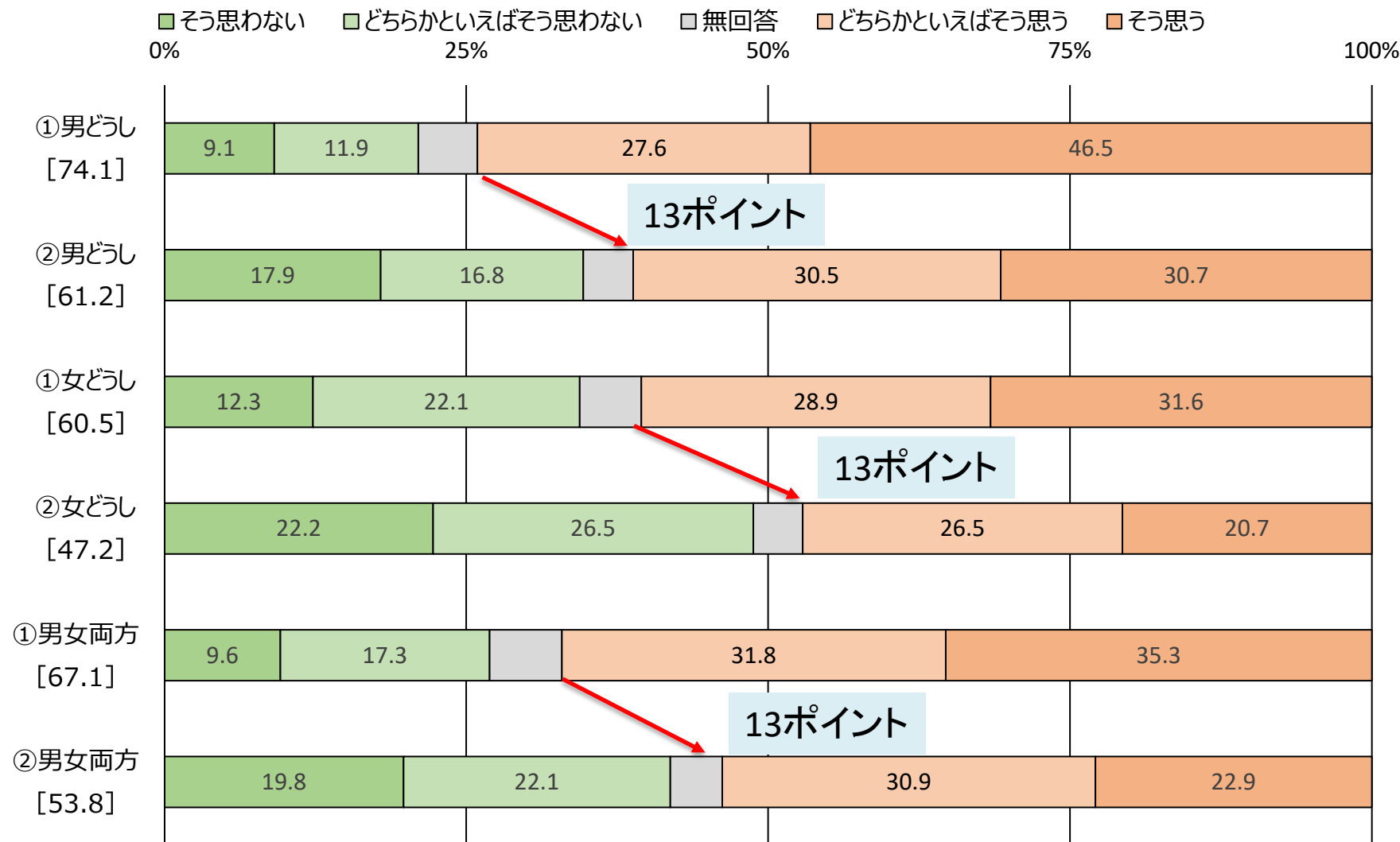
①:2015年
②:2019年



- ①男どうし・男女両方との性行為は「気持ち悪い」が5割を超える；
②性行為を行いたい感情が誰にもわからない男性・女性への「気持ち悪い」は2割5分であり、同性間・両性間の性行為への「気持ち悪い」の半分の割合であった

性行為(全体; 15年vs19年)

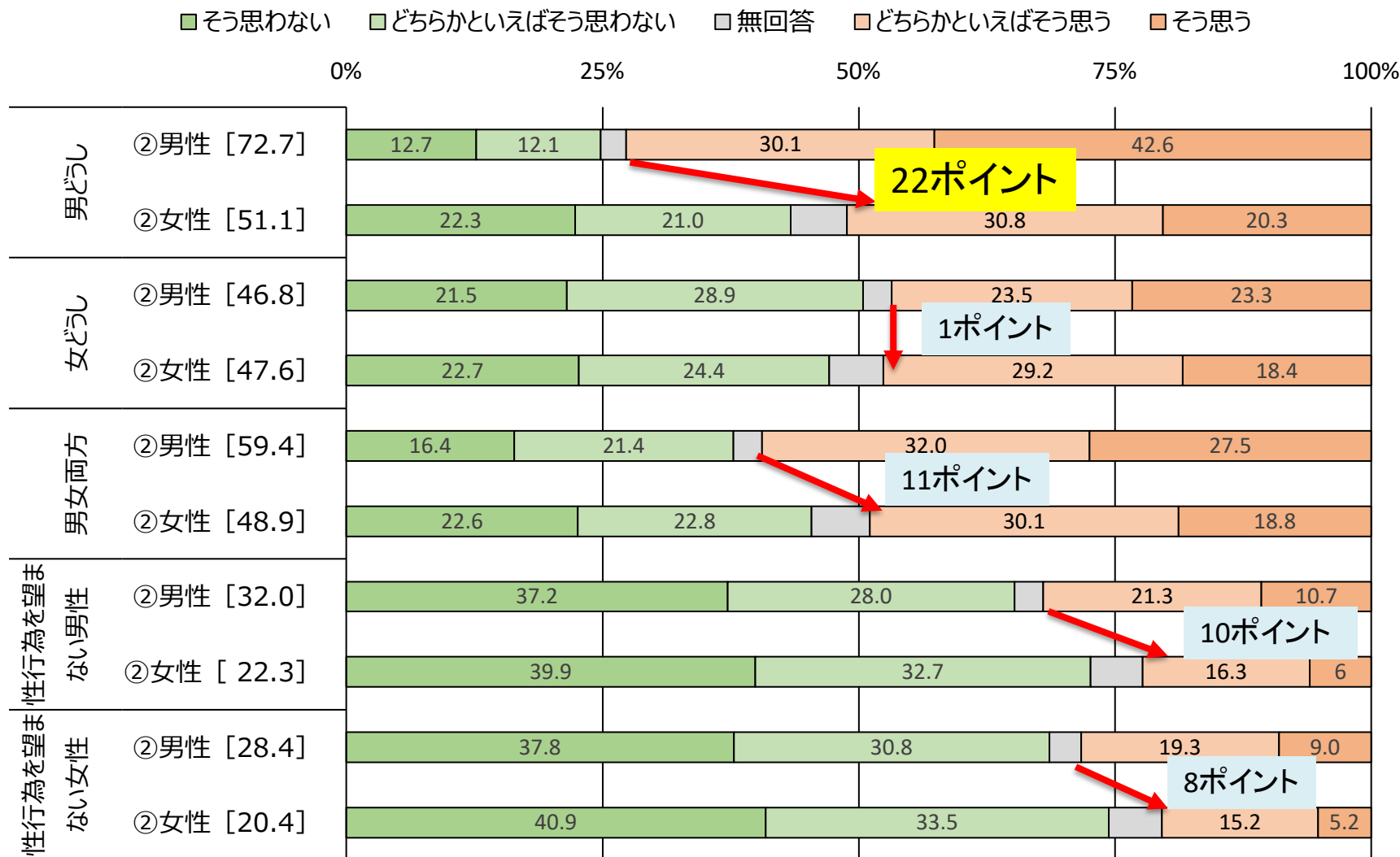
①:2015年
②:2019年



①15年では6～7割が同性間・両性間の性行為を「気持ち悪い」と回答していたが、19年では1割減少した

性行為(性別; 19年度)

①: 2015年
②: 2019年



① 女どうしの性行為を除いて、男性のほうが嫌悪感が強かった

性行為(性別;15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

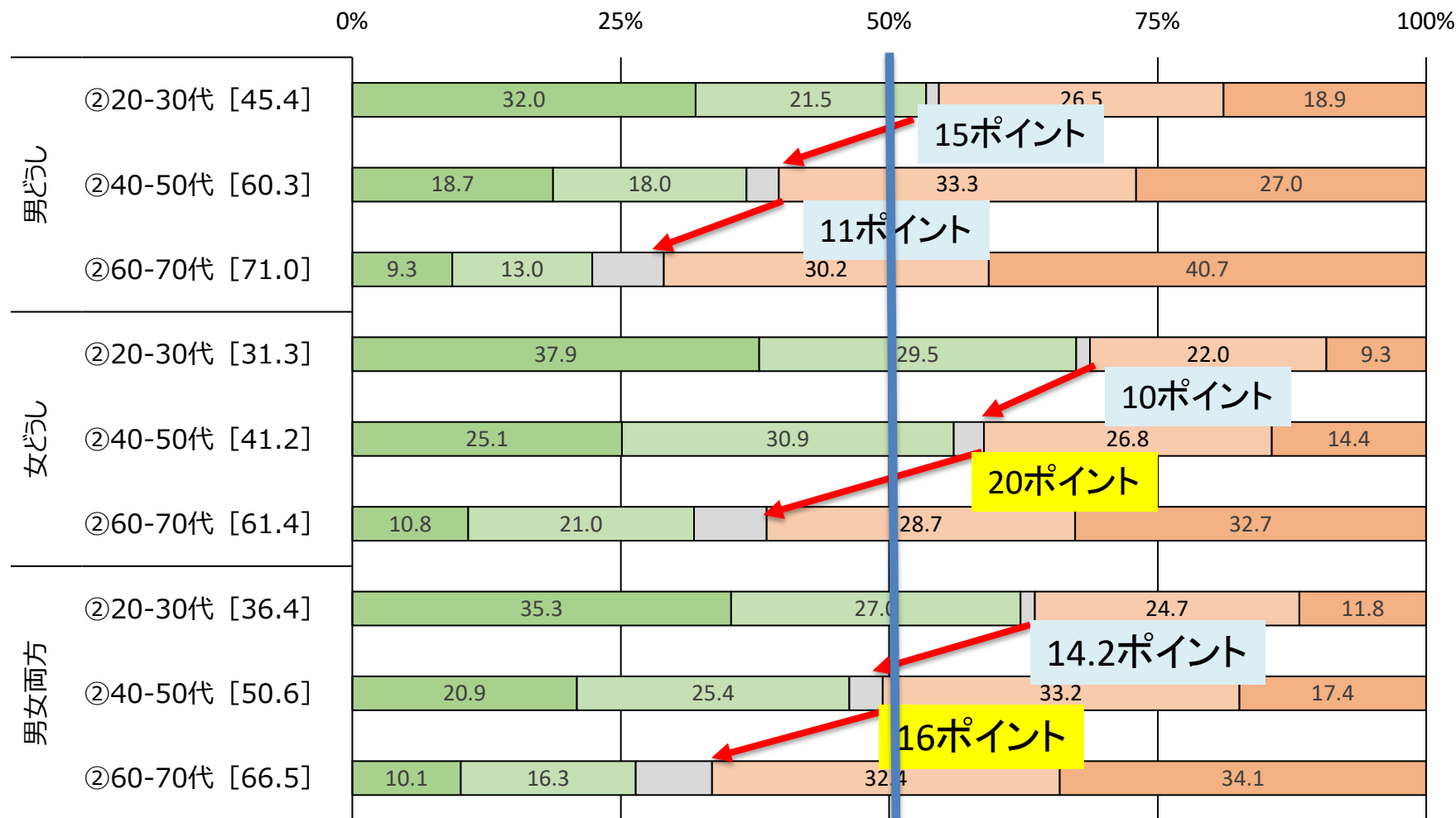


①15年と19年を比べると、男女ともに「気持ち悪い」が減少しているが、女性の方が減少幅が大きい

性行為(1)(年代別:19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない ■ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



①年代が上がるとともに「気持ち悪い」の割合が多い；②女どうし。男女両方で20-30代・40-50代と比べ、60-70代の割合が多くなっている；③60-70代はすべての項目で、40-50代は2項目で「気持ち悪い」が5割を超えた

性行為(2)(年代別:19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%

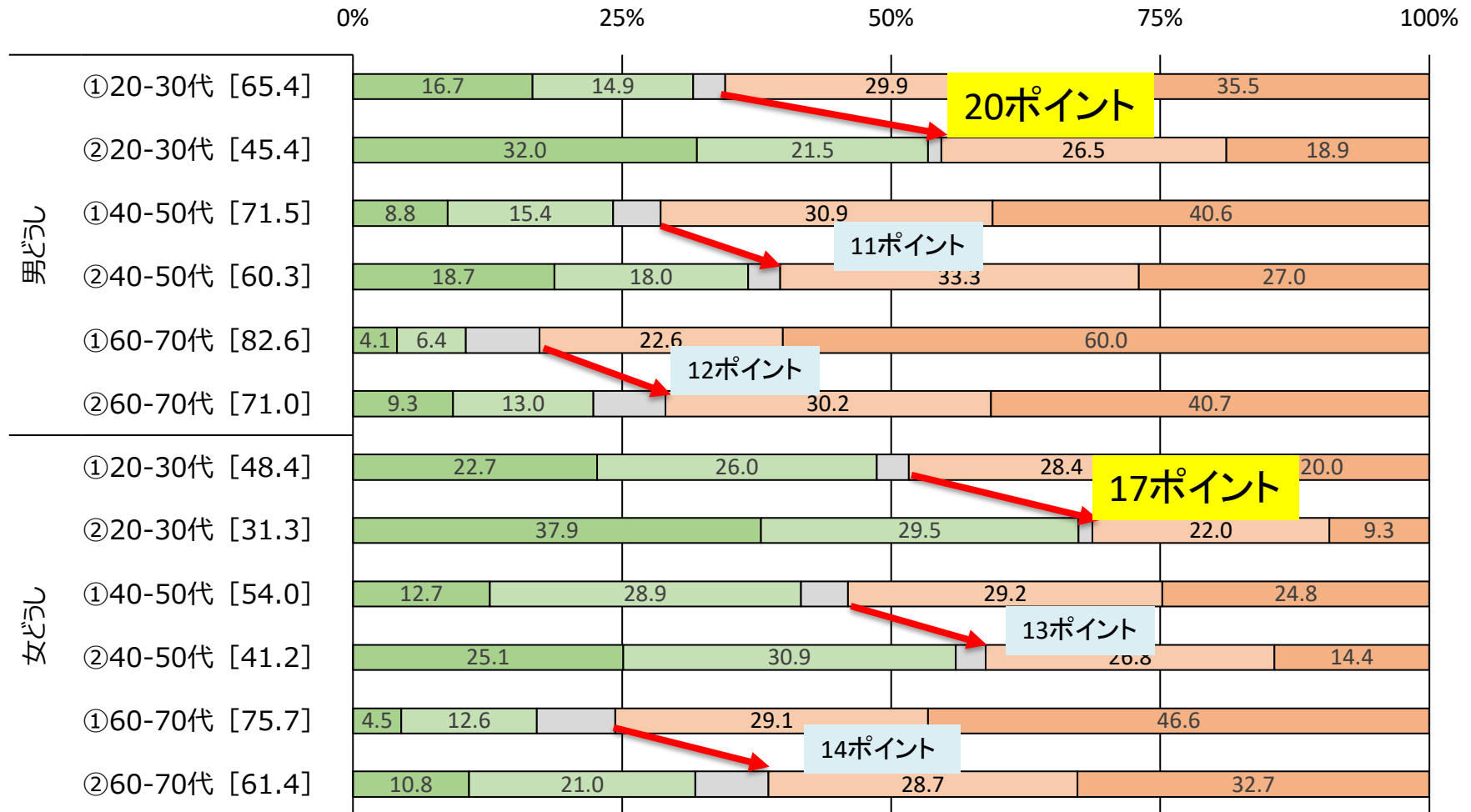


- ①年代が上がるとともに、[気持ち悪い]の割合が多くなっている；
- ②20-30代・40-50代と比べ、60-70代の割合が多くなっている

性行為(1)(年代別:15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

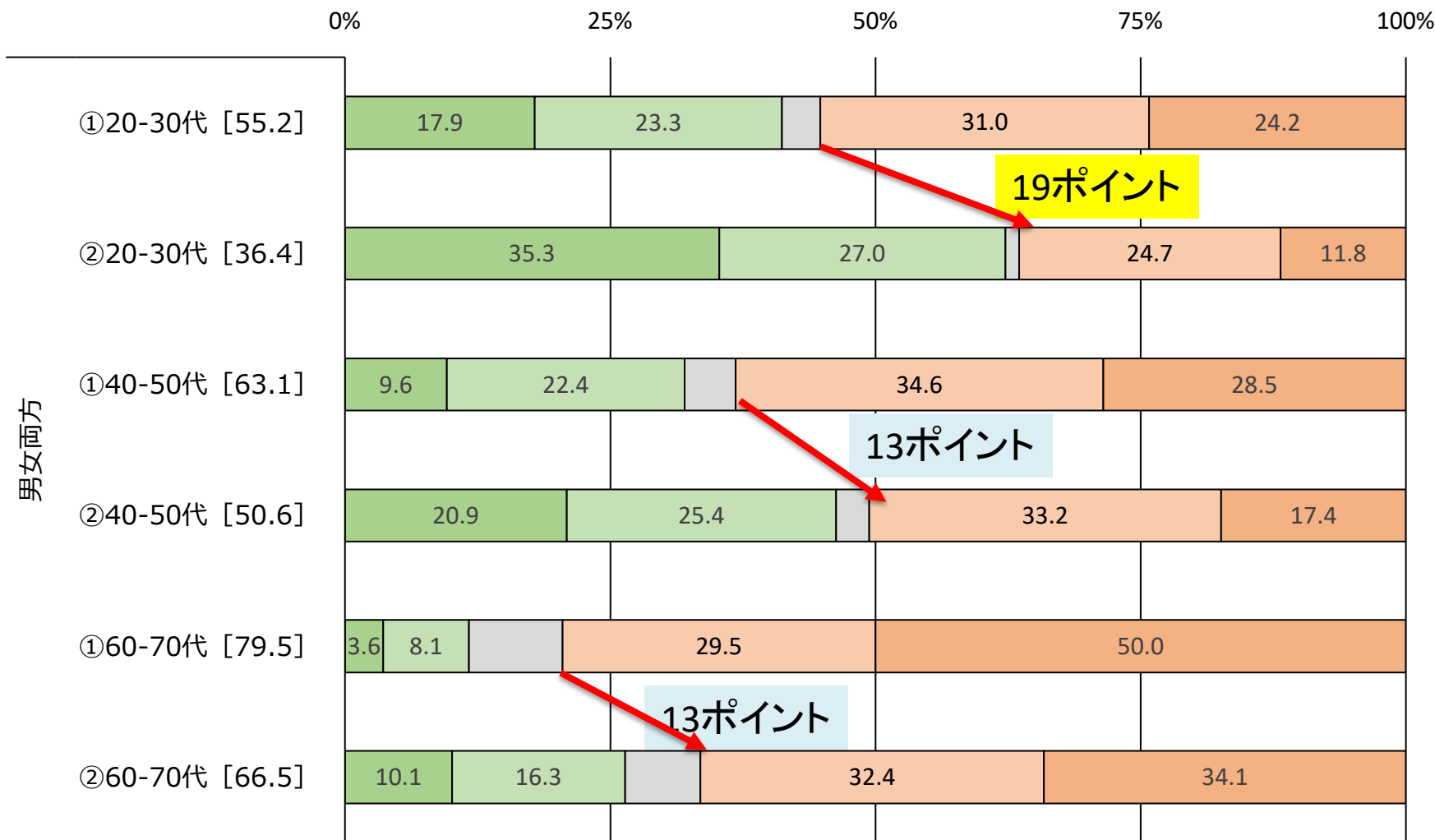


- ①どの年代でも15年と比べ19年では「気持ち悪い」が減少した；
②20-30代の減少が顕著となっている

性行為(2)(年代別:15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



- ①どの年代でも15年と比べ19年では「気持ち悪い」が減少した；
- ②20-30代の減少が顕著となっている

友人に対する抵抗感

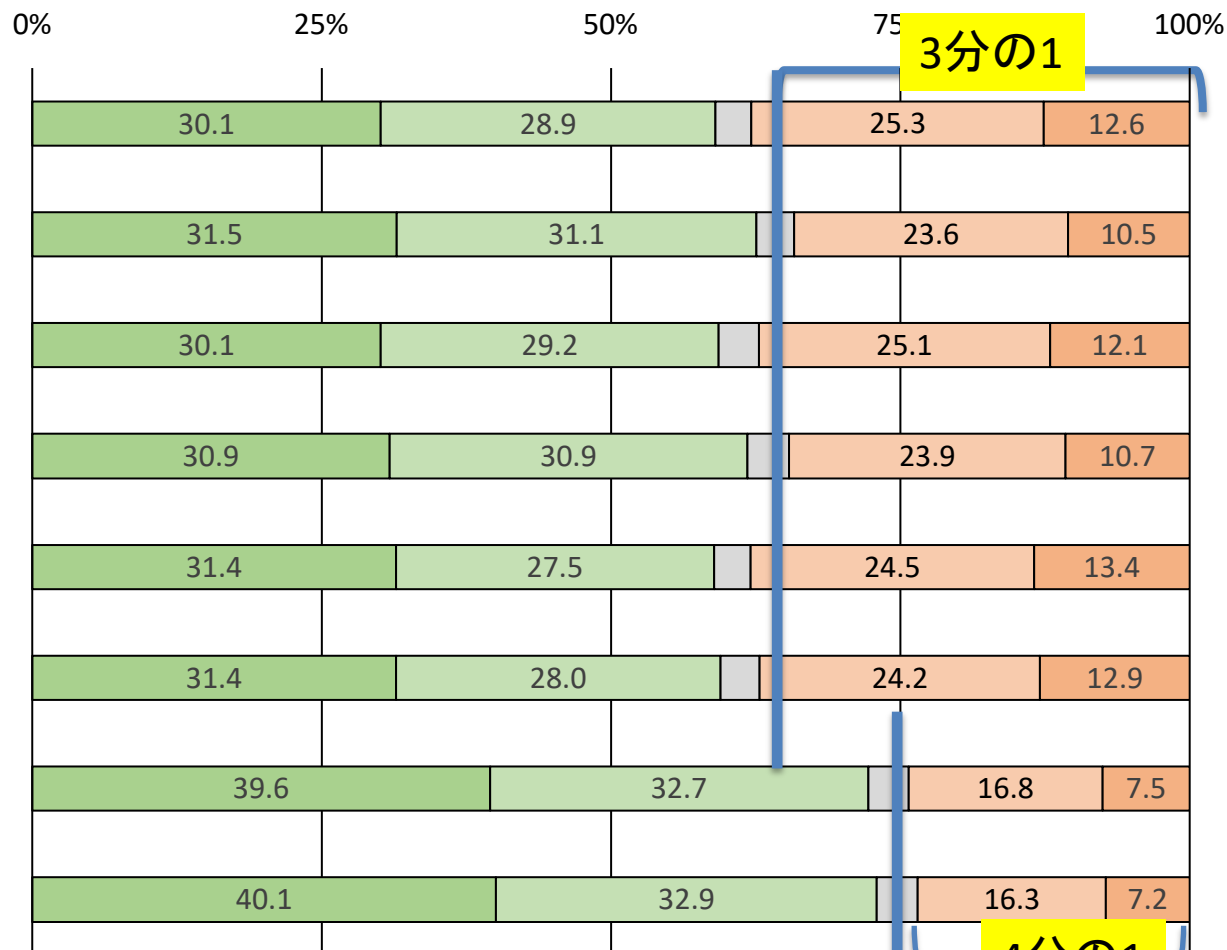
問 24 あなたの仲の良い人が、仮に、同(両)性愛者だったり性別を変えたりした場合についておたずねします。次のア～クのそれぞれについて、あなたのお気持ちにもっとも近いものを1、2、3、4から1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

| | | そう思う | そういえばどちらかと | そう思わない | そう思わない |
|-----|--|------------|------------|--------|--------|
| | | [抵抗感]と表記 ← | | | |
| (ア) | 仲の良い男性の友人が同性愛者だとわかったら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (イ) | 仲の良い女性の友人が同性愛者だとわかったら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (ウ) | 仲の良い男性の友人が両性愛者(男女どちらにも性愛感情を抱く男性)だとわかったら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (エ) | 仲の良い女性の友人が両性愛者(男女どちらにも性愛感情を抱く女性)だとわかったら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (オ) | 仲の良い男性の友人が誰に対しても性愛感情を抱かない男性だとわかったら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (カ) | 仲の良い女性の友人が誰に対しても性愛感情を抱かない女性だとわかったら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (キ) | 仲の良い友人が性別を男性から女性に変えたら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (ク) | 仲の良い友人が性別を女性から男性に変えたら抵抗がある | 1 | 2 | 3 | 4 |

友人に対する抵抗感(全体:19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



3分の1

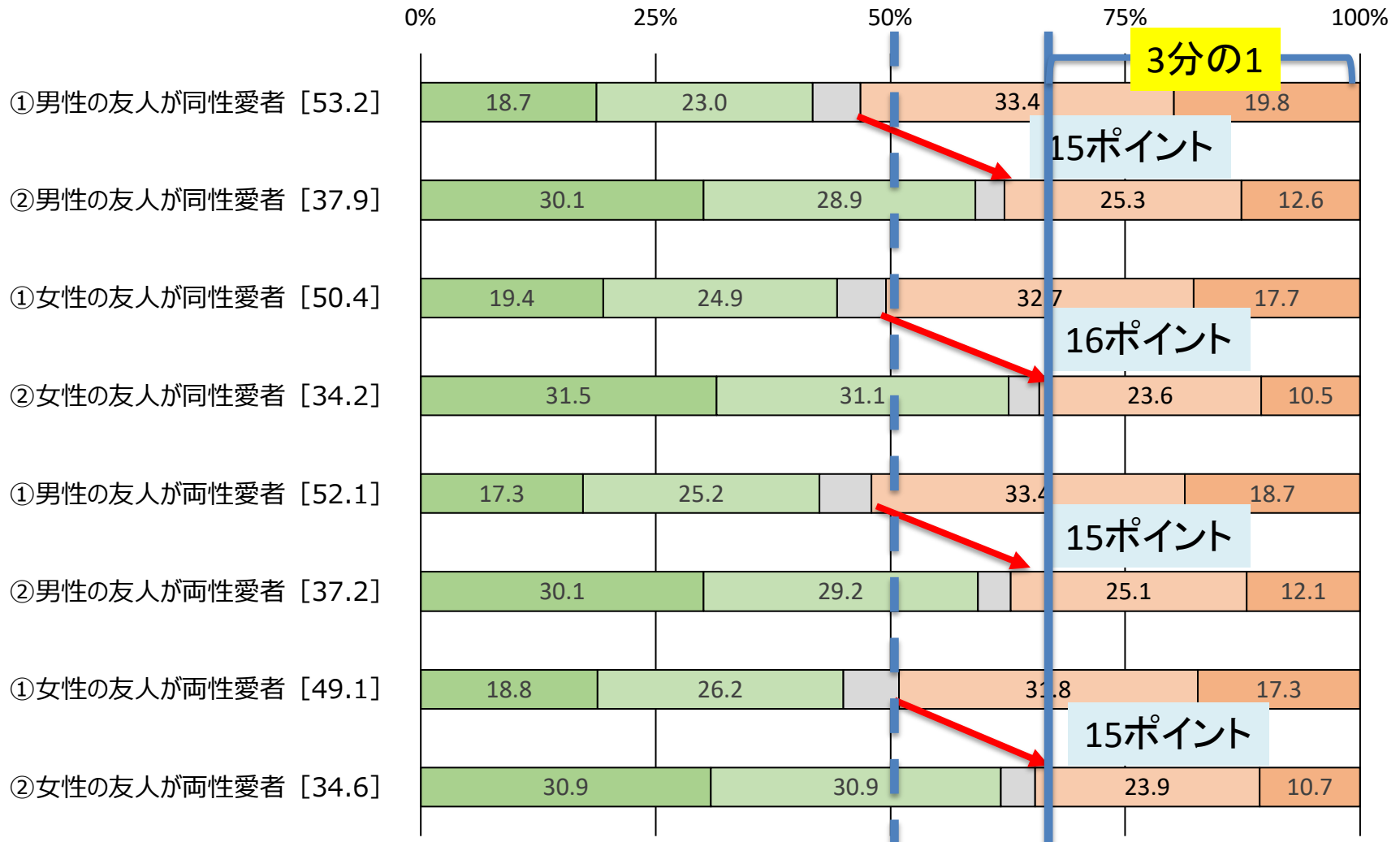
4分の1

①3分の1が友人が同性愛者・両性愛者・トランスジェンダーなら「抵抗感」ありと回答；②4分の1が性愛感情を抱かない友人に「抵抗感」ありと回答；③性愛感情を抱かない友人への「抵抗感」は、同性愛者・両性愛者・性別移行の友人より弱い

①:2015年
②:2019年

友人に対する抵抗感(1)(全体:15年vs19年)

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

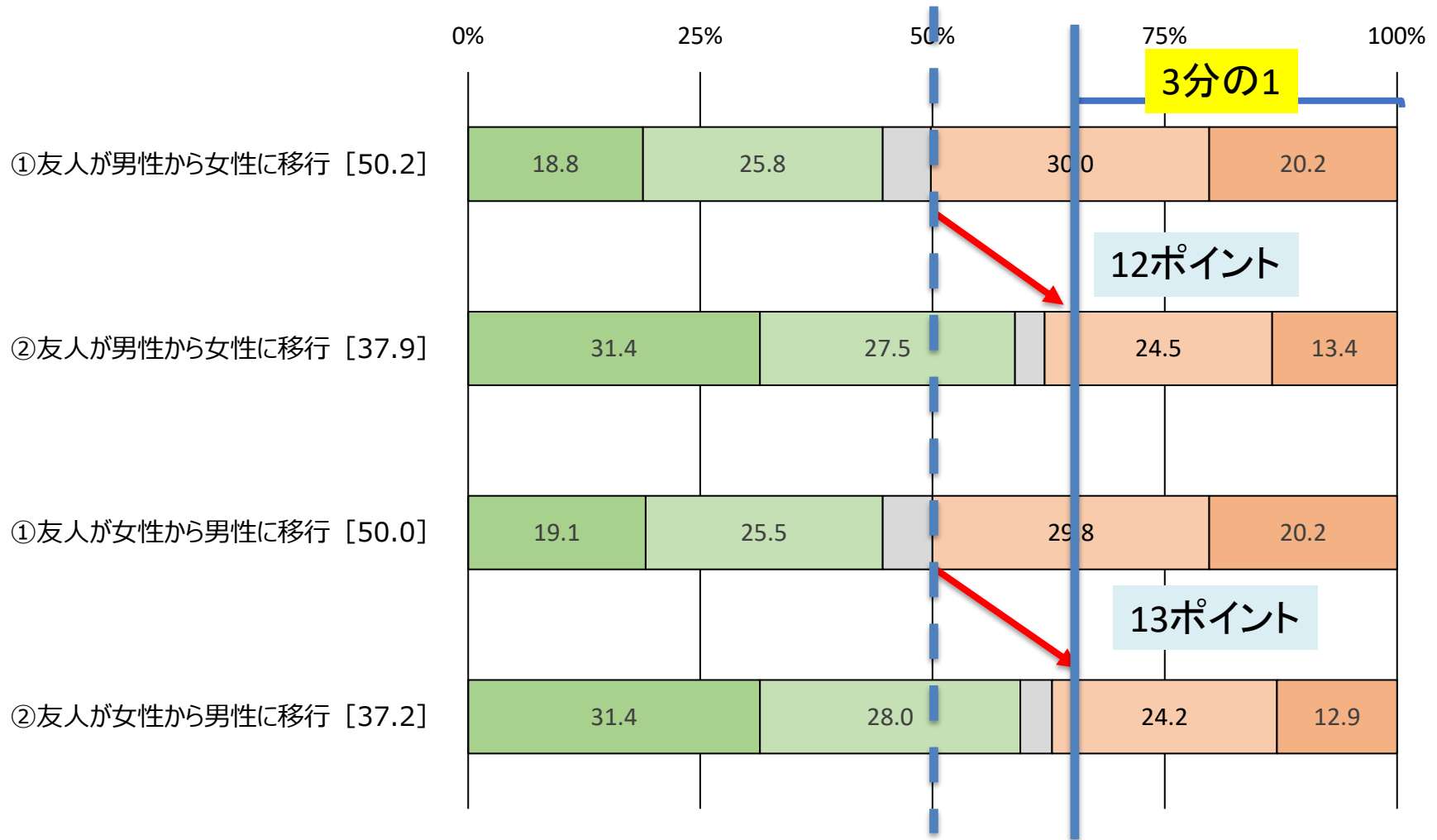


①15年では半数が、友人が同性愛者・両性愛者なら「抵抗がある」と回答していたが、19年では3分の1に減少した

①:2015年
②:2019年

友人に対する抵抗感(2)(全体:15年vs19年)

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

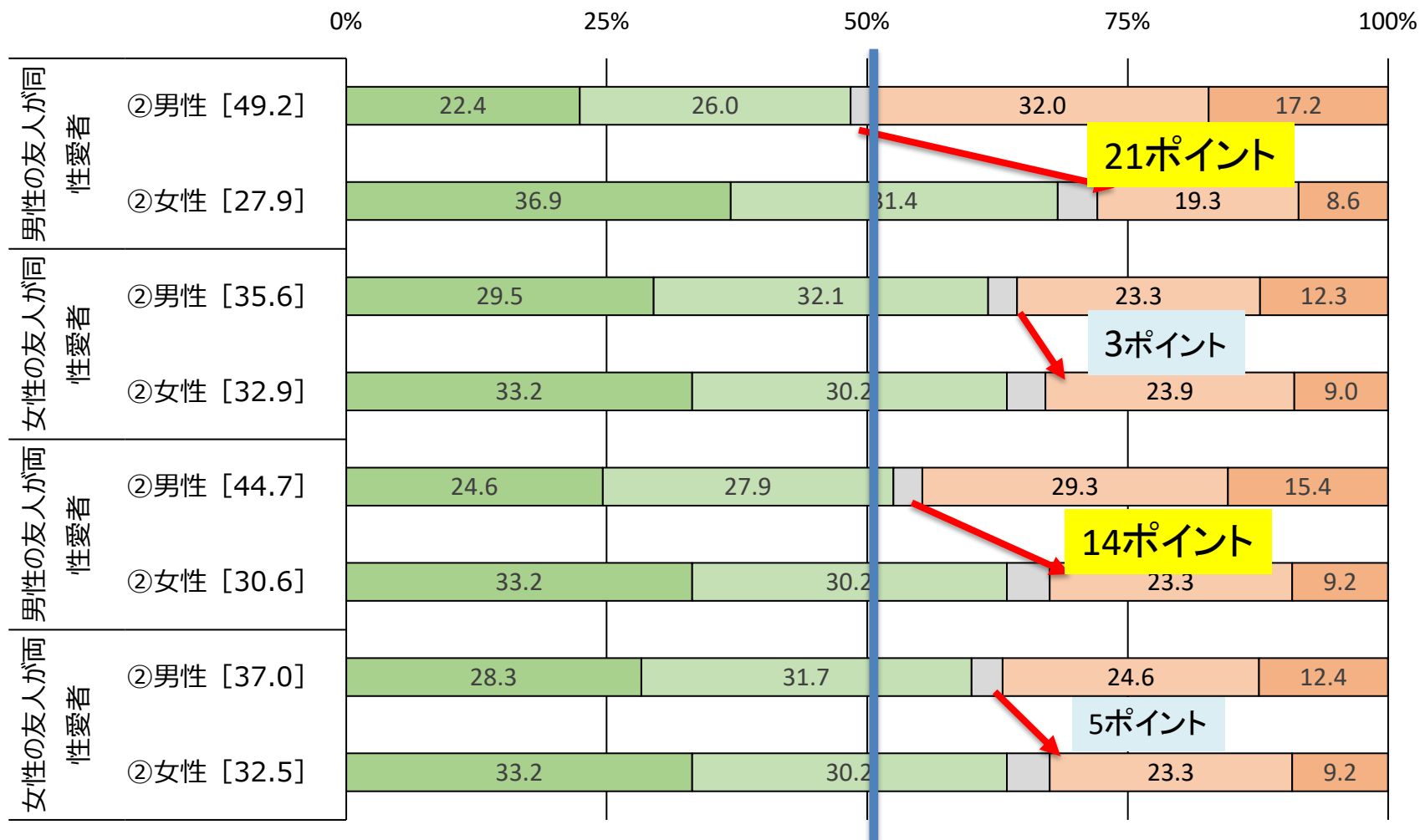


① 15年では半数が、友人が性別移行したら「抵抗がある」と回答していたが、19年では3分の1に減少した

友人への抵抗感(性別:19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



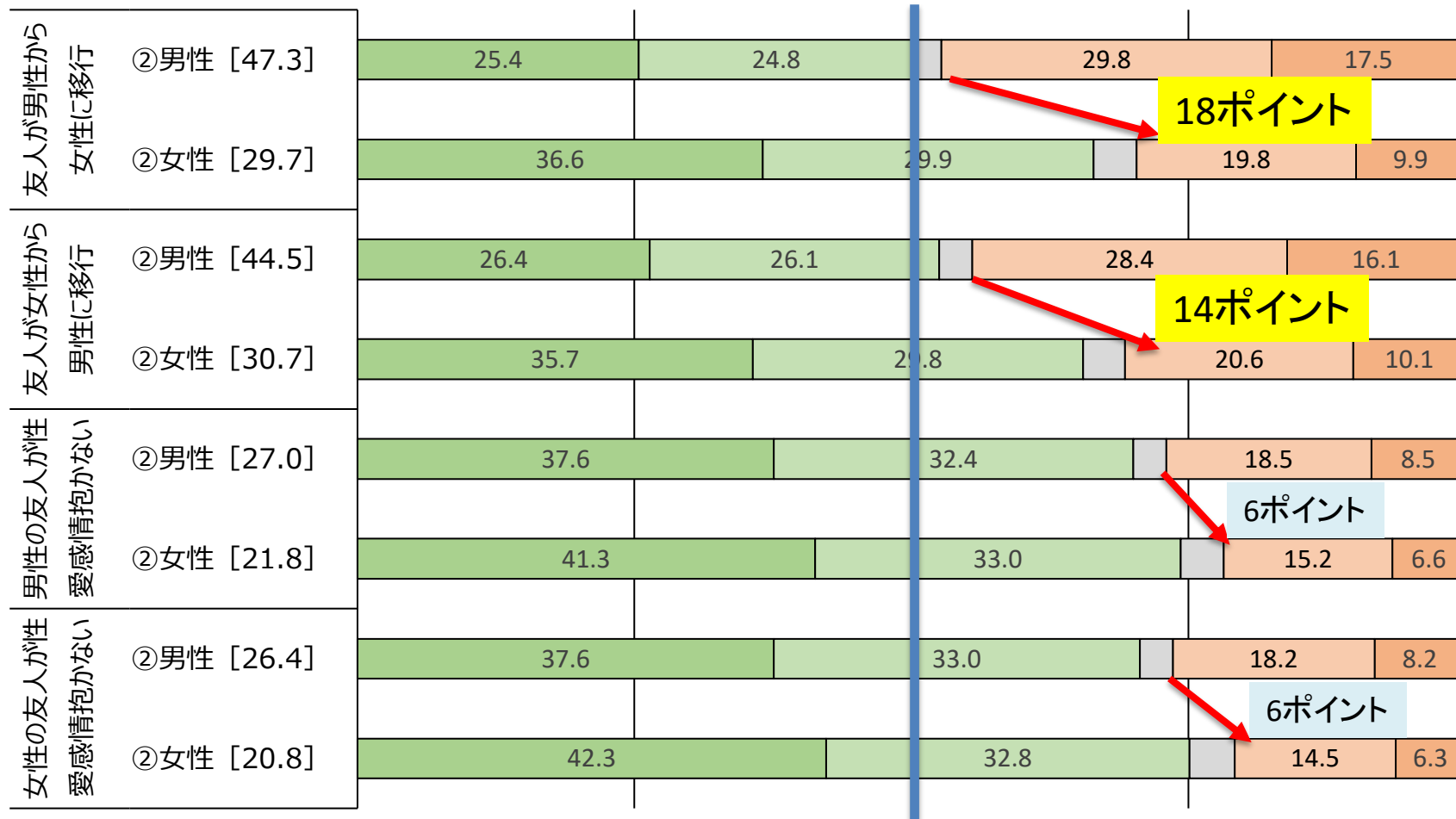
①いずれの項目も男性のほうが「抵抗感」が強い；②半数の男性は、仲の良い男性の友人が同性愛者・両性愛者だとわかったら「抵抗感」があると回答、③女性は男性の同性愛者への「抵抗感」が弱い

友人への抵抗感(性別:19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%

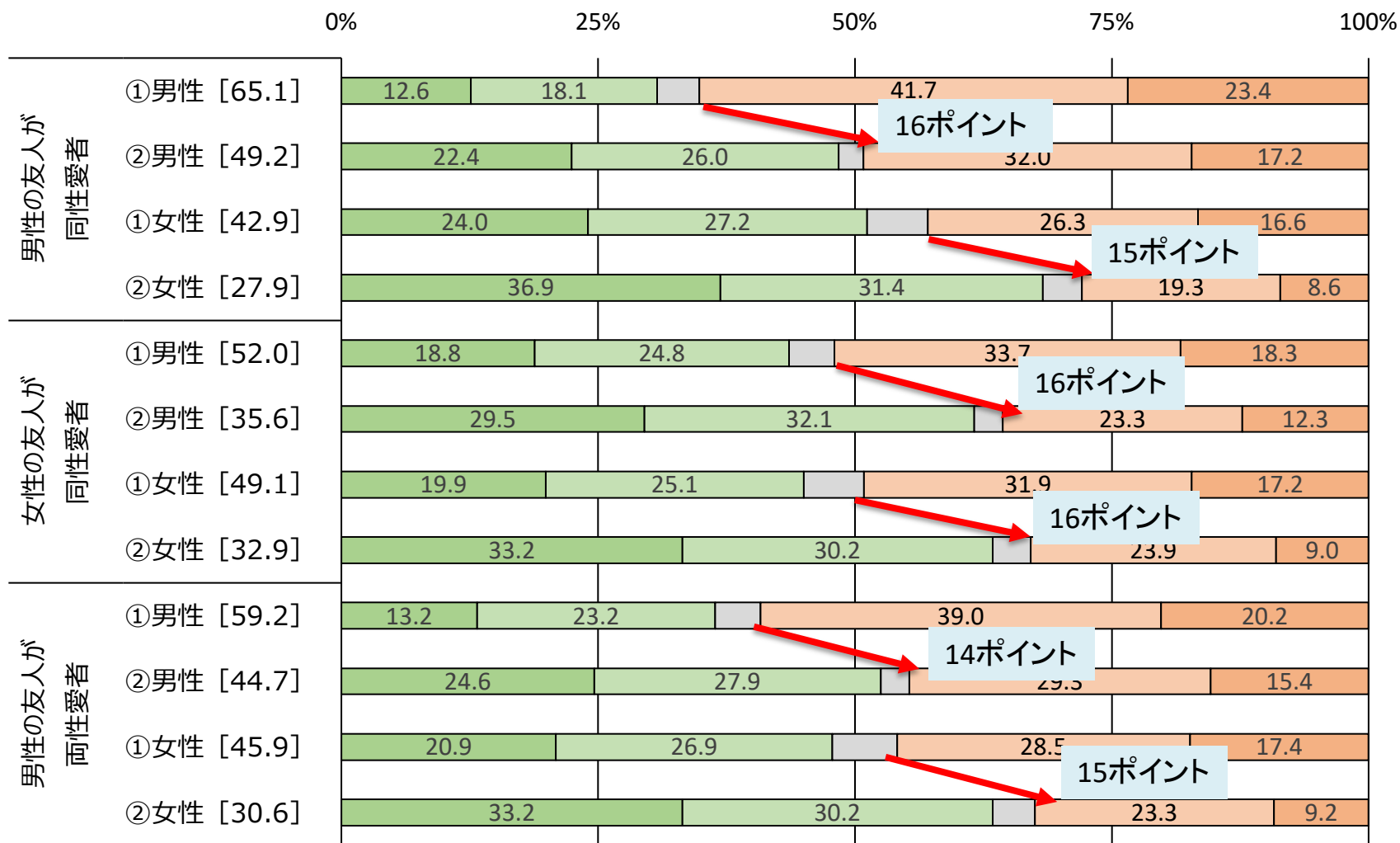


①いずれの項目も男性のほうが「抵抗感」が強い；②半数弱の男性は、仲の良い友人が性別を変えたら「抵抗感」があると回答

友人に対する抵抗感(1)(性別:15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う



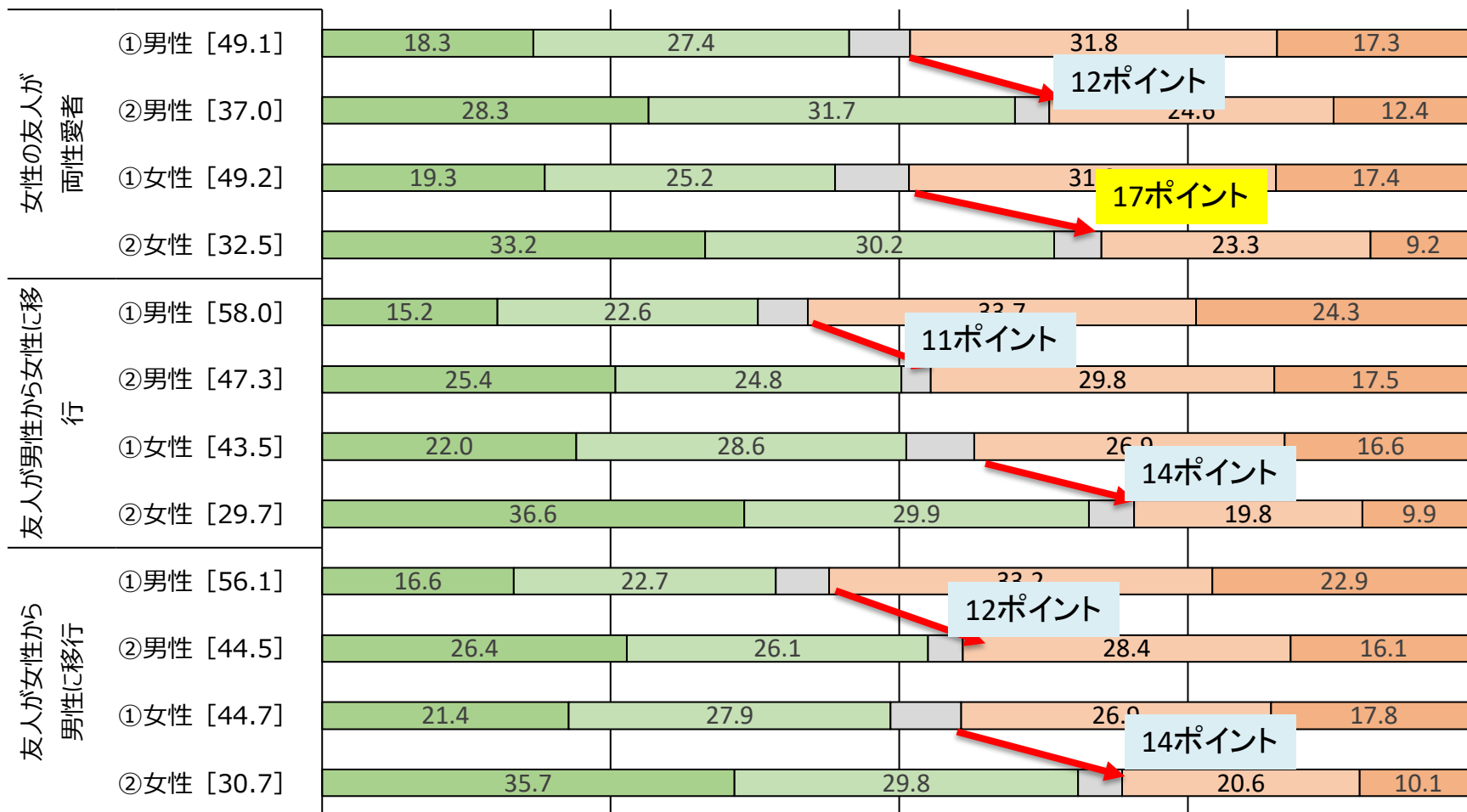
①15年と19年を比べると、男女ともに同じ割合で「抵抗感」が減少している

友人に対する抵抗感(2)(性別: 15年vs19年)

①: 2015年
②: 2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%



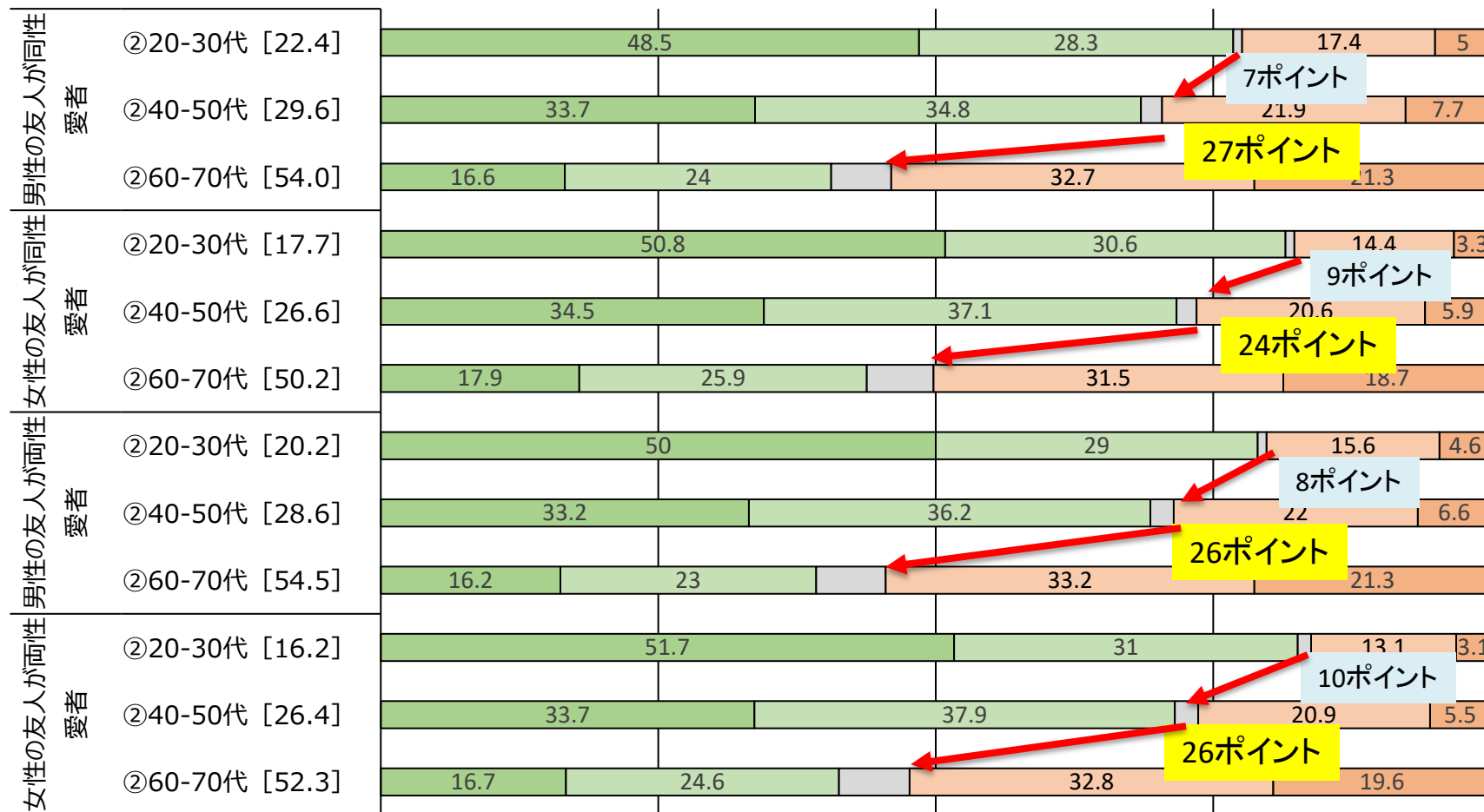
① 15年と19年を比べると、女性の友人が両性愛者で女性の減少幅が大きかったが、性別移行では大きな差はなかった

友人への抵抗感(1)(年代別; 19年)

①: 2015年
②: 2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

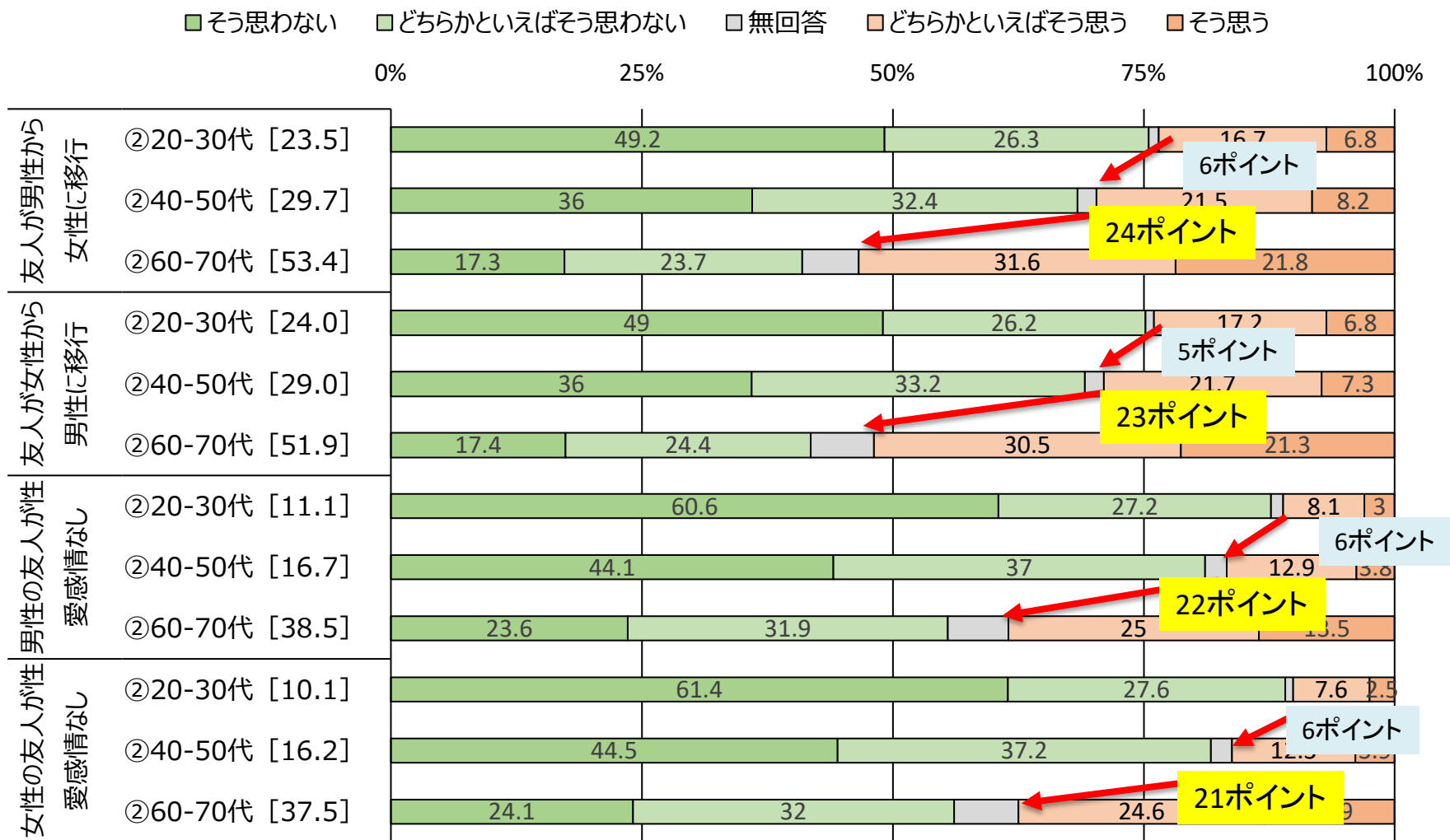
0% 25% 50% 75% 100%



①年代が上がるにつれて「抵抗感」が強い；②20-30代・40-50代と比べ、60-70代の「抵抗感」が強い

友人への抵抗感(2)(年代別; 19年)

①: 2015年
②: 2019年



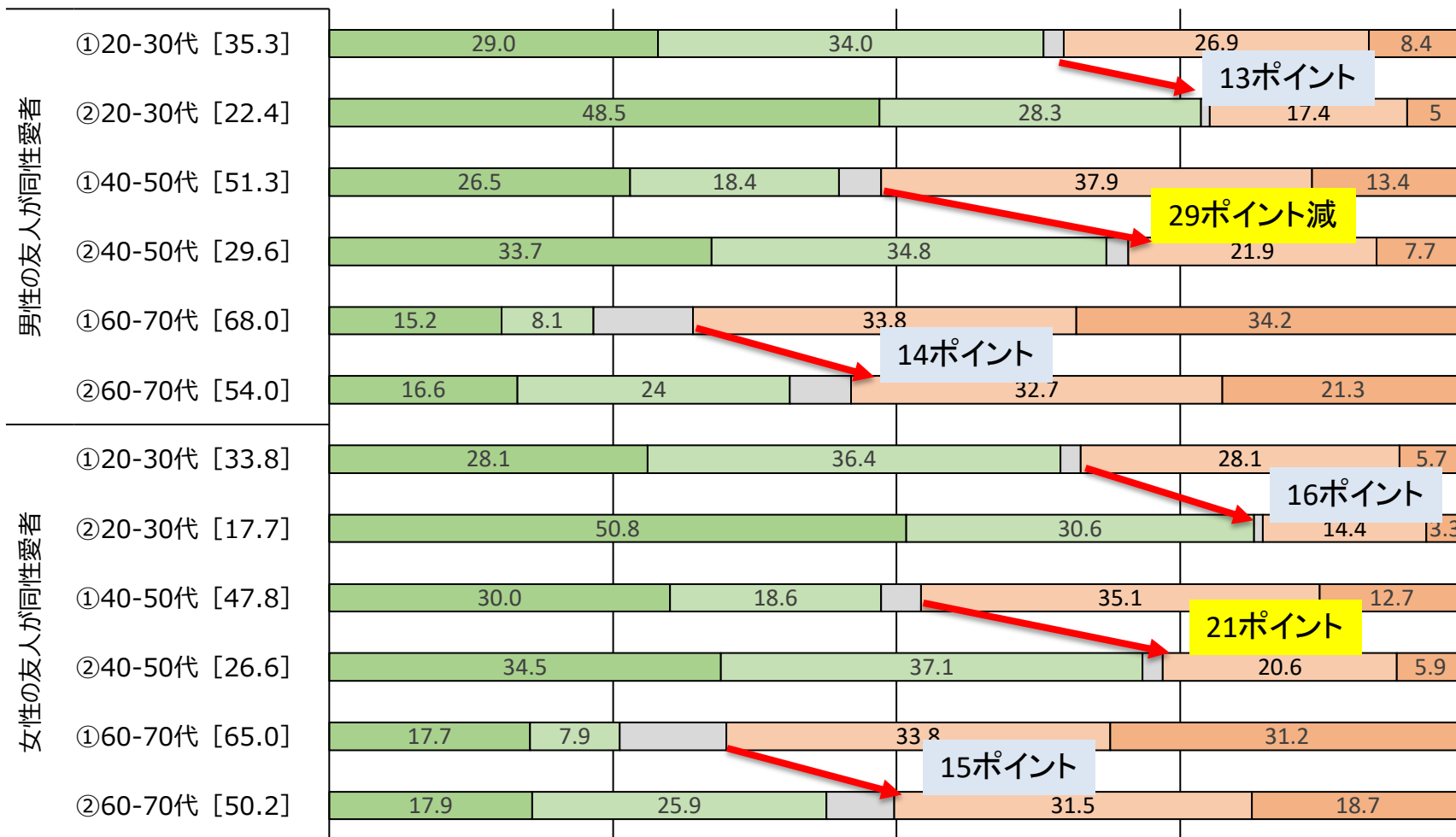
①年代が上がるにつれて「抵抗感」が強い；②20-30代・40-50代と比べ、60-70代の「抵抗感」が強い

友人への抵抗感(1)(年代別; 15年vs19年)

①: 2015年
②: 2019年

■ そう思わない □ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%



①どの年代でも15年と比べ19年では「抵抗感」が減少している；

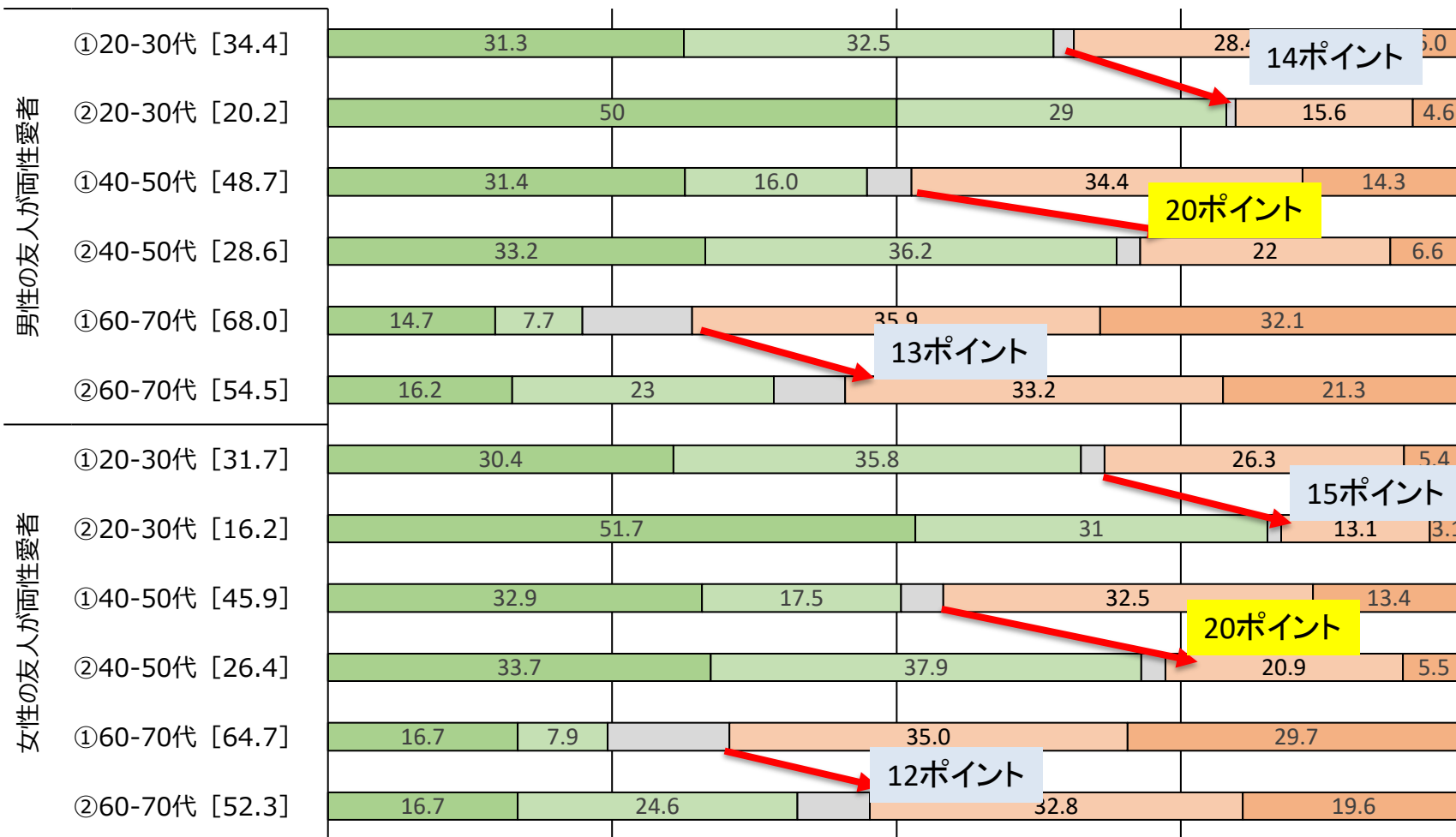
②減少が顕著だったのは40-50代であった

友人への抵抗感(2)(年代別; 15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%



①どの年代でも15年と比べ19年で「抵抗感」が減少した；②減少が顕著だったのは40-50代であった

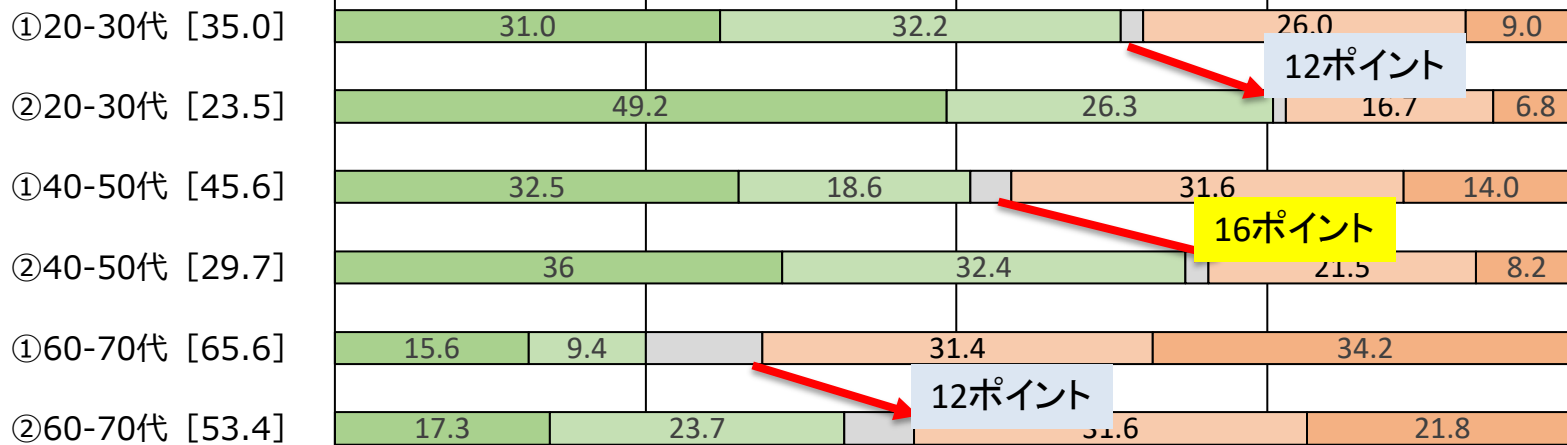
友人への抵抗感(3)(年代別; 15年vs19年)

①:2015年
②:2019年

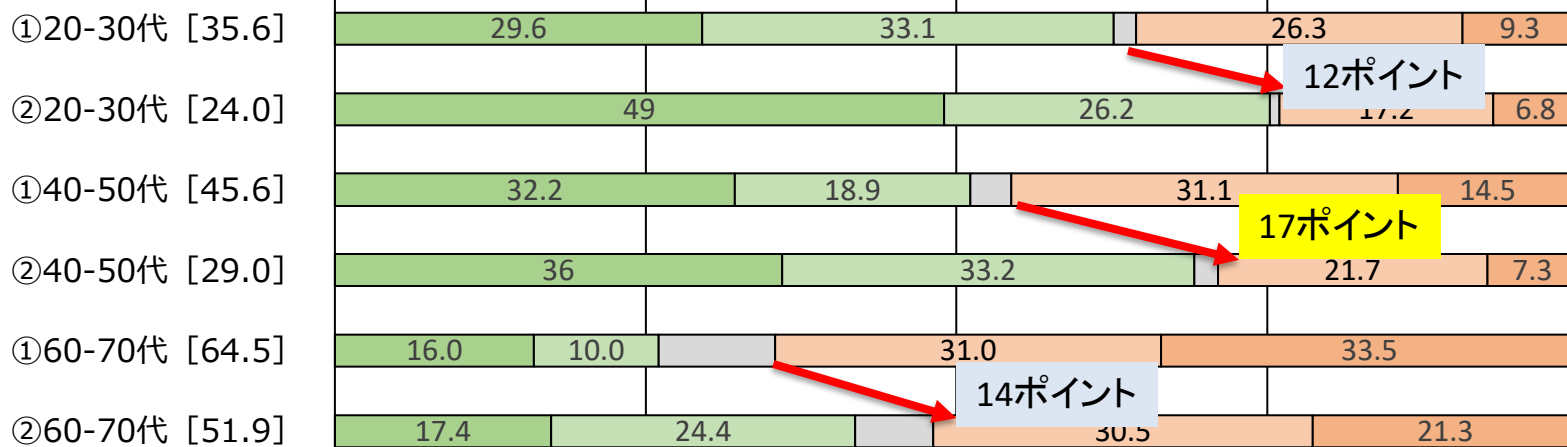
■ そう思わない ■ どちらかといえばそう思わない □ 無回答 ■ どちらかといえばそう思う ■ そう思う

0% 25% 50% 75% 100%

友人が男性から女性に移行



友人が女性から男性に移行



①どの年代でも15年と比べ19年で「抵抗感」が減少した；②減少が顕著だったのは40-50代であった

結論(1)

①恋愛感情：2015年調査では4割が同性間・両性間の恋愛感情を「おかしい」と回答したが、2019年調査では約3割に減少した。2015年と2019年を比べると、性別では女性より男性が、年代では20－30代・40－50代よりも60－70代の減少が大きかった。

②性行為：2015年調査では6～7割が同性間・両性間の性行為を「気持ち悪い」と回答したが、2019年調査では1割減少した。しかし、2019年でも半数以上が、男どうし・男女両方との性行為を「気持ち悪い」と回答している。2015年と2019年を比べると、性別では男性より女性の、年代では20－30代の減少幅が大きかった。このことは、男性および40－50代・60－70代の同性間・両性間の性行為に対する嫌悪感の強さを示している。

結論(2)

③友人への抵抗感：仲の良い友人が同性愛者・両性愛者・性別移行だとわかったら「抵抗がある」と回答した割合は、15年では半数であったが、19年では3分の1に減少した。2015年と2019年を比べると、性別では男女ともに同じ割合で抵抗感が減少したが、年代では20-30代・60-70代と比べ、40-50代で「抵抗感」が大きく減少した。

④恋愛感情・性愛感情を抱かない人への嫌悪感・抵抗感：3分の1が恋愛感情を抱かない男性・女性に「おかしい」と回答したが、同性間・両性間の恋愛感情を「おかしい」と回答した割合とほぼ同じであった。4分の1が性行為を行いたい感情が誰にもわからない男性・女性に「気持ち悪い」と回答したが、その割合は同性間・両性間の性行為に「気持ち悪い」と回答した割合の約半分であった。4分の1が仲の良い友人が性愛感情を抱かないとわかったら「抵抗感」を持つと回答したが、仲の良い友人が同性愛者・両性愛者・性別移行した人だとわかったときよりも「抵抗感」がある」と回答した割合よりも少なかった。

- 性的マイノリティの存在の認識
- 身近な性的マイノリティに対する嫌悪感

性的マイノリティについての意識：
2015年・2019年全国調査

釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）

性的マイノリティの存在の認識：
周りにいるか？

2015年調査/2019年調査の質問内容

・2015年調査(2問)

「同僚、友人、親せき、家族」に同性愛者はいるか

A

「同僚、友人、親せき、家族」に性別を変えた人*はいるか

B

C
「周りに性的マイノリティが
いるか」と表記

・2019年調査(4問)

a「同僚」に同性愛者はいるか

b「友人、親せき、家族」に同性愛者はいるか

A

c「同僚」に性別を変えた人はいるか

d「友人、親せき、家族」に性別を変えた人はいるか

B

C

*: 質問文の「性別を変えた人、あるいはそうしようと考えている人」を「性別を変えた人」と略記

「同性愛者」についての設問

問 18 あなたのまわりの人びとについておたずねします。職場の同僚（現在過去を問わず）や、近しい友人、親せきや家族に同性愛者はいますか。（○は1つ）

2015年
調査

- | | | | |
|-------|-----------------|-----------|--------|
| 1. いる | 2. そうかもしれない人がいる | 3. いないと思う | 4. いない |
|-------|-----------------|-----------|--------|

問 14 あなたのまわりの人びとについておたずねします。現在あるいは過去の職場の同僚に同性愛者はいますか。（○は1つ）

2019年
調査

- | | | |
|----------------|----------|--------------------------------|
| 1 いる | 3 いないと思う | 5 仕事についての経験はない・ 同僚ができた経験はない |
| 2 そうかもしれない人がいる | 4 いない | |

問 16 近しい友人、親せきや家族に同性愛者はいますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------|----------|
| 1 いる | 3 いないと思う |
| 2 そうかもしれない人がいる | 4 いない |

「性別を変えた・・・人」についての設問

問 19 職場の同僚（現在過去を問わず）や、近しい友人、親せきや家族に性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人はいますか。（○は1つ）

- | | | | |
|-------|-----------------|-----------|--------|
| 1. いる | 2. そうかもしれない人がある | 3. いないと思う | 4. いない |
|-------|-----------------|-----------|--------|

2015年
調査

問 15 職場の同僚（現在過去を問わず）に性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人はいますか。（○は1つ）

- | | | |
|----------------|----------|--------------------------------|
| 1 いる | 3 いないと思う | 5 仕事についての経験はない・ 同僚ができた経験はない |
| 2 そうかもしれない人がある | 4 いない | |

2019年
調査

問 17 近しい友人、親せきや家族に性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人はいますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------|----------|
| 1 いる | 3 いないと思う |
| 2 そうかもしれない人がある | 4 いない |

2015年調査と比較可能とするための手続き： 2019年調査の2項目の回答の統合例

(1) a 職場の同僚に同性愛者はいるか、b 近い友人、親せきや家族に同性愛者はいるか、の回答を統合し、

(2) 「A「同僚、友人、親せき、家族」に同性愛者はいるか、として扱う

| | | Q16 問 1 6 近い友人、親せきや家族に同性愛者はいますか。(○は1つ) | | | | | 合計 |
|--|-----------------|--|----------------|----------|-------|--------|------|
| | | 1 いる | 2 そうかもしれない人がある | 3 いないと思う | 4 いない | 99 無回答 | |
| Q14 問 1 4 あなたのまわりの人びとについておたずねします。現在あるいは過去の職場の同僚に同性愛者はいますか。(○は1つ) | 1 いる | 43 | 4 | 52 | 75 | 1 | 175 |
| | 2 そうかもしれない人がある | 13 | 14 | 86 | 86 | 0 | 199 |
| | 3 いないと思う | 20 | 15 | 678 | 581 | 3 | 1297 |
| | 4 いない | 18 | 3 | 42 | 830 | 2 | 895 |
| | 5 仕事について経験はない・同 | 4 | 0 | 16 | 14 | 0 | 34 |
| | 99 無回答 | 0 | 0 | 4 | 4 | 24 | 32 |
| 合計 | | 98 | 36 | 878 | 1590 | 30 | 2632 |

少なくとも一方に「いる」と回答 → [いる]

少なくとも一方について「そうかもしれない人がある」と回答 → [そうかもしれない人がある]

少なくとも一方について「いないと思う」と回答 → [いないと思う]

双方に「いない」または、「いない」と上記以外の回答 → [いない]

双方とも無回答 → 無回答

資料に掲載している図のリスト

・下線は口頭で報告予定

・左上に  があるスライドは配布のみの予定

* 2019年調査:各項目

- ✓ 職場の同僚に・・・a 同性愛者はいるか、b 性別を変えた人はいるか、近しい友人、親せきや家族に・・・c 同性愛者はいるか、d 性別を変えた人はいるか

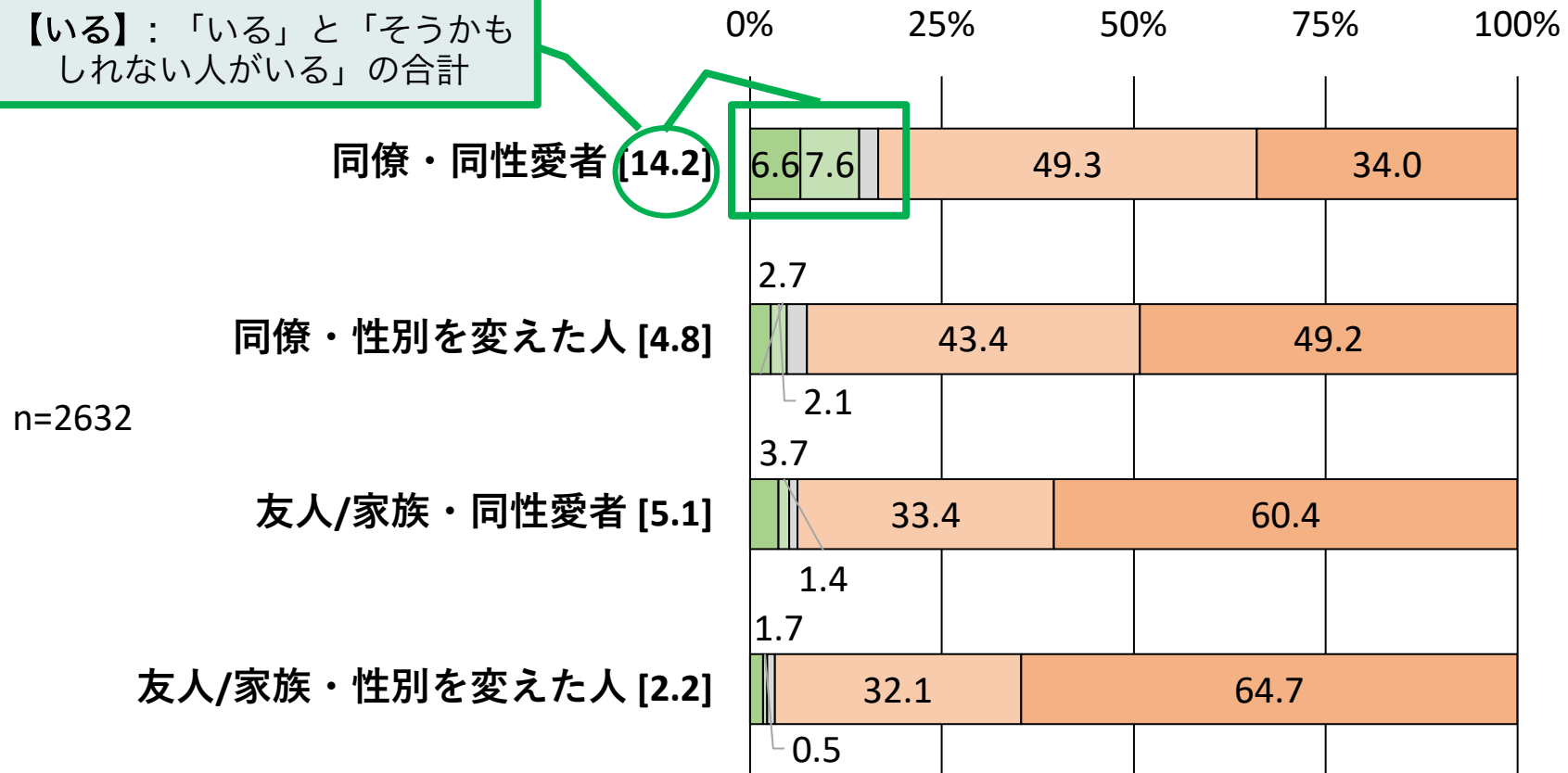
* 2015年調査と2019年調査の比較

- ✓ 職場の同僚・近しい友人、親せきや家族に・・・
 - ✓ 全体: **A** 同性愛者はいるか、**B** 性別を変えた人はいるか
 - ✓ 性別: **A** 同性愛者はいるか **B** 性別を変えた人はいるか
 - ✓ 年代別: **A** 同性愛者はいるか **B** 性別を変えた人はいるか
- ✓ **C** 「周りに性的マイノリティはいるか」(**A**「同性愛者はいるか」と**B**「性別を変えた人はいるか」の回答を統合)
 - ✓ 全体・性別
 - ✓ 年代別
 - ✓ 地域ブロック別 2019年
 - ✓ 2015-19年【いる】
 - ✓ 2015-19年いない

(2019年) 同僚に a 同性愛者; b 性別を変えた人はいるか; 友人・親せき・家族に c 同性愛者; d 性別を変えた人はいるか

■ いる ■ そうかもしれない人がある ■ 無回答 ■ いないと思う ■ いない

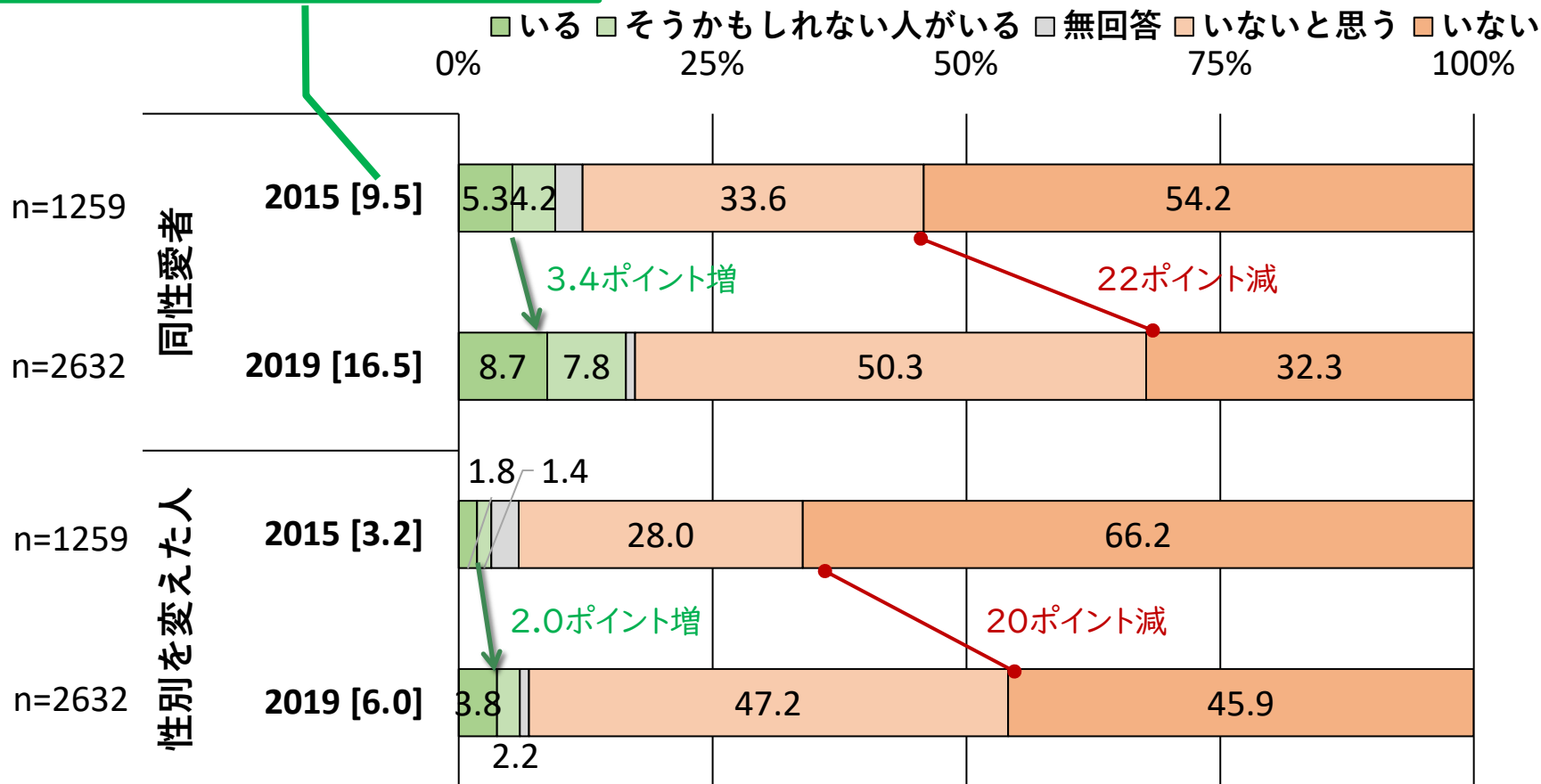
【いる】：「いる」と「そうかもしれない人がある」の合計



- ・同僚ー同性愛者が【いる】は14%、その他の人については5%以下
- ・「いる」：同僚ー同性愛者が最多で7%、友人/家族ー性別を変えた人が最少で2%
- ・同僚の方が友人/家族より多い； 同性愛者の方が性別を変えた人より多い

(2015/2019) 同僚、友人、親せきや家族に (A)同性愛者はいるか; (B)性別を変えた人はいるか

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がある」の合計

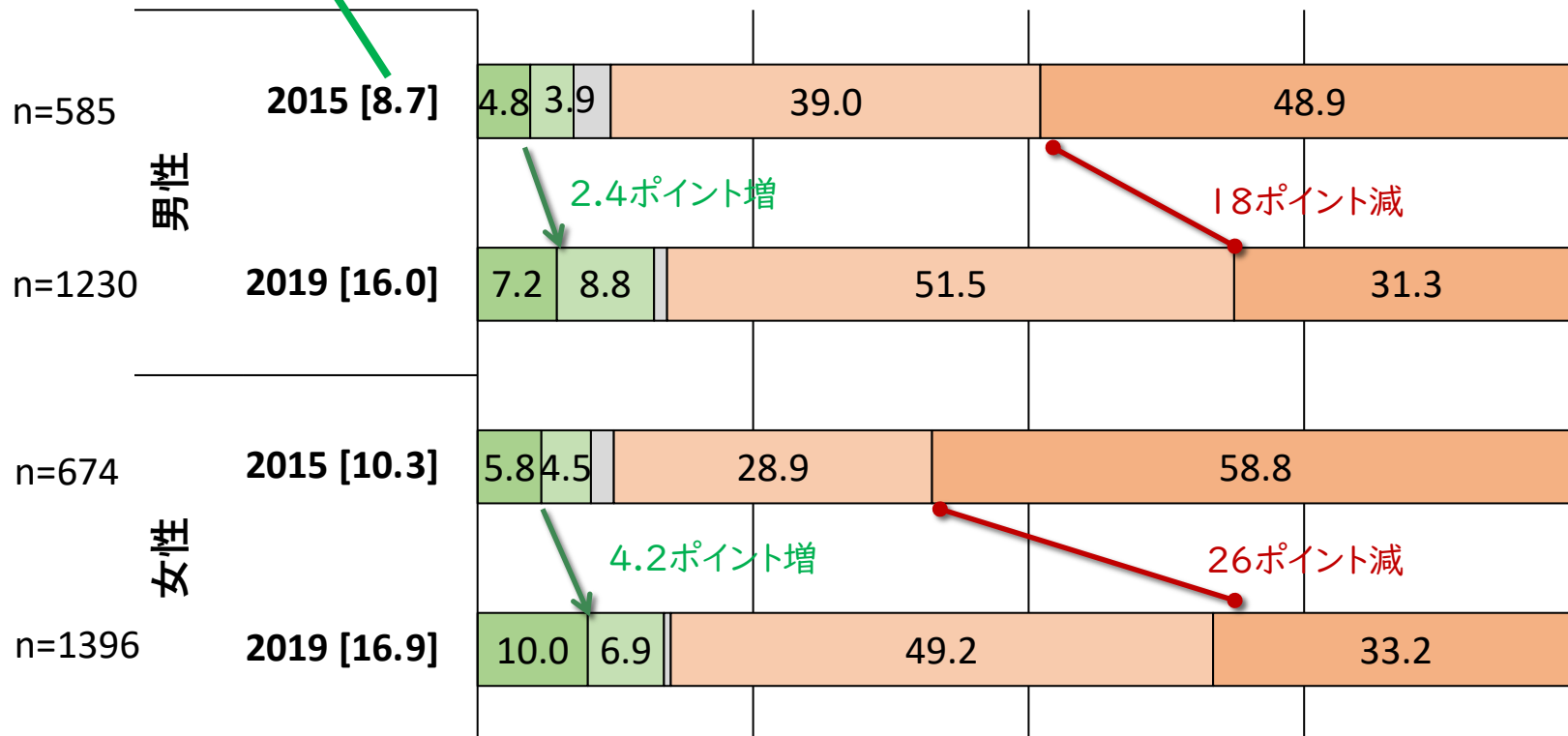


- ・【いる】の割合、同性愛者は10%→17%に、性別を変えた人は3%→6%に
- ・「いる」：同性愛者5%→9%に、性別を変えた人2%→4%
- ・「いない」の割合も、それぞれ半数以上から3人に1人、3分の2から半数未満に

(2015/2019) 同僚、友人、親せきや家族に (A)同性愛者はいるか:性別

【いる】:「いる」と
「そうかもしれない人がある」の合計

■ いる ■ そうかもしれない人がある ■ 無回答 ■ いないと思う ■ いない
0% 25% 50% 75% 100%

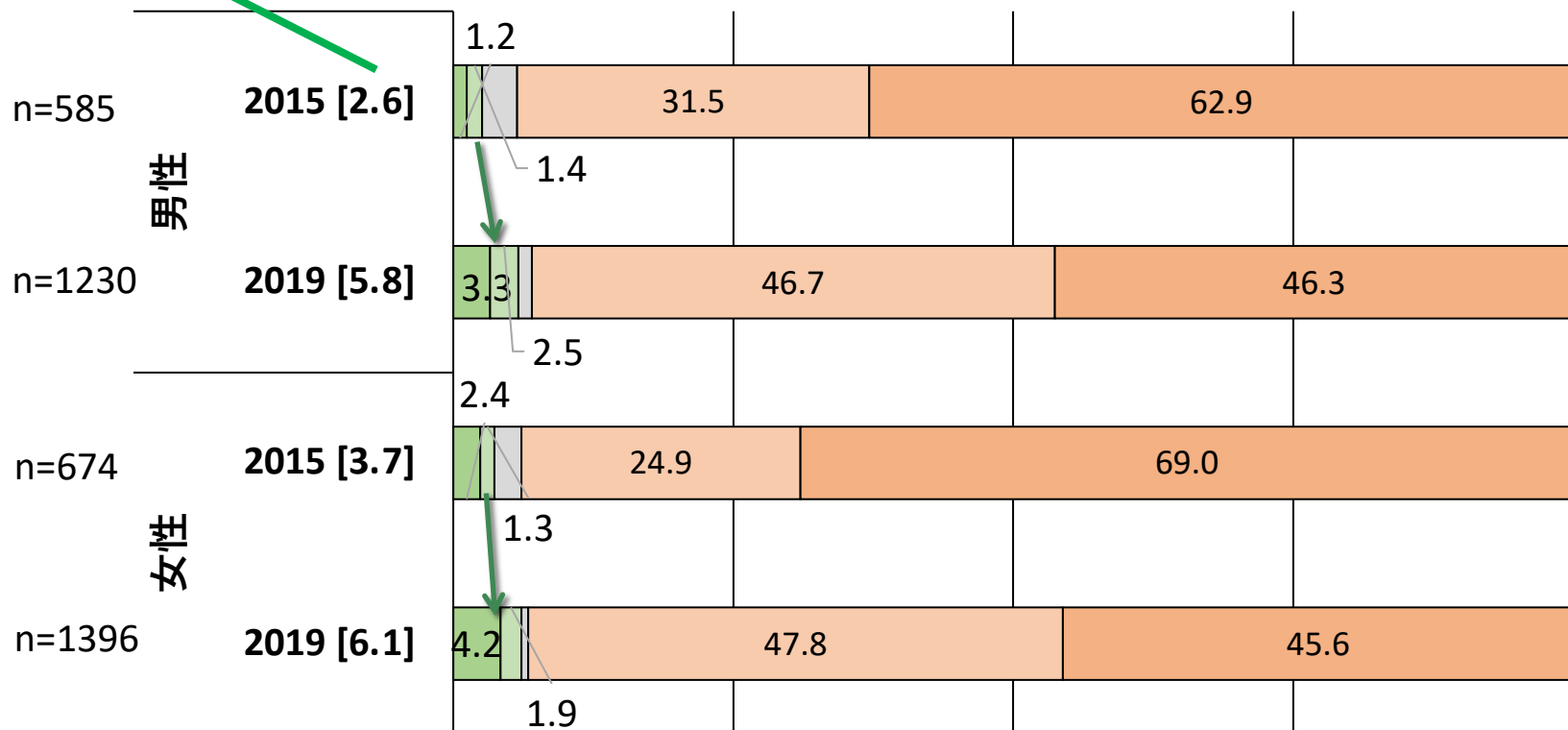


- ・男女とも【いる】が増加、男性は9%→16%、女性は10%→17% (男女ほぼ同じ)
- ・「いる」の割合は、男性 5%→7%、女性は6%→10%に
- ・「いない」という人、女性では26ポイント減少、男性では18ポイント

(2015/2019) 同僚、友人、親せきや家族に (B)性別を変えた人はいるか：性別

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がある」の合計

■ いる ■ そうかもしれない人がある ■ 無回答 ■ いないと思う ■ いない
0% 25% 50% 75% 100%

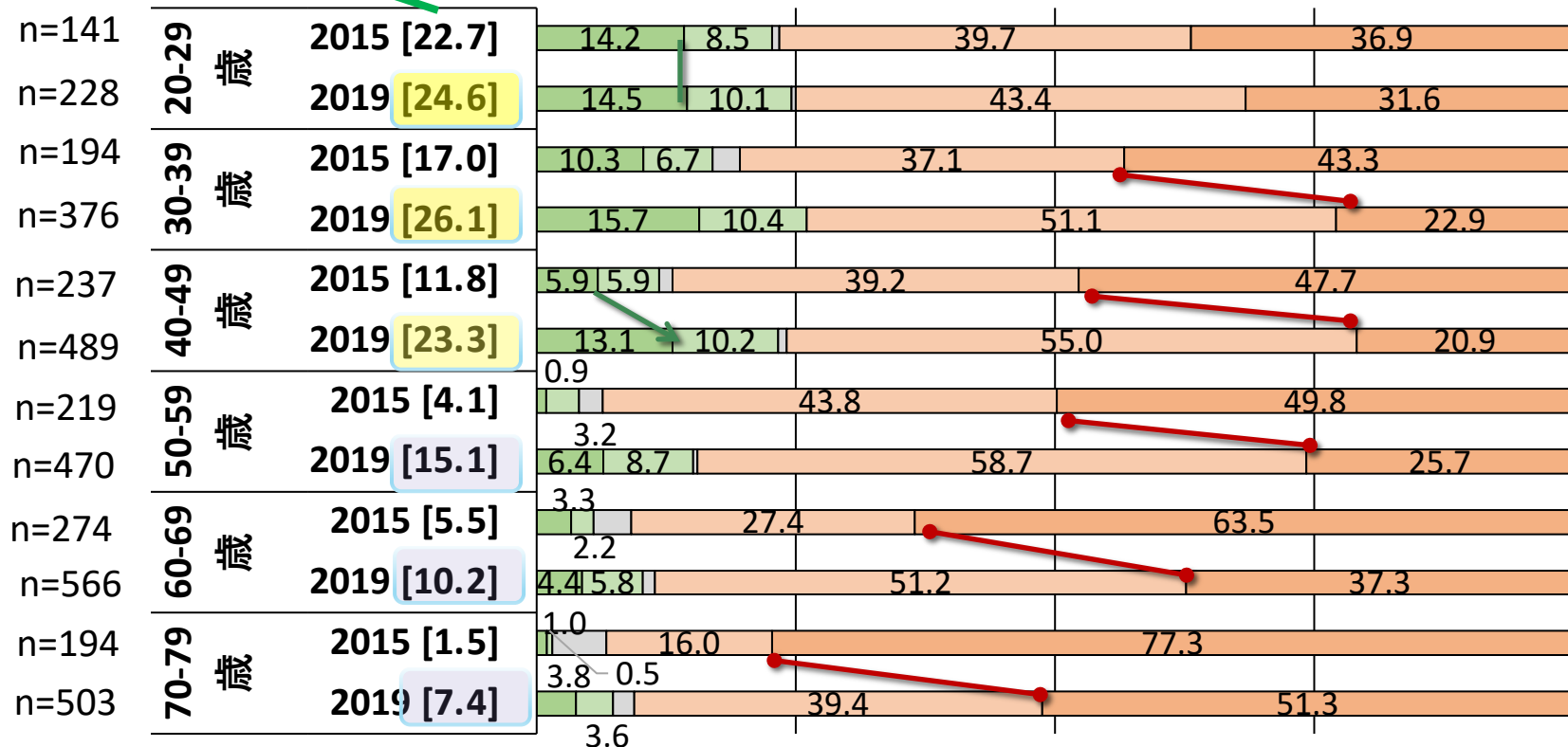


- ・男女とも【いる】が増加、男性は3%→6%、女性は4%→6%（男女ほぼ同じ）
- ・「いる」の割合は、男性 1%→3%、女性は2%→4%に
- ・「いない」という人、女性では23ポイント減少、男性では17ポイント

(2015/2019) 同僚、友人、親せきや家族に (A)同性愛者はいるか：年代別

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がある」の合計

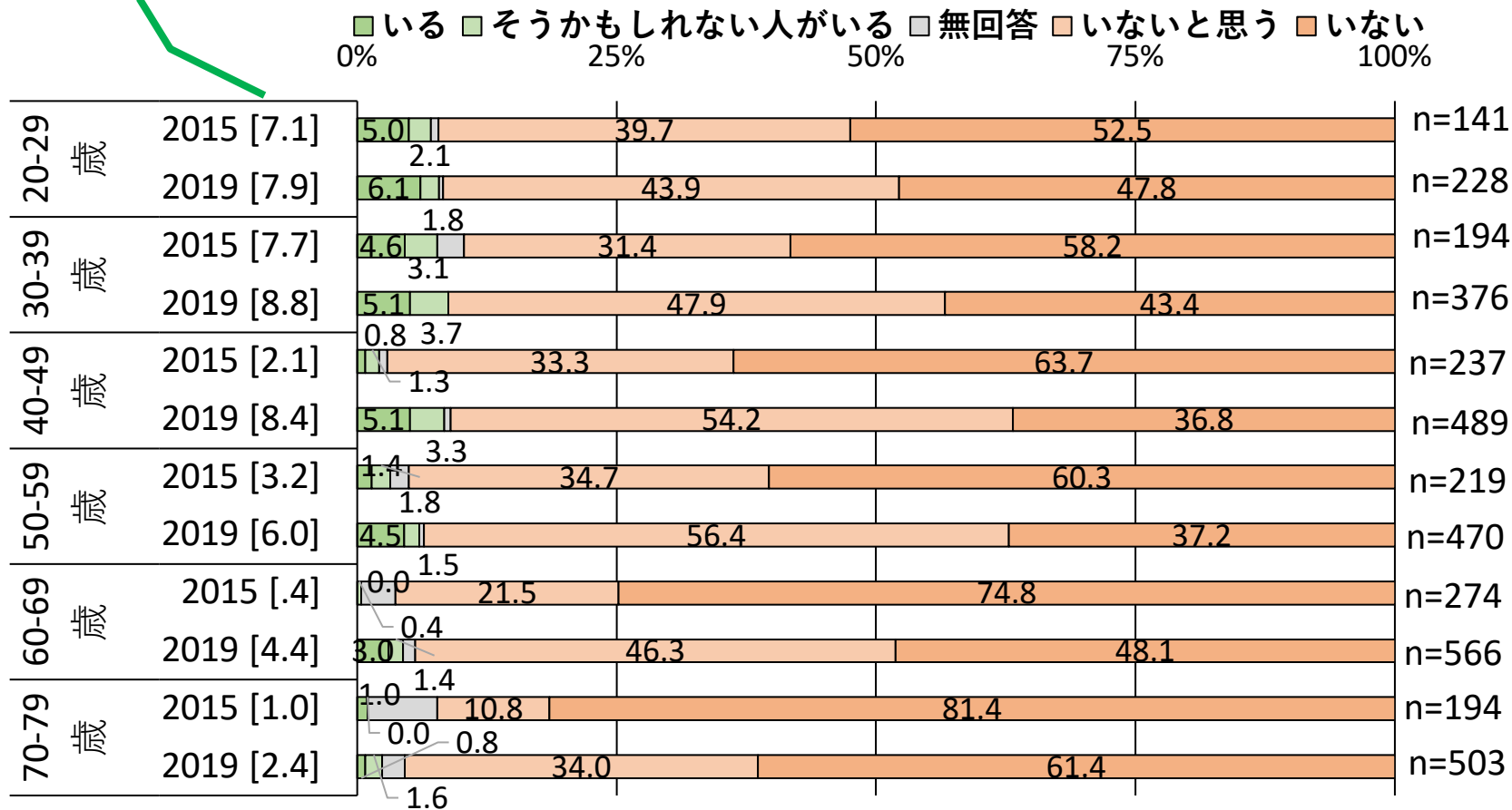
■ いる ■ そうかもしれない人がある ■ 無回答 ■ いないと思う ■ いない
0% 25% 50% 75% 100%



- ・どの年代でも【いる】が増加（20代は増加幅小）、40代2倍、50代3.7倍、60代2倍、70代5倍
- ・【いる】2019年では20-40代の約4分の1、50代15%、60代10%。70代13人に1人
- ・「いる」も全年代で増加。40代では6%→13%(2倍)、50代では1%→6%(6倍)

(2015/2019) 同僚、友人、親せきや家族に (B)性別を変えた人はいるか：年代別

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がいる」の合計

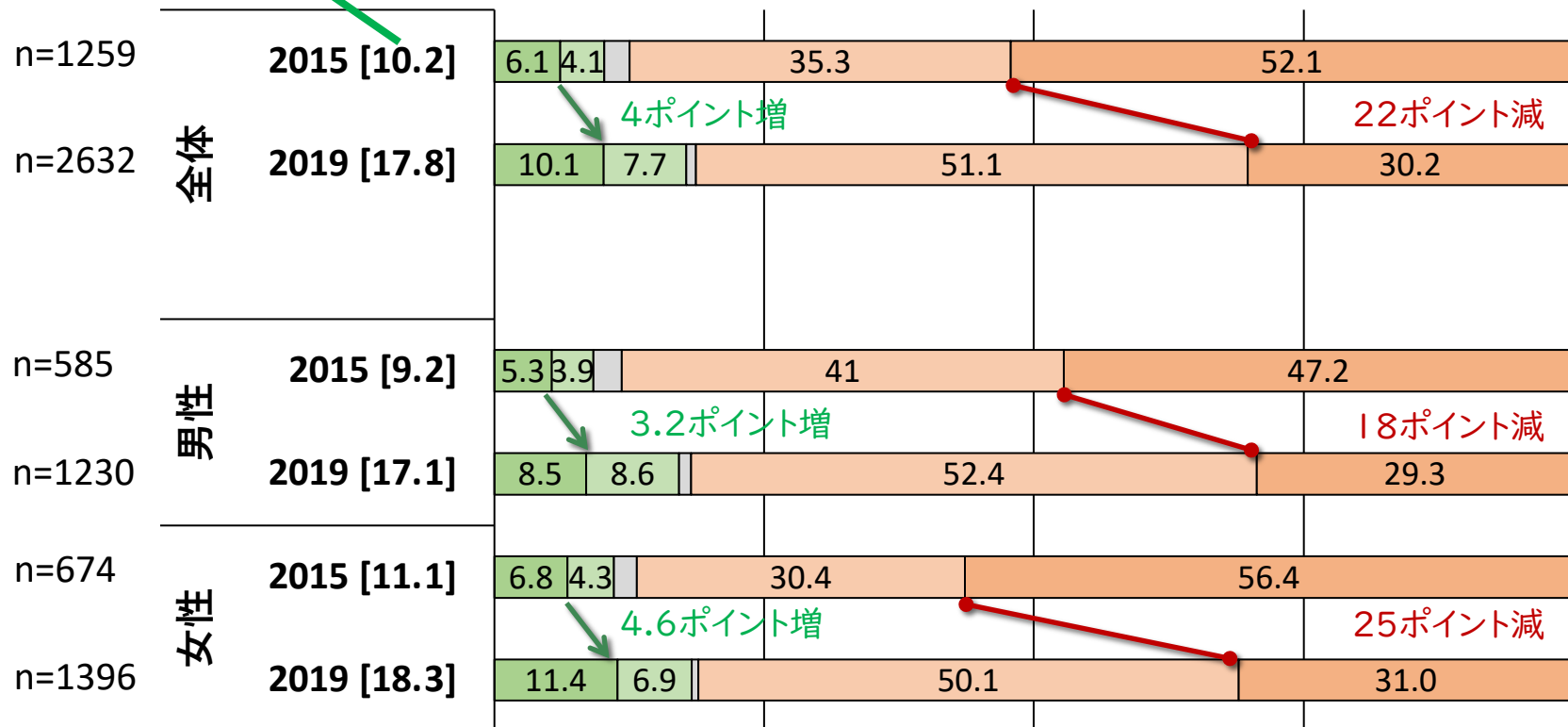


- ・20代から60代では、【いる】が増加（2,30代は増加幅小）。2019年では2～9%。
- ・「いる」も、全年代で増加。2019年では20代～50代で、5-6%に。
- ・「いない」は2015年で全年代で過半数を超えていたが、2019年では70代以外、半数未満

(2015/2019) (C) 周りに性的マイノリティがいるか：全体・性別

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がある」の合計

■ いる 0% ■ そうかもしれない人がある 25% ■ 無回答 50% ■ いないと思う 75% ■ いない 100%

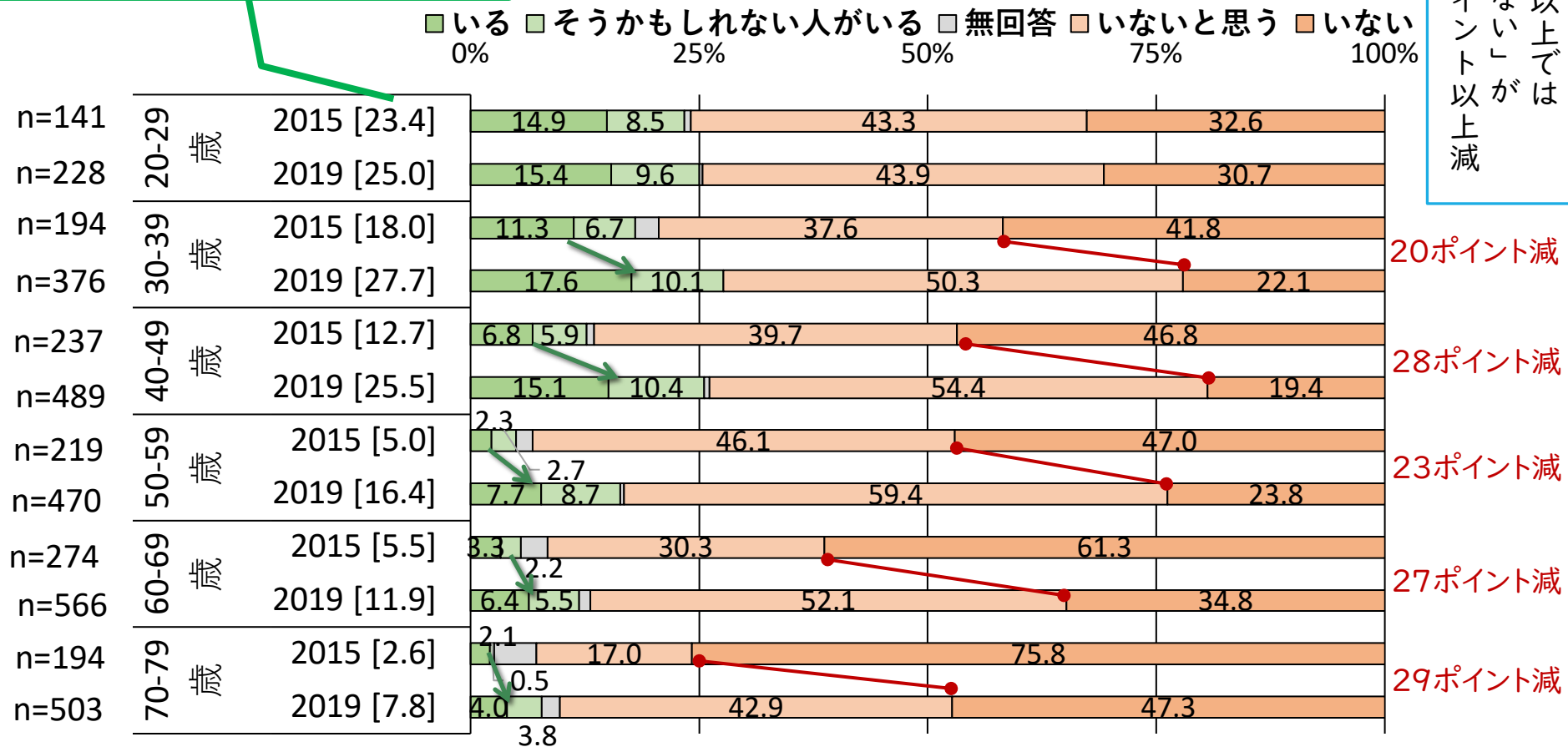


- ・【いる】の割合は10%→18%に増加、男性は9%→17%（2倍）、女性は11%→18%。
- ・「いる」：男性は5→9%、女性は7→11%に増加
- ・「いない」：全体で5割から3割に減少。2019年では男女とも30%前後に。

(2015/2019) (C) 周りに性的マイノリティがいるか：年代別

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がいる」の合計

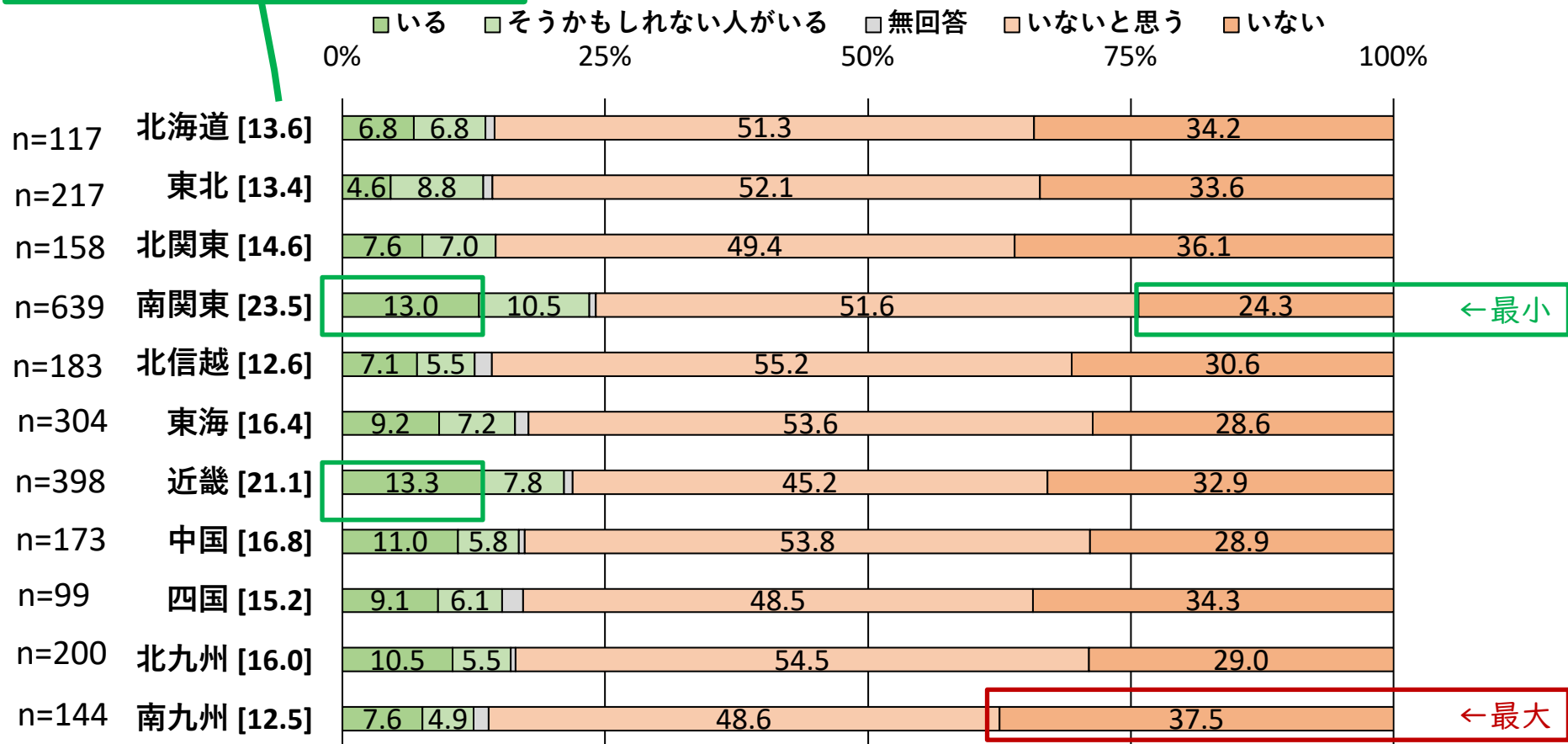
20代
ポイント以上減
30代以上では



- ・【いる】の割合は全年代で増加（20代の増加幅は少）、40代は13→26%（2倍）、50代は5%→16%（3倍）、60代は6%→12%（2倍）、70代は3%→8%（2.5倍）
- ・2019年の「いる」は、若年から順に15%, 18%, 15%, 8%, 6%, 4%（40代以下と50代以上のギャップ）

(2019) (C) 周りに性的マイノリティがいるか：地域ブロック別

【いる】：「いる」と
「そうかもしれない人がある」の合計



- ・【いる】の割合は、どの地域でも10%以上（南関東、近畿は20%台）
- ・「いる」、という人は、南関東と近畿で13%
- ・「いない」という割合は、2019年で南関東で24%で最小、南九州で38%で最大

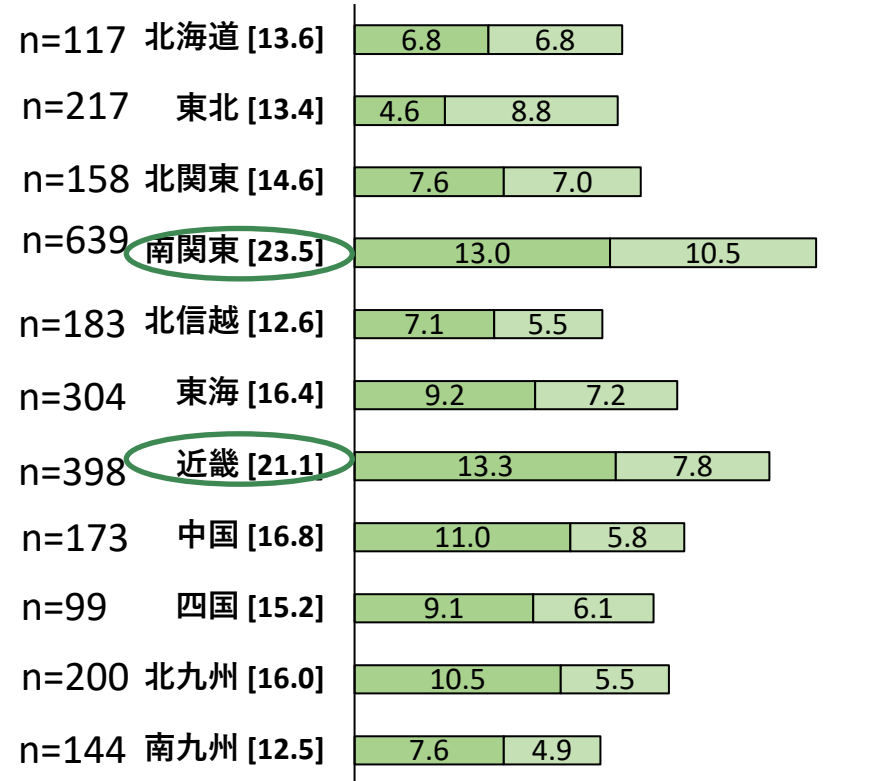
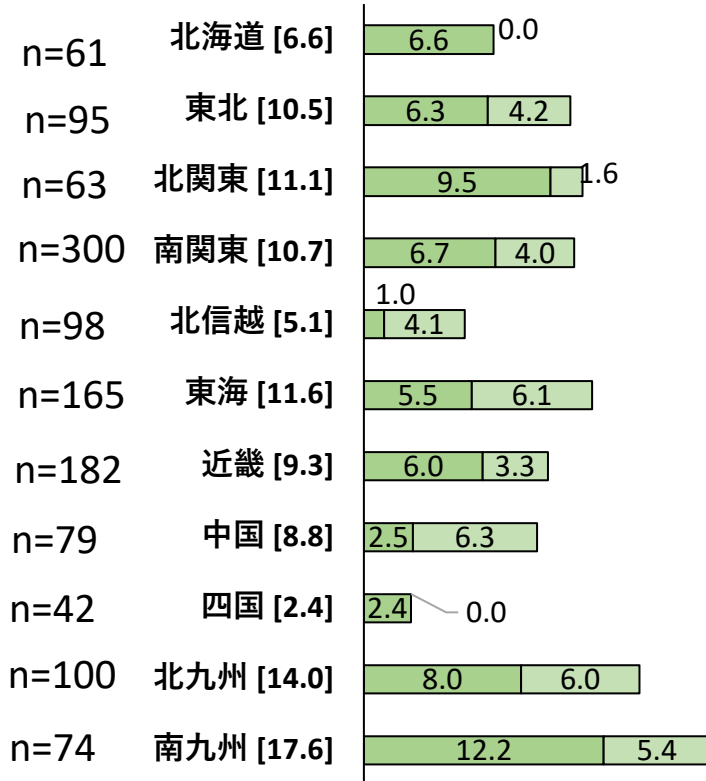
(2015/2019) (C) 周りに性的マイノリティが【いる】： 地域ブロック別

■ (2015) いる ■ そうかもしれない人がいる

0.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0

■ (2019) いる ■ そうかもしれない人がいる

0.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0

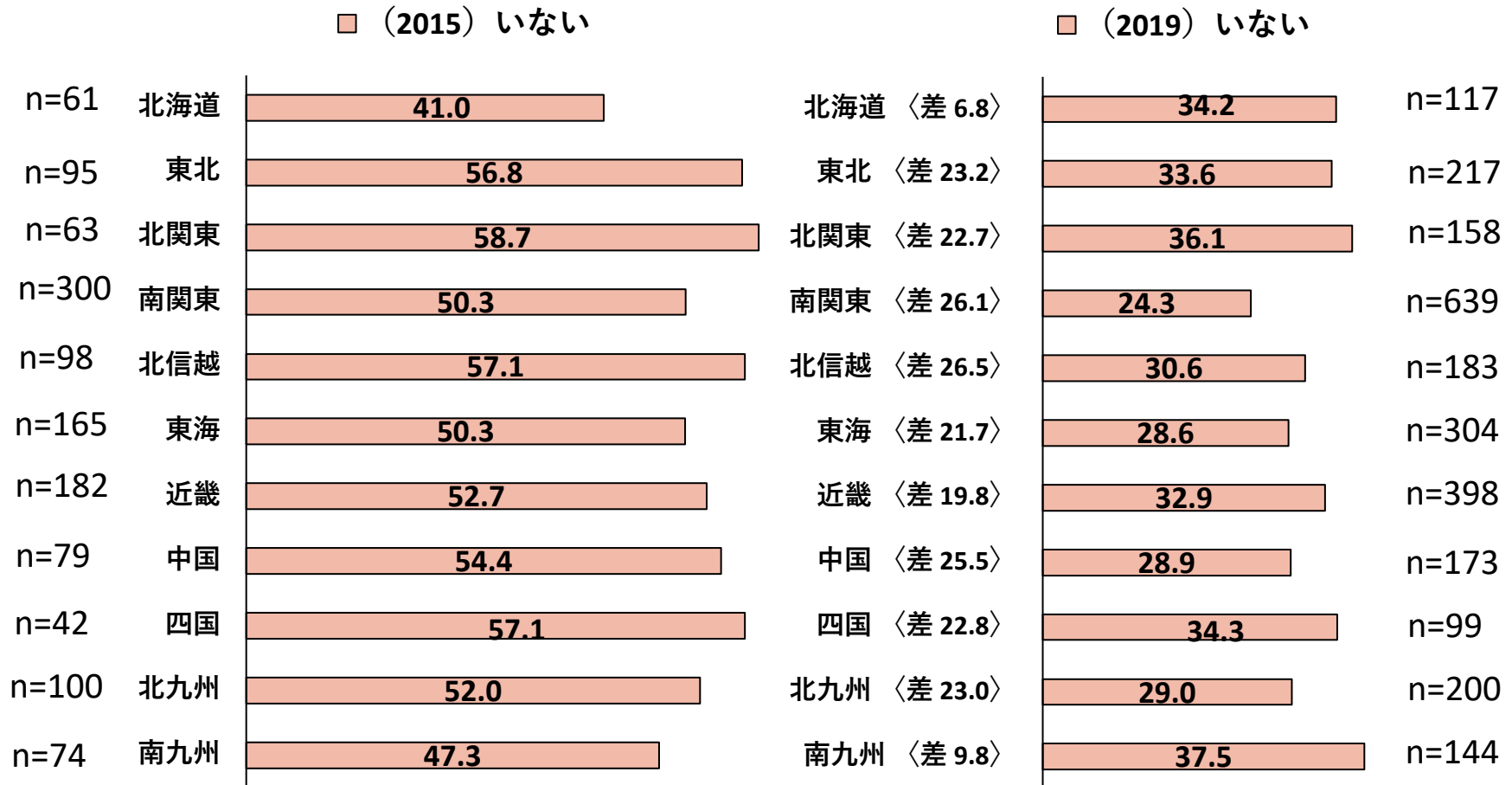


・【いる】の割合は、地域によって異なる。

・2019年では南関東、近畿で【いる】割合が高く、2割台。北海道、東北、北信越、南九州で低め

・2019年で10人に1人以上が「いる」と答えたのは南関東、近畿、中国、北九州。

(2015/2019) (C) 周りに性的マイノリティが「いない」： 地域ブロック別



- ・「いない」の割合は、どの地域でも減少、北海道、南九州以外で、減少幅は20ポイント以上
- ・2019年では、南関東で4人に1人と最も少ない。
- 多いのは、南九州、北関東、四国、北海道、東北、近畿

性的マイノリティの存在の認識：結果のまとめ（１）

・同性愛者の方が性別を変えた人より、いると認識される傾向

- 同僚に「いる」という割合は同性愛者6.6％、性別を変えた人2.7％（2019）（スライド#8）
- 「そうかもしれない人がいる」も含めると、それぞれ14.2％、4.8％（2019）（スライド#8）

・同僚の中の方が、友人・家族の中よりも、いると認識される傾向

- 性別を変えた人が同僚に「いる」という割合は2.7％、友人・家族では1.7％（2019）（スライド#8）

・女性の方が男性より、いると認識する傾向

- 性的マイノリティが「いる」という割合は女性11.4％、男性8.5％
- 「そうかもしれない人がいる」も含めると、ほぼ同割合（17％、18％）（2019）（スライド#14）

・若年者の方が高齢者より、いると認識する傾向

- 性的マイノリティが「いる」という割合は20代30代40代で15-18％、50代7.7％、60代6.4％、70代4.0％（2019）（スライド#15）
- 40代以下と50代以上で大きな違い

性的マイノリティの存在の認識：結果のまとめ(2)

- 2015年と2019年の間の変化
 - 度合い・傾向は同性愛者と性別を変えた人で大きな違いはみられない
- 「いる」「そうかもしれない人がいる」これらの回答をあわせた【いる】の割合が増加(全体、男女、各年代共通)
 - 同性愛者、性別を変えた人ともに、可視化が進んだ可能性
- 「いない」という割合が減少
 - 直接接触过していないとしても(あるいは接触しているという認識がなくても必ずしも「いない」のではない、という認識が浸透しつつある可能性
 - 20代以外では20-30ポイント減少
- 性的マイノリティが「いる」との認識
 - 15年6%→19年10%に(4ポイント増加)
 - 「そうかもしれない人がいる」を含めると10%→18%(8ポイント増加)(スライド#14)
 - 男性5%から9%, 女性7%から11%に(増加幅は4ポイントでほぼ同じ)
 - 「そうかもしれない人がいる」を含めると男性9→17%(約2倍), 女性11→18%(7~8ポイント増)(スライド#14)
 - 年代で増加幅が最大なのは40代の7%から15%(8ポイント), 30代の11%から18%(6ポイント)
 - 20代は変化ほぼなし(スライド#15)
 - 「そうかもしれない人がいる」も含めると、50代以上での変化も顕著(50代は5%→16%(3倍)、60代は6%→12%(2倍)、70代は3%→8%(2.5倍))

身近な 性的マイノリティに対する嫌悪感

2015年調査/2019年調査の質問内容

以下の人が同性愛者だったらどう思うか

以下の人が性別を変えた人だったらどう思うか

- ・近所の人
- ・職場の同僚
- ・きょうだい
- ・自分の子ども

本調査での設問について：

- ・さまざまな観点から総合的に検討した結果、否定的な感情に対する反応を中心に、あいまいな表現を避けてストレートにたずねることにしました。
- ・詳しくは、資料最後に添付した2015年の報告書の抜粋をお読みください。

選択肢：

嫌ではない、どちらかといえば嫌ではない、
どちらかといえば嫌だ、嫌だ

資料に掲載している図のリスト

・下線は口頭で報告予定

・左上に  があるスライドは配布のみの予定

✓全体

✓ 同性愛者（近所の人、同僚、きょうだい、子ども）

✓ 性別を変えた人（近所の人、同僚、きょうだい、子ども）

✓性別

✓ 同性愛者（近所の人、同僚）；性別を変えた人（近所の人、同僚）

✓ 同性愛者（きょうだい、子ども）；性別を変えた人（きょうだい、子ども）

✓年代別

✓ 同性愛者（近所の人）（同僚）（きょうだい）（子ども）

✓ 性別を変えた人（近所の人）（同僚）（きょうだい）（子ども）

✓職業別（男性、女性）

✓ 同性愛者（同僚）；性別を変えた人（同僚）

✓職業別・年代（性別を変えた人（同僚））

✓ 40-50代男性・60-70代男性

✓ 40-50代女性・60-70代女性

2015年調査および2019年調査の設問

問 25 次の(1)と(2)について、あなたのお気持ちにもっとも近いものを1、2、3、4 から1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ) |

(1) 以下の人が同性愛者だったら、
あなたはどのように思いますか。

| | 1 嫌 では ない | 2 嫌 では ない ど ち ら か と | 3 い え ば 嫌 だ と ど ち ら か と | 4 嫌 だ |
|---------------|--------------------|---|--|-------------|
| 同性愛者 だったら、 | | | | |
| 近所の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 職場の同僚 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| きょうだい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分の子ども | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2) 以下の人が性別を変えた人だったら、
あなたはどのように思いますか。

| | 1 嫌 では ない | 2 嫌 では ない ど ち ら か と | 3 い え ば 嫌 だ と ど ち ら か と | 4 嫌 だ |
|------------------|--------------------|---|--|-------------|
| 性別を変えた 人だったら、 | | | | |
| 近所の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 職場の同僚 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| きょうだい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分の子ども | 1 | 2 | 3 | 4 |

2015年
調査

問 23 次の(1)と(2)について、あなたのお気持ちにもっとも近いものを1、2、3、4 から1つ選んで○をつけてください。

(1) 以下の人が同性愛者だったら、
あなたはどのように思いますか。
(それぞれ○は1つ)

2019年
調査

| | 嫌 では ない | 嫌 では ない ど ち ら か と | い え ば 嫌 だ と ど ち ら か と | 嫌 だ |
|------------|---------------|--|---|--------|
| 同性愛者だったら、 | | | | |
| (ア) 近所の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (イ) 職場の同僚 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (ウ) きょうだい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (エ) 自分の子ども | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2) 以下の人が性別を変えた人だったら、
あなたはどのように思いますか。
(それぞれ○は1つ)

| | 嫌 では ない | 嫌 では ない ど ち ら か と | い え ば 嫌 だ と ど ち ら か と | 嫌 だ |
|------------------|---------------|--|---|--------|
| 性別を変えた人 だったら、 | | | | |
| (ア) 近所の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (イ) 職場の同僚 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (ウ) きょうだい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (エ) 自分の子ども | 1 | 2 | 3 | 4 |

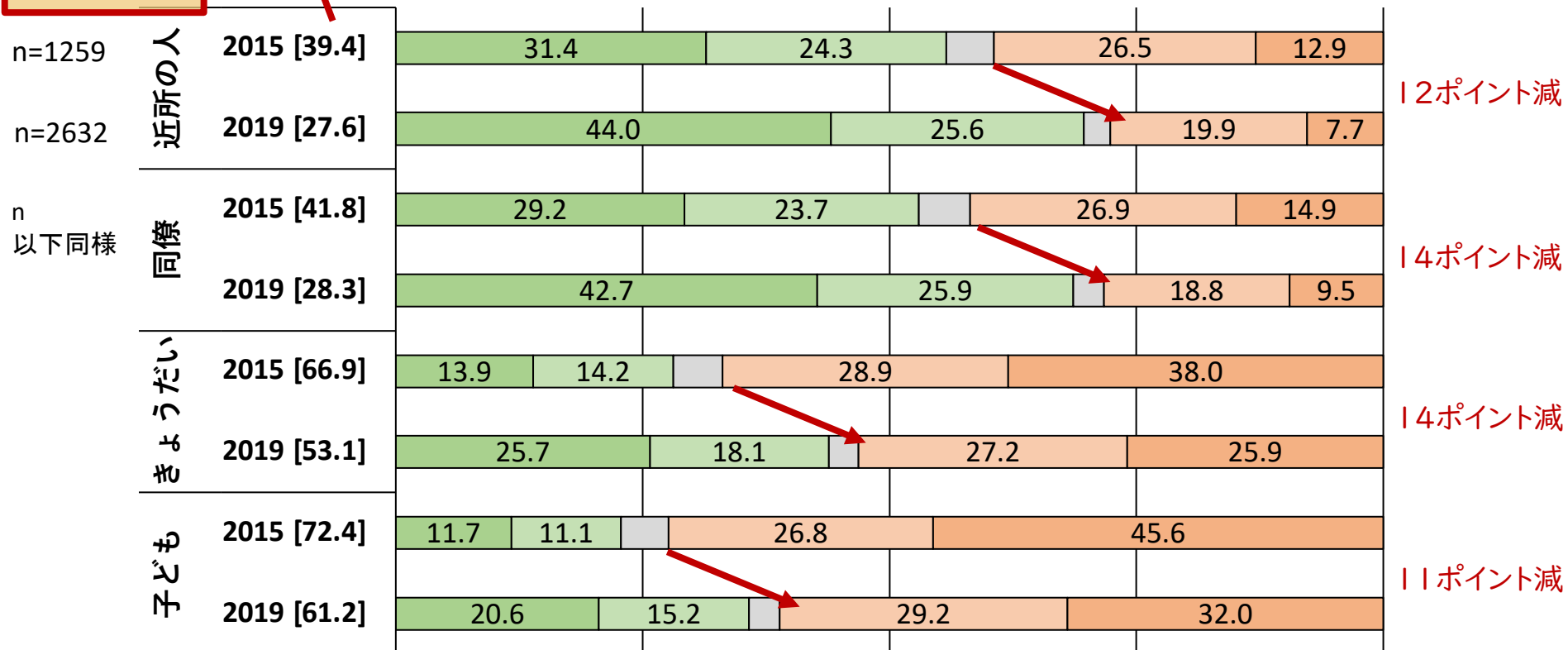
身近な人が同性愛者だった場合

【いやだ】と表記

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



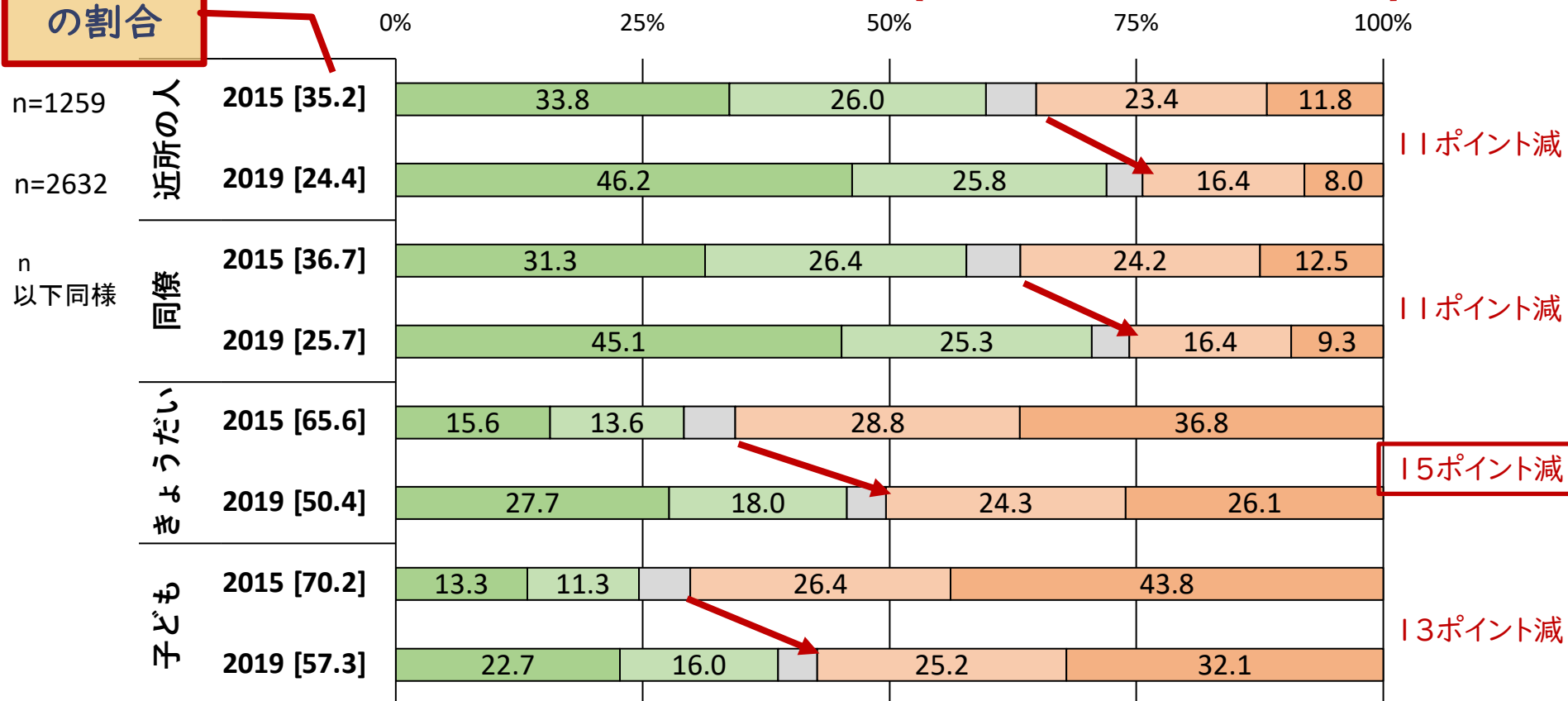
- ・2015年に比べ、2019年では、すべての人について【いやだ】が11～14ポイント減少
- ・子どもについて【いやだ】と回答した割合は、2015年で7割台、2019年で6割台

身近な人が性別を変えた人だった場合

【いやだ】と表記

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ



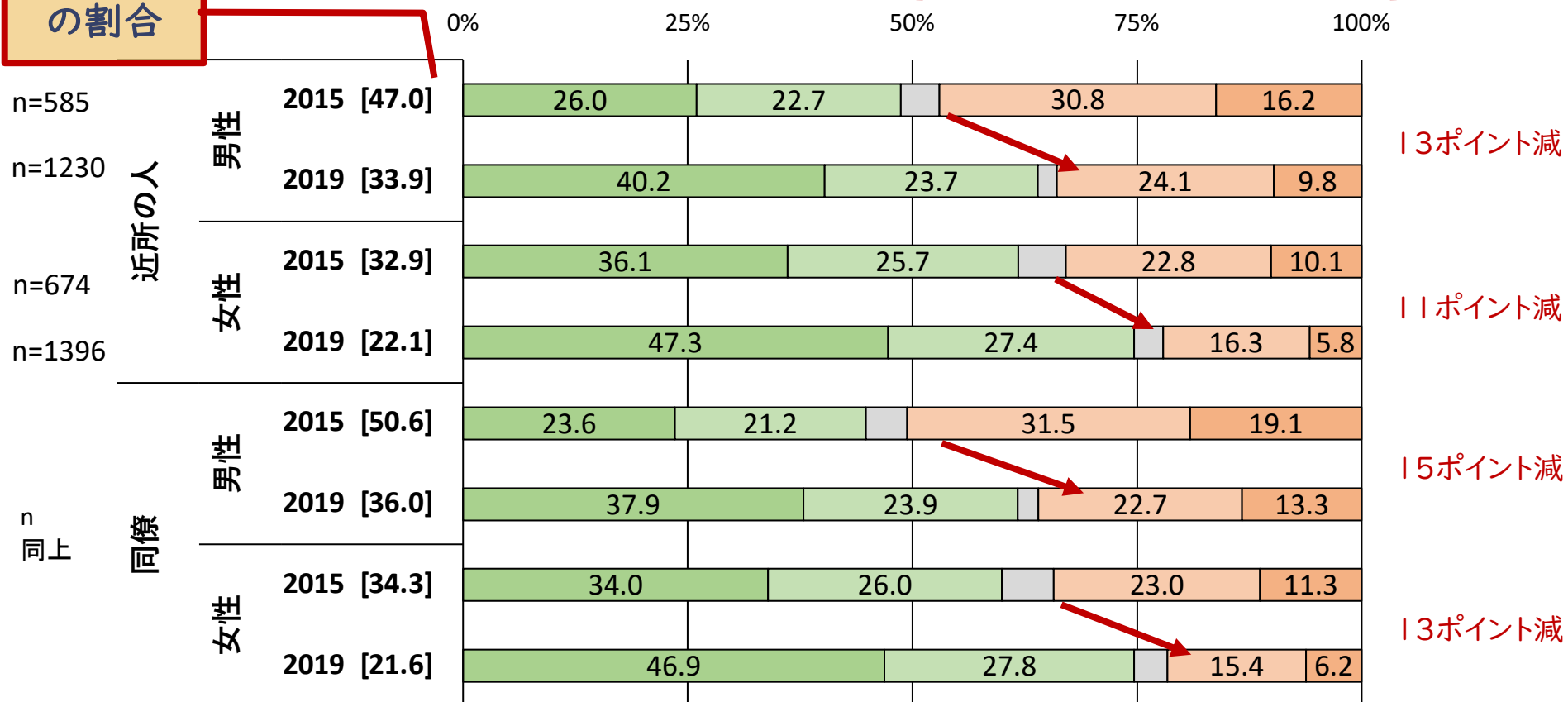
- ・2015年に比べ、2019年ではすべての人について【いやだ】の割合が11～15ポイント減少
- ・子どもについては、2015年の7割から減少、ただし2019年でも半数以上(57%)

近所の人、同僚が同性愛者だった場合：性別

【いやだ】と表記

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない □無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ



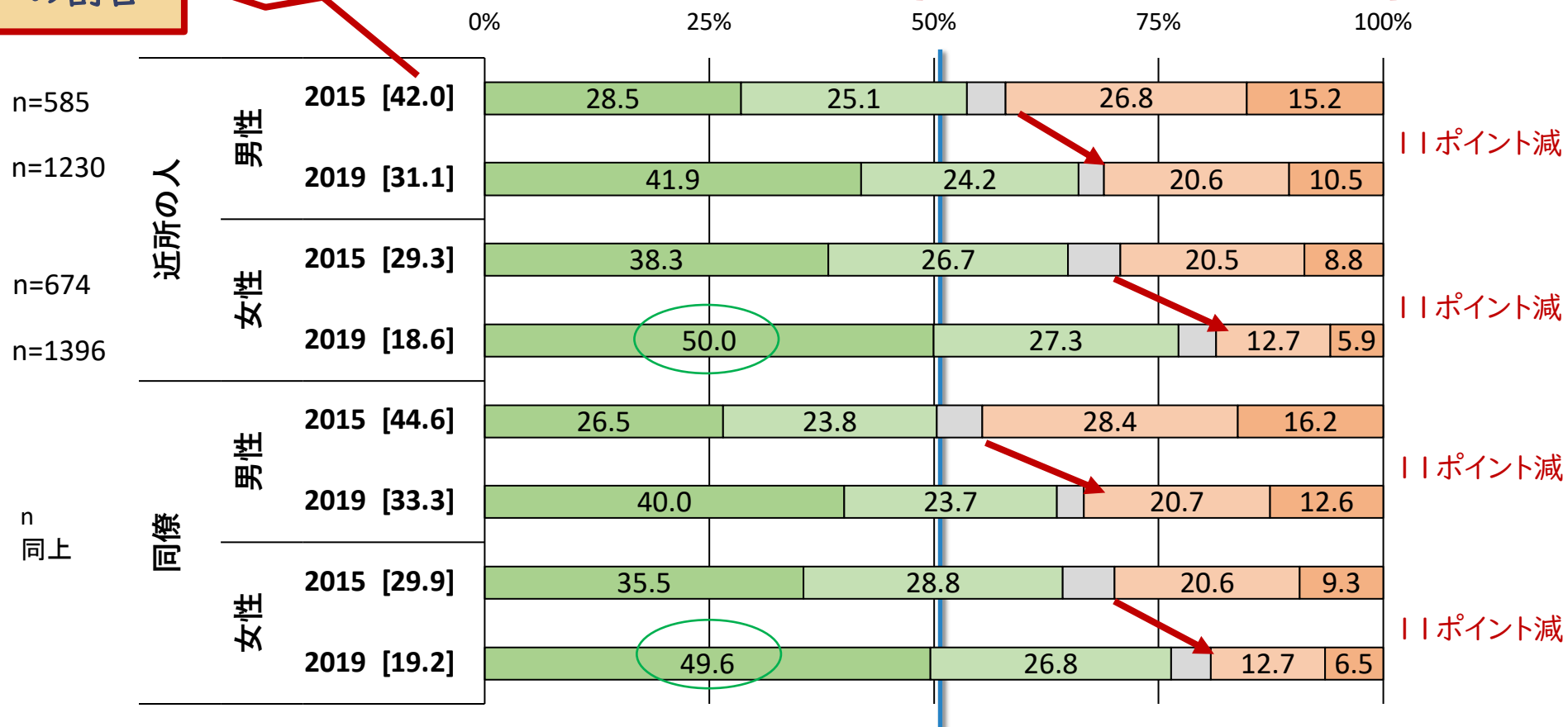
- ・男女とも【いやだ】の割合が減少。11-15ポイント減。
- ・2019年では女性2割、男性3割台に。男性の減少幅が2ポイントほど大きい。

近所の人、同僚が性別を変えた人だった場合：性別

【いやだ】と表記

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ



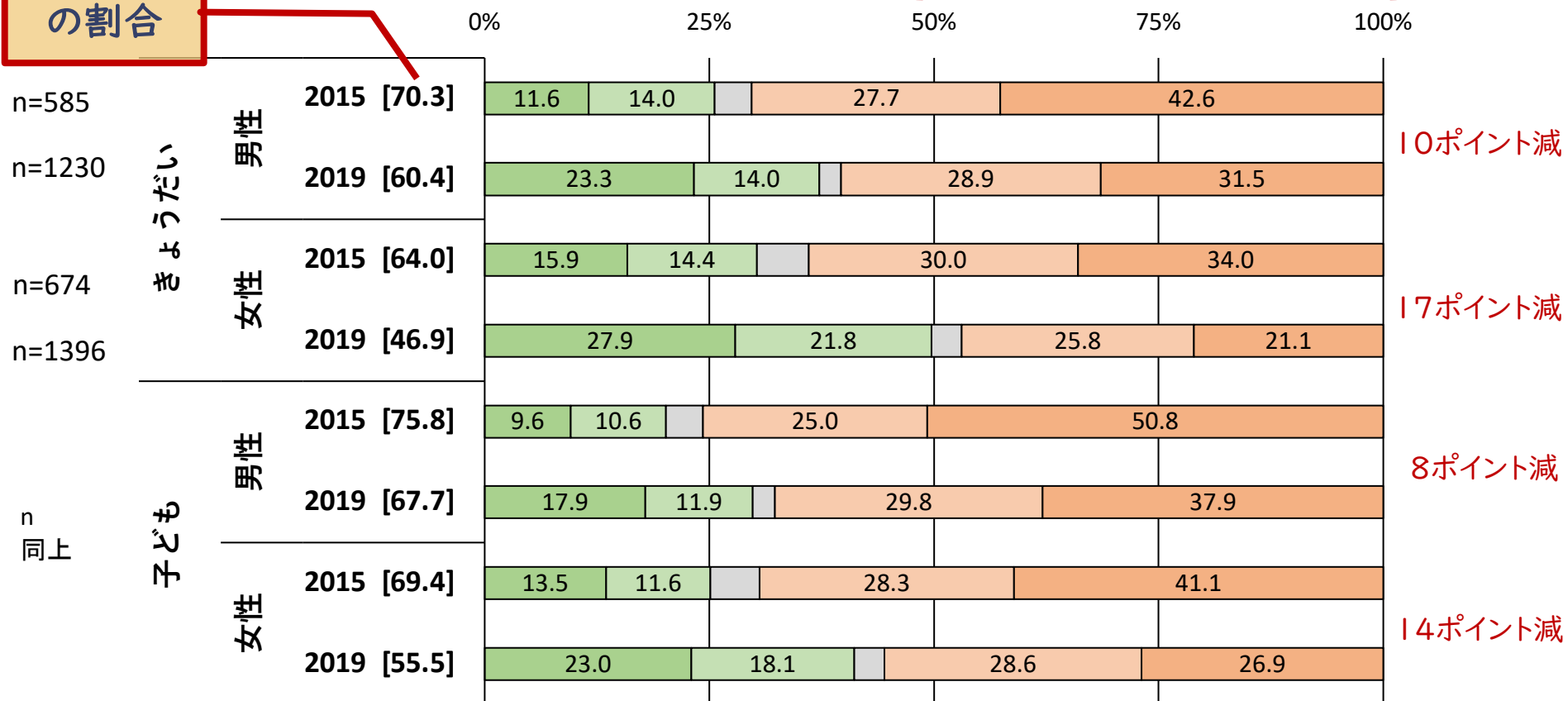
- ・男女とも【いやだ】の割合が減少（11ポイント前後）、男女の減少幅はほぼ同じ
- ・2019年では、男性は3割台に、女性は2割を下回る、女性の約半数が「嫌ではない」と回答

きょうだい、子どもが同性愛者だった場合：性別

【いやだ】
の割合

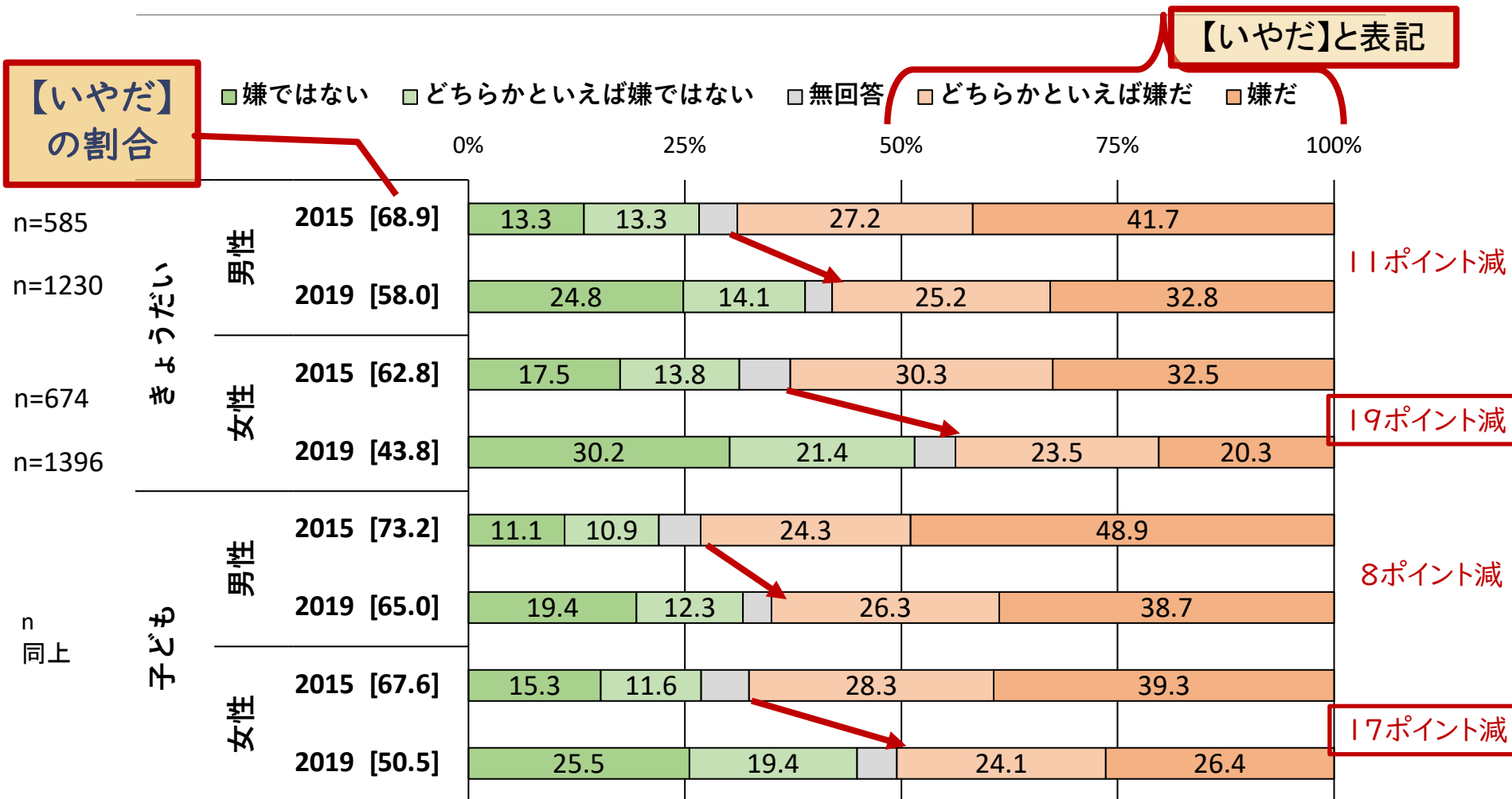
【いやだ】と表記

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ



- ・【いやだ】、女性の減少幅の方が大きい；男女差は2019年でより顕著に。
きょうだい：男性10ポイント、女性17ポイント減少； 子ども：男性8ポイント、女性14ポイント減少

きょうだい、子どもが性別を変えた人だった場合：性別



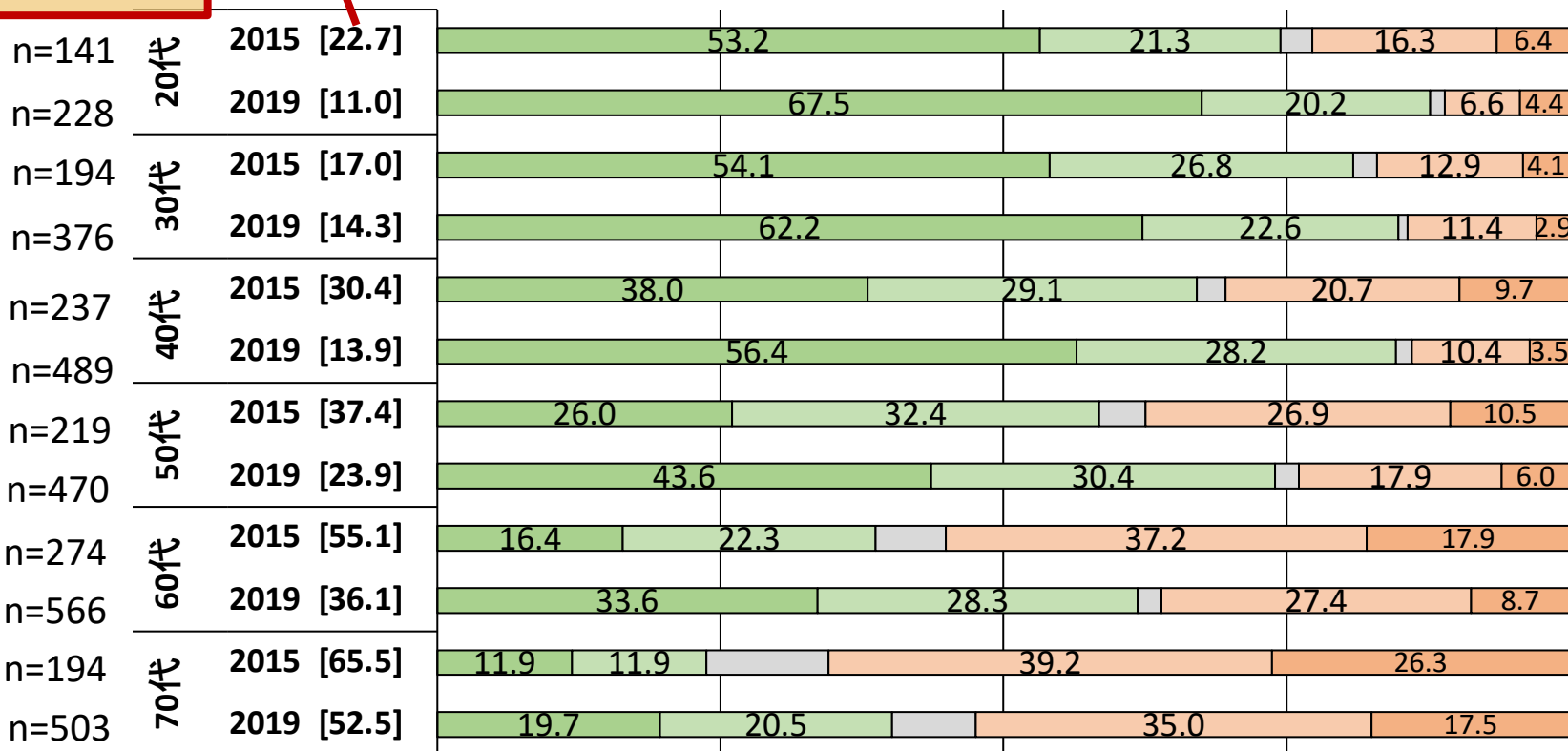
- ・【いやだ】、女性の減少幅の方が大きい；男女差は2019年でより大きくなる
きょうだい：男性11ポイント、女性19ポイント 減少；子ども：男性8ポイント、女性17ポイント減少

近所の人が同性愛者だった場合：年代別

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■ 嫌ではない ■ どちらかといえば嫌ではない □ 無回答 ■ どちらかといえば嫌だ ■ 嫌だ ■



・どの年代でも、【いやだ】の割合は減少。

・2015年と19年の差が最も大きいのは、60代（19ポイント）、40代（17ポイント）。30代の差は小（3ポイント）、2019年では、20代、30代、40代で10%台に。

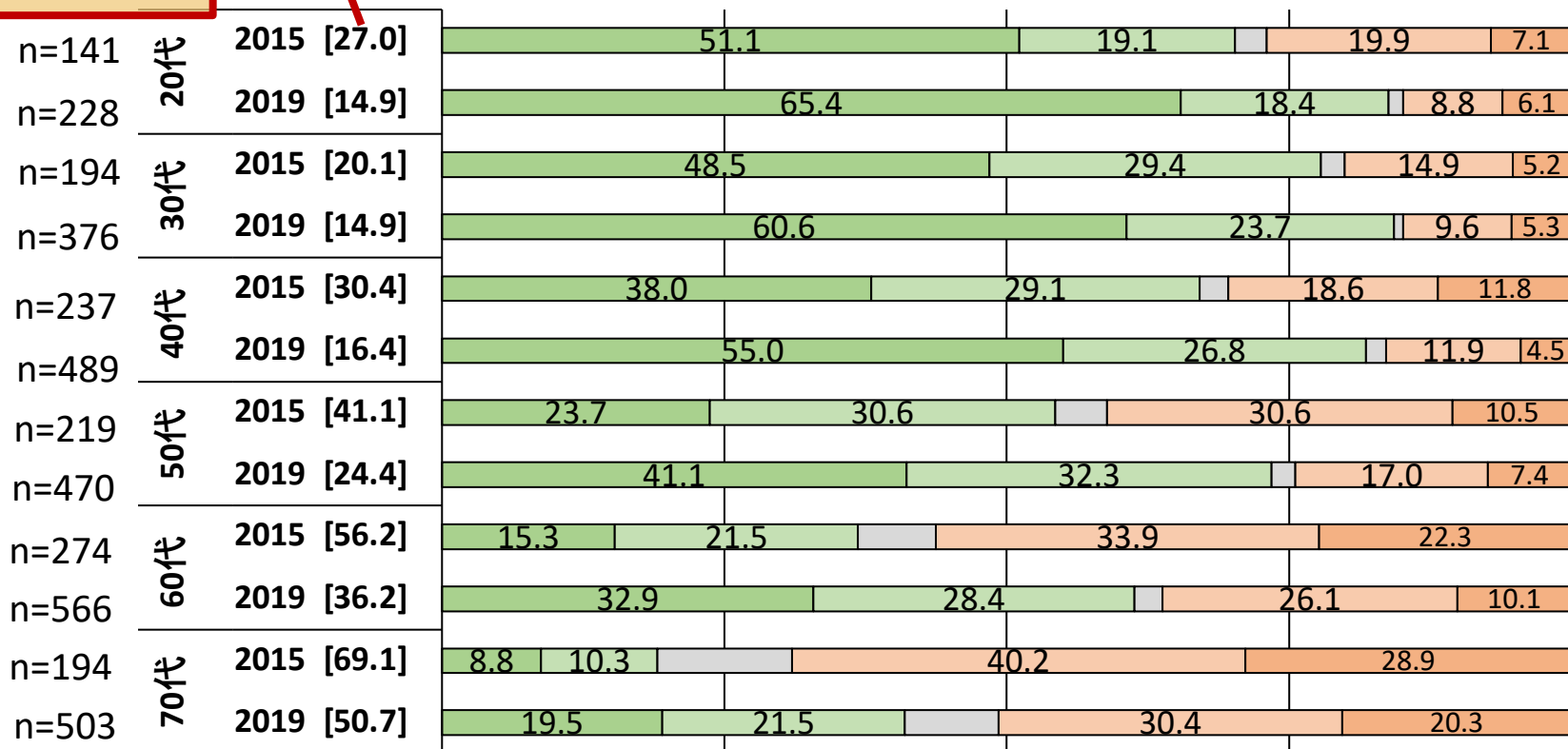
同僚が同性愛者だった場合：年代別

【いやだ】と表記

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



・どの年代でも【いやだ】の割合が減少、減少幅が大きいのは、50代17ポイント、60代20ポイント、70代18ポイント。30代は小(5ポイント)；年齢差、2015年より2019年の方が小さい。

2015年では49ポイント差(30代と70代)、2019年では36ポイント差(20代と70代)

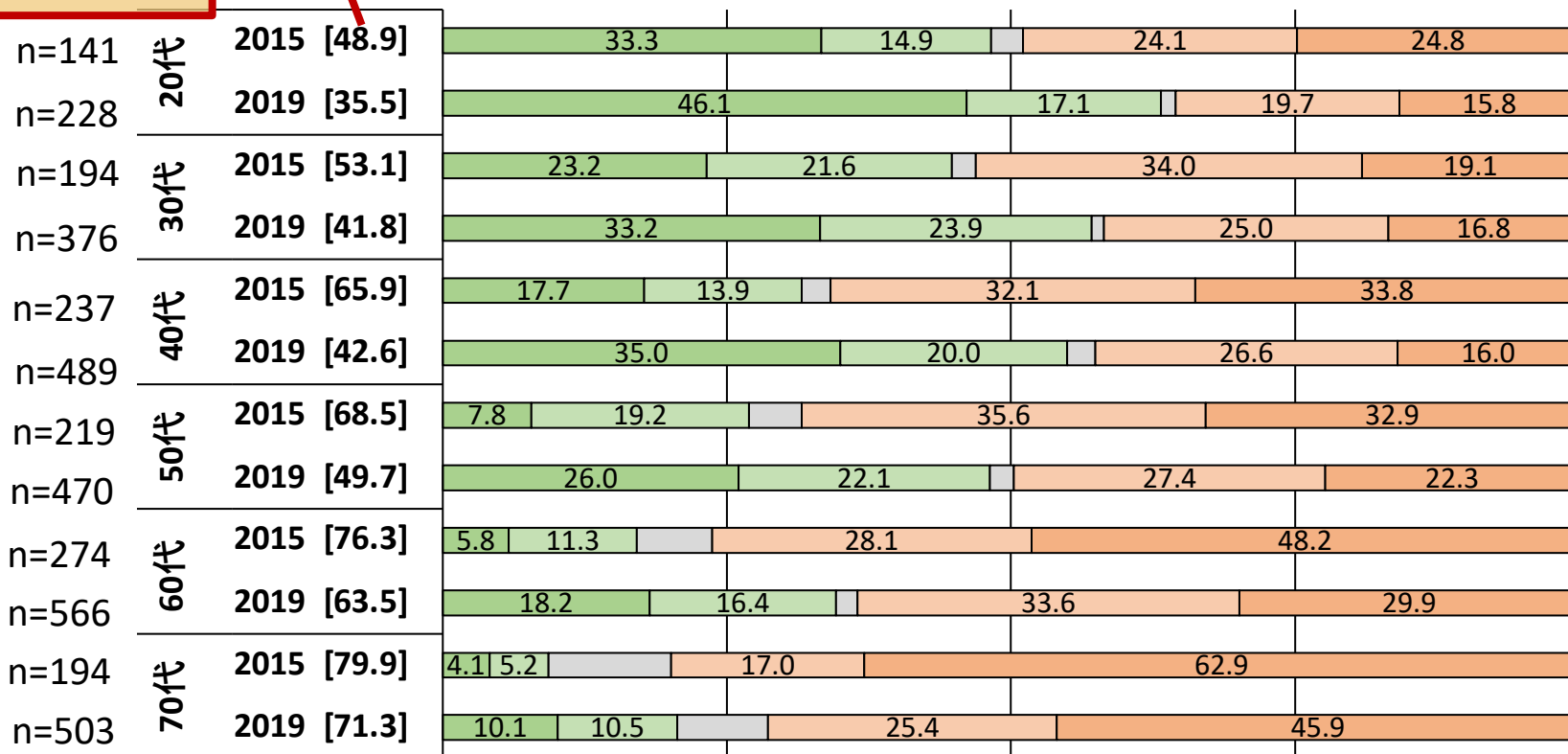
きょうだいが同性愛者だった場合：年代別

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



- ・どの年代でも、【いやだ】の割合が減少；減少幅が大きいのは、40代（23ポイント）、50代（19ポイント）。
- ・全体の年齢による違いは、2015年より2019年でやや拡大（近所、同僚と逆）
- 2015年では31ポイントの差（30代と70代）、2019年では36ポイントの差（20代と70代）

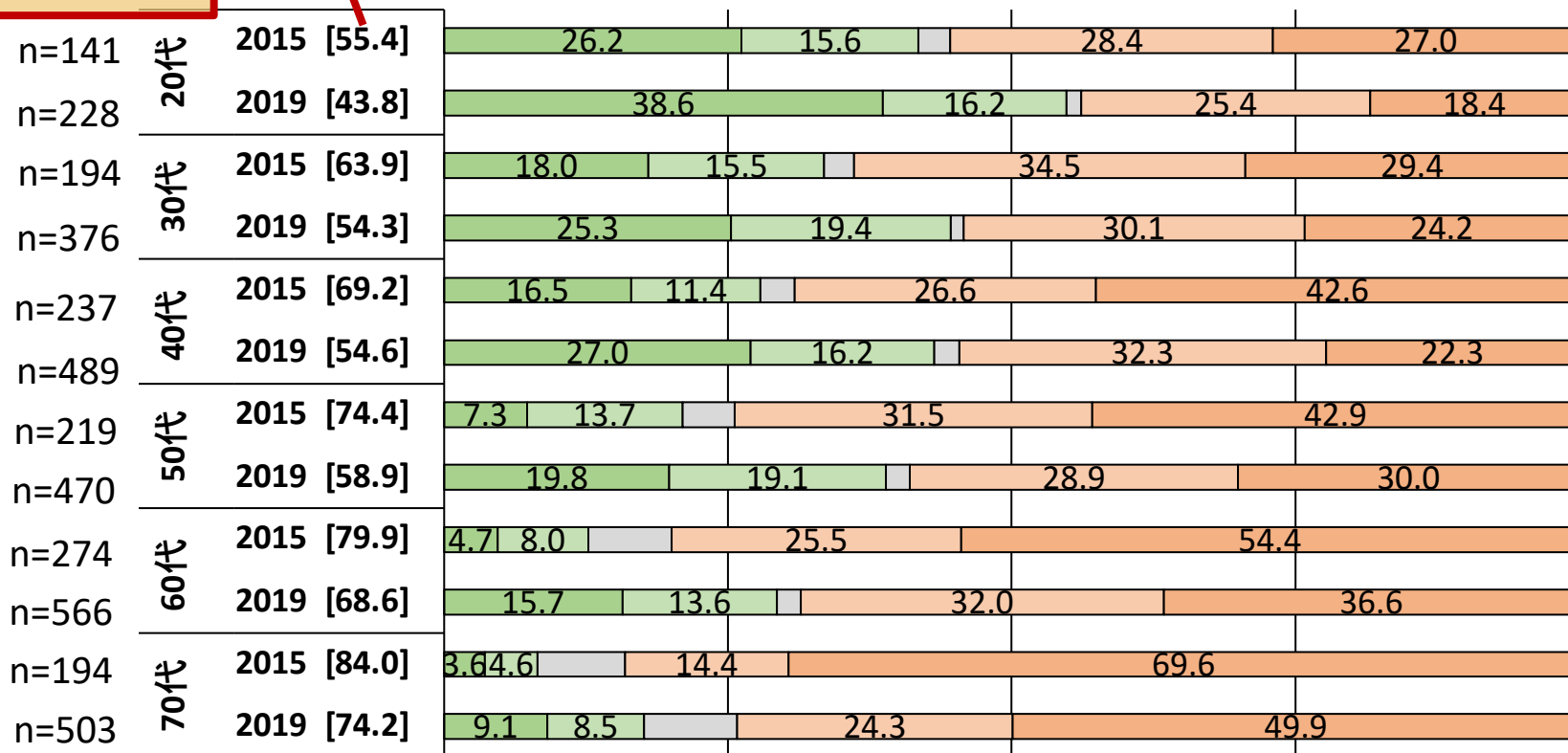
子どもが同性愛者だった場合：年代別

【いやだ】と表記

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



- ・どの年代でも、[いやだ]の割合が減少。減少幅が大きいのは、50代（16ポイント）40代（15ポイント）。30代と70代で最小（10ポイント）
- ・全体の年齢による違いは、2015年と2019年で、ほぼ変わらず（29-30ポイント）。

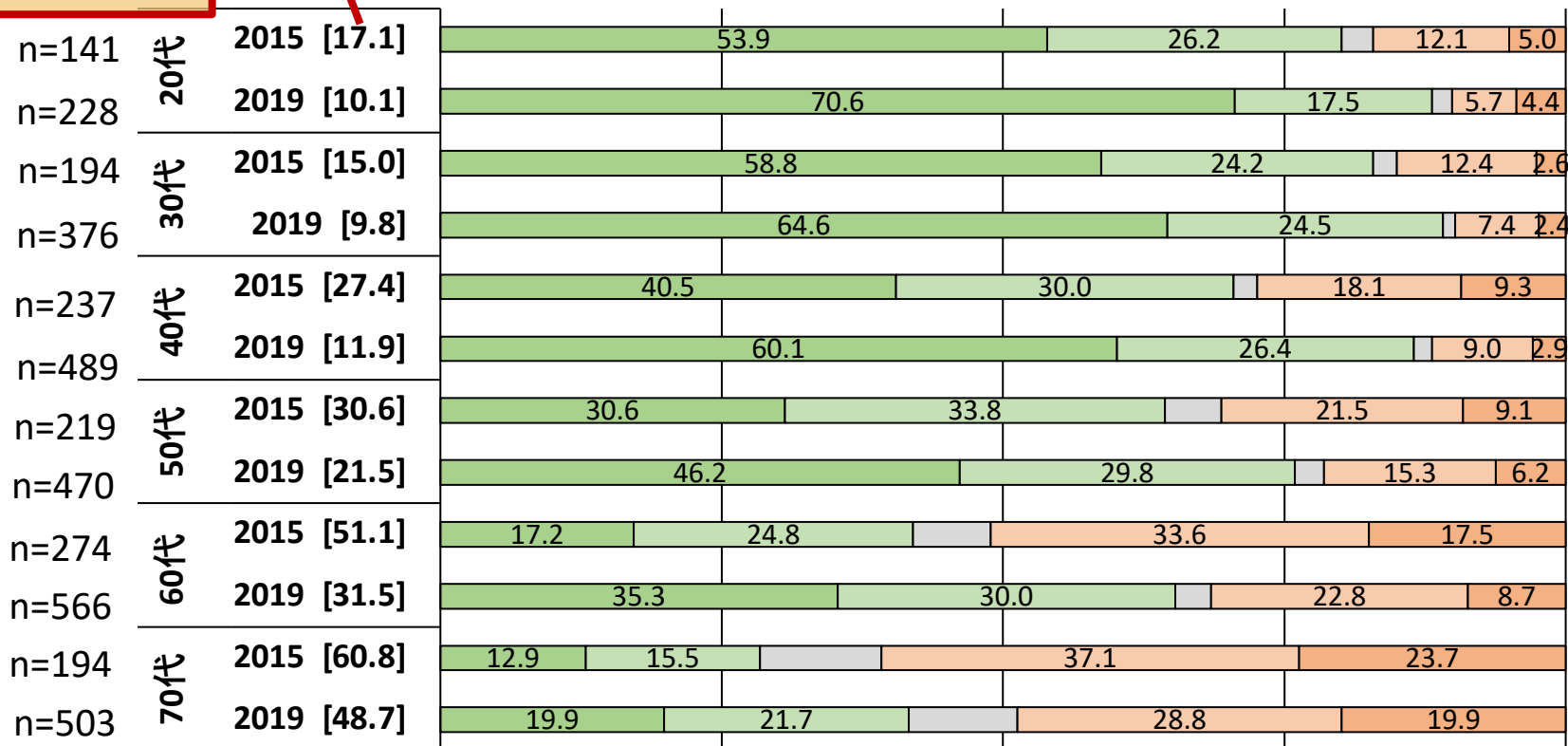
近所の人が性別を変えた人だった場合：年代別

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



・どの年代でも、【いやだ】の割合が減少、減少幅は60代(20ポイント)と40代(16ポイント)で大きい。30代で最小(5ポイント)；年齢による違いは、2015年より2019年で若干縮小、2015年で46ポイント差(30代と70代)、2019年で39ポイント差(20代と70代)

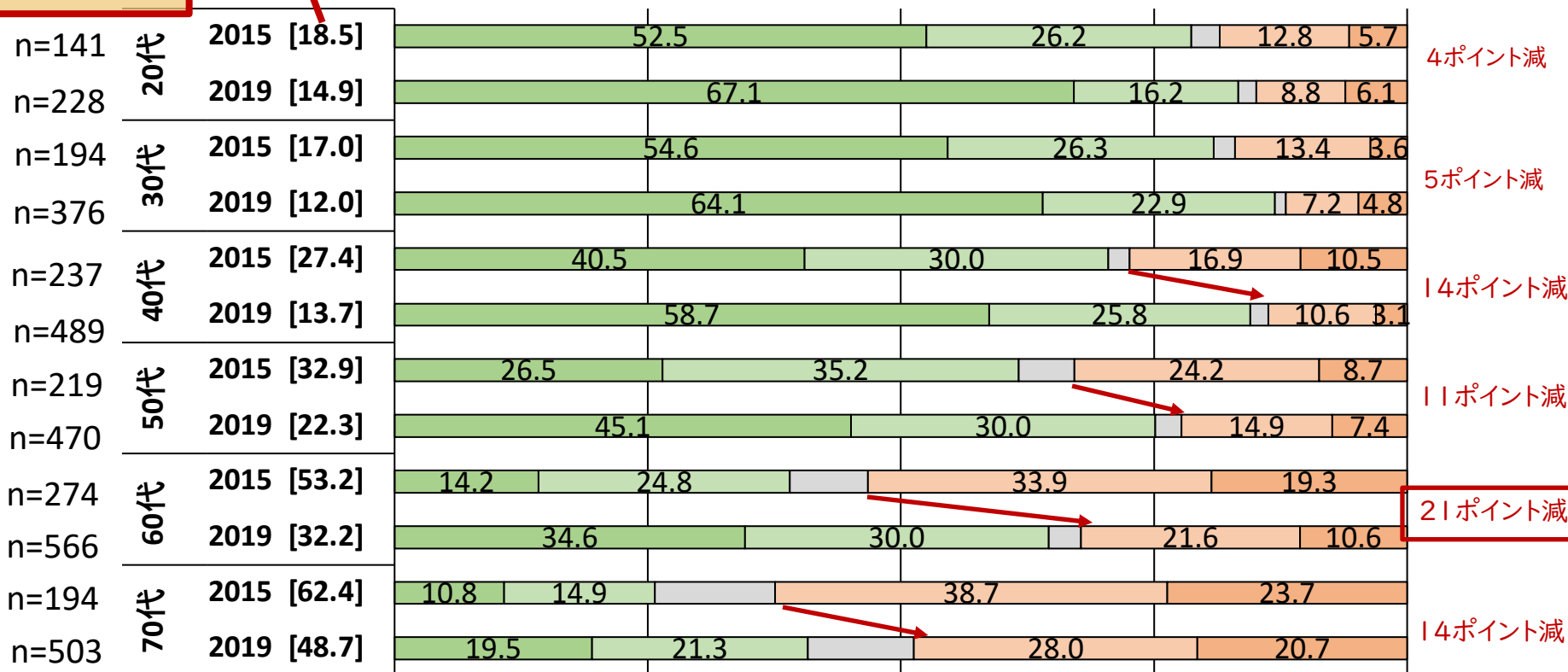
同僚が性別を変えた人だった場合：年代別

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



・どの年代でも【いやだ】の割合が減少。減少幅は、60代21ポイント、40代と70代13ポイント、50代11ポイント。20、30代微減。年齢差は、2019年で縮小。2015年では45ポイント差（30代と70代）が2019年では38ポイント差（30代と70代）

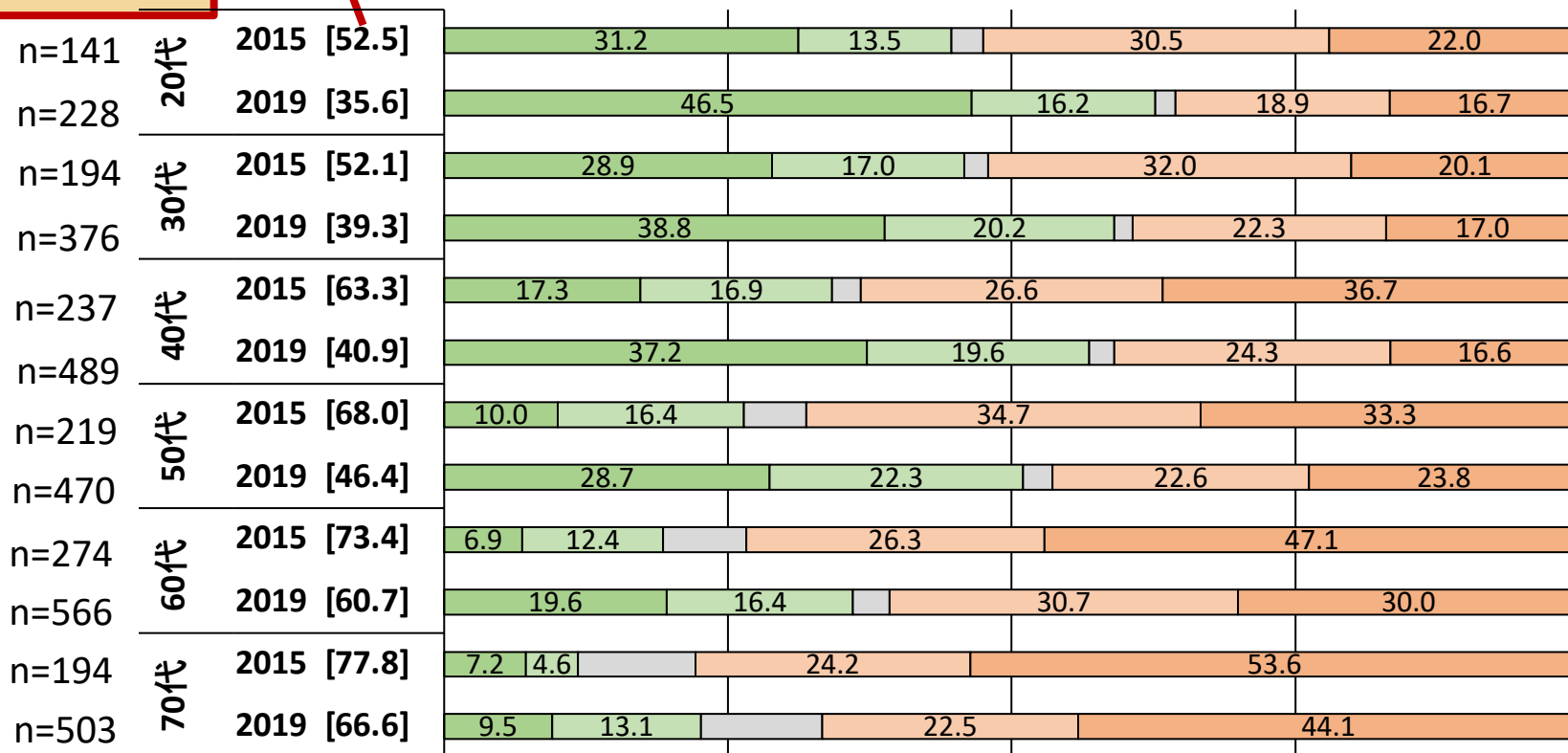
きょうだいが性別を変えた人だった場合：年代別

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない ■無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

0% 25% 50% 75% 100%



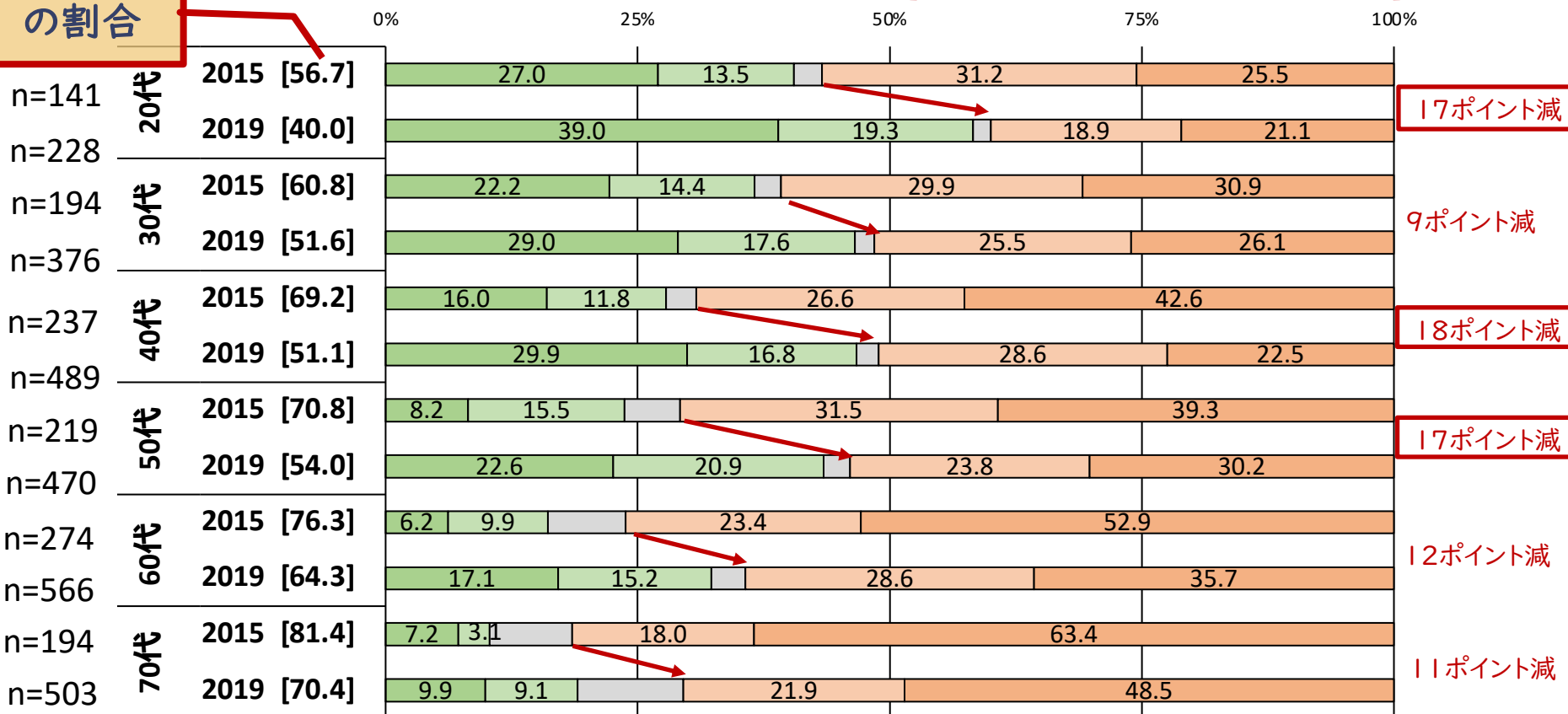
・どの年代でも【いやだ】の割合が減少。減少幅が大きいのは、40代50代（22ポイント）。
減少幅は小さくても10ポイント以上（70代11、60代12、30代13ポイント、20代17ポイント）

子どもが性別を変えた人だった場合：年代別

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■ 嫌ではない ■ どちらかといえば嫌ではない ■ 無回答 ■ どちらかといえば嫌だ ■ 嫌だ



- ・どの年代でも【いやだ】の割合が減少。減少幅大は20代17ポイント、40代18ポイント、50代17ポイント、（他は10ポイント前後：70代11、60代12、30代9ポイント）
- ・2019年では、20代では4割、30,40,50代で5割台、60代で6割5分、70代で7割

職業別にみた結果

職業をたずねる設問

問 49 そのお仕事の種類は、大きく分けて次のどれにあたりますか（あたりましたか）。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 専門・技術系の職業 | (医師、弁護士、教員、エンジニア、看護師、作家、デザイナー、編集者など) |
| 2. 管理的職業 | (課長相当以上の管理職、議員など) |
| 3. 事務・営業系の職業 | (事務員、営業社員、銀行員など) |
| 4. 販売・サービス系の職業 | (店主、店員、外交員、美容師、クリーニング、給仕、接客、清掃、ヘルパーなど) |
| 5. 技能・労務・作業系の職業 | (工場労働者、自衛官、警察官、職人、建設作業員、運転手など) |
| 6. 農林漁業 | (植木職、造園業を含む) |
| 7. その他 (|) |

問 45 あなたは通常、お勤め先（職場）でどのような仕事をしていますか。

次の中でもっとも近いものに○をつけてください。(○は1つ)

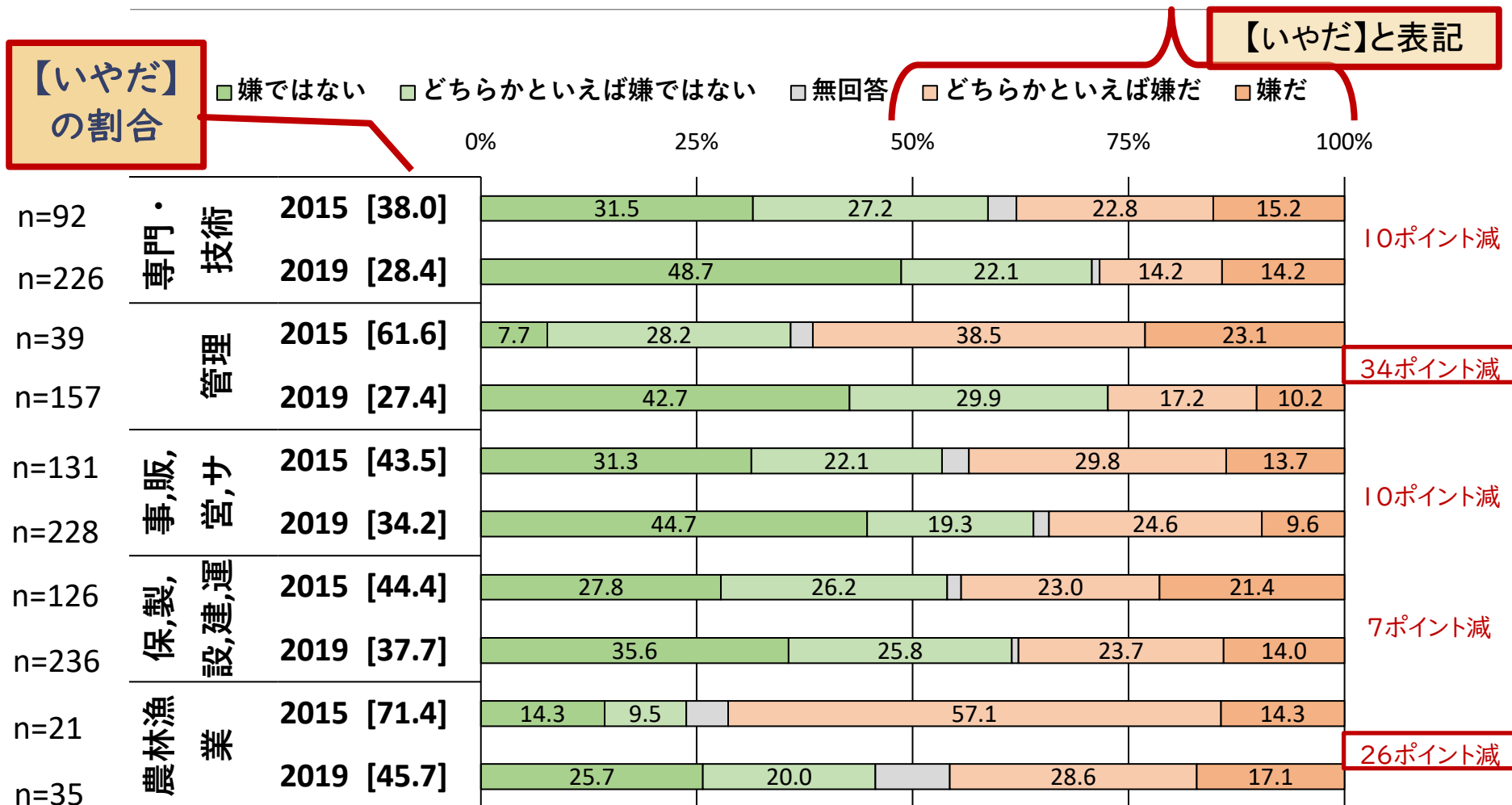
- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1 管理職（課長相当以上の役職） | 7 農林漁業の仕事 |
| 2 専門職・技術職 | 8 モノを製造・加工する仕事 |
| 3 事務職 | 9 機械や設備・乗物を運転する仕事 |
| 4 販売・営業職 | 10 建設現場の仕事・採掘の仕事 |
| 5 サービスの仕事 (介護職員、理美容師、接客業、ビル管理人を含む) | 11 運搬・清掃・包装の仕事 |
| 6 保安の仕事（自衛官、警察官、消防士、警備員など） | 12 その他 |
- [具体的に：]

2015年と2019年の設問の職業選択肢の対応

| 2015年 | 男性 | 女性 | 2019年 | 男性 | 女性 | 図での表記 |
|--------------------------|-----|-----|--|-----|-----|-----------|
| 専門・技術系の職業 | 92 | 85 | 専門職・技術職 | 226 | 159 | 専門・技術 |
| 管理的職業 | 39 | 6 | 管理職 | 157 | 34 | 管理 |
| 事務・営業系の職業 販売・サービス系の職業 | 131 | 225 | 事務職 販売・営業職 サービスの仕事 | 228 | 490 | 事,販,営,サ |
| 技能・労務・作業系の職業 | 126 | 37 | 保安の仕事 モノを製造・加工する仕事 機械や設備・乗物を運転する仕事 建築現場の仕事・採掘の仕事 運搬・清掃・包装の仕事 | 236 | 117 | 保,製,設,建,運 |
| 農林漁業 | 21 | 8 | 農林漁業の仕事 | 35 | 13 | 農林漁業 |

- ・サンプルサイズは2015調査で1257、2019年調査で2632（約2倍）
- ・男性：管理職は39人→157人（約4倍）、他の職業は約2倍
- ・女性：管理職は約5倍、保安・製造他は約3倍、他の職業は約2倍

同僚が同性愛者だった場合：職業別（男性回答）



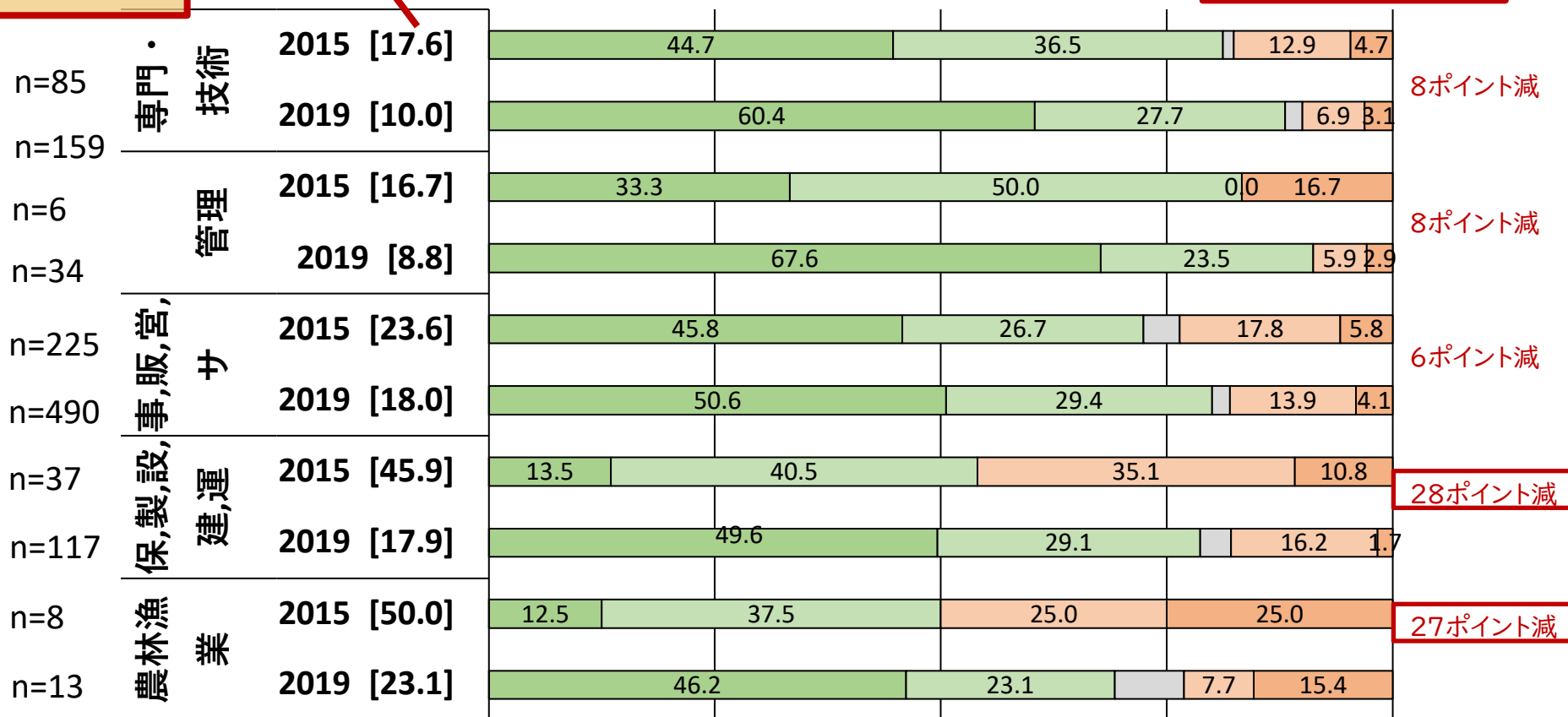
- ・どの職業でも【いやだ】の割合は減少。管理職では62%→27%に（34ポイント減）
（ただし管理職層は拡大（サンプルサイズは約2倍、男性管理職数は4倍）
- ・農林漁業でも26ポイント減、ただし該当者数が少。

同僚が同性愛者だった場合：職業別（女性回答）

【いやだ】
の割合

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない □無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

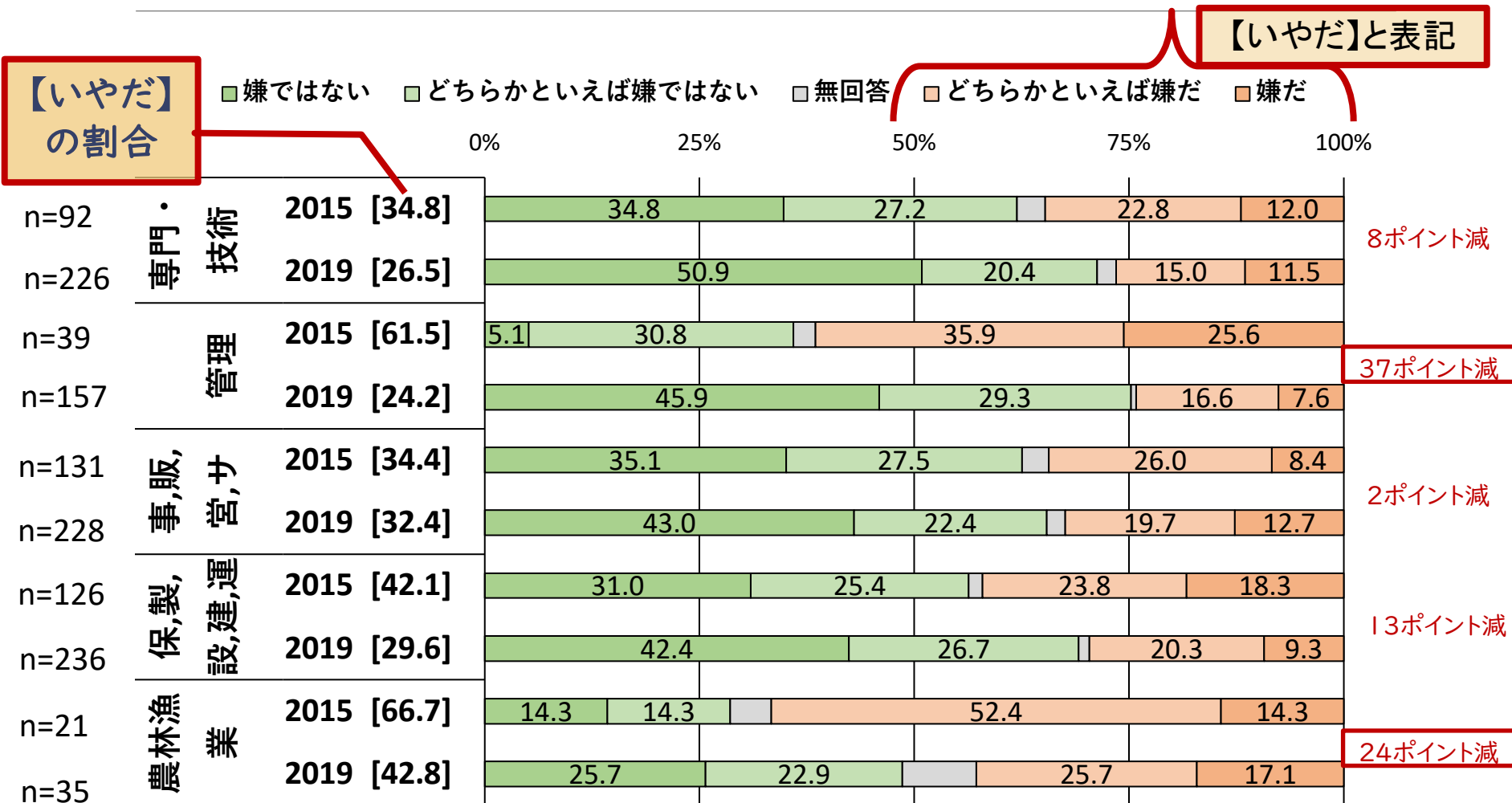
【いやだ】と表記



どの職業でも、【いやだ】の割合が減少。

保安、製造、設備運転等、建築、運搬等の仕事（28ポイント減）、農林漁業で27ポイント減、減少幅大。
他の職業では、6－8ポイントの減少。

同僚が性別を変えた人だった場合：職業別（男性回答）



【いやだ】の割合、管理職（62%から24%、37ポイント減）、農林漁業（24ポイント減）で、減少幅大。専門技術では8ポイント、保安等では13ポイント。事務営業等の【いやだ】は減少幅微小。

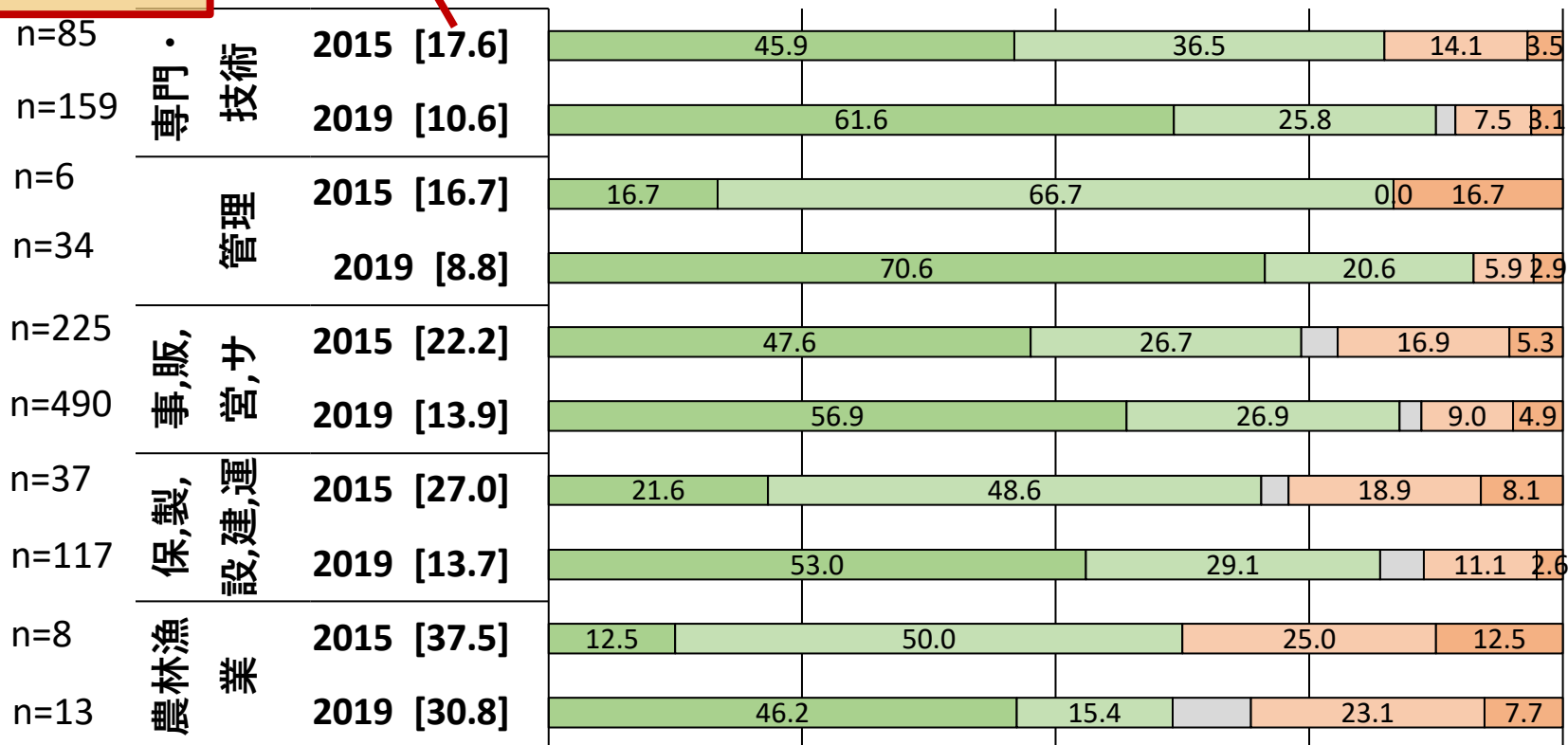
同僚が性別を変えた人だった場合：職業別（女性回答）

【いやだ】
の割合

【いやだ】と表記

■嫌ではない ■どちらかといえば嫌ではない □無回答 ■どちらかといえば嫌だ ■嫌だ

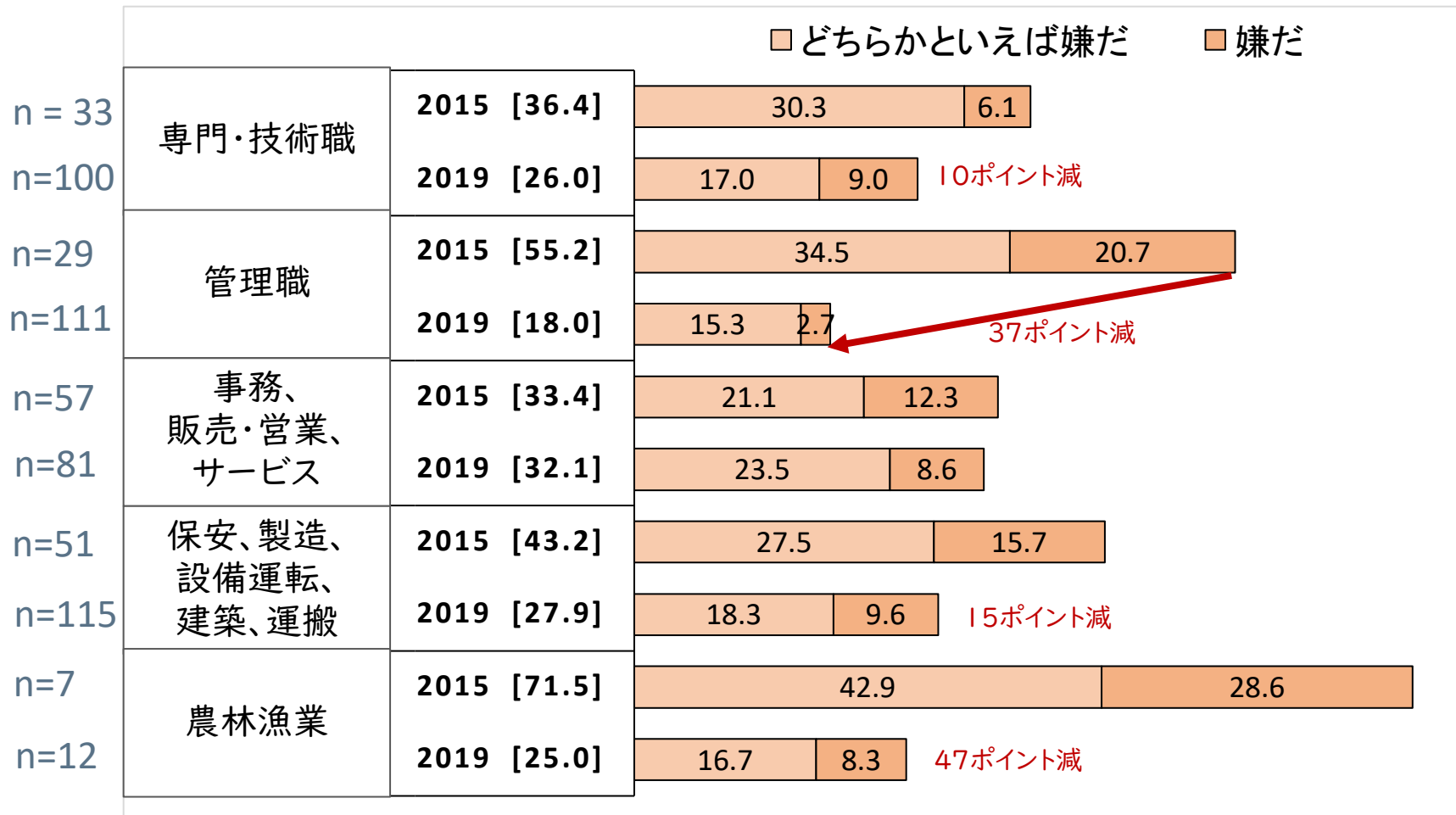
0% 25% 50% 75% 100%



【いやだ】の割合、「保安、製造、設備運転等、建築、運搬等の仕事」で13ポイント減、他の職業では、6-8ポイント減。（男性に比べると減少幅が小さい）

同僚が性別を変えた人だった場合：職業別（男性回答）

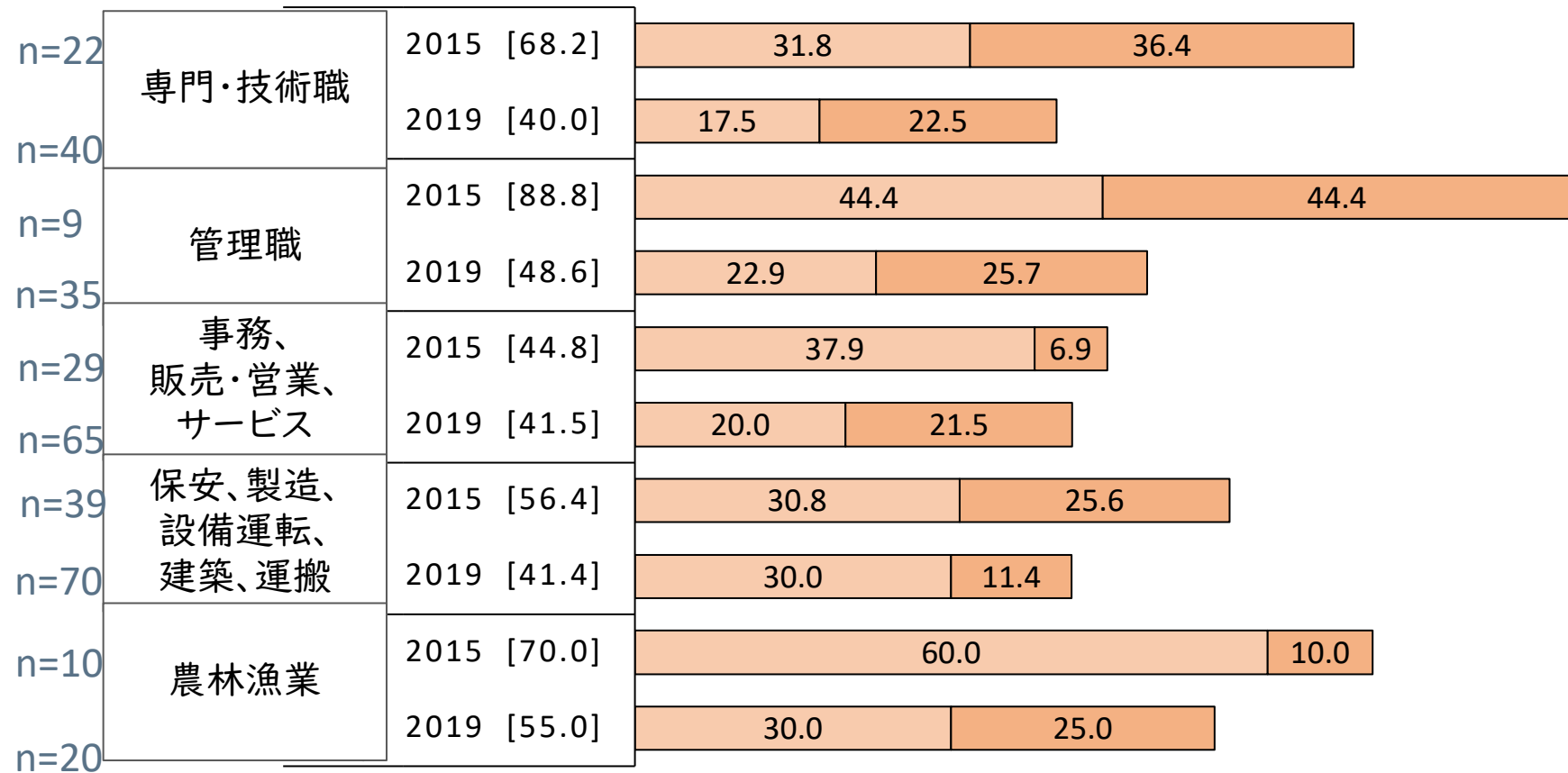
40-50代（【いやだ】の割合）



同僚が性別を変えた人だった場合：職業別（男性回答）

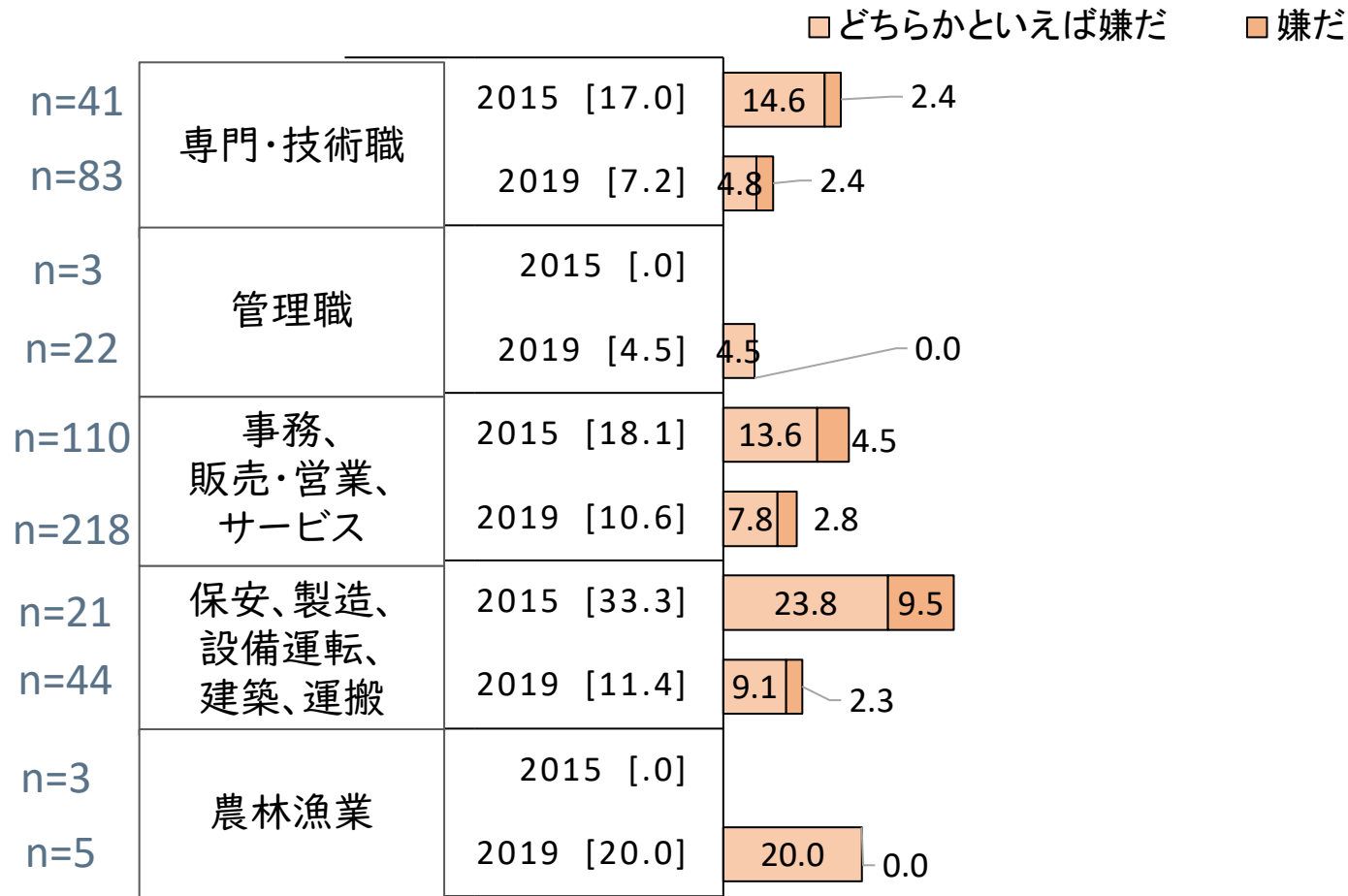
60-70代（【いやだ】の割合）

□ どちらかといえば嫌だ □ 嫌だ



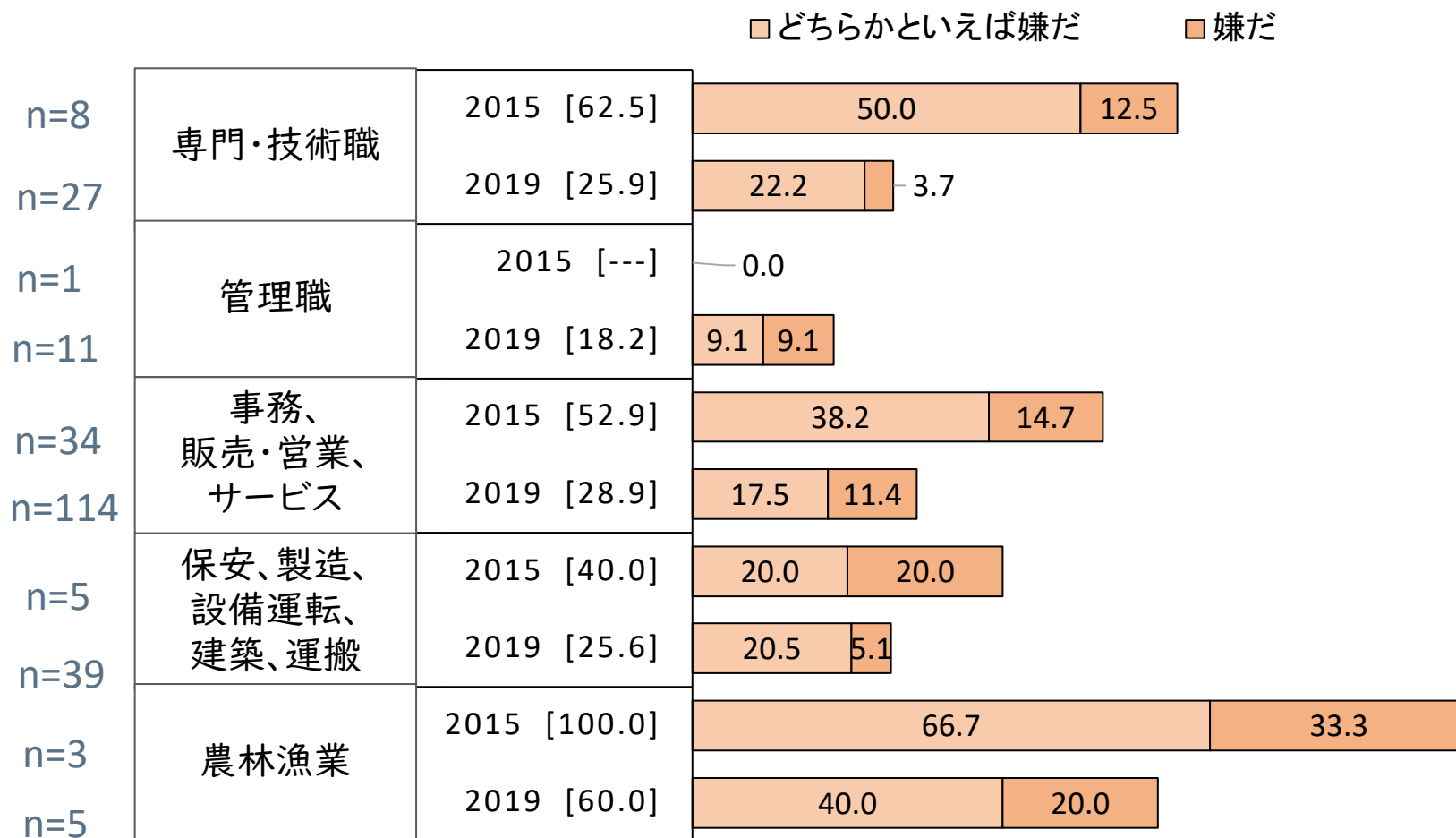
同僚が性別を変えた人だった場合：職業別（女性回答）

40-50代（【いやだ】の割合）



同僚が性別を変えた人だった場合：職業別（女性回答）

60-70代（【いやだ】の割合）



身近な性的マイノリティ：結果のまとめ（１）

- ・同性愛者だった場合も、性別を変えた人だった場合も、【いやだ】の割合は、子ども、きょうだいで多く、同僚、近所の人で少ない
 - 同性愛者の場合、子ども61%,きょうだい53%,同僚28%, 近所の人28% (2019年) (スライド#25)
 - 2019年でも子ども、きょうだいについては、半数以上が【いやだ】と回答
- ・変化は、同性愛者、性別を変えた人で同様の傾向
- ・男女、全年代で「嫌だ」「どちらかといえば嫌だ」が減少、「嫌ではない」「どちらかといえば嫌ではない」が増加、職業別でもおおむね同様
- ・男性管理職で同僚が性別を変えた人の場合【いやだ】という割合は、15年62%→19年24% (スライド#43).
 - 男性管理職の40-50代のみをみても、2015年の55%から2019年の18%に減少(37ポイント減少) (スライド#45)

身近な性的マイノリティ:結果のまとめ(2)

- ・きょうだい、子どもについては、女性の方が男性よりも【いやだ】の減少幅が大きい
 - きょうだいが性別を変えた人の場合、男性は69%→58%(11ポイント減)、女性は63%→44%(19ポイント減)(スライド#30)
 - きょうだい、子どもについては、男女差が大きくなった
- ・年代による減少幅の大小は、どの人の場合かによる
 - 同僚が性別を変えた人の場合、60代で21ポイント減(2,30代は数ポイント減)(スライド#36)
 - 子どもが性別を変えた人の場合、40代で18ポイント、50代と20代で17ポイント減。60代12ポイント、70代11ポイント、30代9ポイント)(スライド#38)

同性婚の賛否

各種人口統計学的（デモグラフィック）変数についての

①2015年調査 と ②2019年調査 の比較

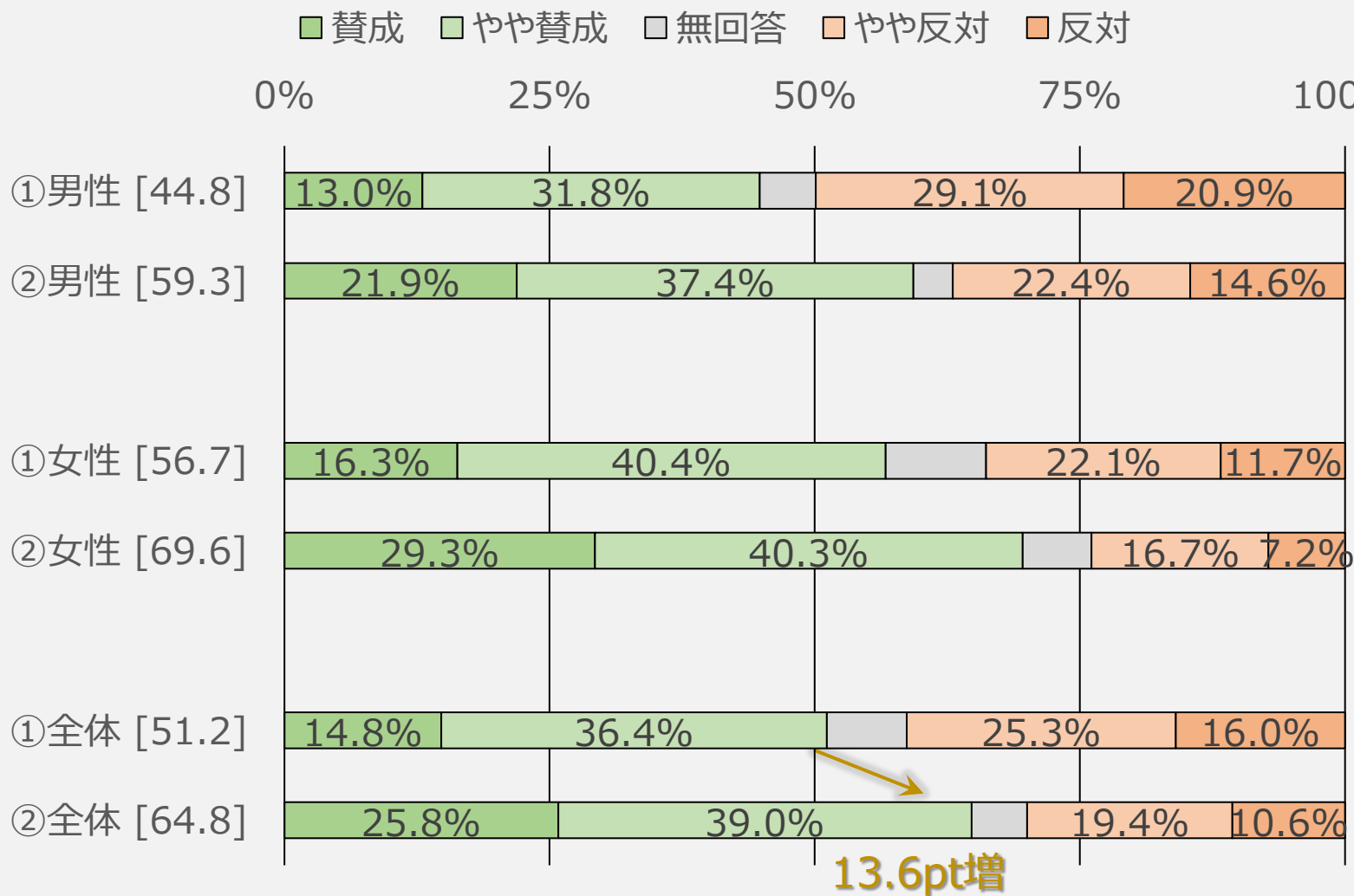
石田 仁 ISHIDA, Hitoshi （明治学院大学社会学部附属研究所研究員）
webhitoshi@yahoo.co.jp

男女別同性婚賛否

①2015 n=1259

②2019 n=2626

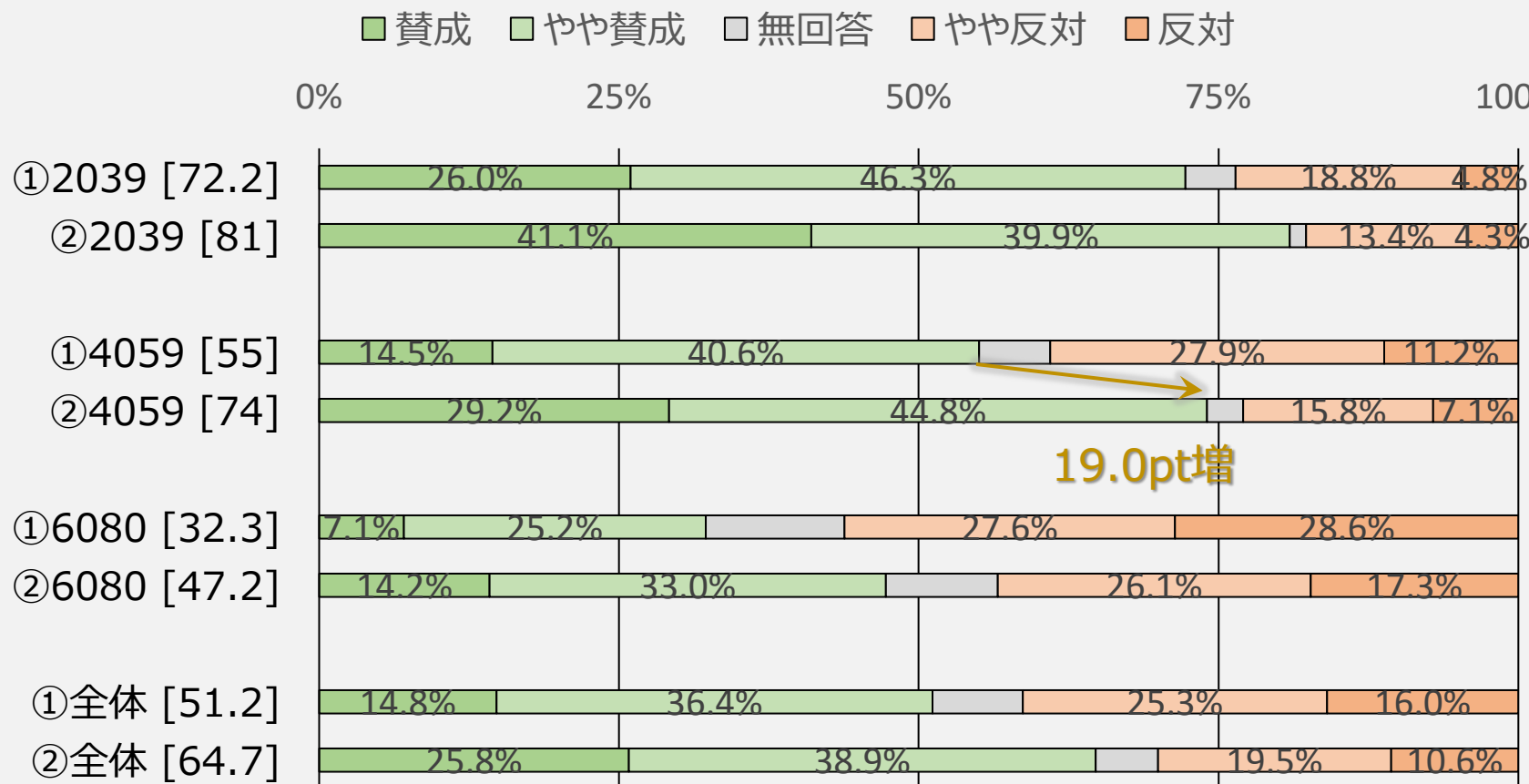
本設問に対するその他・無回答は分析から除外した。



年齢層別同性婚賛否

①2015 n=1259

②2019 n=2632



20代の〈賛成〉は83.8%と高い

50代までで無回答層減少

結婚状況

① 2015 (○は1つ)

問 38 あなたは現在ご結婚されていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|---------|--------|
| 1. 結婚している | 3. 離別した | 5. その他 |
| 2. 結婚したことがない | 4. 死別した | () |

② 2019 (○はいくつでも)

問 38 あなたのご結婚、離別、死別のご経験について、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 現在、結婚している / 結婚したことがある | 3 死別したことがある |
| 2 離別したことがある | 4 結婚、離別、死別いずれの経験もない |

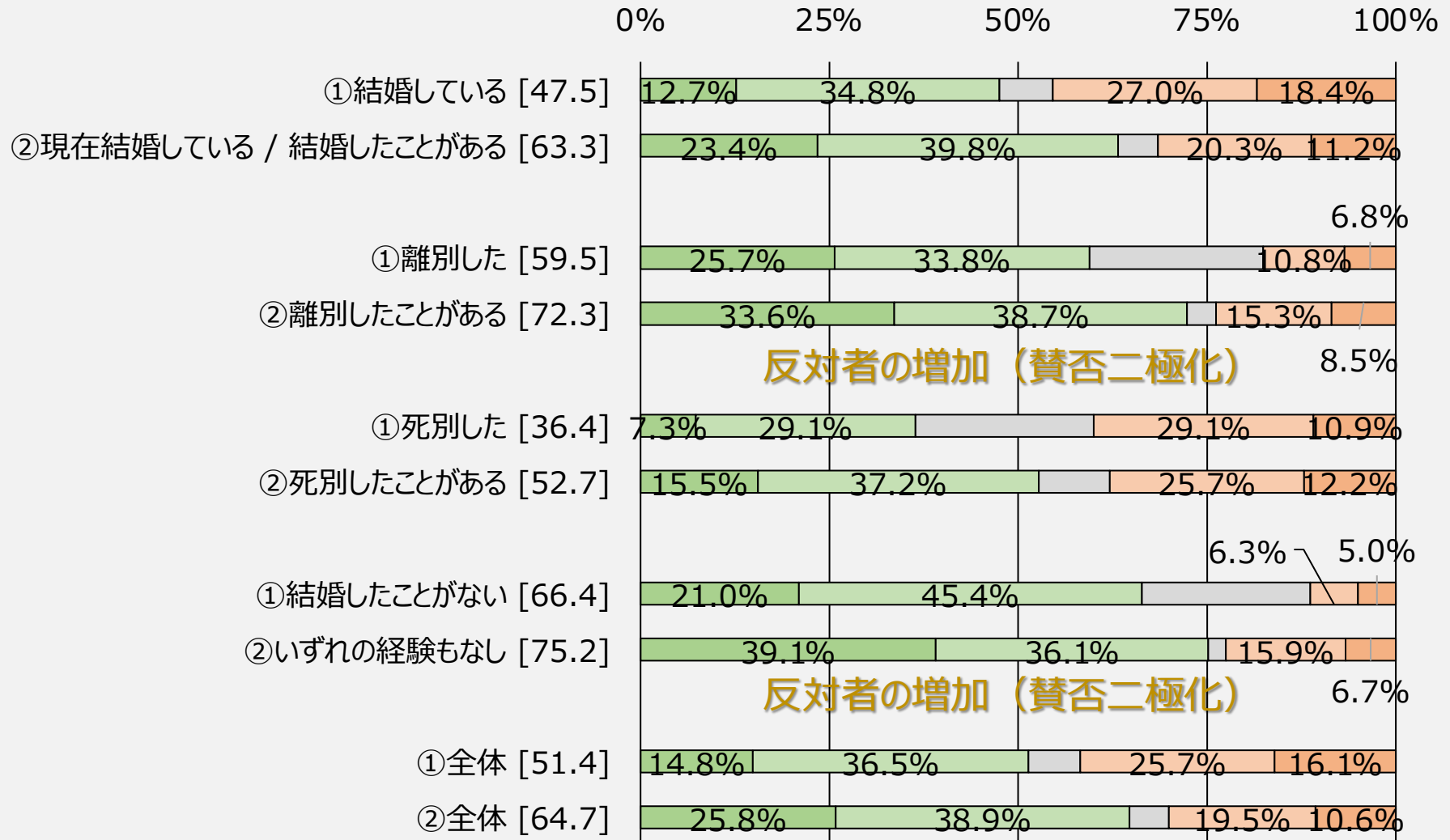
※この問いでの「結婚」は、男女の間の結婚を指します。また、内縁、事実婚も含みます。

結婚状況別同性婚賛否

①2015 n=1226 SA
②2019 n=2569 MA 論理矛盾はなし

本設問に対する無回答は分析から除外した。

■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対

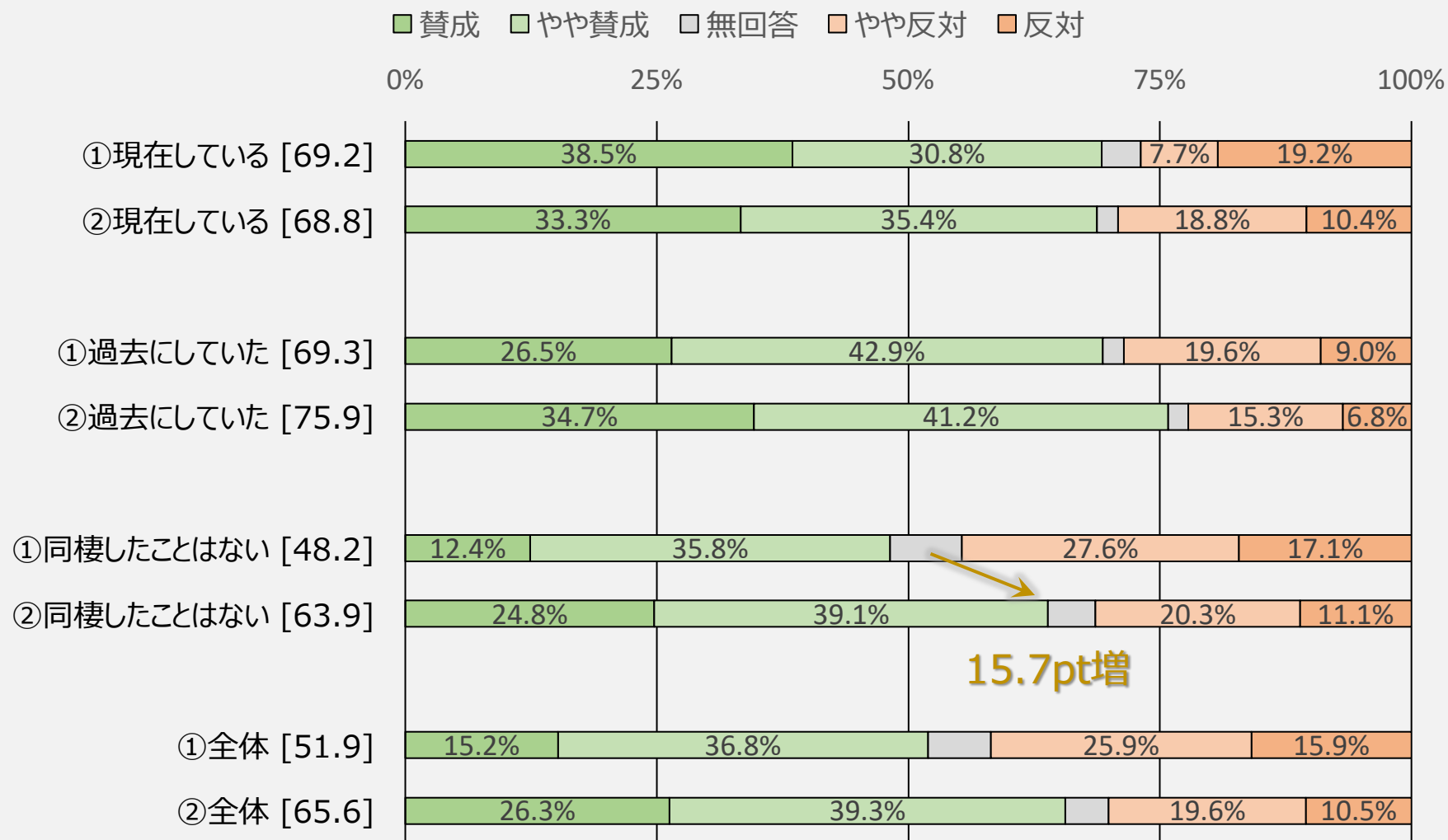


異性との同棲経験別同性婚賛否

本設問に対する無回答は分析から除外した。

①2015 n=1213

②2019 n=2557

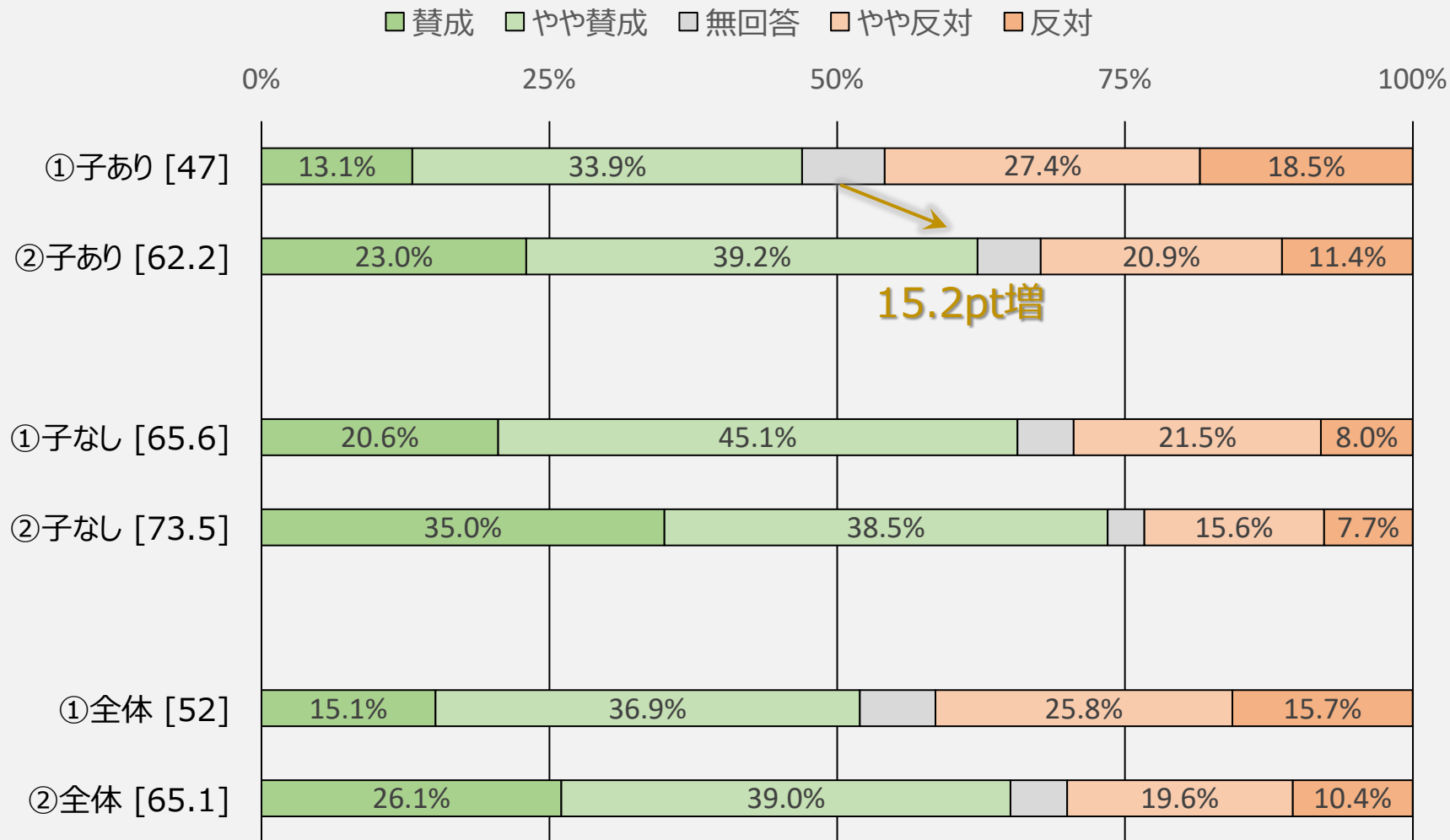


子の有無別同性婚賛否（全員）

本設問に対する無回答は分析から除外した。

①2015 n=1218

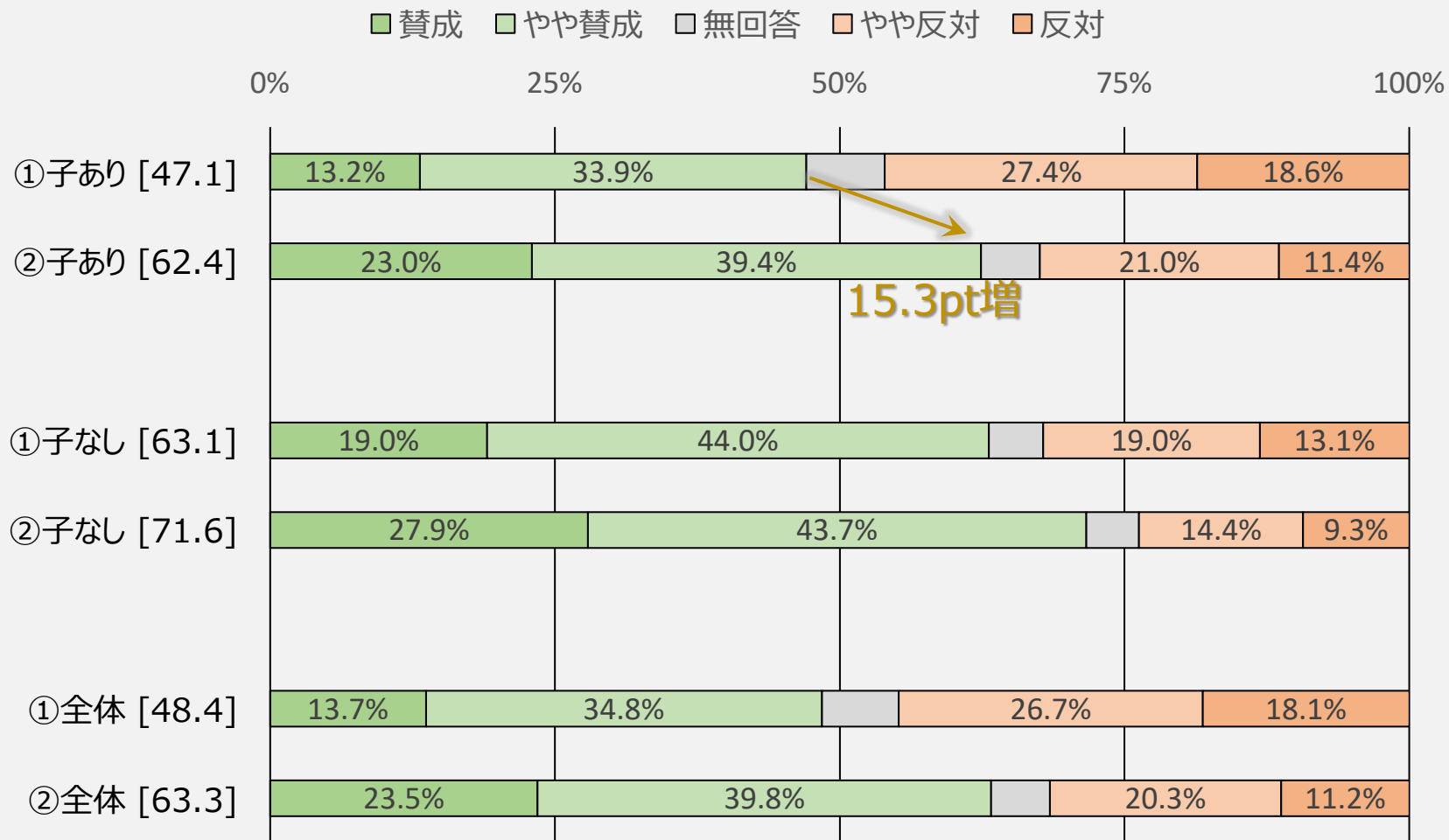
②2019 n=2594



子の有無別同性婚賛否（結婚経験者のみ）

本設問に対する無回答は分析から除外した。

①2015 n=966
②2019 n=2129



最終学歴別同性婚賛否

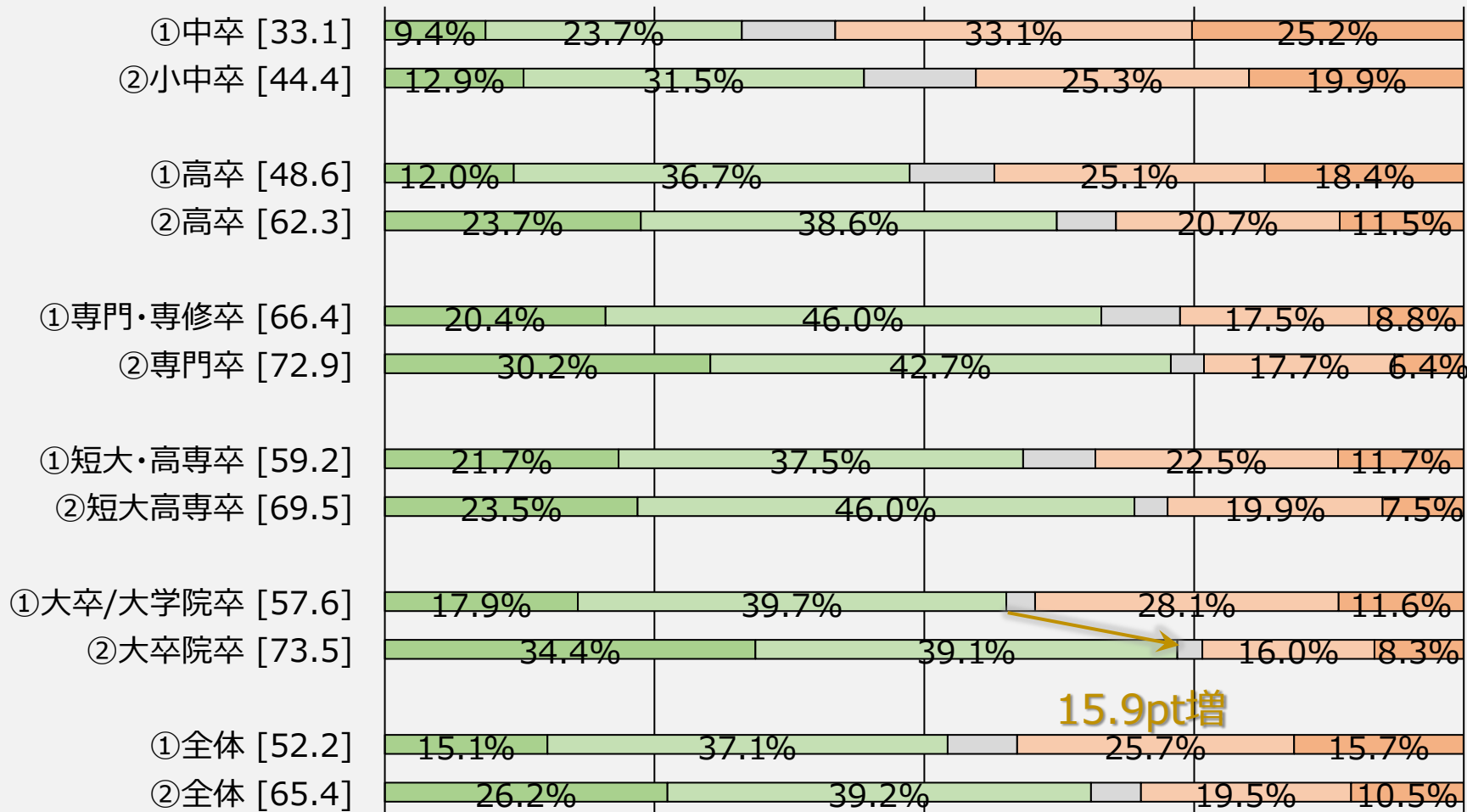
①2015 n=1208

②2019 n=2552

「その他」、無回答は分析から除外した。

■賛成 ■やや賛成 ■無回答 ■やや反対 ■反対

0% 25% 50% 75% 100%



15.9pt増

専門、大卒に次いで高い

高校の共学・別学別同性婚賛否

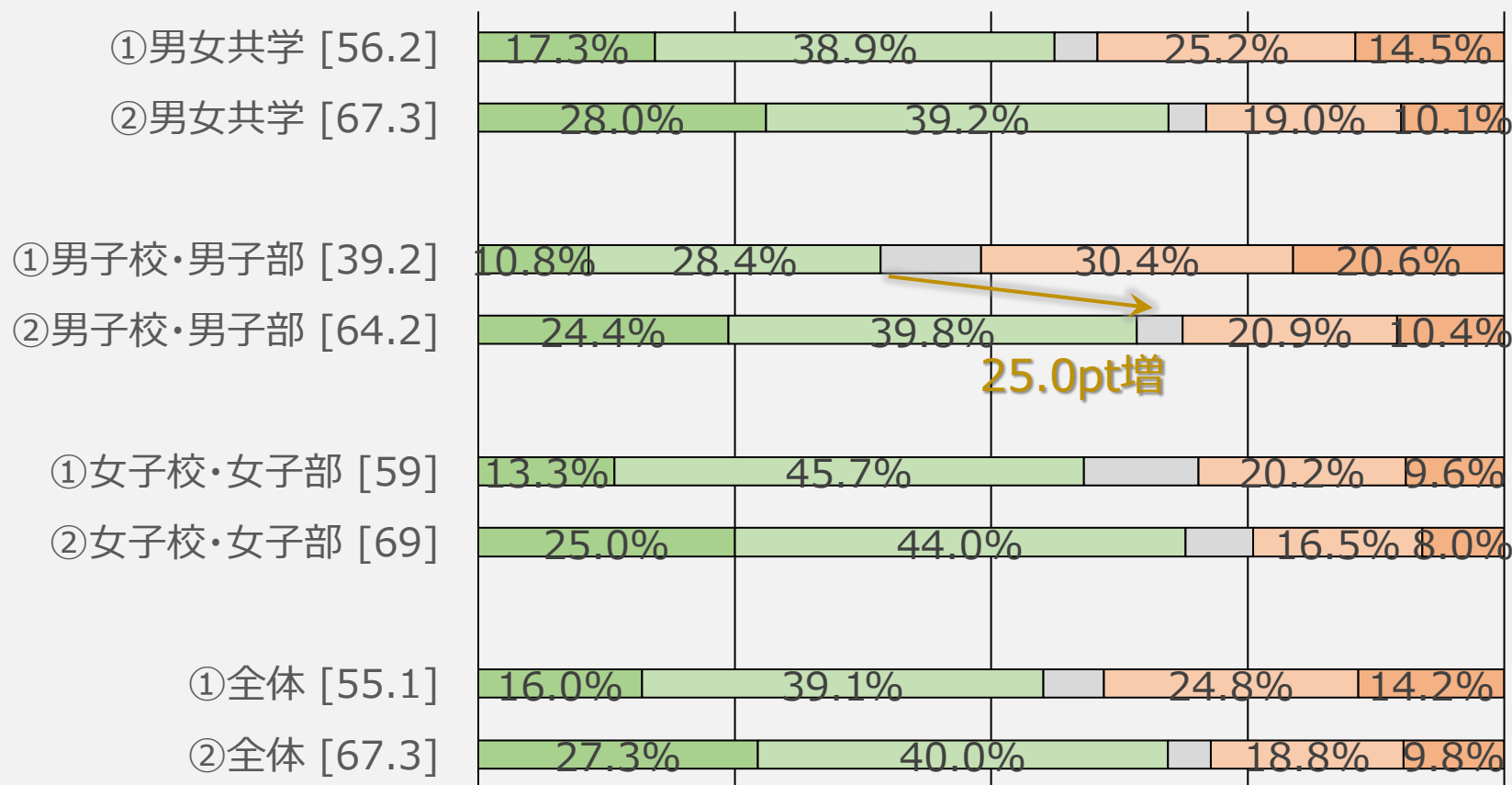
①2015 n=1084

②2019 n=2395

高校には通っていない、および本設問に対する無回答は分析から除外した。

■賛成 ■やや賛成 □無回答 ■やや反対 ■反対

0% 25% 50% 75% 100%



階層帰属意識

① 2015 「あなたのお宅は」

問 46 仮に現在の日本の社会全体を、次の5つの層に分けるとすれば、あなたのお宅は、このどれに入りますか。(○は1つ)

| | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 上 | 3. 中の中 | 5. 下 |
| 2. 中の上 | 4. 中の下 | 6. その他 |

② 2019 「あなたご自身は」

問 46 仮に現在の日本の社会全体を、次の5つの層に分けるとすれば、あなたご自身は、このどれに入りますか。(○は1つ)

1 上 2 中の上 3 中の中 4 中の下 5 下

→「上」の回答が①で0.6%、②で0.8%だったため、「中の上」と統合した。
「その他」「無回答」は分析から除外した。

階層帰属意識別同性婚賛否

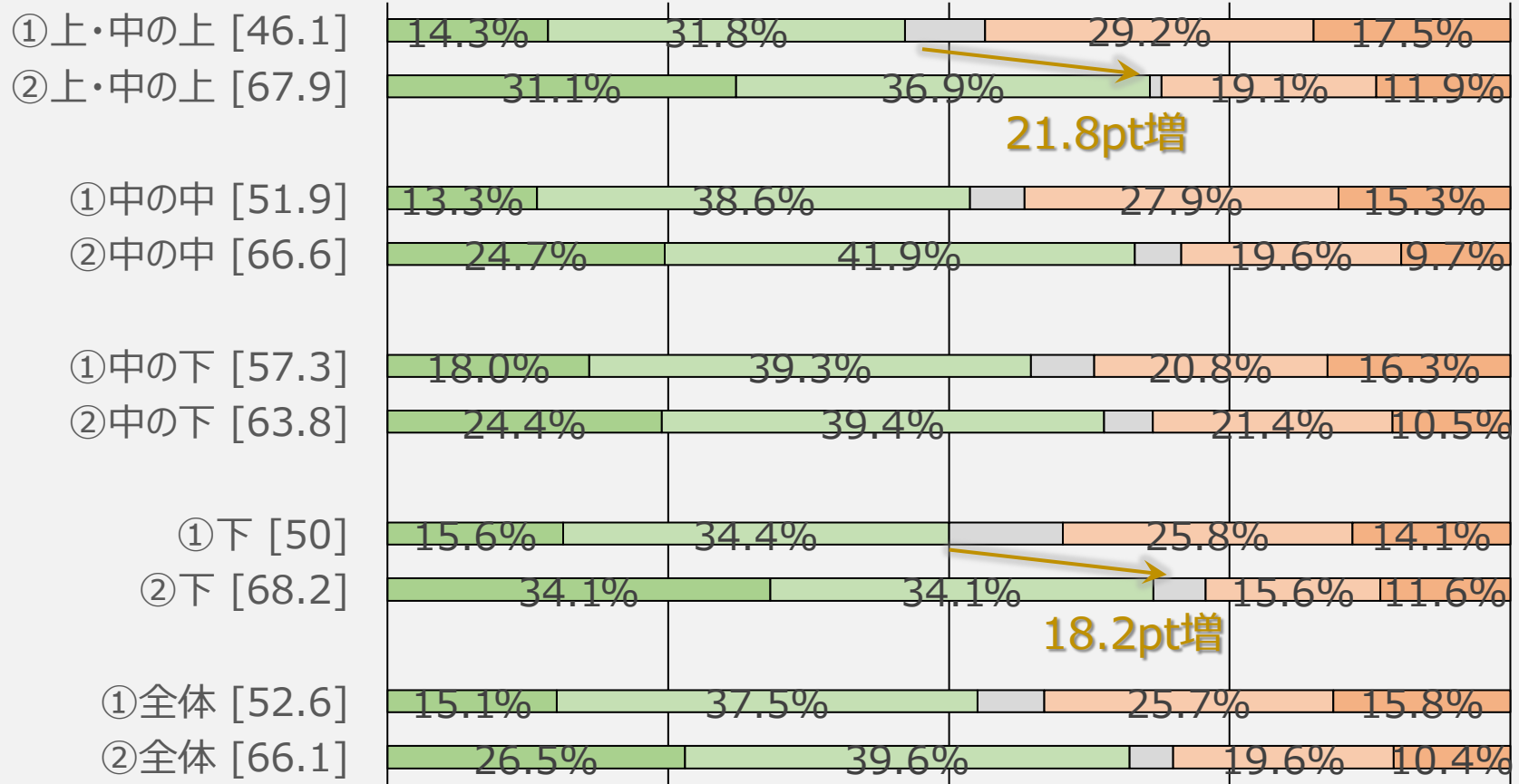
本設問に対する無回答は分析から除外した。

①2015 n=1193

②2019 n=2499

■ 賛成 ■ やや賛成 □ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対

0% 25% 50% 75% 100%



中の下 = 他と比べて伸び率少ない

就業形態

① 2015

【問 47 で「1～3」と答えた方に】



問 48 その仕事は、次のどれにあたりますか（ましたか）。（○は1つ）

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. 常時雇用されている従業者（公務員含む） | 4. 自営業主、自由業者 |
| 2. 臨時雇い・パート・アルバイト | 5. 自営業の家族従業者 |
| 3. 派遣・契約・嘱託社（職）員 | 6. 経営者・役員 |
| | 7. その他（ ） |

② 2019

問 44 問 43 で「1～3」と答えた方に

その仕事は、次のどれにあたりますか（ましたか）。（○は1つ）

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1 常時雇用されている従業者（公務員含む） | 4 自営業主、自由業者 |
| 2 派遣社員・契約社員・嘱託社員 | 5 自営業の家族従業者 |
| 3 臨時雇い・パート・アルバイト | 6 経営者・役員 |
| | 7 内職 |

就業形態別同性婚賛否

①2015 n=1153

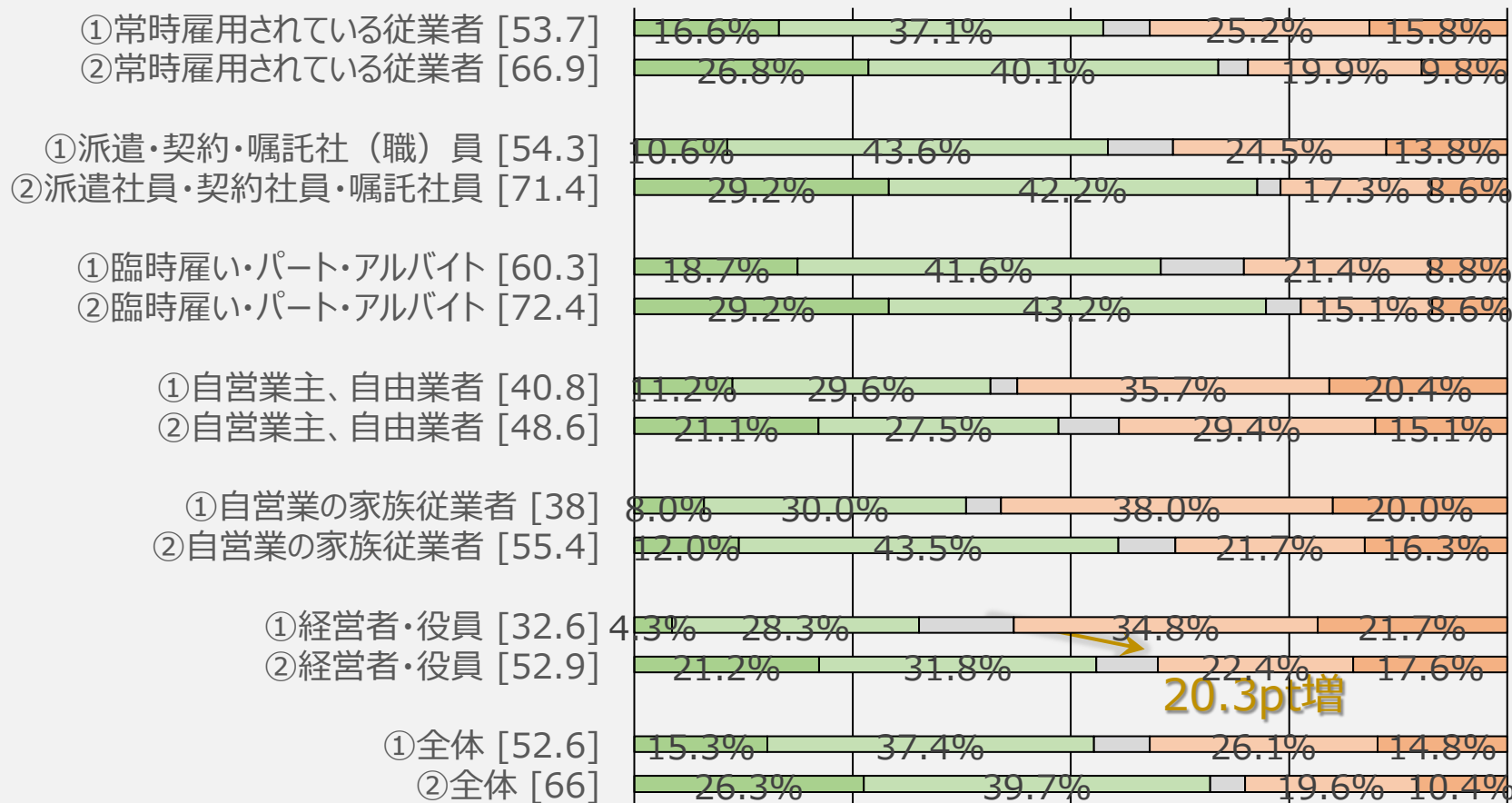
②2019 n=2484

内職・その他・非該当・無回答を除いた割合。

過去の就労を含む。常時雇用されている従事者には公務員を含む。

■賛成 ■やや賛成 □無回答 ■やや反対 ■反対

0% 25% 50% 75% 100%



自営・自由業の賛成の伸びは弱く、経営者・役員の変化（後述）と対照的な結果

仕事の種類

① 2015

問 49 そのお仕事の種類は、大きく分けて次のどれにあたりますか（あたりましたか）。（○は1つ）

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 専門・技術系の職業 | (医師、弁護士、教員、エンジニア、看護師、作家、デザイナー、編集者など) |
| 2. 管理的職業 | (課長相当以上の管理職、議員など) |
| 3. 事務・営業系の職業 | (事務員、営業社員、銀行員など) |
| 4. 販売・サービス系の職業 | (店主、店員、外交員、美容師、クリーニング、給仕、接客、清掃、ヘルパーなど) |
| 5. 技能・労務・作業系の職業 | (工場労働者、自衛官、警察官、職人、建設作業員、運転手など) |
| 6. 農林漁業 | (植木職、造園業を含む) |
| 7. その他 (|) |

② 2019

問 45 あなたは通常、お勤め先（職場）でどのような仕事をしていますか。
次の中でもっとも近いものに○をつけてください。（○は1つ）

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1 管理職（課長相当以上の役職） | 7 農林漁業の仕事 |
| 2 専門職・技術職 | 8 モノを製造・加工する仕事 |
| 3 事務職 | 9 機械や設備・乗物を運転する仕事 |
| 4 販売・営業職 | 10 建設現場の仕事・採掘の仕事 |
| 5 サービスの仕事 （介護職員、理美容師、接客業、ビル管理人を含む） | 11 運搬・清掃・包装の仕事 |
| 6 保安の仕事（自衛官、警察官、消防士、警備員など） | 12 その他 |
- [具体的に：]

仕事の種類別同性婚賛否

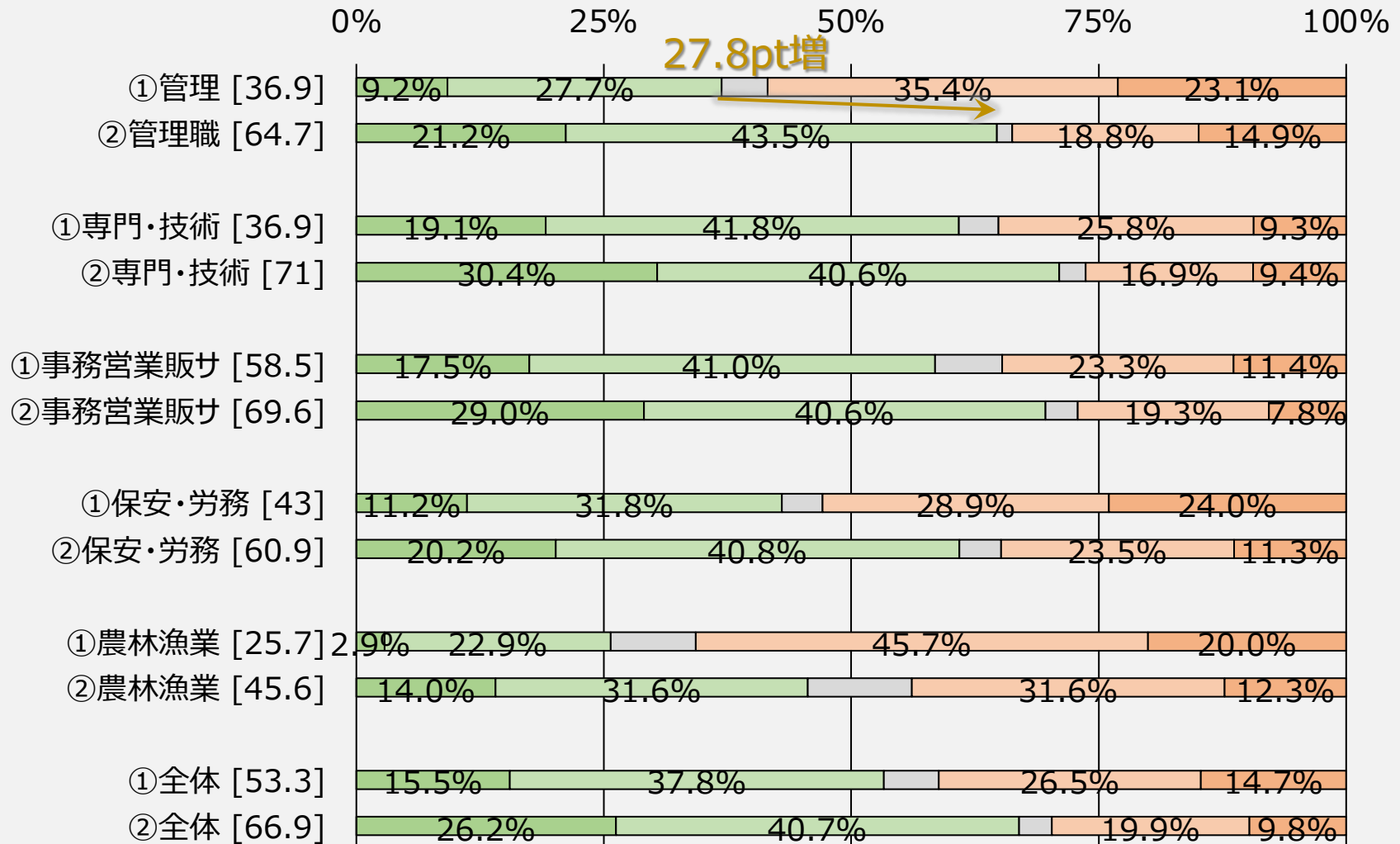
①2015 n=1111

②2019 n=2266

その他・非該当・無回答を除いた割合。

過去の就労を含む。

■賛成 ■やや賛成 ■無回答 ■やや反対 ■反対



①2015 n=1111

②2019 n=2266

分析 1 経営者・役員、管理職層の若年化？

就業形態 - 経営者・役員割合(%)

| 年齢層別割合 | 全体 | 20-39 | 40-59 | 60-80 |
|-------------|-----|-------|--------|--------|
| ①経営者・役員n=46 | 4.0 | 6.7 | 45.8 | 45.7 |
| ②経営者・役員n=85 | 3.4 | △ 9.4 | ▼ 40.0 | △ 50.6 |

読み方例
n=85の内訳(%)

仕事の種類 - 管理職割合(%)

| 年齢層別割合 | 全体 | 20-39 | 40-59 | 60-80 |
|-----------|-------|-------|--------|--------|
| ①管理職n=65 | 5.9 | 4.6 | 50.8 | 44.6 |
| ②管理職n=255 | △ 9.7 | 5.1 | △ 54.5 | ▼ 40.4 |

→経営者・役員割合は全体で増加していない。若返りといえるかは微妙。

→管理職割合は全体で増加し、若年化傾向。(年俸制、名ばかり…?)

分析 2 LGBT等の学び経験（「企業研修・市民講座」）

問 11 あなたは学校の授業や市民講座などで、人権や性に関することを学んだことはありますか。アとイのそれぞれについて、学んだことがある場合は「ある」に、ない場合は「ない」に○をつけてください。また、その学校に通ったことのない方は「通っていない」に○をつけてください。（それぞれ○は1つ）

| | 高校 | | | 専門学校 | | | 大学・大学院 | | | 企業研修・市民講座 | | |
|----------------------------|----|----|--------|------|----|--------|--------|----|--------|-----------|----|--------|
| (ア) 人権全般 | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない |
| (イ) 同性愛・両性愛、性同一性障害、性の多様性など | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない |

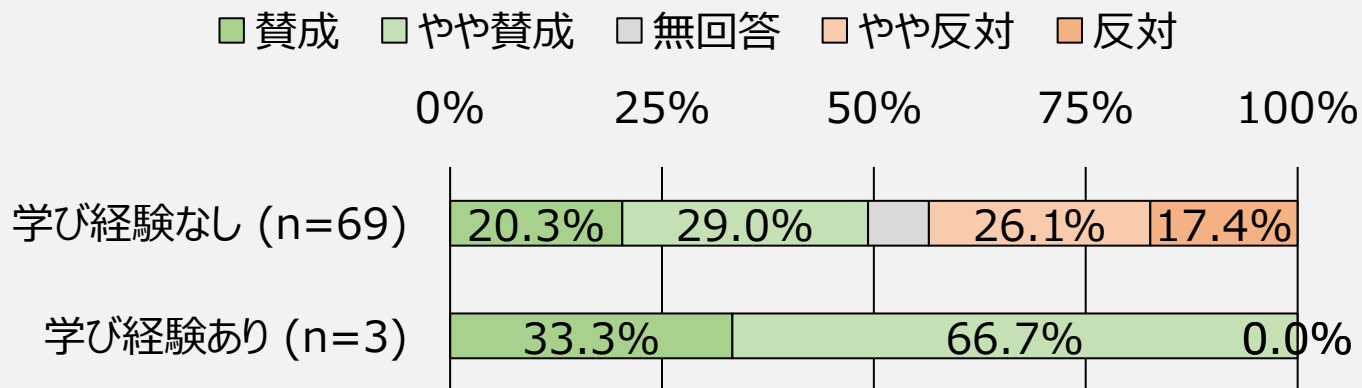
学び経験
あり群

学び経験
なし群

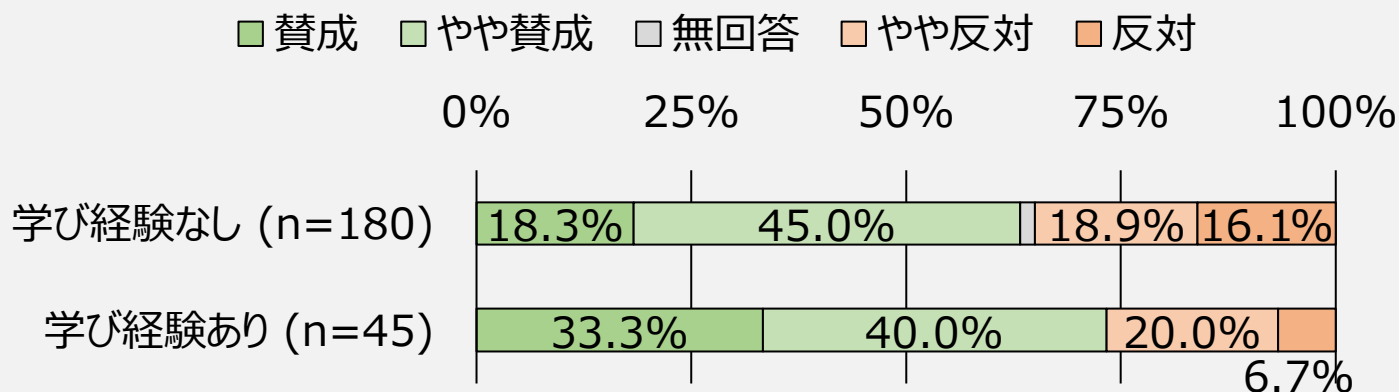
LGBT等の「企業研修・市民講座」受講有無別 同性婚賛否

本設問に対する無回答は分析から除外した。

就業状況＝経営者・役員のみ分析 (n=72)



仕事の種類＝管理職のみ分析 (n=225)



今回のような調査のタイプでは因果関係は把握できないが…、
LGBT等の研修・講座の学習経験と、同性婚〈賛成〉には、少なくとも関連性がある。

信仰・信心の有無

① 2015

問 50 宗教についておたずねします。あなたは、何か信仰や信心などをもっていますか。(○は1つ)

1. もっている

2. もっていない

② 2019

問 48 あなたには、信仰している宗教がありますか。(○は1つ)

1 ある

2 特に信仰していないが、家の宗教はある

3 ない

問 48(1)

それは何ですか。具体的に記入してください。

問 49 へ

(未分析)

信仰・信心の有無別同性婚賛否

本設問に対する無回答は分析から除外した。

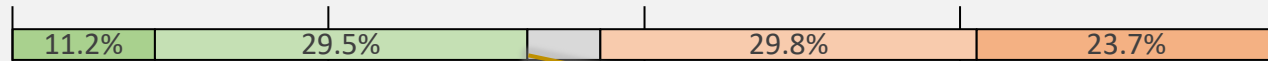
①2015 n=1222

②2019 n=2523

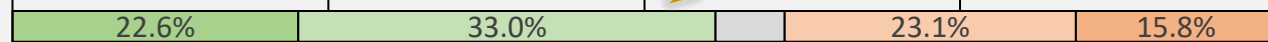
■賛成 ■やや賛成 □無回答 ■やや反対 ■反対

0% 25% 50% 75% 100%

①持っている [40.7]



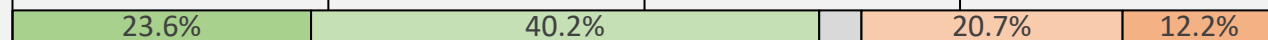
②ある [55.7]



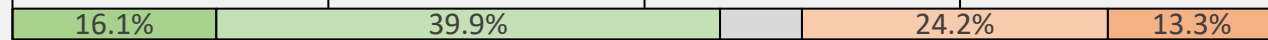
15.0pt増

①2015は2件法

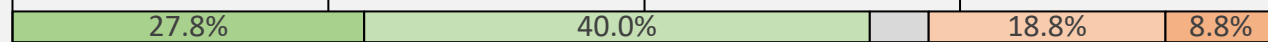
②特に信仰していないが、
家の宗教はある [63.8]



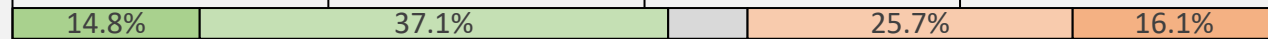
①持っていない [56]



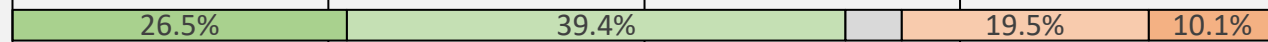
②ない [67.8]



①全体 [51.9]



②全体 [65.9]



「宗教的な心は大切か」

① 2015

問 51 従来の宗教・宗派は別として、宗教的な心は大切だ、という意見がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |

② 2019

問 49 従来の宗教・宗派は別として、宗教的な心は大切だ、という意見がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

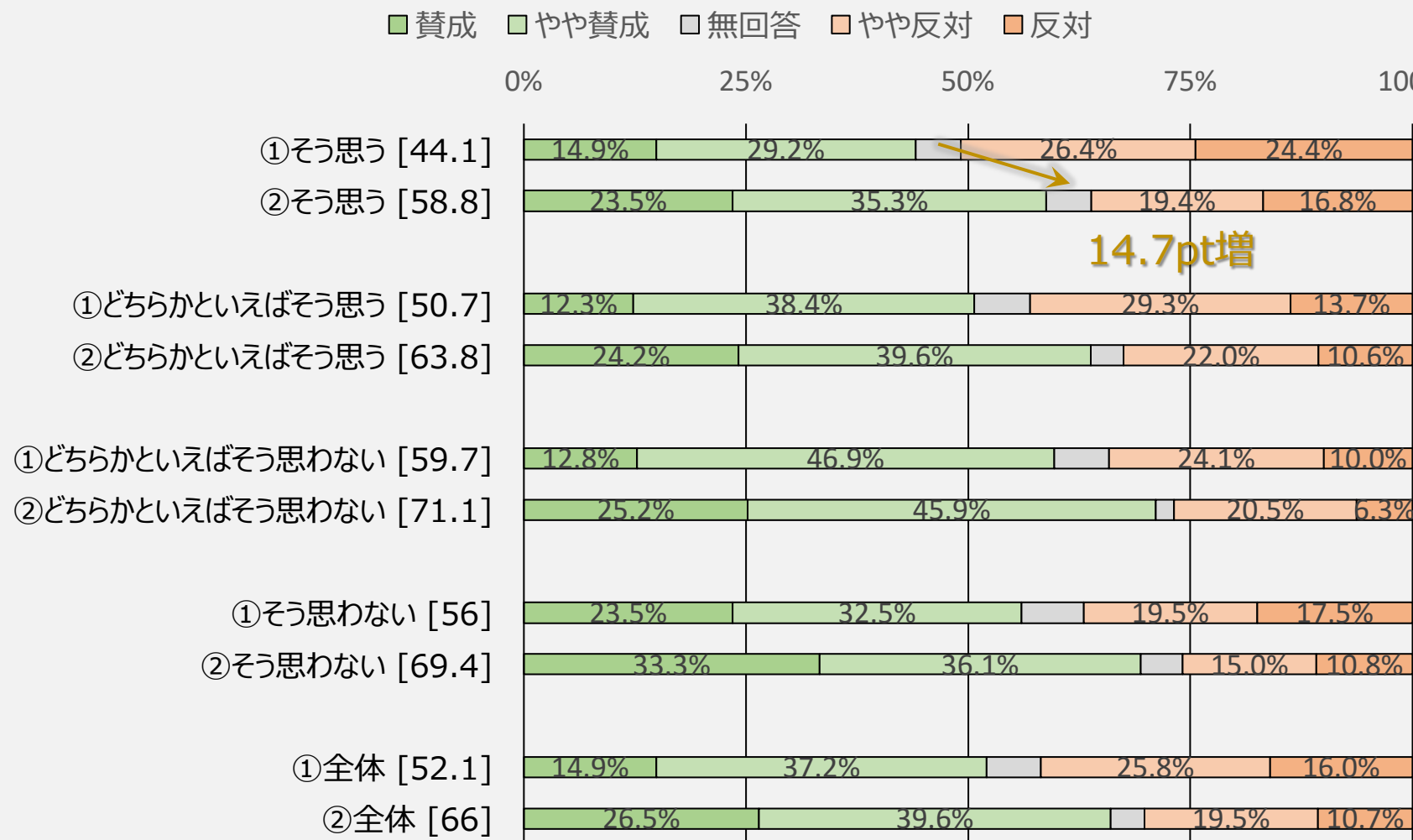
- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |

「宗教的な心は大切か」別同性婚賛否

①2015 n=1215

②2019 n=2506

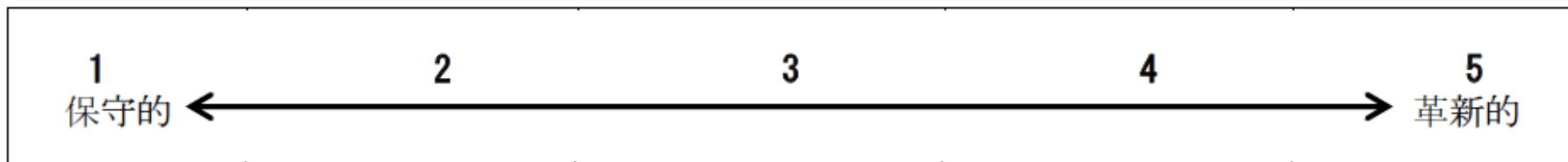
本設問に対する無回答は分析から除外した。



本人の政治観

① 2015

問 34 政治的な考え方全般を、保守的から革新的までの5段階にわけるとしたら、今のあなたはどれにあてはまりますか。あてはまる数字の上に○をつけてください。(○は1つ)



② 2019

問 30 政治的な考え方全般を、保守的から革新的までの7段階にわけるとしたら、今のあなたはどれにあてはまりますか。あてはまる数字の上に○をつけてください。(○は1つ)



本人の政治観 度数分布

① 2015

| | n | % |
|-------|-----|-----|
| 保守的 1 | 92 | 8% |
| 2 | 368 | 31% |
| 3 | 560 | 47% |
| 4 | 140 | 12% |
| 革新的 5 | 24 | 2% |
| NA | 75 | |

② 2019

| | n | % |
|-------|-----|-----|
| 保守的 1 | 143 | 6% |
| 2 | 283 | 11% |
| 3 | 593 | 24% |
| 4 | 903 | 36% |
| 5 | 385 | 15% |
| 6 | 139 | 6% |
| 革新的 7 | 50 | 2% |
| NA | 136 | |

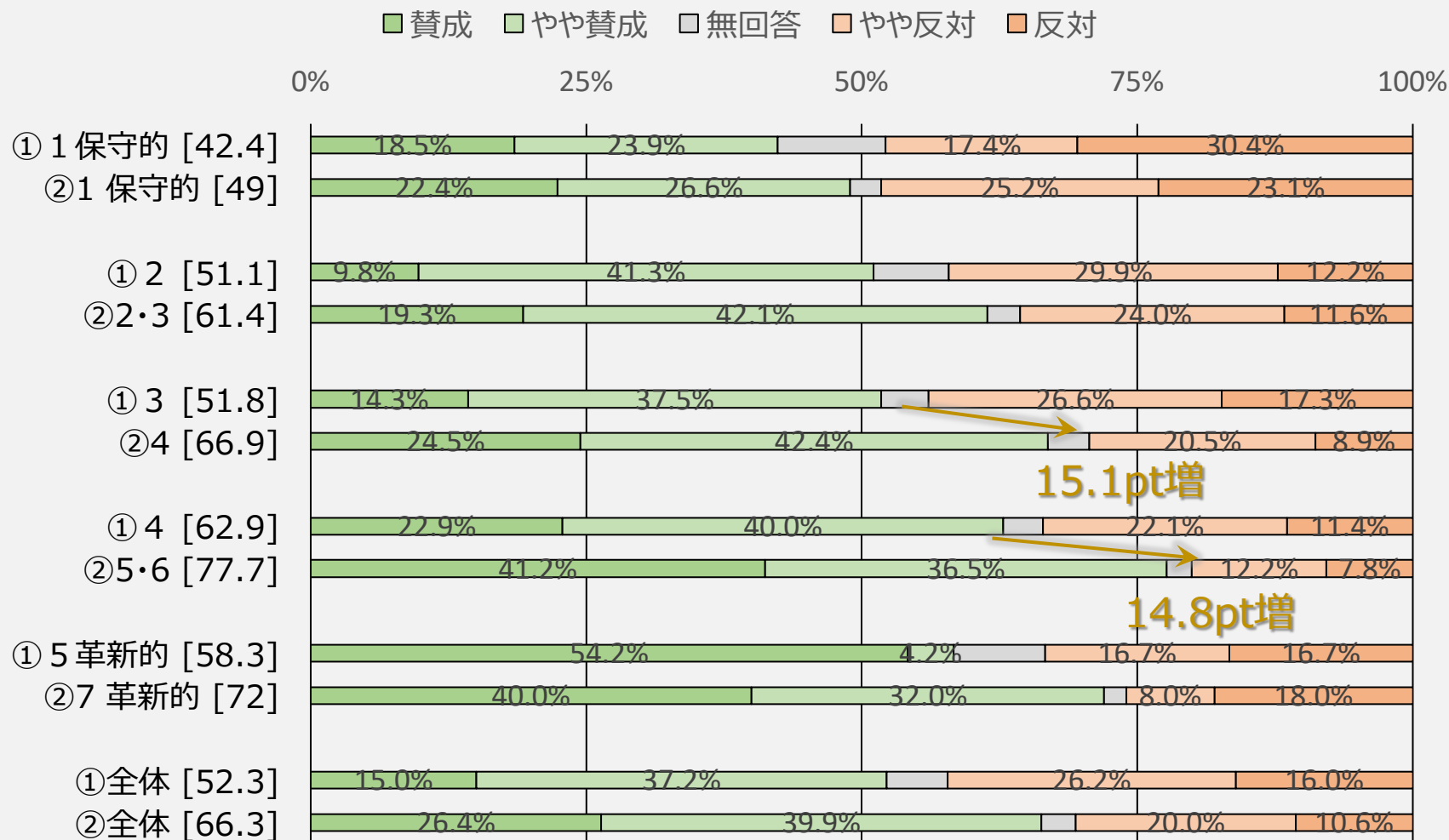
↓
色わけしたようにカテゴリ数を5に統合して分析

政治観別同性婚賛否(1) カテゴリ数5

本設問に対する無回答は分析から除外した。

①2015 n=1184

②2019 n=2496



保守1、保守2の伸び率少ない

政治観別同性婚賛否(2) カテゴリ数3

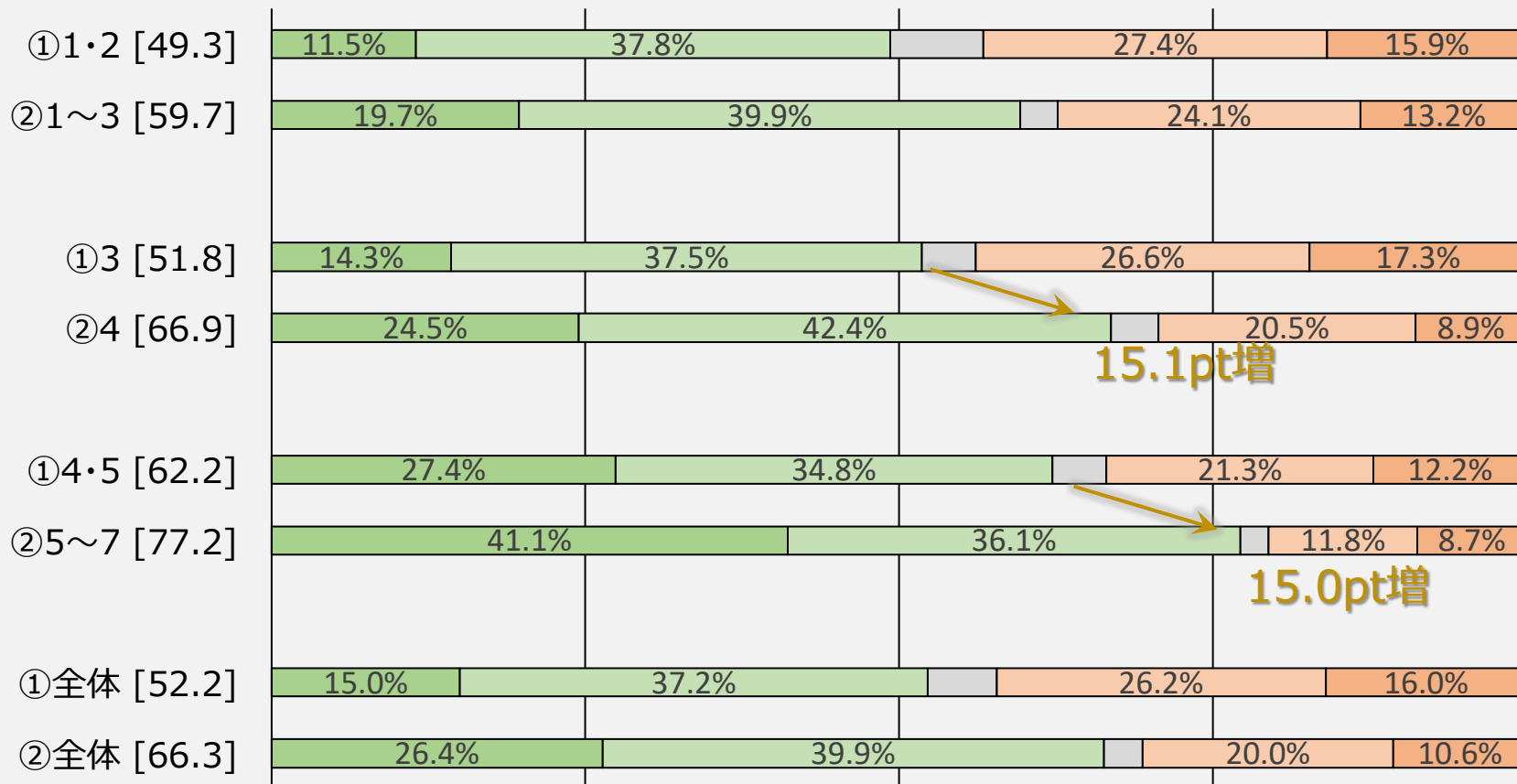
①2015 n=1184

②2019 n=2496

本設問に対する無回答は分析から除外した。

■ 賛成 ■ やや賛成 □ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対

0% 25% 50% 75% 100%



Findings 同性婚の賛否 比較結果の要点

- ✓ 同性婚の〈賛成〉割合（賛成＋やや賛成）は2015年より13.6pt増の64.8%。

〈賛成〉割合の増加が目をつけた層

- ✓ 40-50代。
- ✓ 男子校・男子部の高校出身。
- ✓ 経営者・役員、管理職。（←LGBT等の研修受講経験と関連性）
- ✓ 「宗教的な心は大切」に「そう思う」と答えた層。
- ✓ 子がいる層。
- ✓ 大卒・院卒者。

〈賛成〉割合の増加が他の層より鈍かった層

- ✓ 階層帰属意識では「中の下」。
- ✓ 本人の政治観は「保守」（2015年で"1"、2019年で"1"および"2"）。

〈賛成〉/〈反対〉の二極化が目をつけた層

- ✓ 離別経験者、結婚未経験者。

性的マイノリティと教育

吉仲 崇

報告内容

- 性的マイノリティについて義務教育で教えることの賛否
- 性的マイノリティが小学校教員になることに対する意識
- 性的マイノリティに対する啓発・人権教育との関連

性的マイノリティについて 義務教育で教えることの賛否

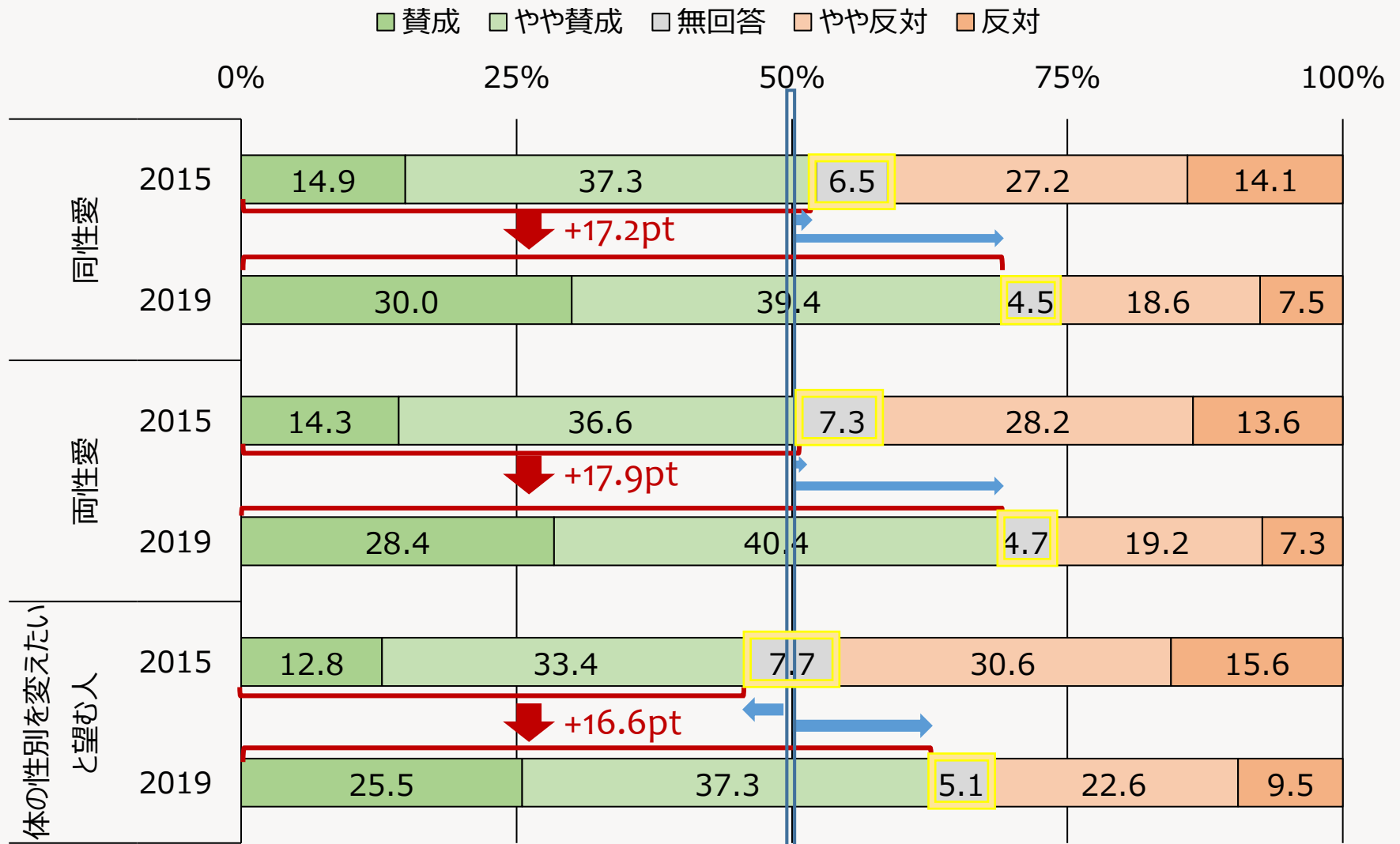
設問内容

問 21 次のア～キの意見についてあなたは賛成ですか、反対ですか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを 1、2、3、4 から 1 つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は 1 つ)

| | 賛成 | やや賛成 | やや反対 | 反対 |
|--|----|------|------|----|
| (ア) 同性愛という性のあり方があることを、義務教育で教えること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (イ) 両性愛(男女両方に性愛感情を持つ)という性のあり方があることを、義務教育で教えること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (ウ) 体の性別を変えたいと望む人のことを義務教育で教えること | 1 | 2 | 3 | 4 |

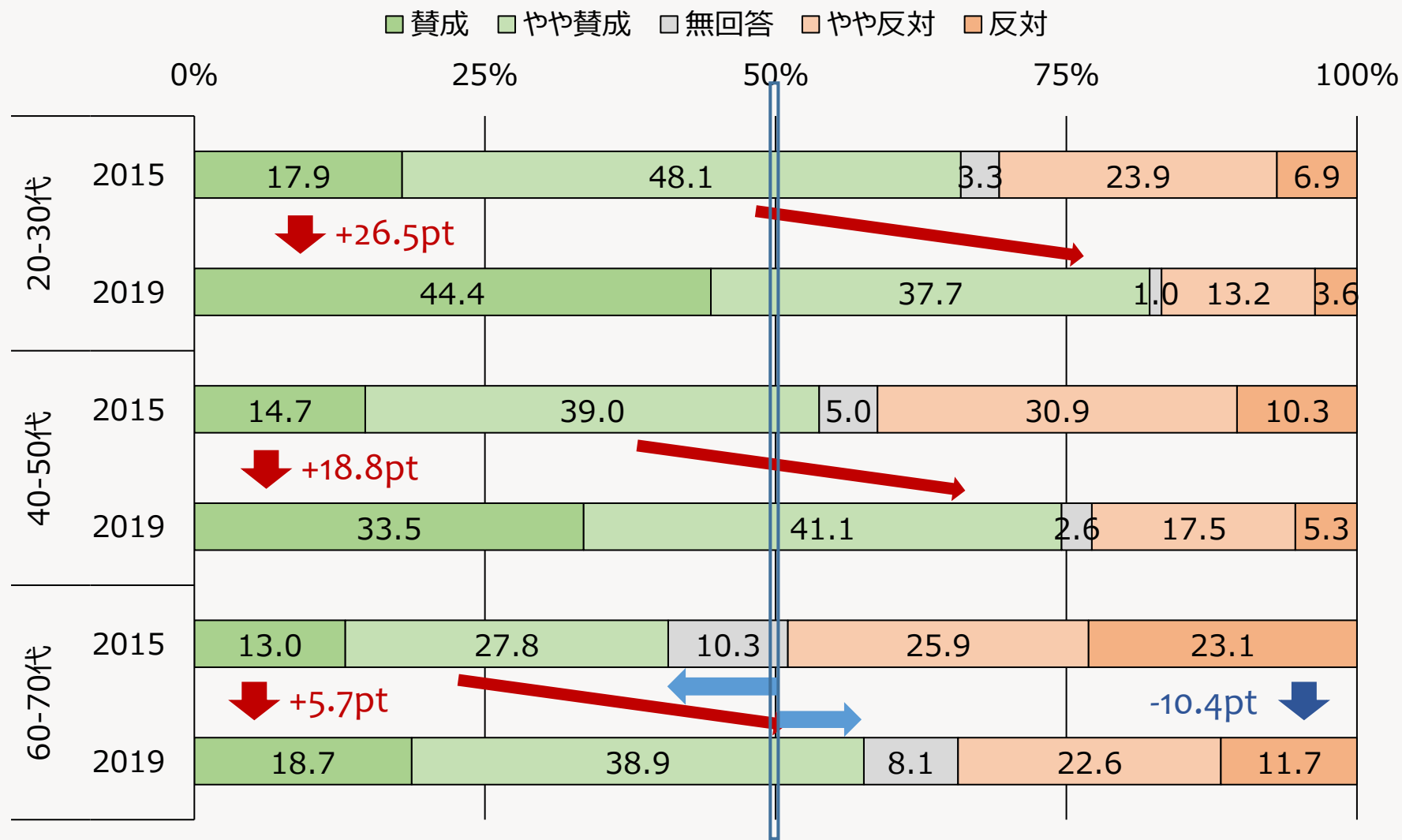
※回答は、賛成～やや賛成～やや反対～反対の4件法

義務教育で教えることの賛否（全体）



賛成+やや賛成の合計 = 賛成側が大幅に上昇。すべて過半数に

同性愛を義務教育で教えることの賛否（年代別）



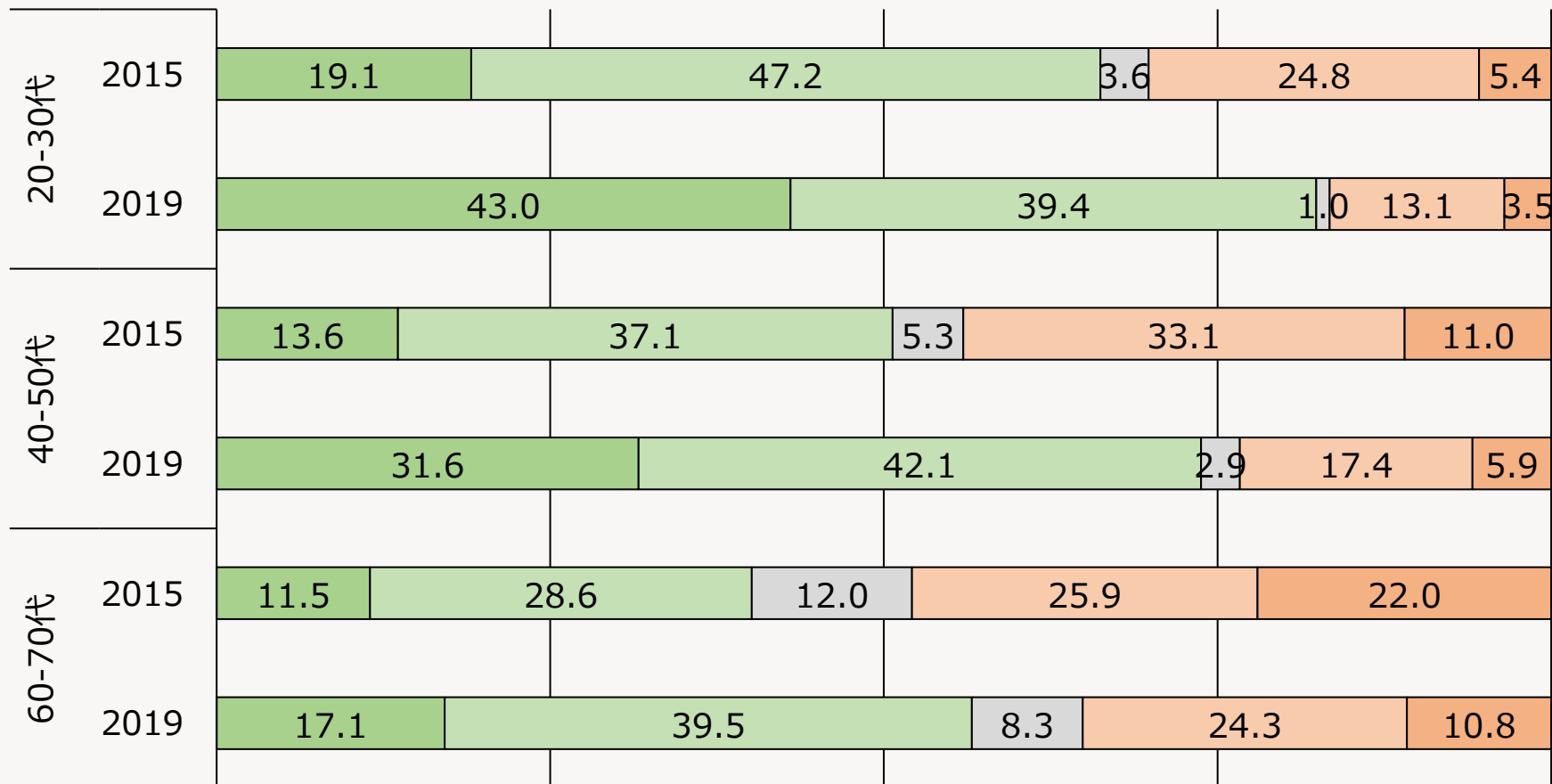
50代まで「賛成」の上昇幅が大。60-70代も賛成側が過半数に



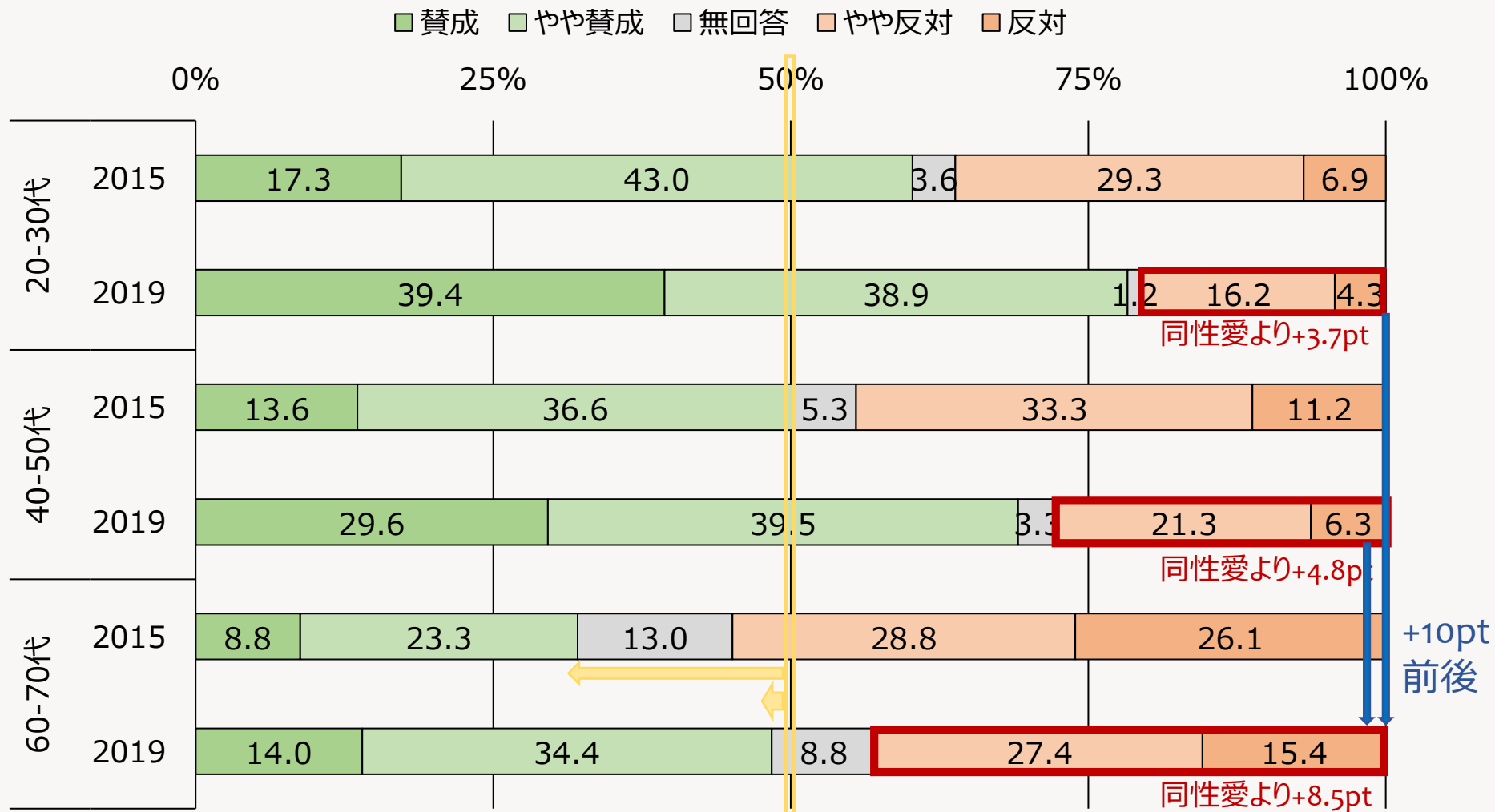
両性愛を義務教育で教えることの賛否（年代別）

■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対

0% 25% 50% 75% 100%



体の性別を変えたいと望む人のことを 義務教育で教えることの賛否（年代別）

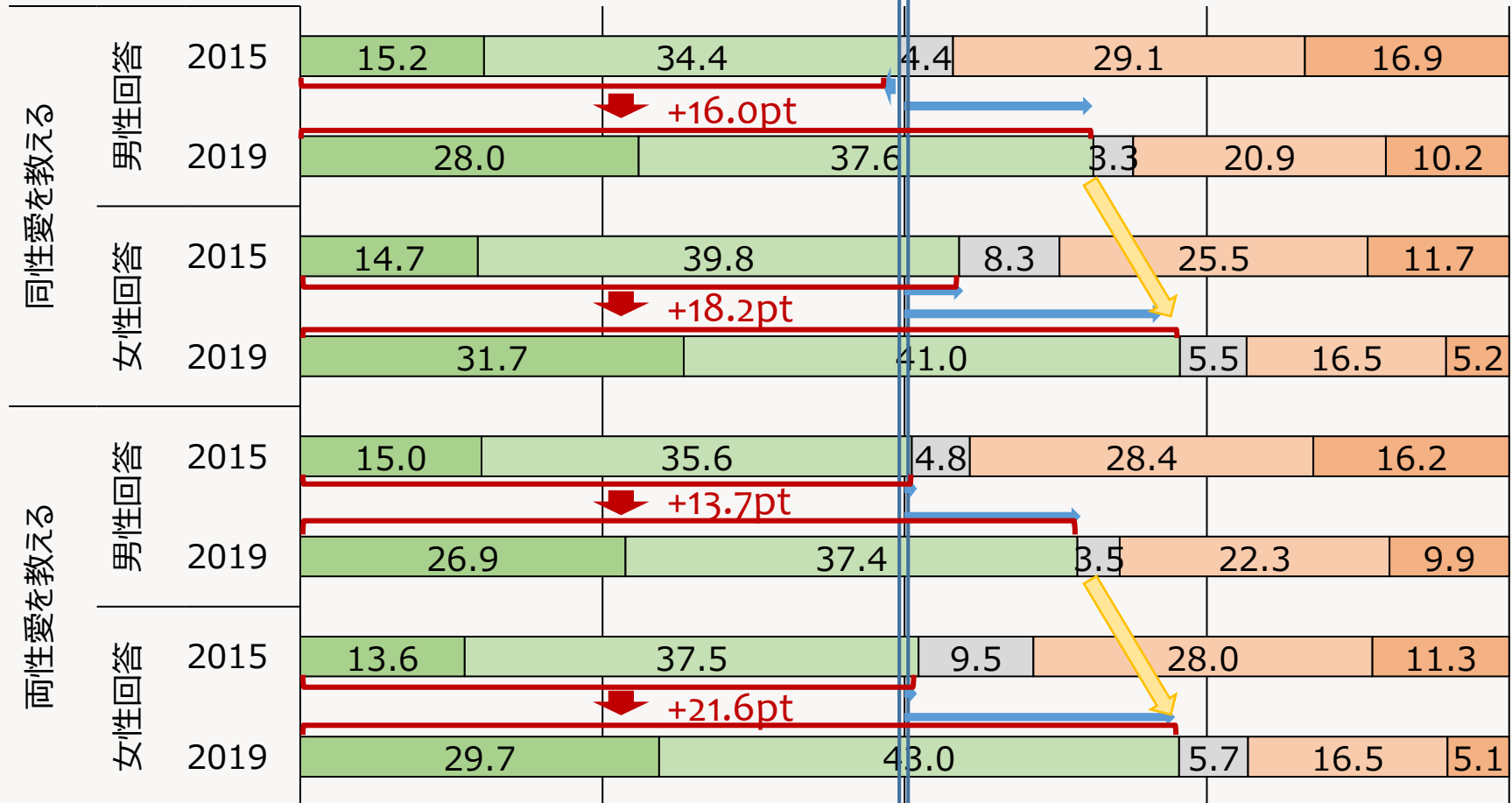


同性愛/両性愛と比べて反対側に傾く傾向。2019年も60-70代の賛成側が唯一半数に届かず

同性愛/両性愛を義務教育で教えることの賛否 (性別)

■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対

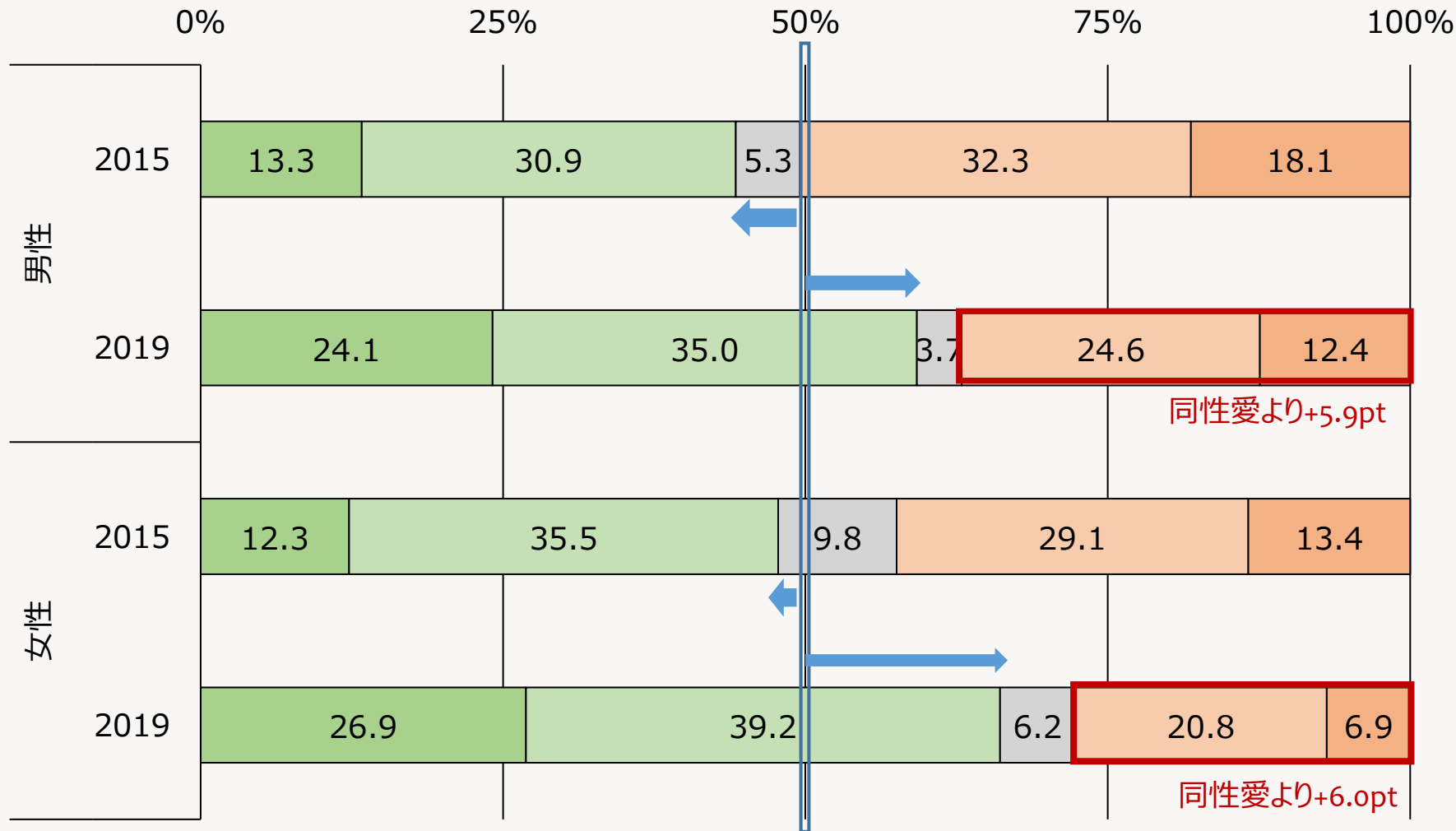
0% 25% 50% 75% 100%



2019年は男性も賛成側が同性愛/両性愛ともに半数を上回る

体の性別を変えたいと望む人のことを 義務教育で教えることの賛否（性別）

■ 賛成 ■ やや賛成 □ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対



同性愛/両性愛と比べて反対側に傾く傾向。ただし2019は男女とも賛成側が過半数に



義務教育で教えることへの賛否まとめ

2015年と2019年の比較

変化した特徴

- 2019年はすべての区分において、賛成とやや賛成をあわせた数が過半数に

(体の性別を変えたいと望む人を義務教育で教えること：60-70代を除く)

- すべての区分において賛成およびやや賛成が上昇
- 50代以下の賛成の上昇幅が大きい

同様だった特徴

- 若年層になるほど、教えることに対して賛成が多い
- 男性より女性のほうが、教えることに対して賛成が多い
- 同性愛/両性愛を教えることよりも、体の性別を変えたいと望む人のことを教えることへの反対が多い

性的マイノリティが教員になること
に対する意識

設問内容

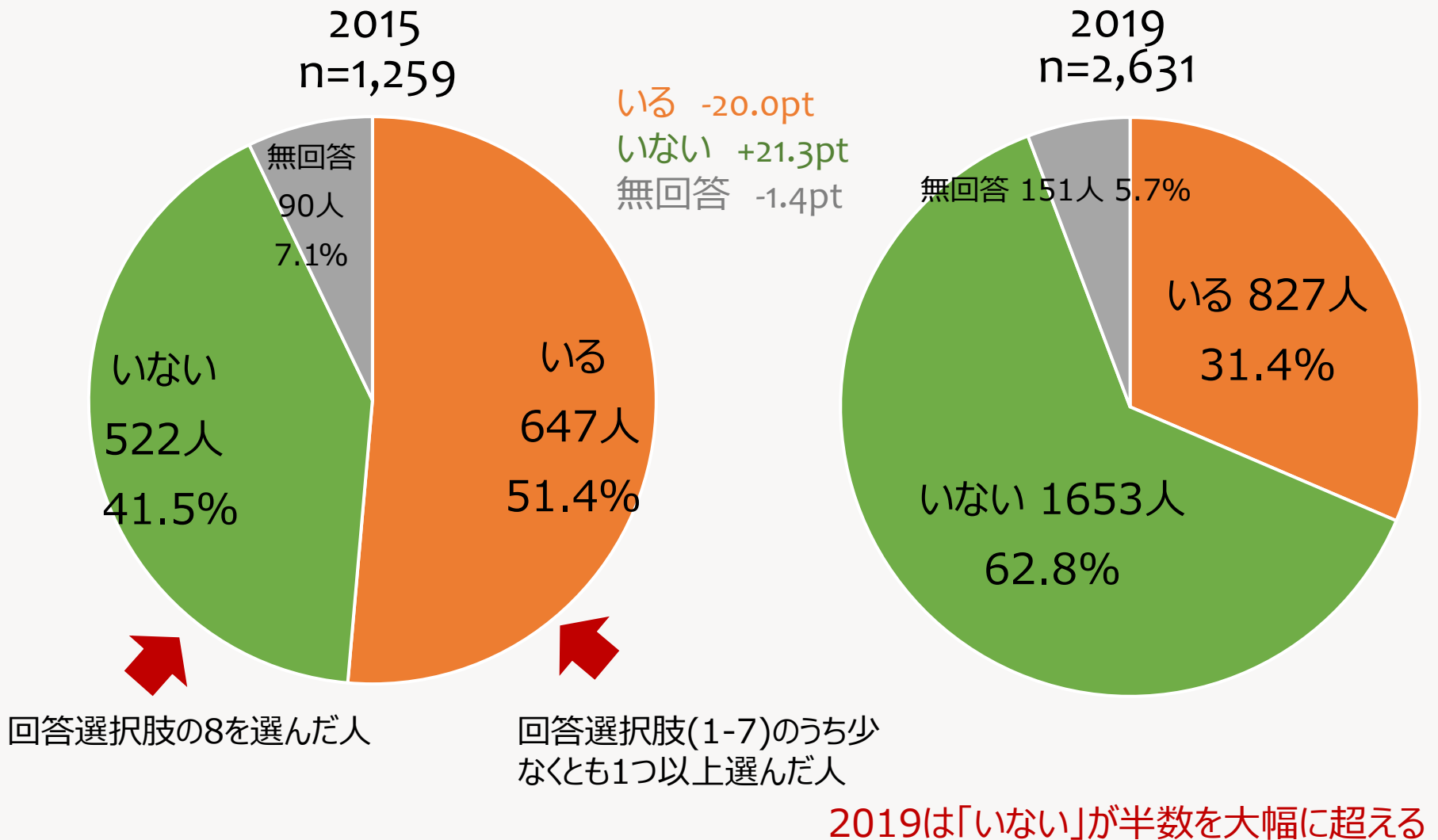
問 22 学校教育に関してのあなたの意見をおたずねします。以下の人たちの中で、小学校の教員になってほしくないと思う人に、○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 同性愛の男性 | 5 独身の女性 |
| 2 同性愛の女性 | 6 性別を、女性から男性に変えた人 |
| 3 男女両方に性愛感情を抱く人(両性愛の人) | 7 性別を、男性から女性に変えた人 |
| 4 独身の男性 | 8 この中にはいない |

- 4 独身の男性 ※2019年のみ
5 独身の女性 ※2019年のみ

※複数回答 (「この中にはいない」を除く)

小学校の教員になってほしくない 性的マイノリティがいるか（全体）



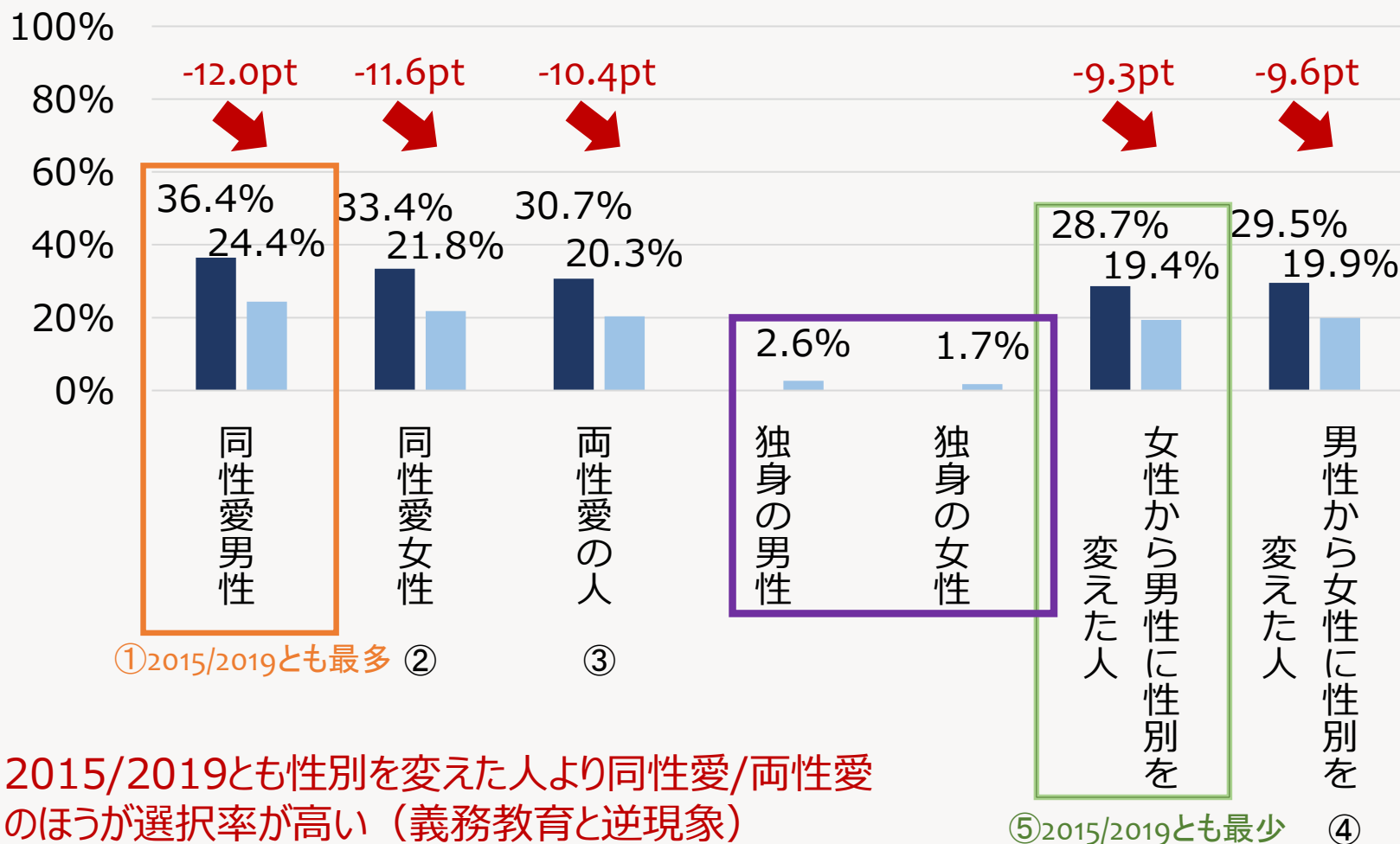
小学校の教員になってほしくない性的マイノリティ

複数回答

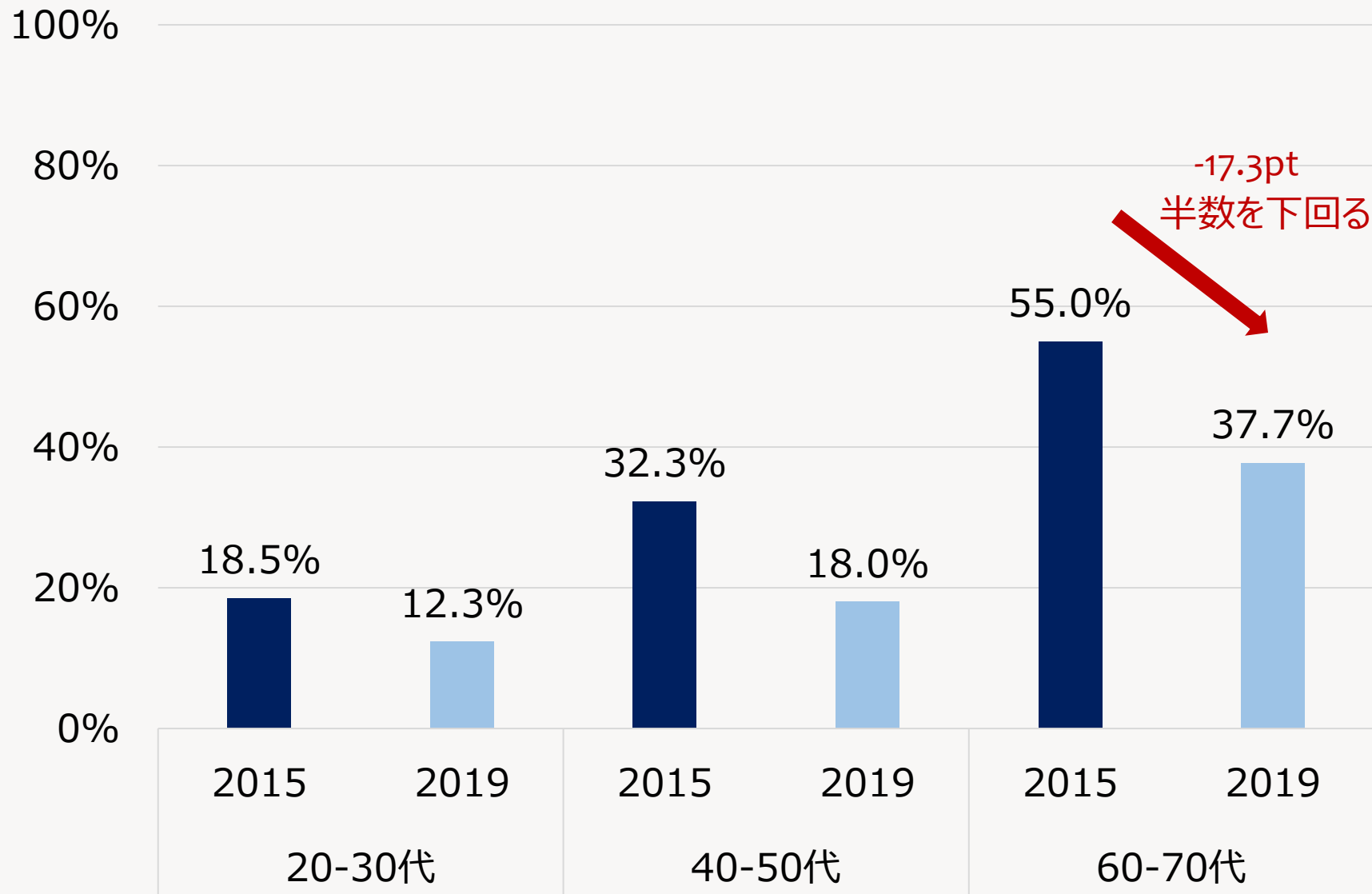
%は有効回答1,169人に対する割合（2015）

2,480人に対する割合（2019）

■ 2015 ■ 2019

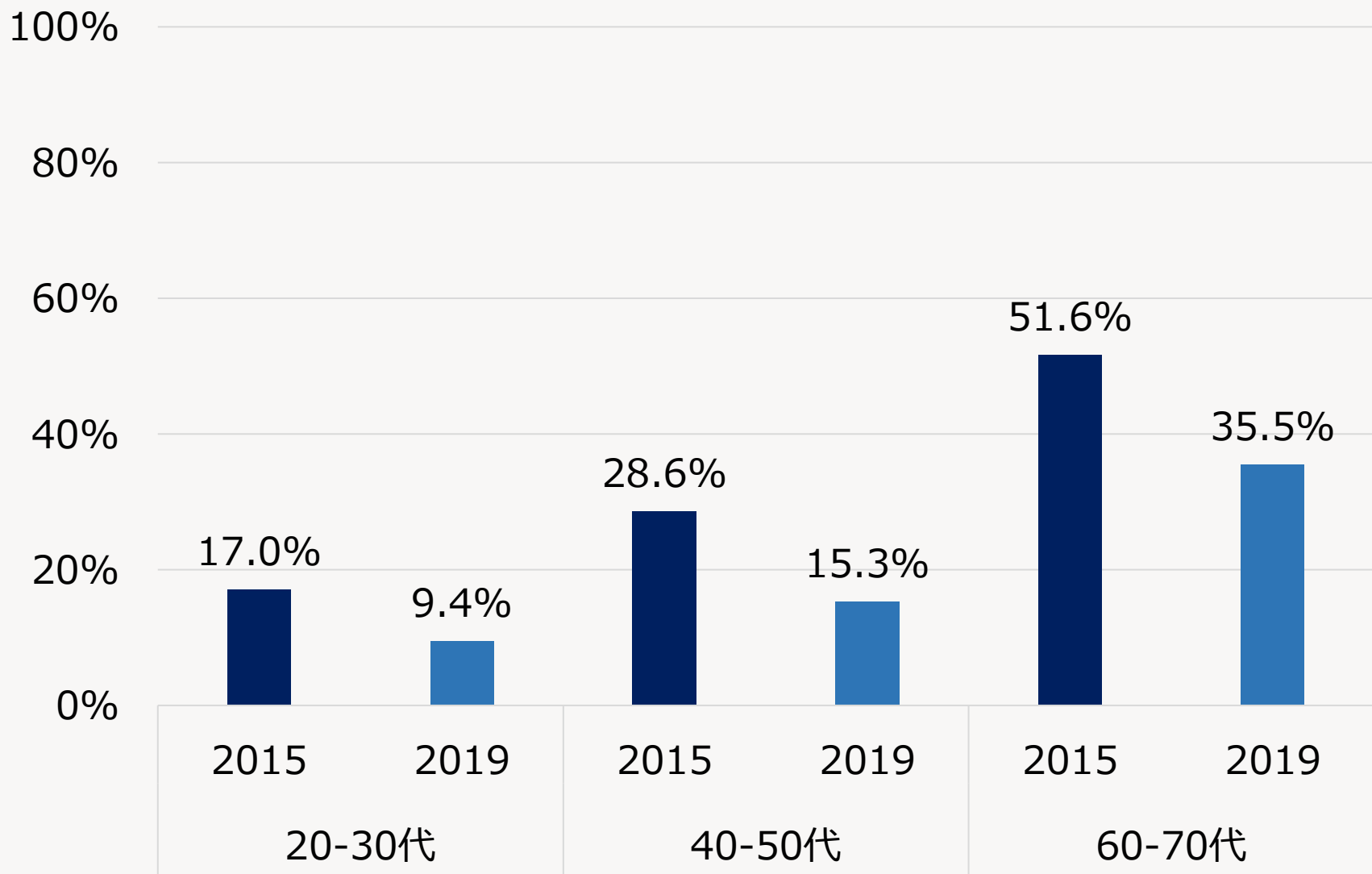


同性愛男性に小学校教員になってほしくない人 (年代別)



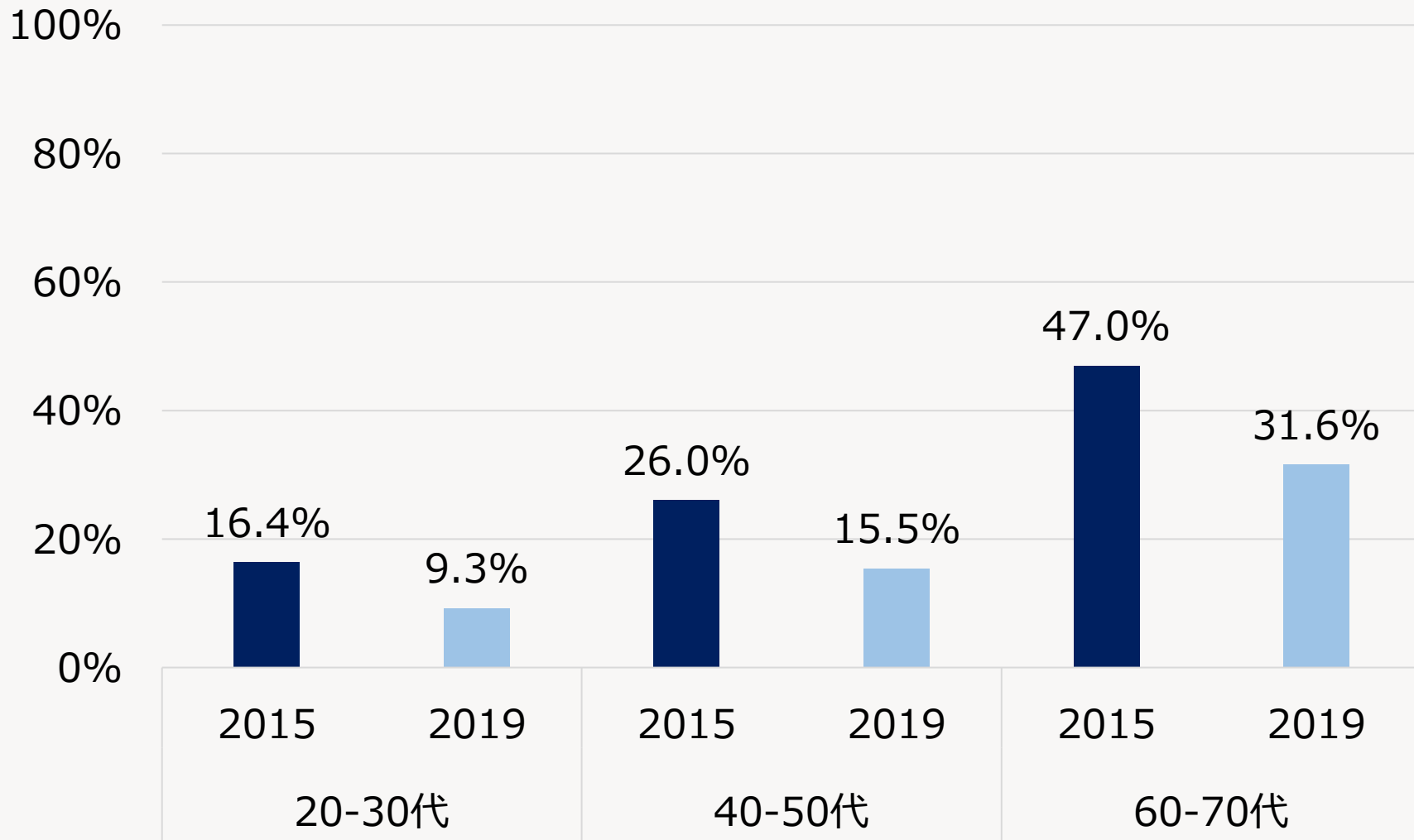


同性愛女性に小学校教員になってほしくない人 (年代別)



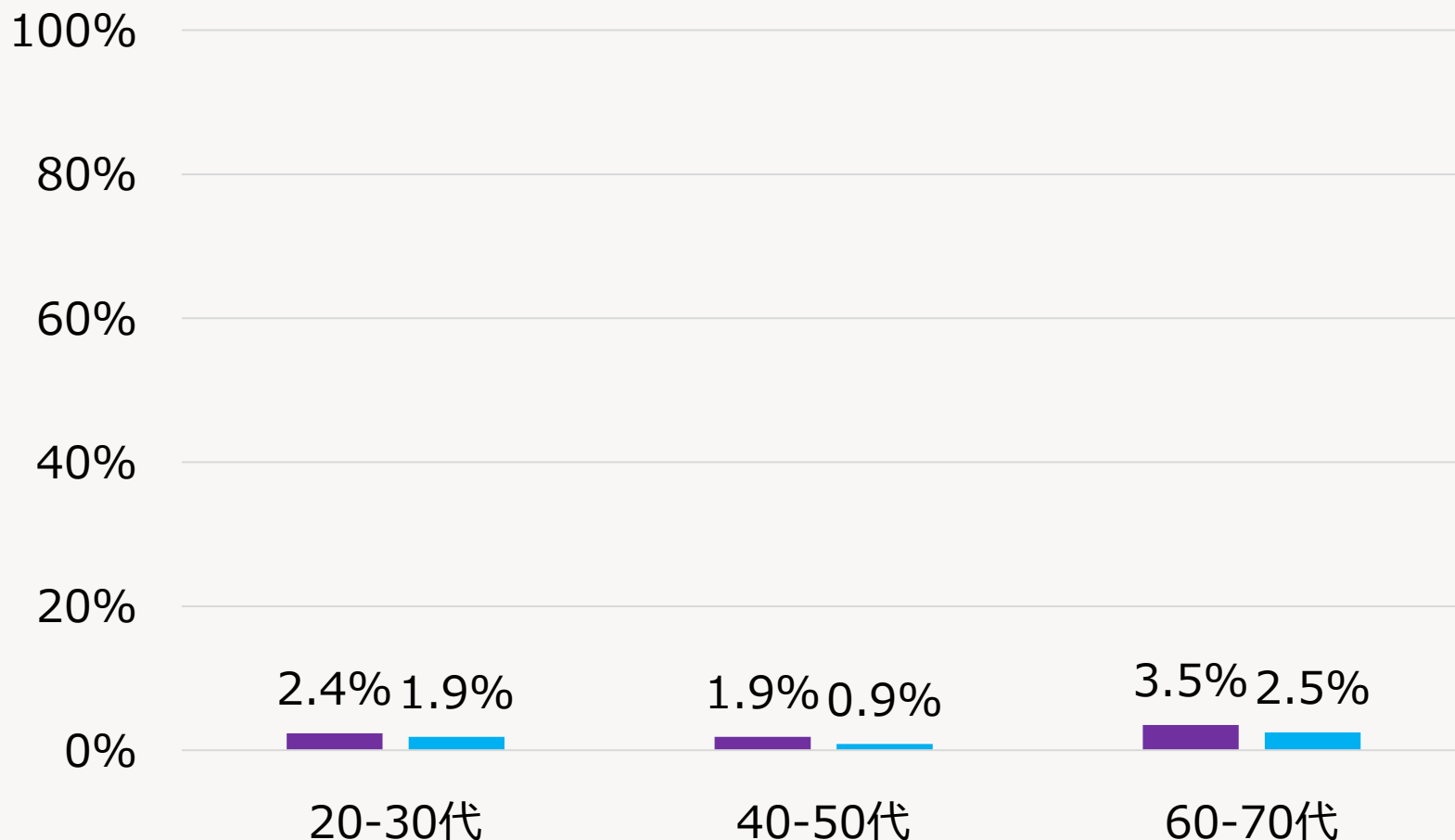


両性愛の人に小学校教員になってほしくない人 (年代別)

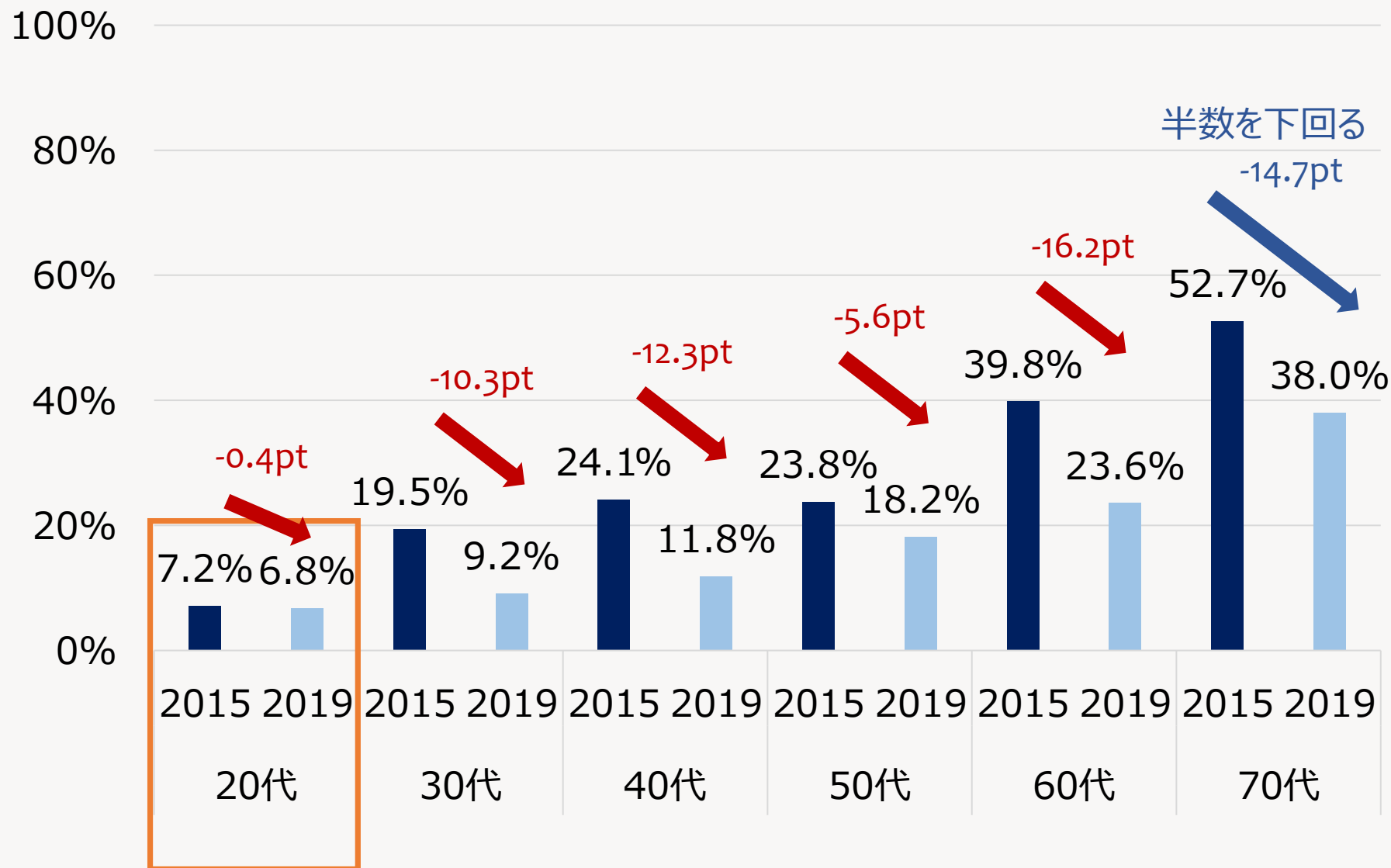


独身の人に小学校教員になってほしくない人 (年代別)

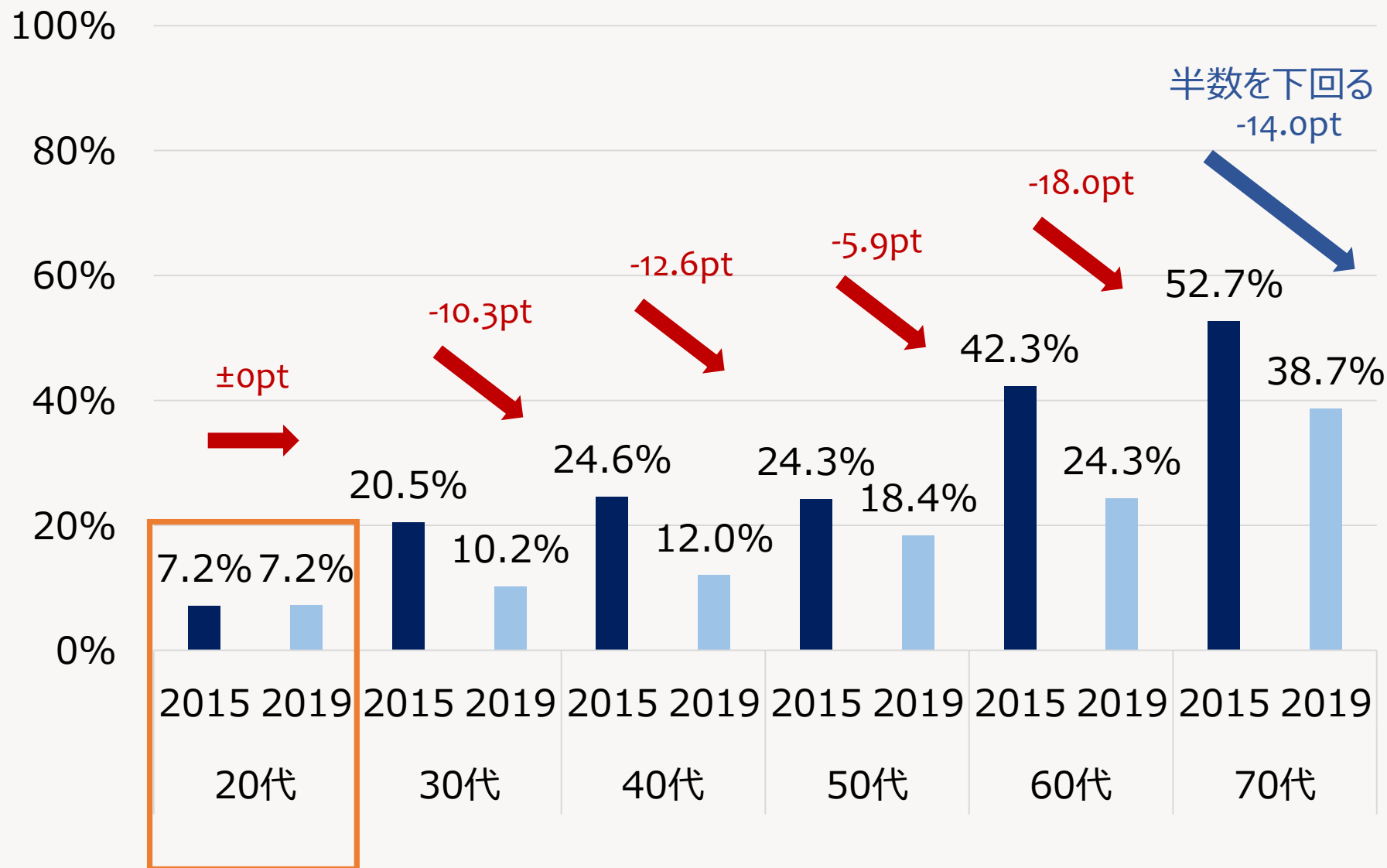
■ 独身の男性 ■ 独身の女性



性別を女性から男性に変えた人に 小学校教員になってほしくない人（年代別）

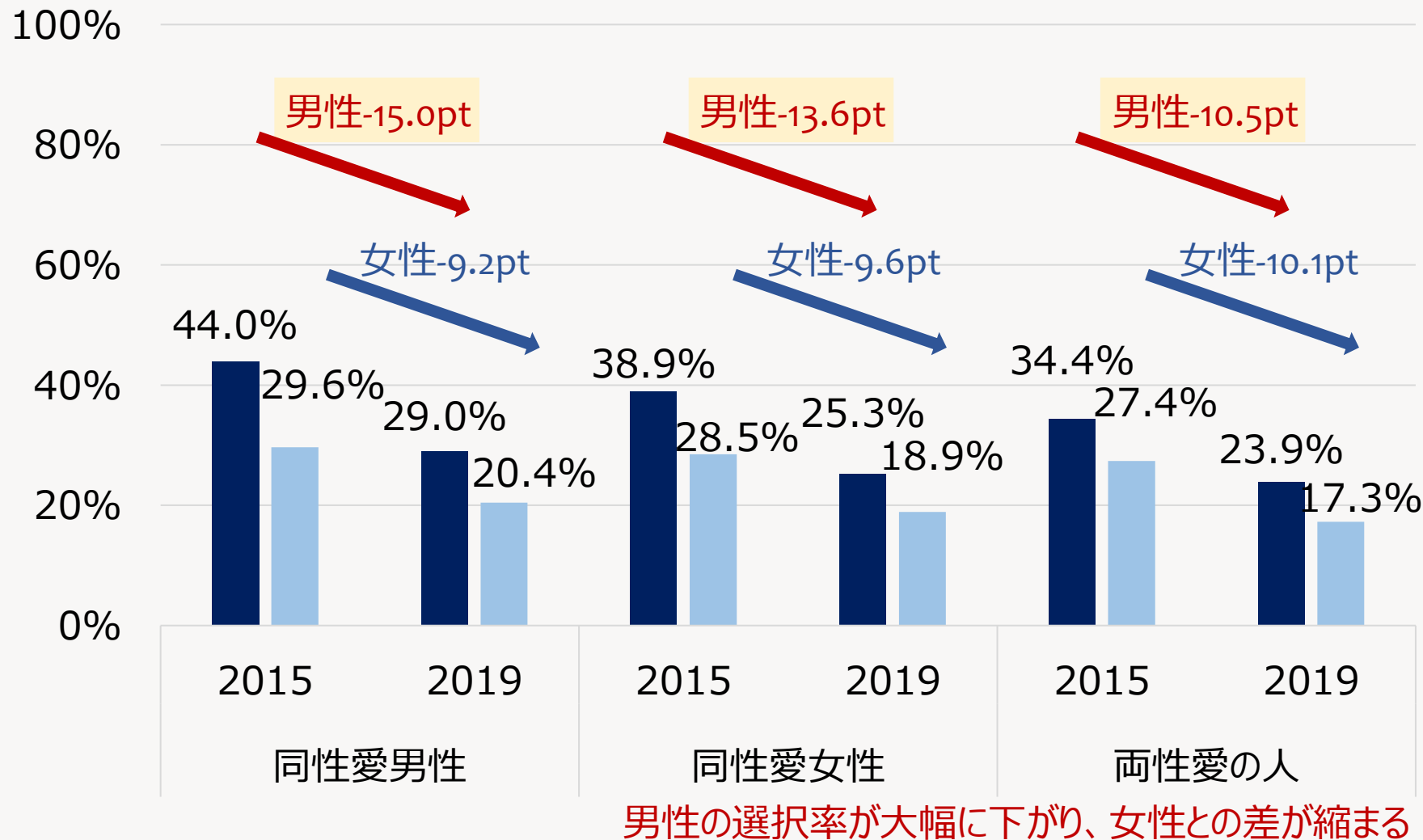


性別を男性から女性に変えた人に 小学校教員になってほしくない人（年代別）



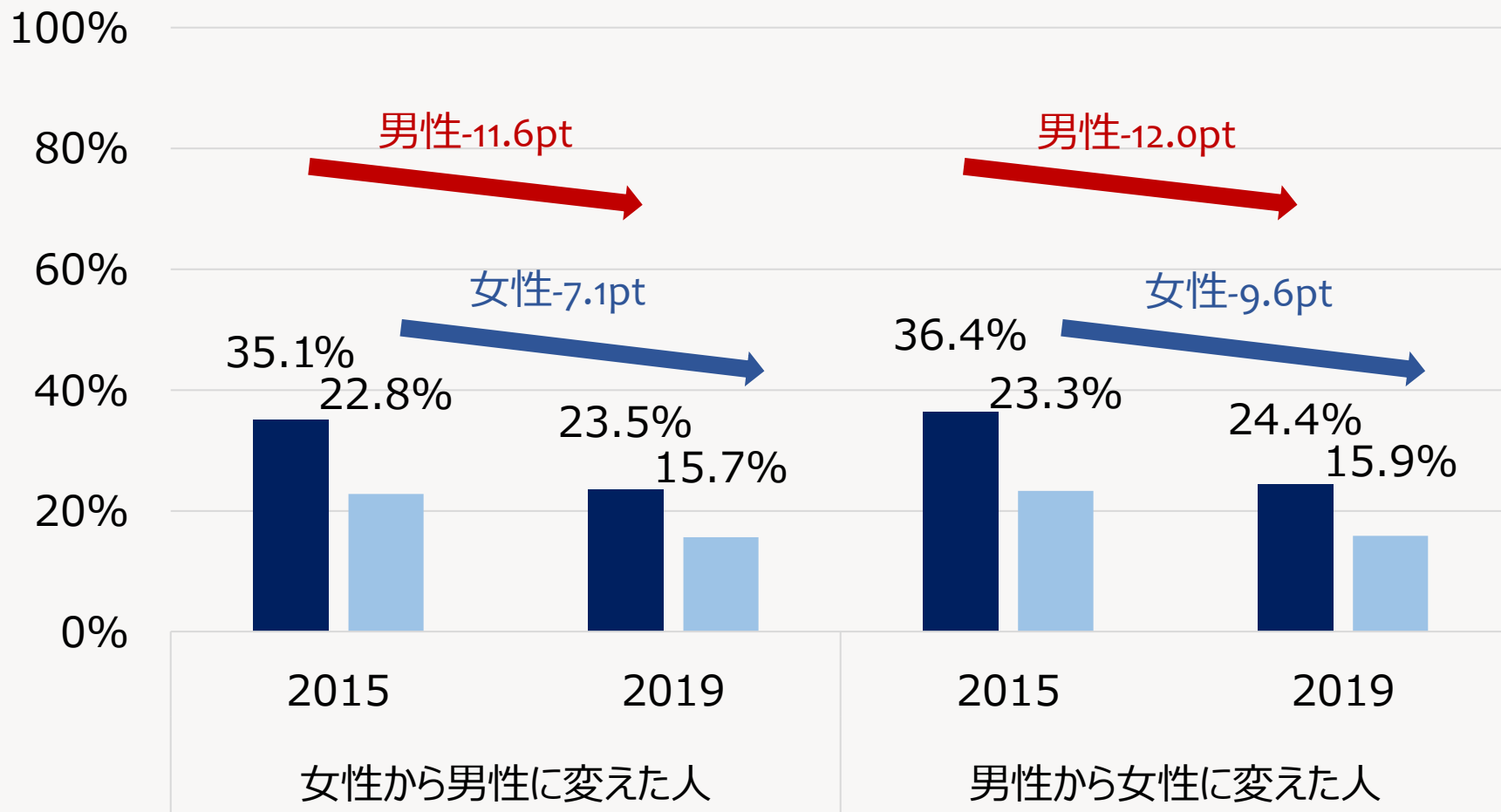
以下の性的マイノリティに 小学校教員になってほしくない人（性別）

■ 男性 ■ 女性




以下の性的マイノリティに 小学校教員になってほしくない人（性別）

■ 男性 ■ 女性



女性→男性より、男性→女性のほうが選択割合がわずかに高い



性的マイノリティが小学校教員になることに対する意識まとめ

2015年と2019年の比較

変化した特徴

- 小学校教員になってほしくない
なんらかの性的マイノリティが「
いる」と答えた人は、20pt減少
- すべての区分で減少。2015
年より選択率が上回った結果
は1つもない
- 高齢者の選択率の大幅な減
少、70代は半数を下回る
- 男性の選択率の大幅な減少
、女性との差が縮まる

同様だった特徴

- 小学校教員になってほしくない
性的マイノリティは、同性愛男性
が一番多く、性別を変えた人の
ほうが少ない
(義務教育で教えることの賛否と逆の結果)
- 年代別において、年齢が高いほ
うが、選択率が高い
- 男女別において、男性より女性
のほうが、選択率が少ない
- 女性から男性に変えた人より男
性から女性に変えた人のほうが
選択率が高いが、差はわずか

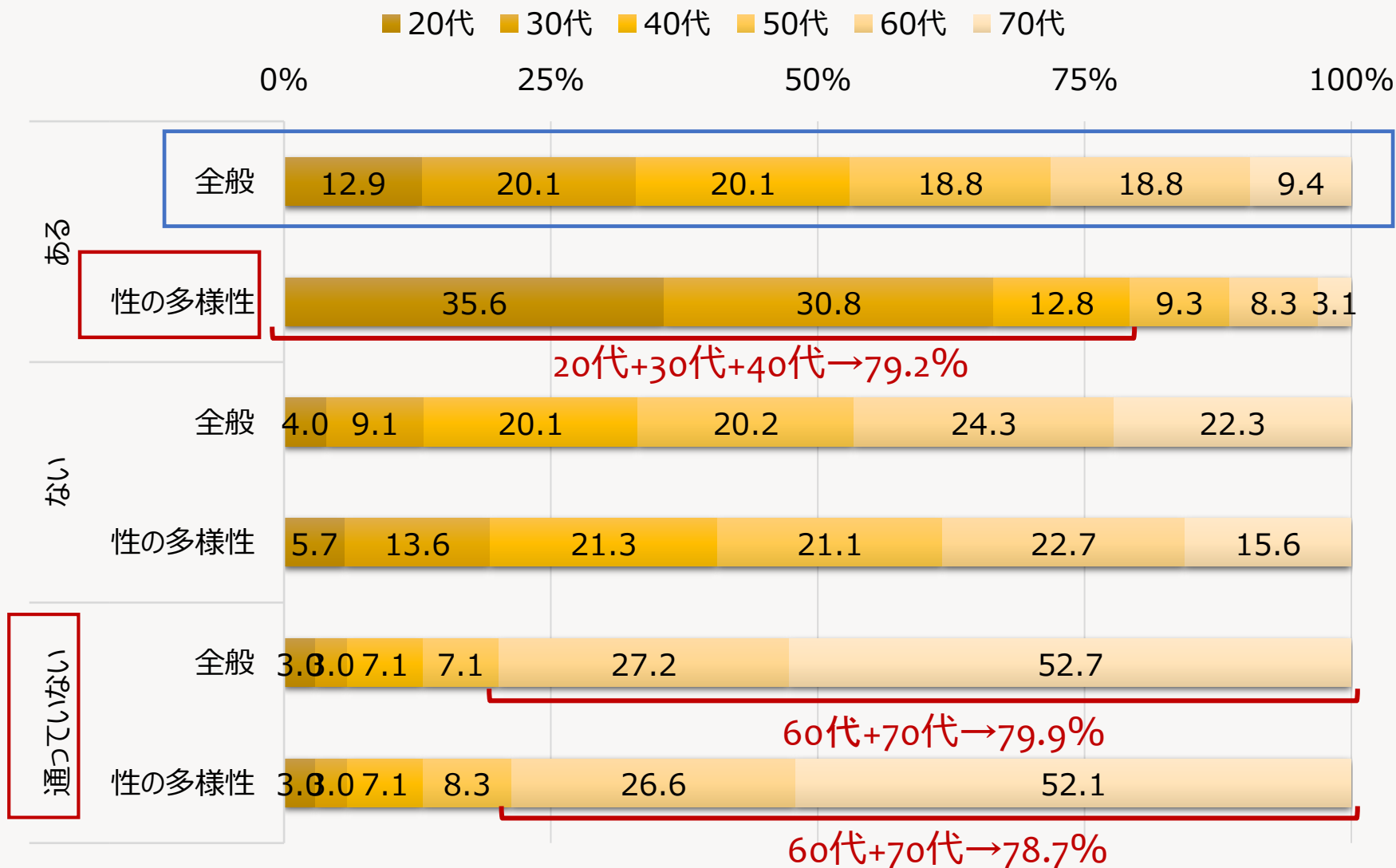
人権教育を受けた経験による
意識・イメージの差異

設問内容

問 11 あなたは学校の授業や市民講座などで、人権や性に関することを学んだことはありますか。アとイのそれぞれについて、学んだことがある場合は「ある」に、ない場合は「ない」に○をつけてください。また、その学校に通ったことのない方は「通っていない」に○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

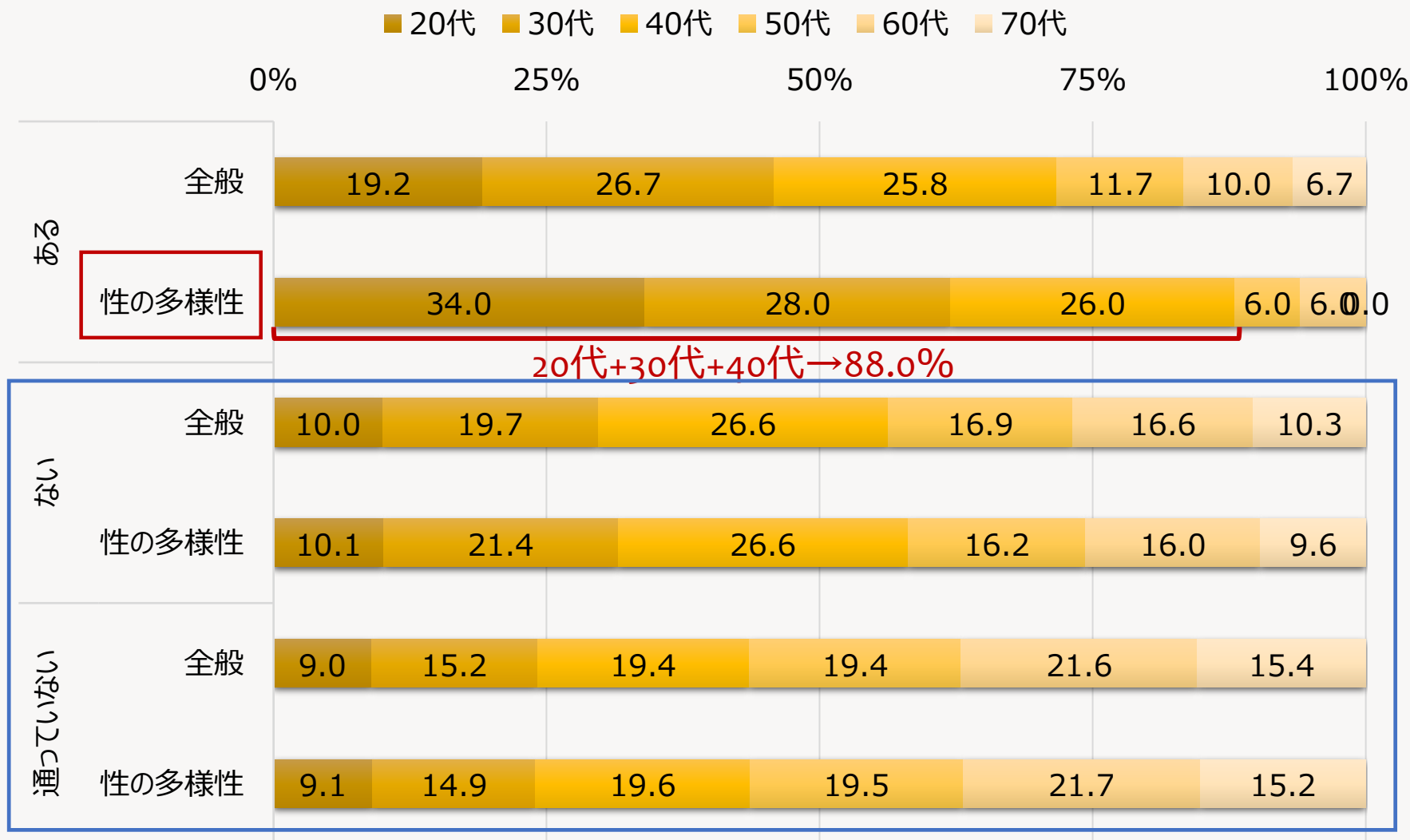
| | 高校 | | | 専門学校 | | | 大学・大学院 | | | 企業研修・ 市民講座 | | |
|------------------------------------|----|----|------------|------|----|------------|--------|----|------------|---------------|----|------------|
| (ア) 人権全般 | ある | ない | 通って いない | ある | ない | 通って いない | ある | ない | 通って いない | ある | ない | 通って いない |
| (イ) 同性愛・両性愛、 性同一性障害、 性の多様性など | ある | ない | 通って いない | ある | ない | 通って いない | ある | ない | 通って いない | ある | ない | 通って いない |

高校で人権教育を受けた経験（年代別）



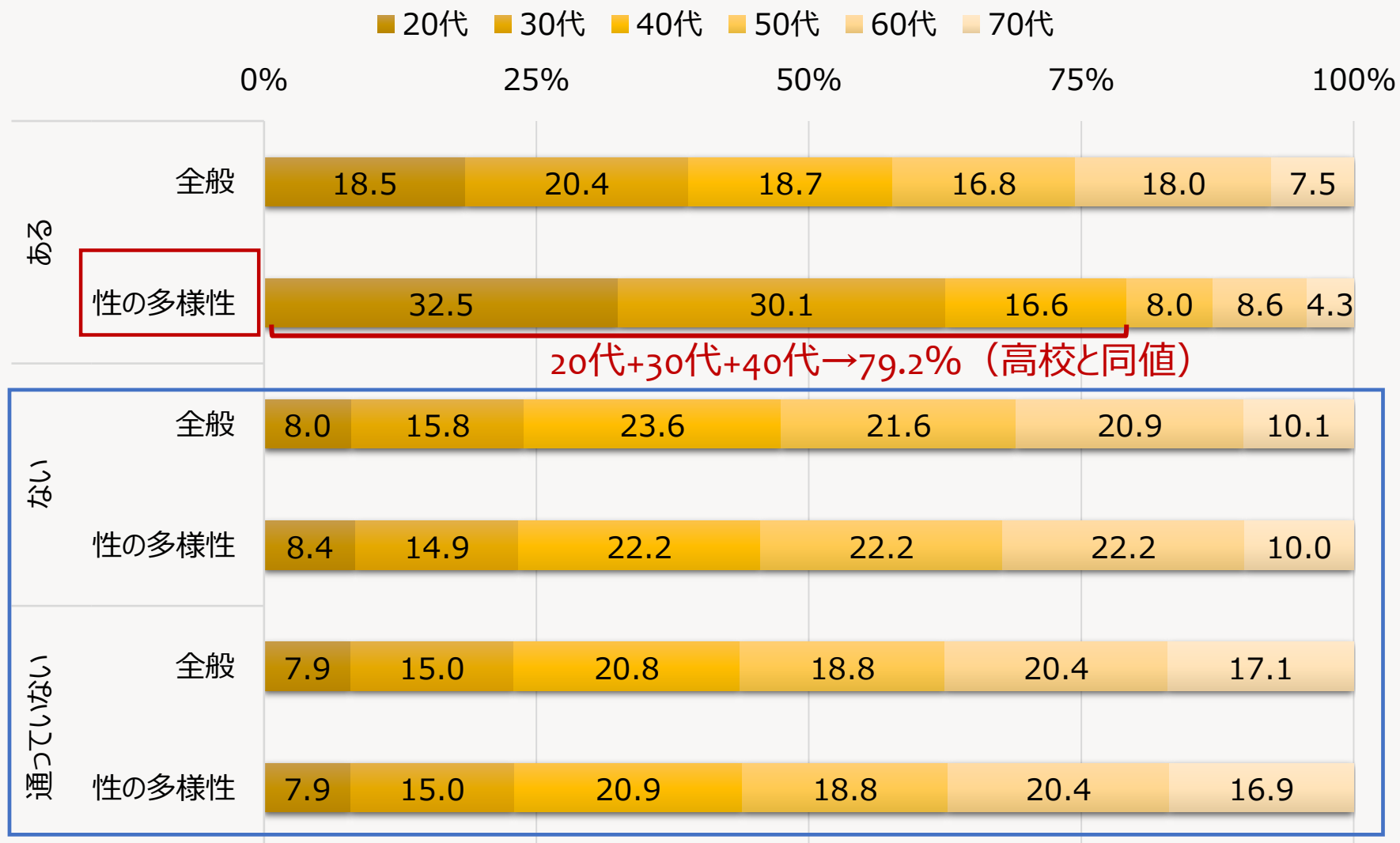


専門学校で人権教育を受けた経験（年代別）





大学・大学院で人権教育を受けた経験（年代別）

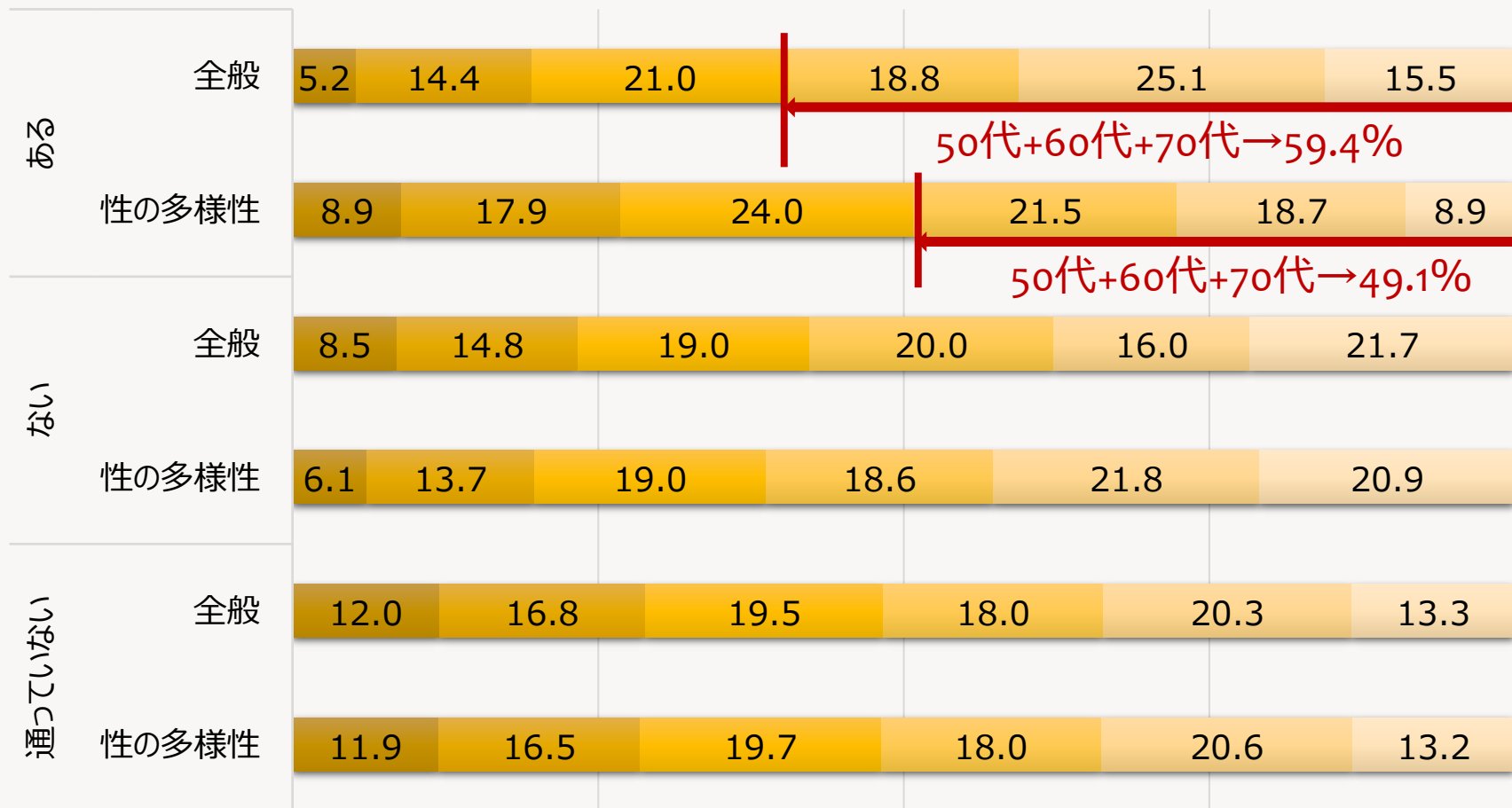




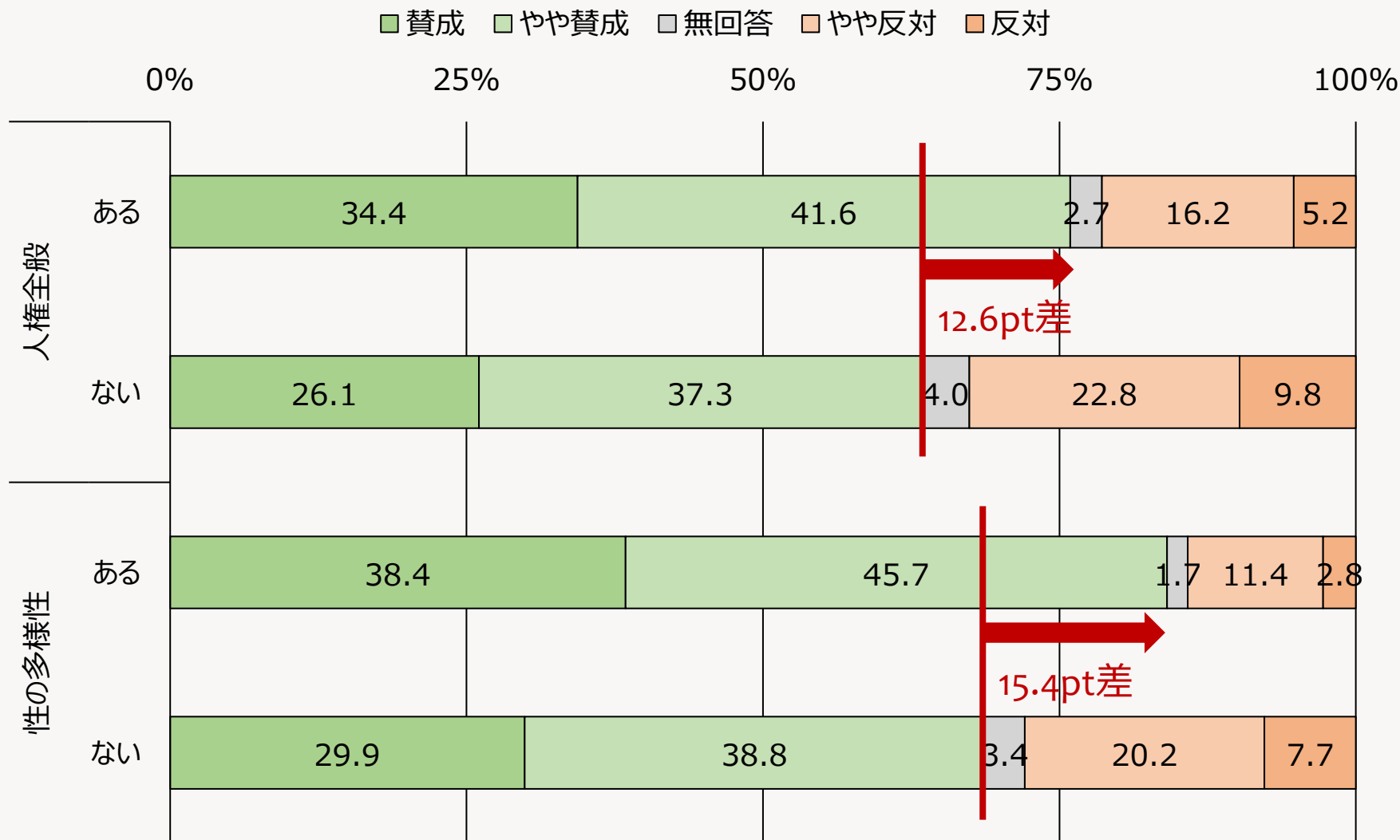
市民講座・企業研修で人権教育を受けた経験 (年代別)

■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

0% 25% 50% 75% 100%



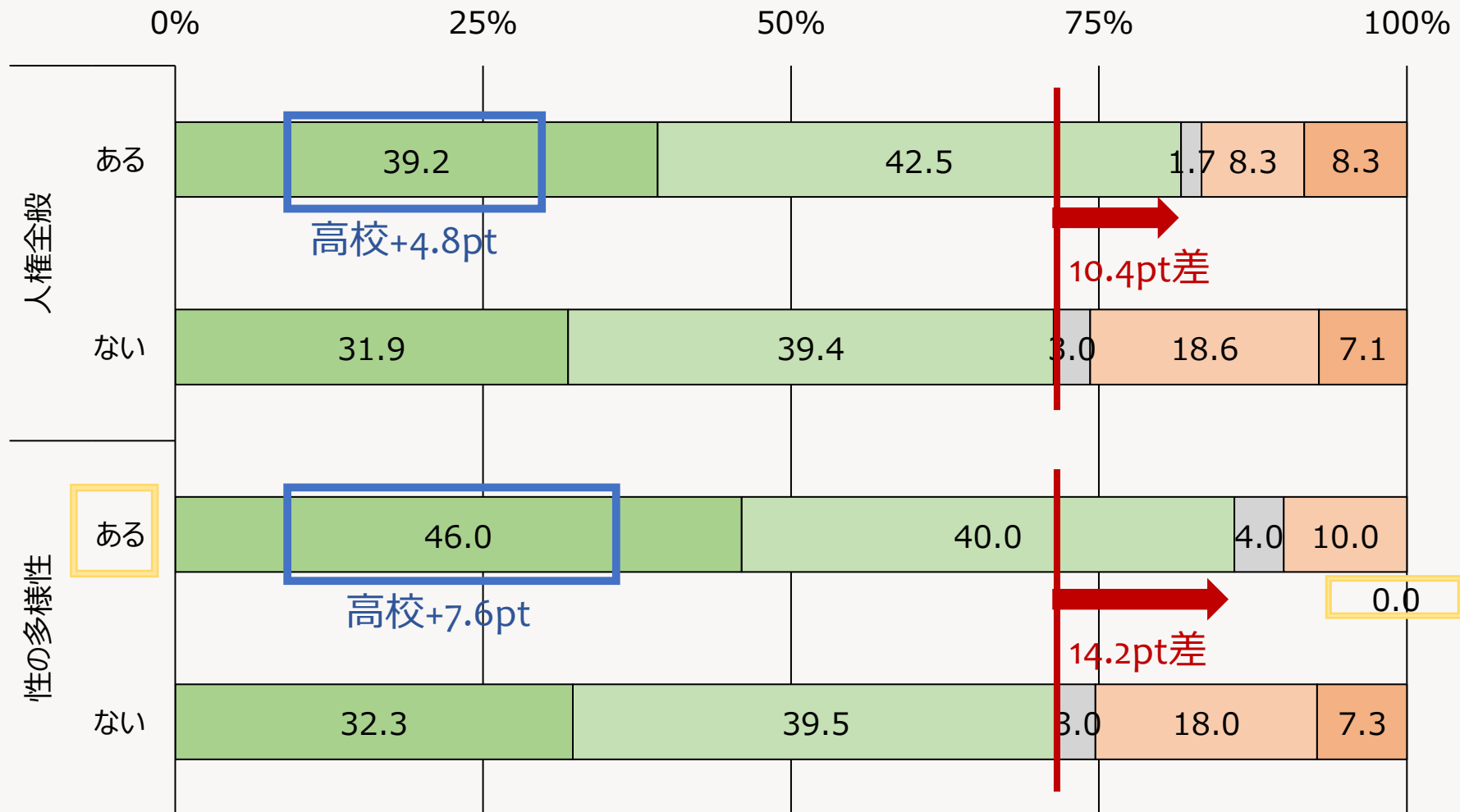
同性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・高校)



人権全般、性の多様性問わず、受けた経験があるほうが賛成側が多い

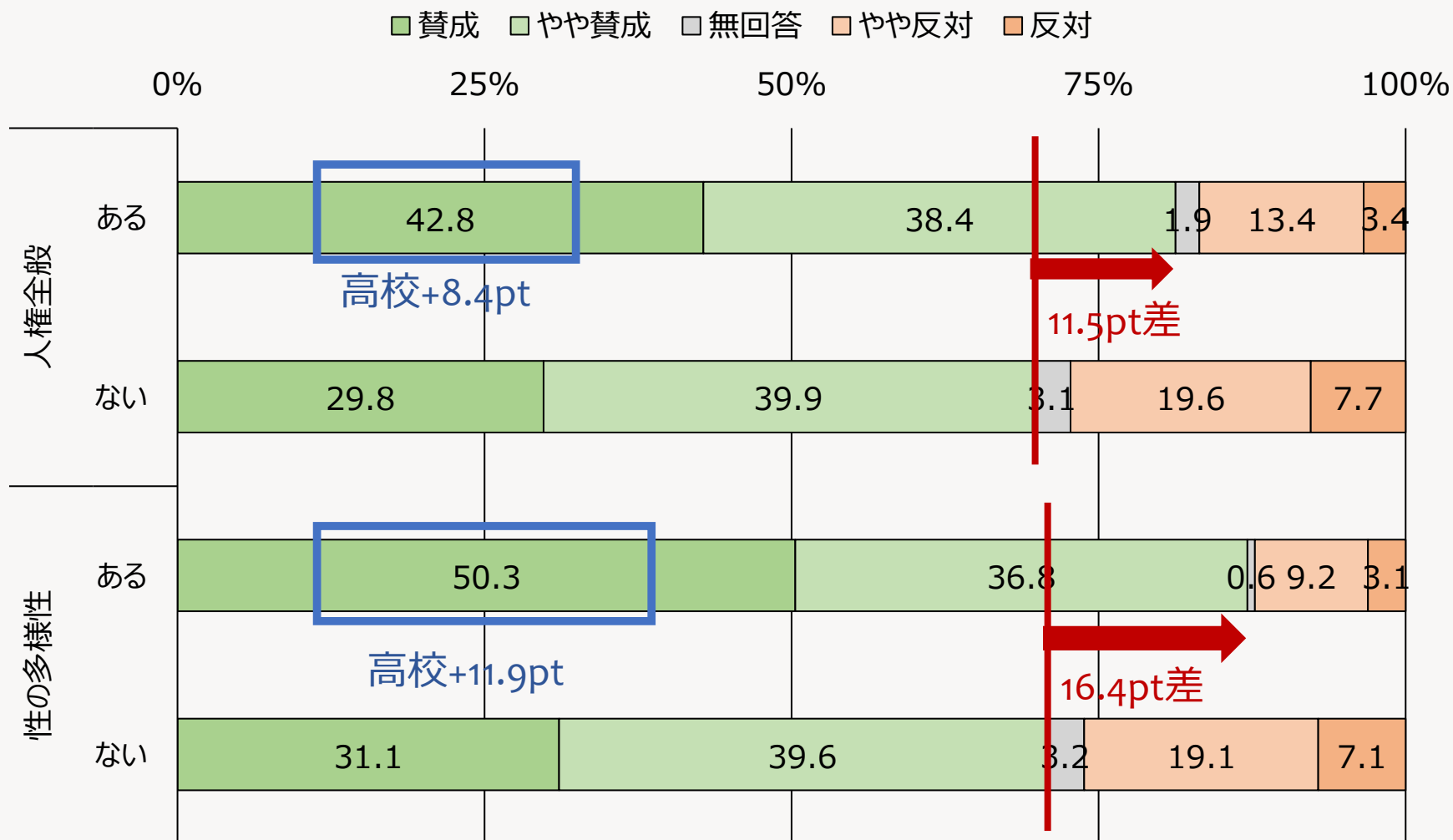
同性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・専門学校)

■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対



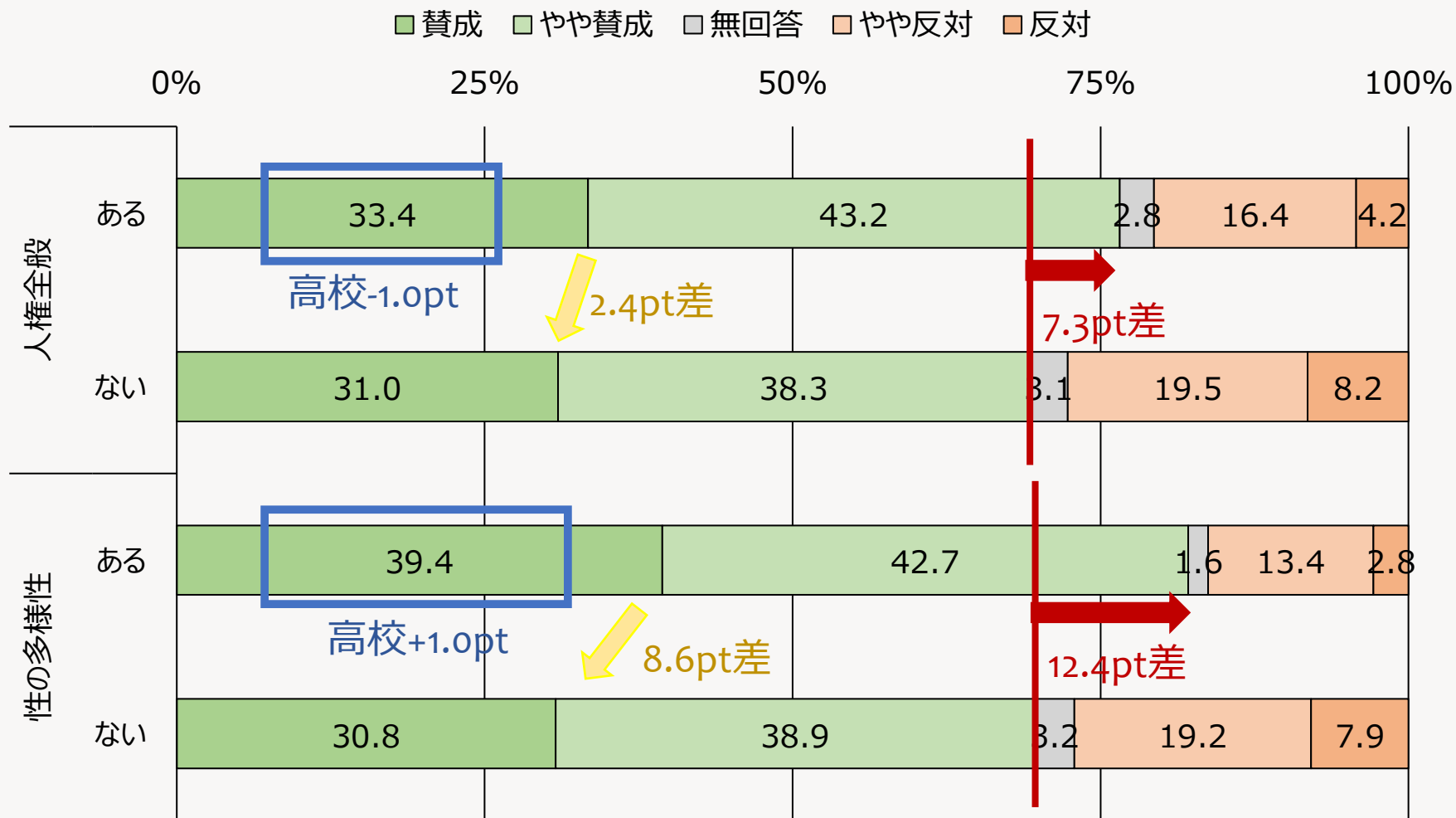
「賛成」の割合は、人権全般、性の多様性ともに高校より多い

同性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・大学/大学院)



「賛成」の割合は、人権全般、性の多様性ともに専門学校よりさらに多い

同性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・市民講座/企業研修)



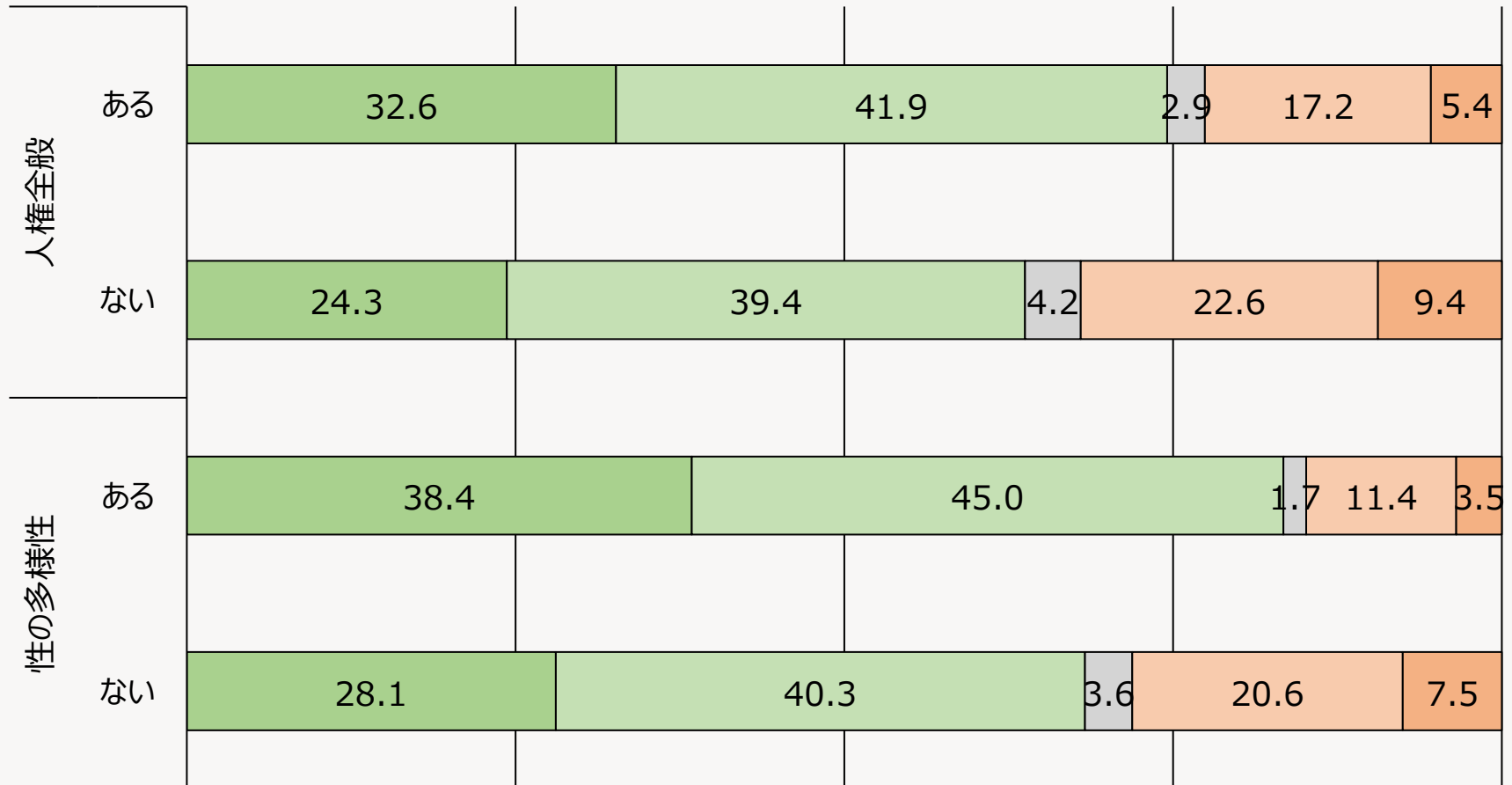
「賛成」の割合は、高校より同程度



両性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・高校)

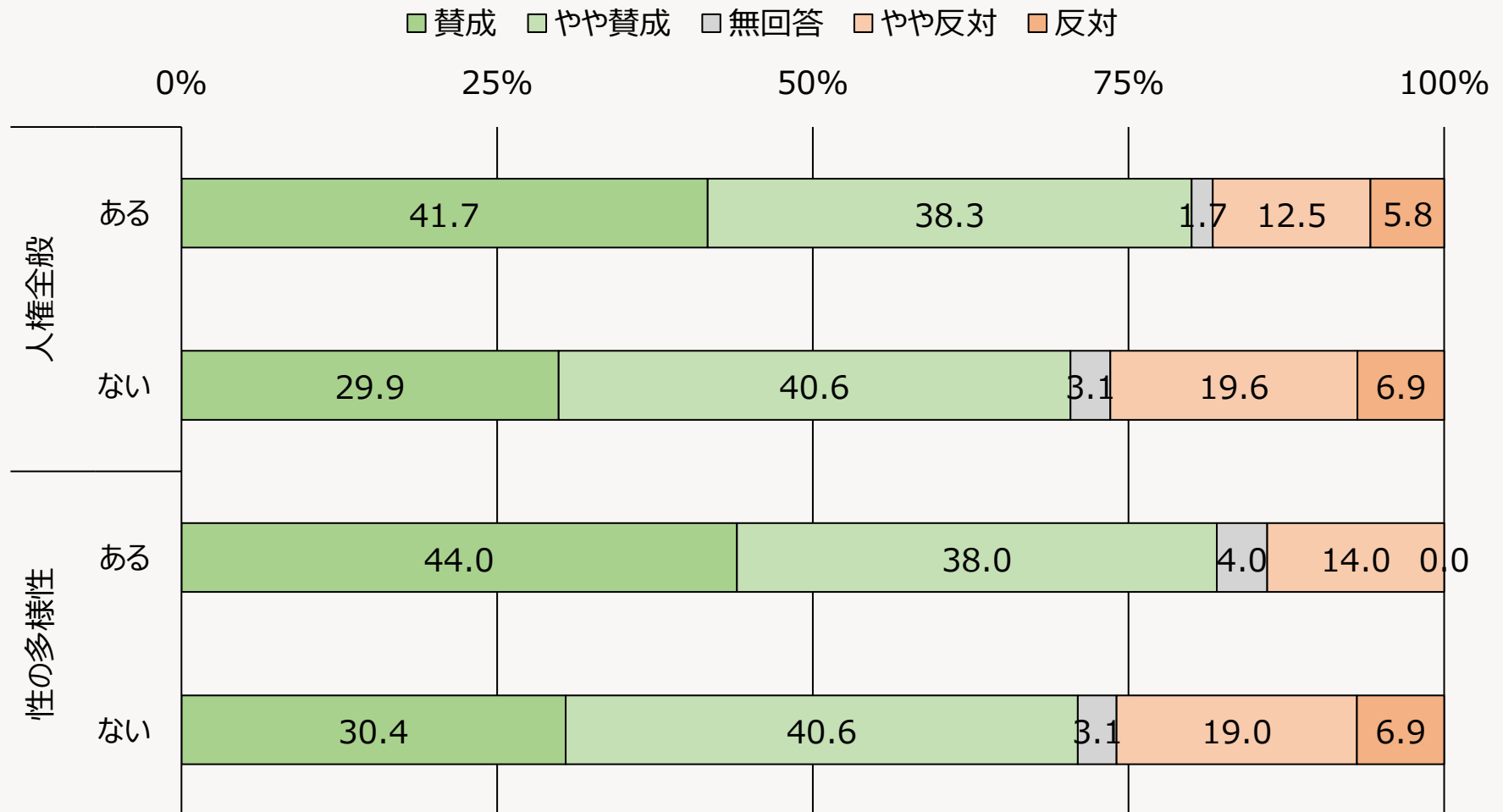
■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対


0% 25% 50% 75% 100%



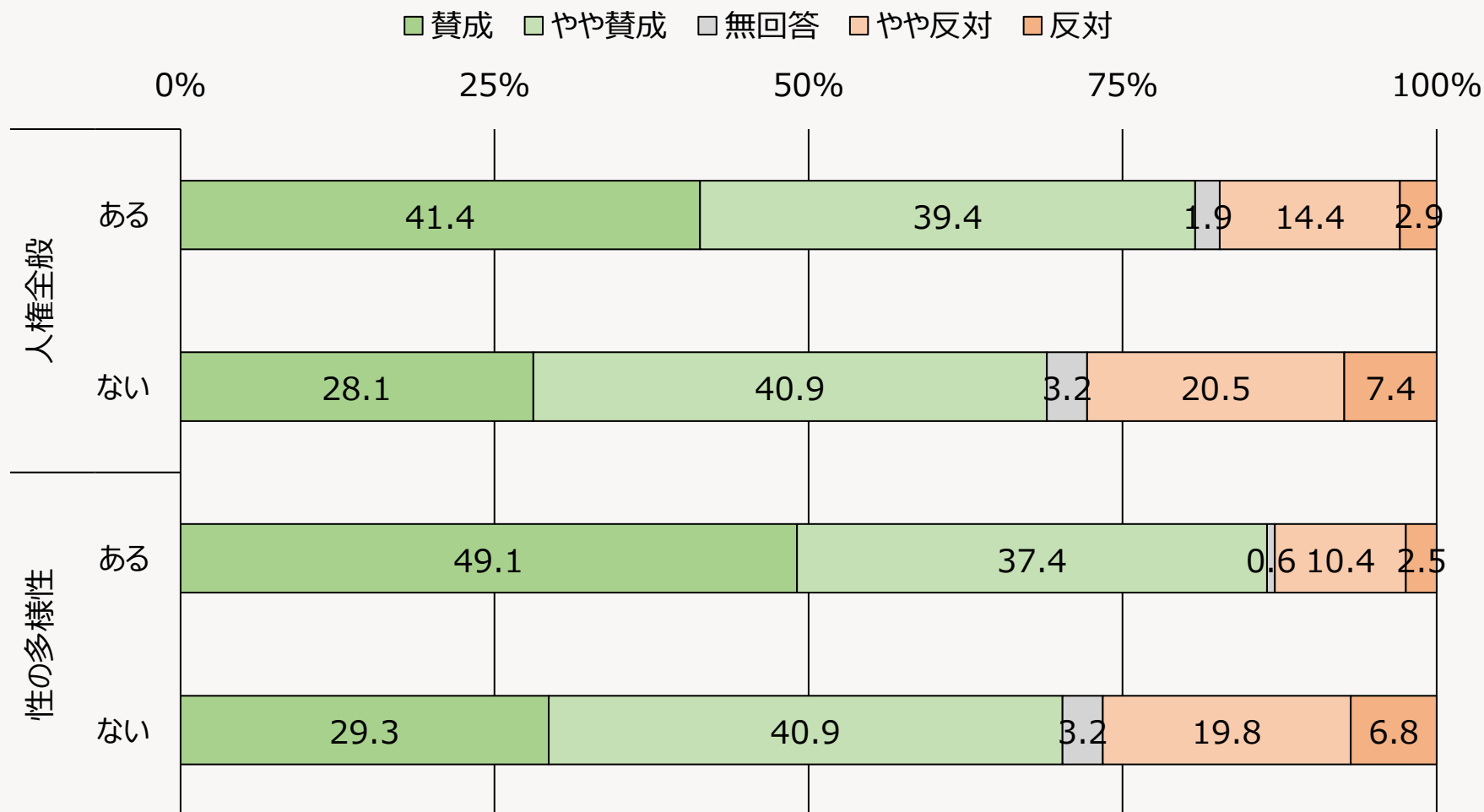



両性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・専門学校)



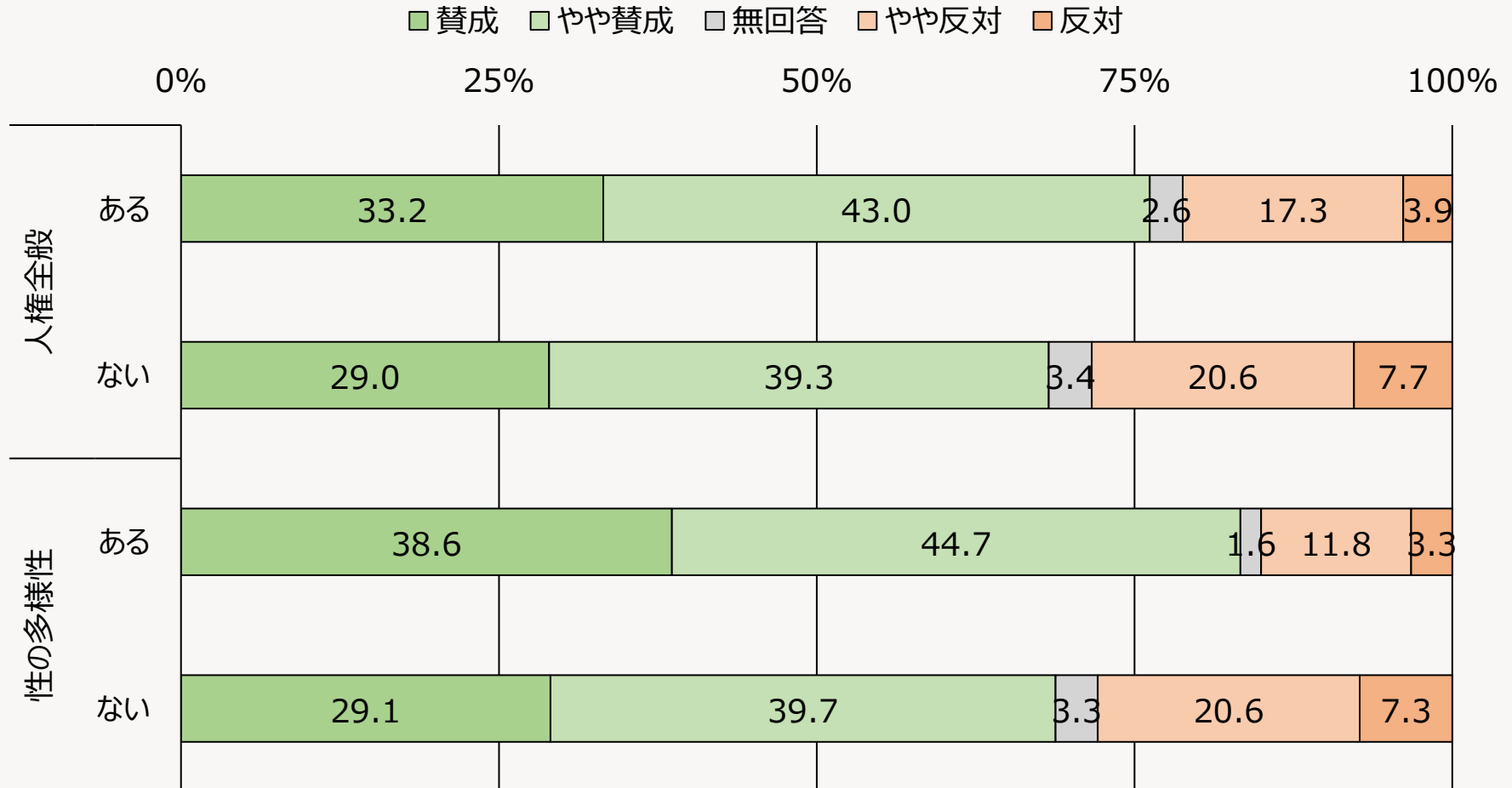


両性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・大学/大学院)



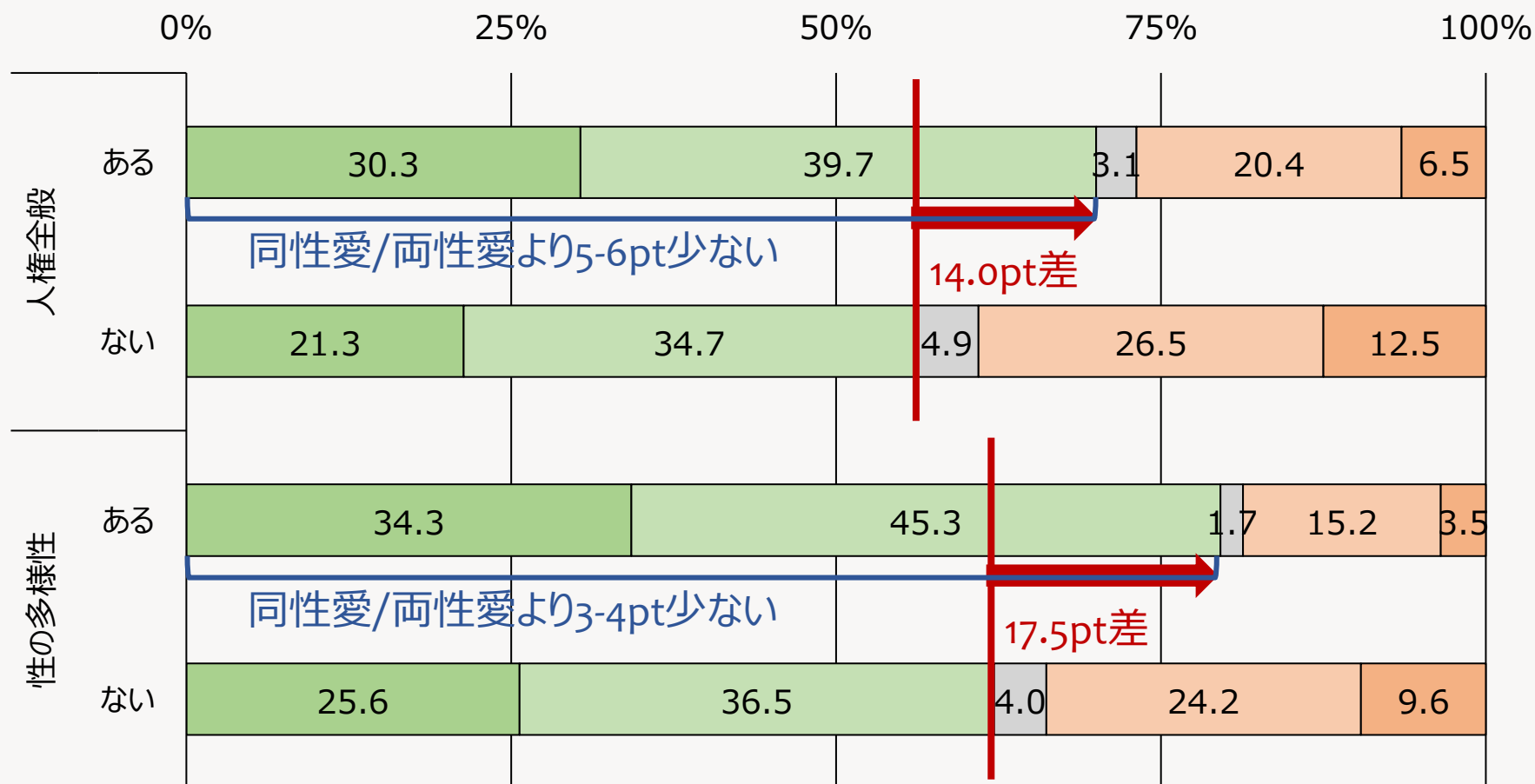


両性愛を義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・市民講座/企業研修)



体の性別を変えたいと望む人のことを 義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・高校)

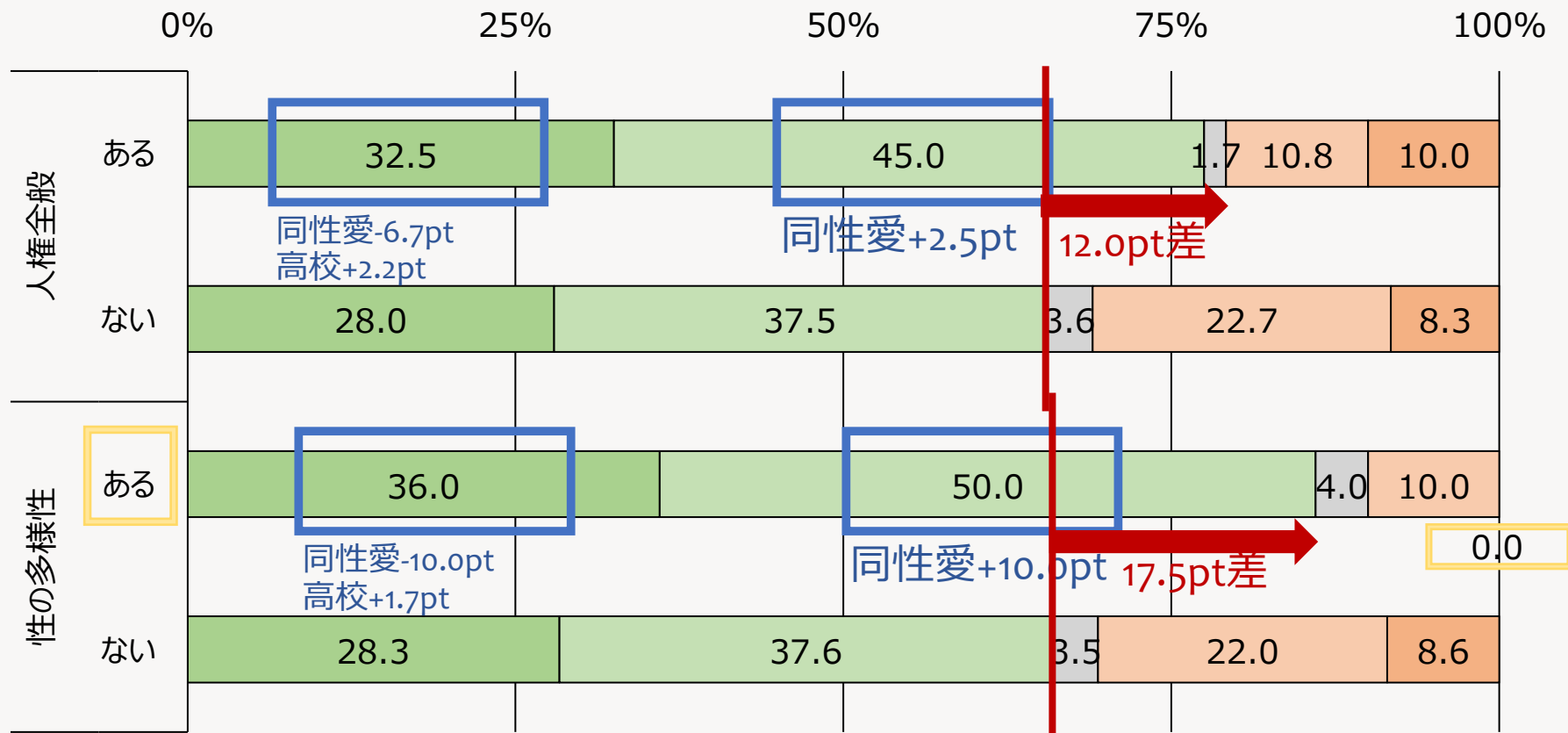
■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対



賛成側の割合は、同性愛/両性愛より低い

体の性別を変えたいと望む人のことを 義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・専門学校)

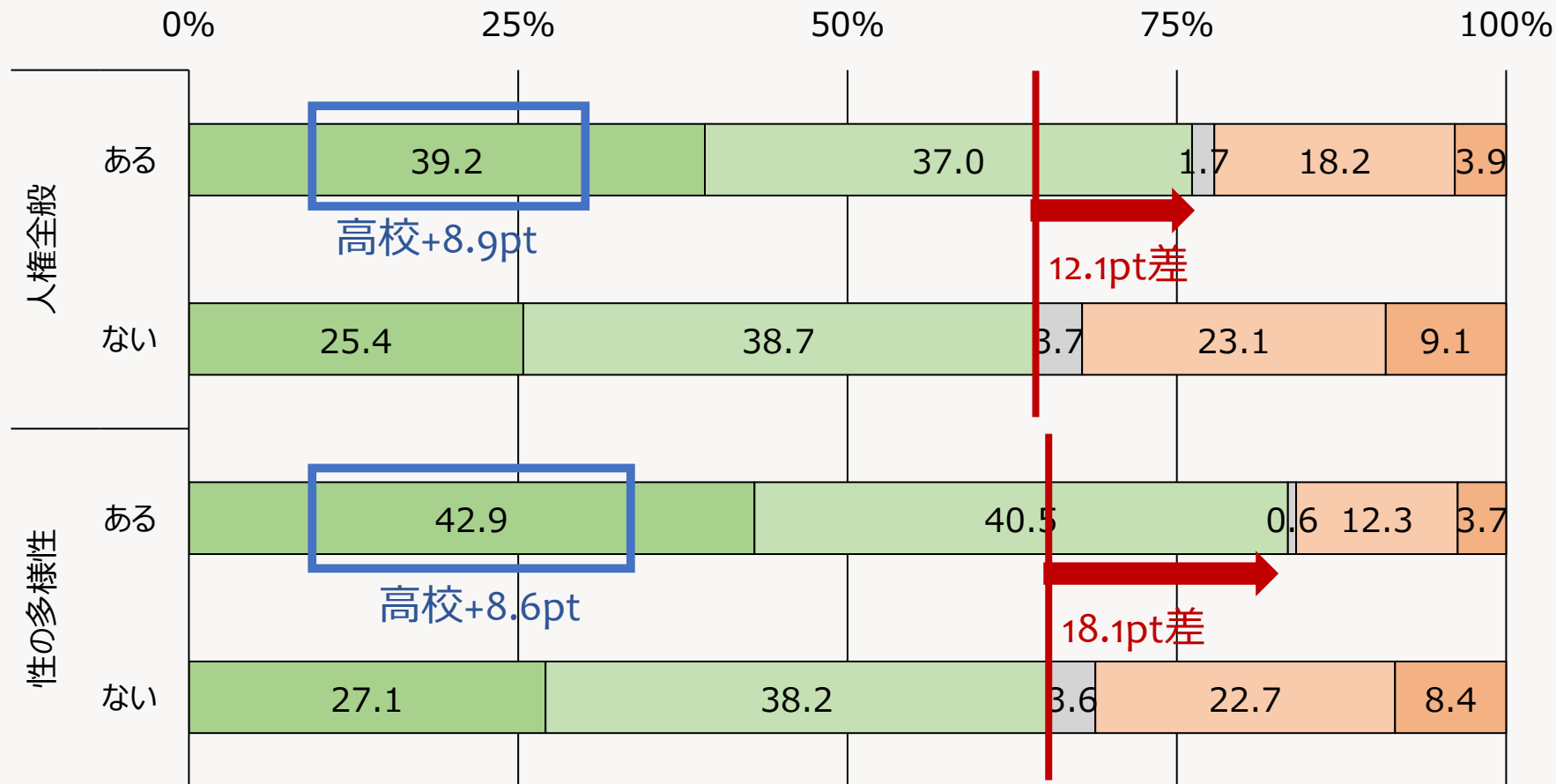
■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対



性の多様性について「ある」人の賛成側の合計は同じだが、
同性愛と比べて「賛成」が少なく「やや賛成」が多い

体の性別を変えたいと望む人のことを 義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・大学/大学院)

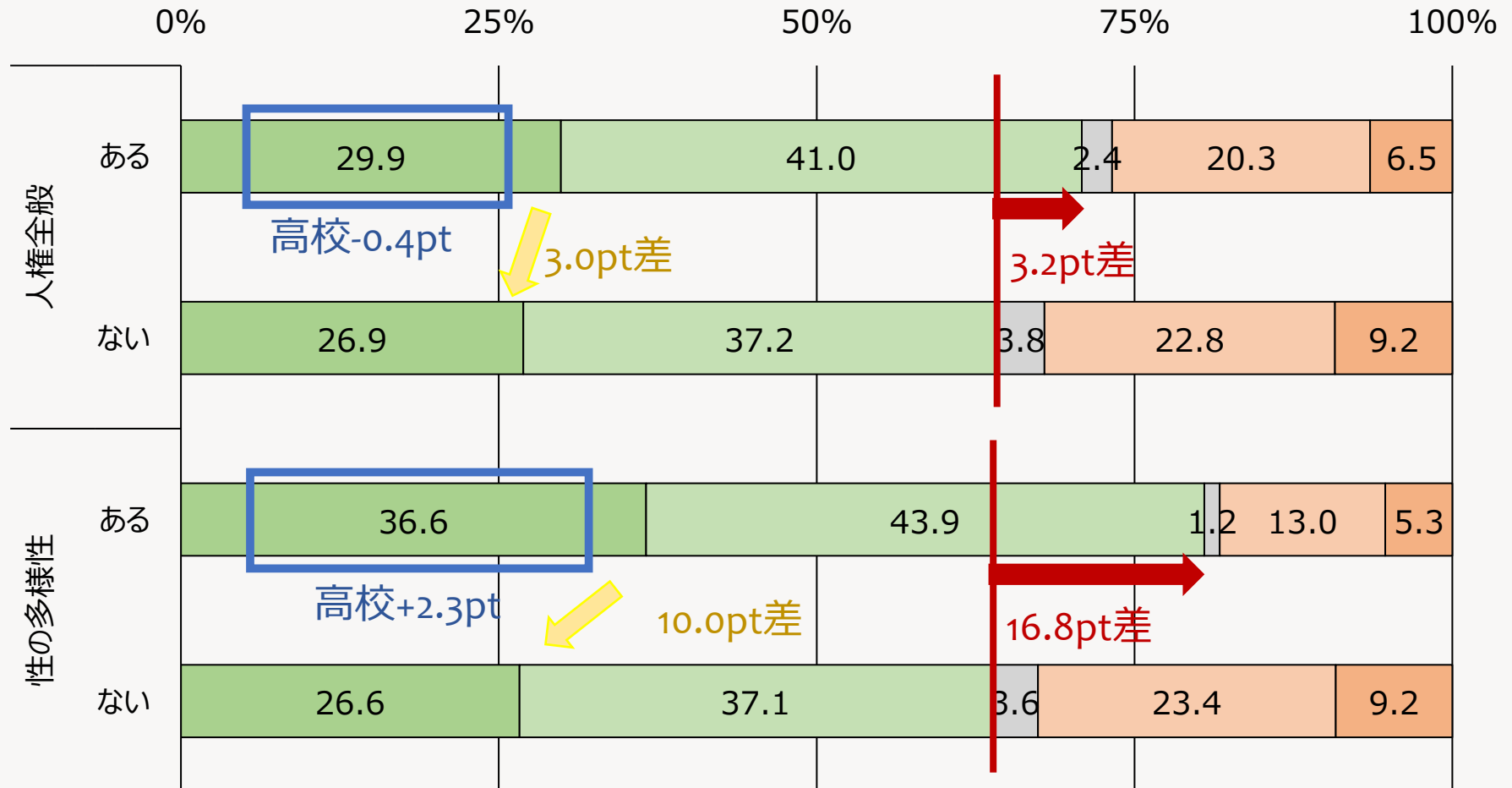
■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対




「賛成」の割合は、人権全般、性の多様性ともに専門学校よりさらに多い

体の性別を変えたいと望む人のことを 義務教育で教えることの賛否 (人権教育の有無別・市民講座/企業研修)

■ 賛成 ■ やや賛成 ■ 無回答 ■ やや反対 ■ 反対



教育の経験が「ある」回答者と「ない」回答者の差も、
専門学校や大学/大学院に比べて小さい

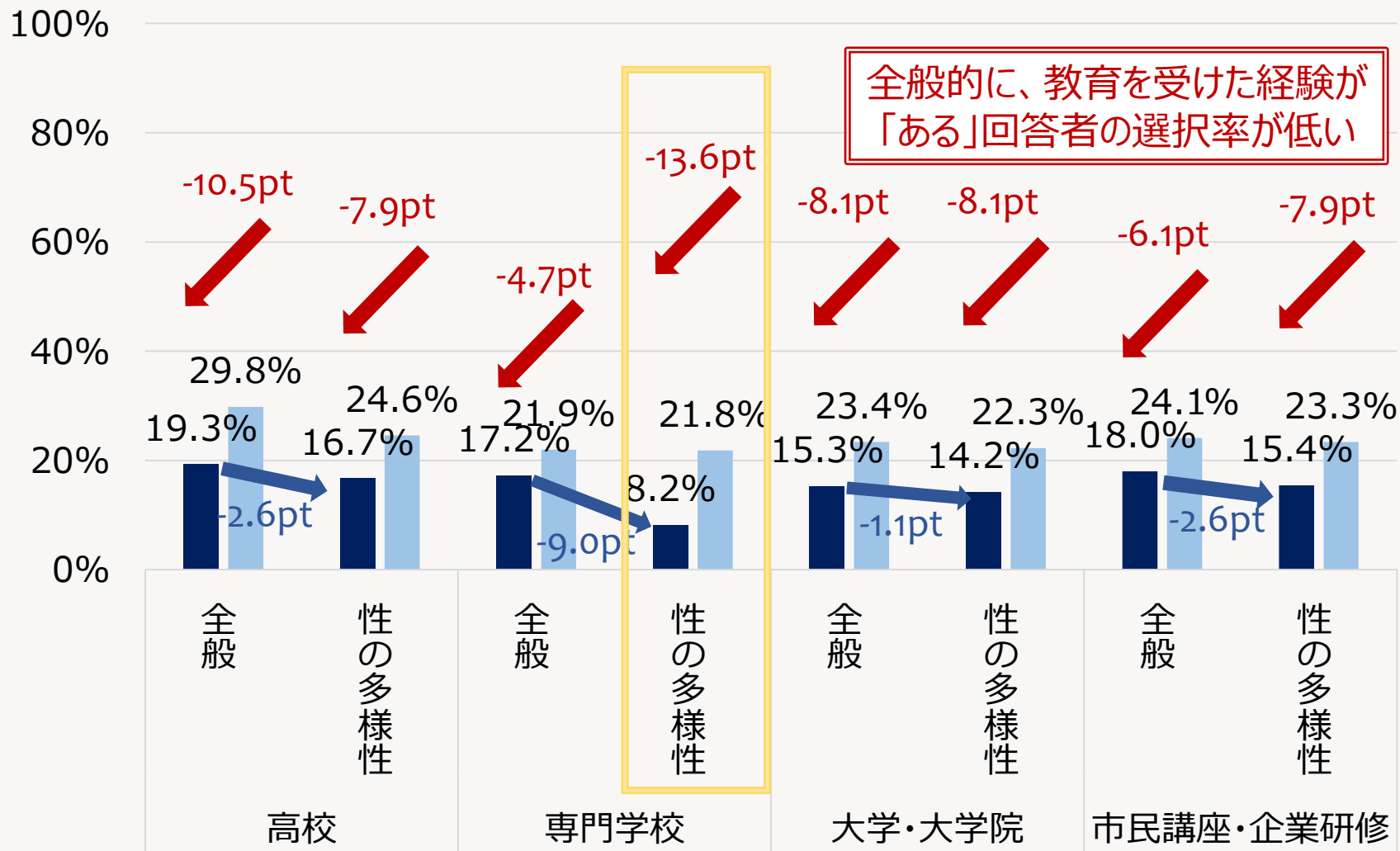


人権教育の有無による、 義務教育で教えることへの賛否まとめ

- 人権全般、性の多様性問わず、人権教育を受けたことが「ある」ほうが賛成側が多い。
- 人権全般より性の多様性についての教育を受けた回答者のほうが、さらに賛成側が多い
- 同性愛/両性愛/体の性別を変えたいと望む人にかかわらず、明確な「賛成」の割合がもっとも高くなるのは大学/大学院で教育を受けた場合

同性愛男性に小学校教員になってほしくない人 (教育を受けた経験別)

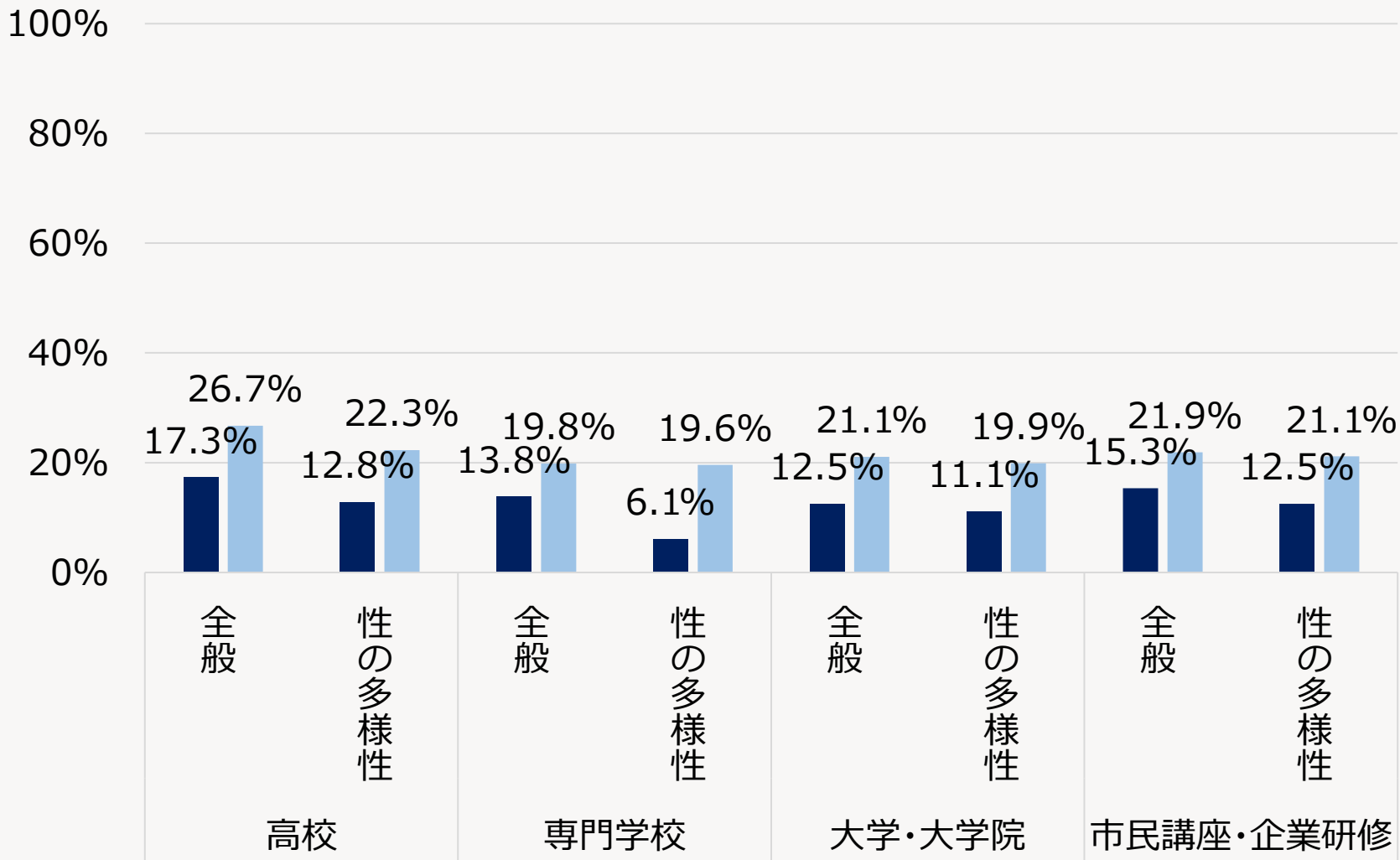
■ある ■ない





同性愛女性に小学校教員になってほしくない人 (教育を受けた経験別)

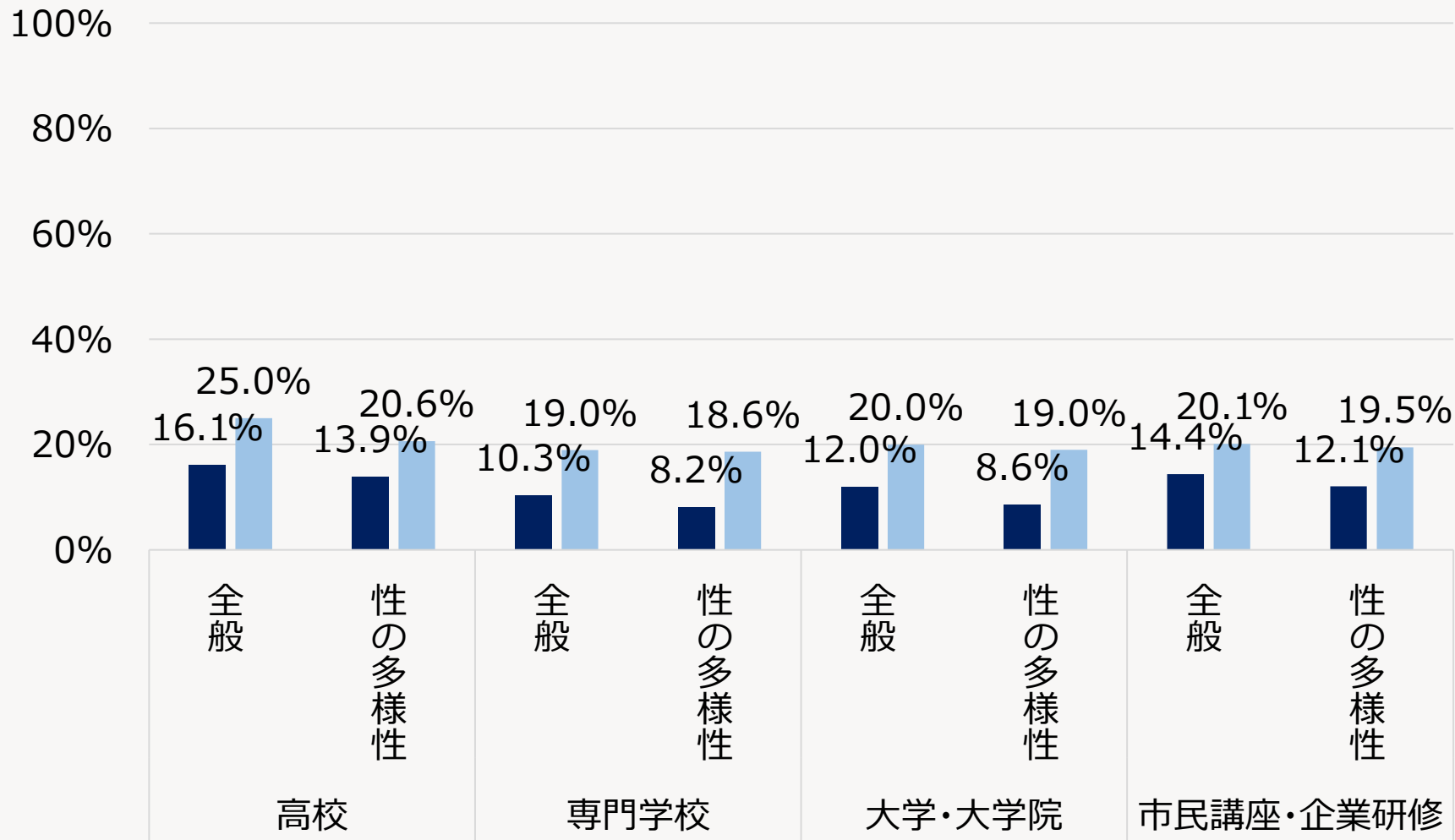
■ある ■ない





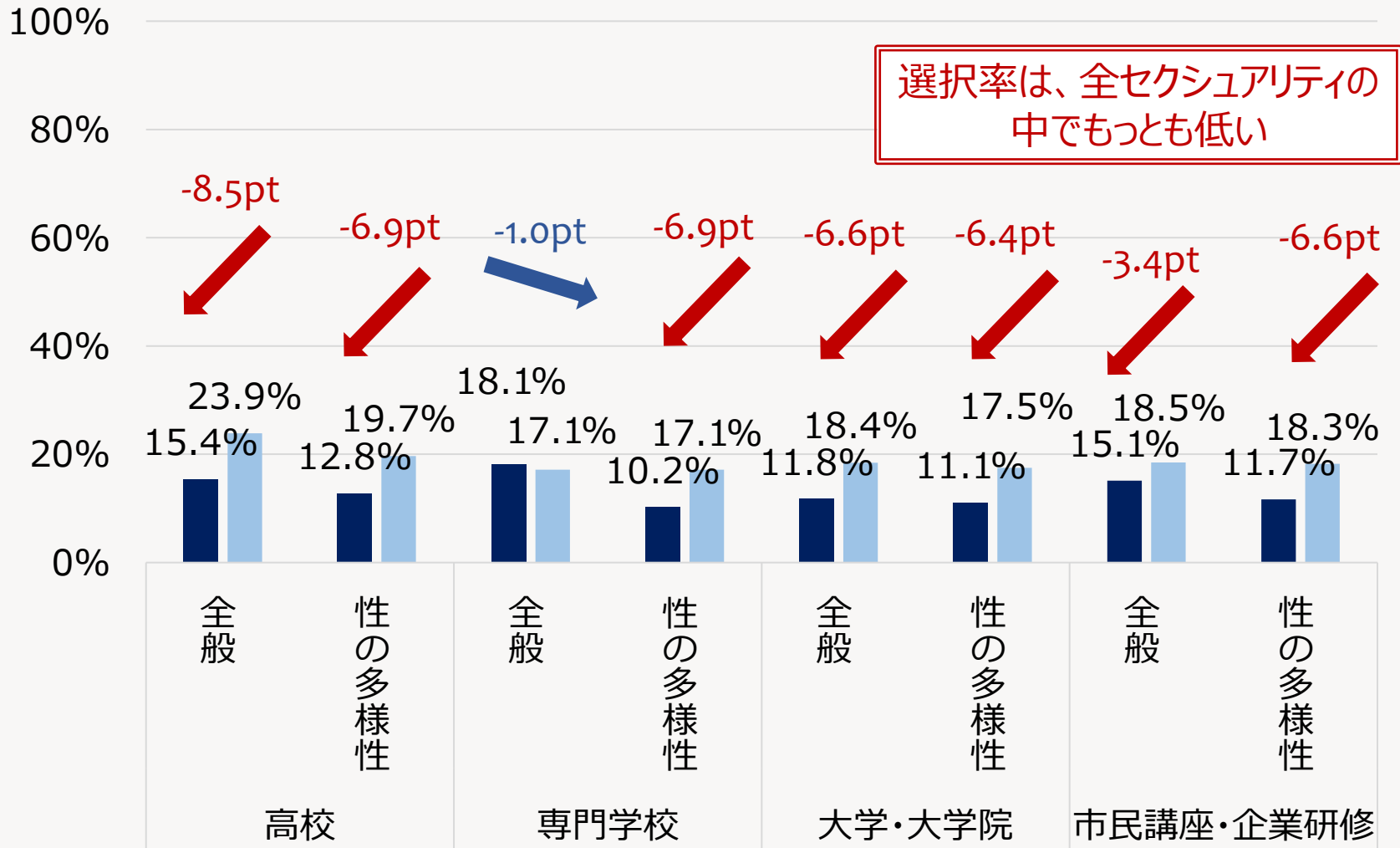
両性愛の人に小学校教員になってほしくない人 (教育を受けた経験別)

■ある ■ない

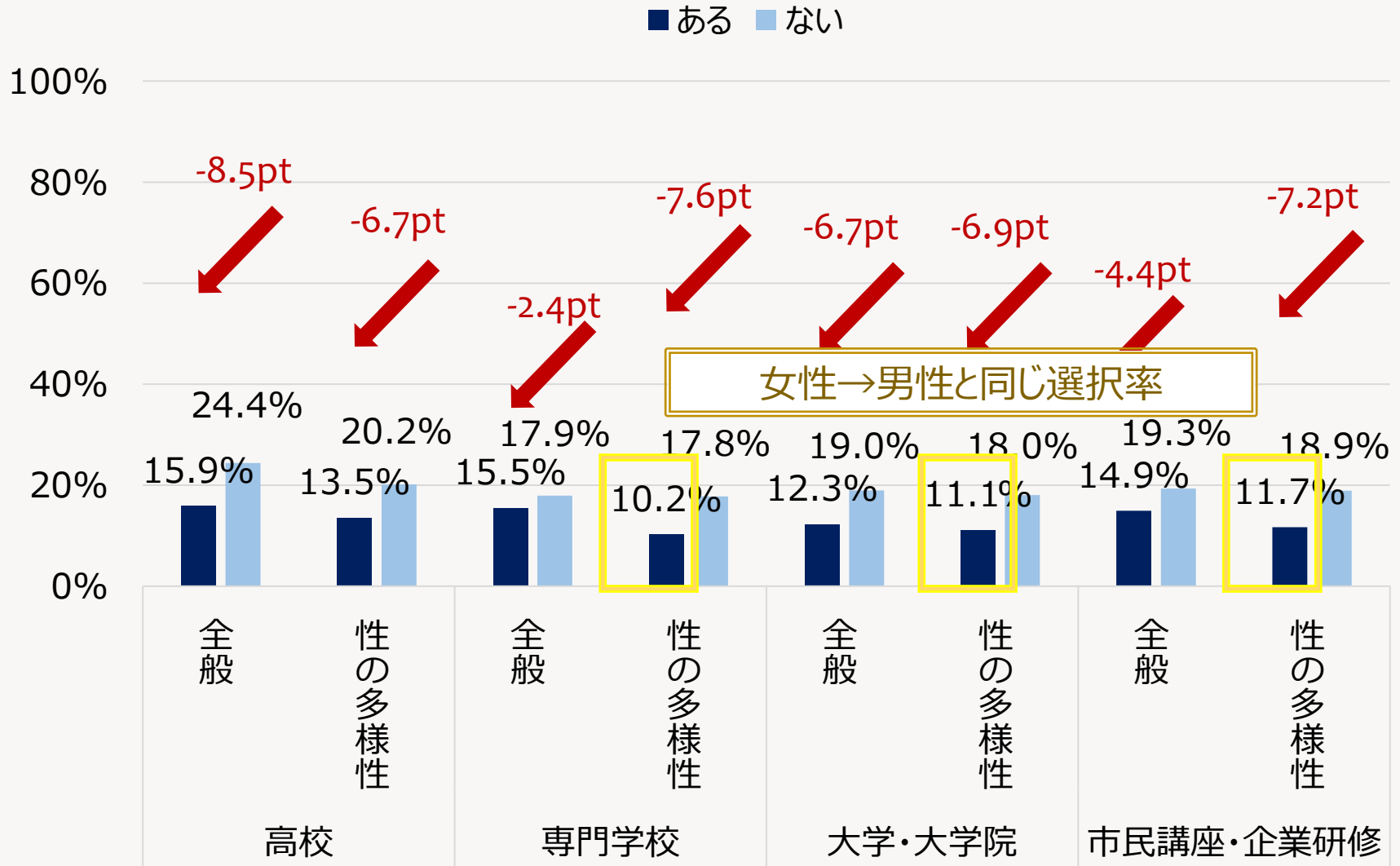


性別を女性から男性に変えた人に 小学校教員になってほしくない人（教育を受けた経験別）

■ある ■ない



性別を男性から女性に変えた人に 小学校教員になってほしくない人（教育を受けた経験別）





性的マイノリティが小学校教員になることに対する意識まとめ（人権教育の有無）

- セクシュアリティによる区分、人権全般か性の多様性かにかかわらず、すべて教育を受けた経験が「ある」回答者のほうが選択率が低い
- 教育を受けた経験が「ある」回答者だけで比較すると、人権全般よりも性の多様性について受けた経験が「ある」回答者の選択率はさらに低い

総合

2015年との比較：

- 義務教育で教えることへの賛成側の増加
- 性的マイノリティに小学校教員になってほしくない人の大幅な減少

人権教育の有無による比較：

- 人権全般でもある程度性的マイノリティへの肯定的イメージが伺える結果に
- 性の多様性の教育を受けている人は、人権全般よりもさらに肯定的イメージが伺える結果に

支援施策の賛否など 新規項目の結果抜粋 「性的マイノリティについての 意識：2019年（第2回） 全国調査」

平森大規（hiramori@uw.edu）
ワシントン大学大学院社会学研究科博士候補生

「性的マイノリティについての意識：2019年
（第2回）全国調査」 報告会
2020年11月29日（オンライン開催）

人権全般・性的マイノリティについて 学んだ経験

問 11 あなたは学校の授業や市民講座などで、人権や性に関することを学んだことはありますか。アとイのそれぞれについて、学んだことがある場合は「ある」に、ない場合は「ない」に○をつけてください。また、その学校に通ったことのない方は「通っていない」に○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

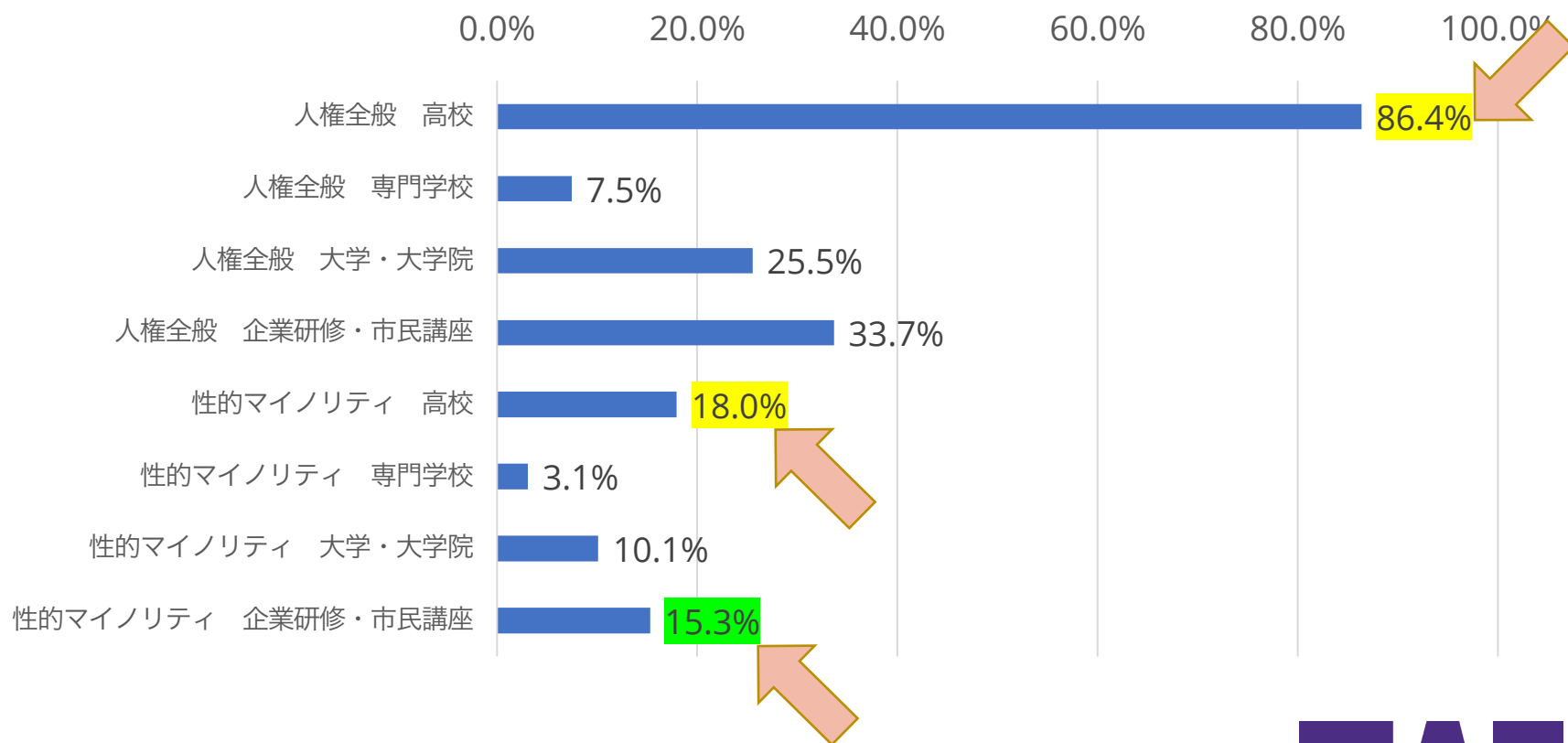
| | 高校 | | | 専門学校 | | | 大学・大学院 | | | 企業研修・ 市民講座 | | |
|------------------------------------|----|----|--------|------|----|--------|--------|----|--------|---------------|----|--------|
| (ア) 人権全般 | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない |
| (イ) 同性愛・両性愛、 性同一性障害、 性の多様性など | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない | ある | ない | 通っていない |

※本報告では、「通っていない」を分析から除外した割合を表示しています(例:「高校」に通ったことがある人のうち「ある」の割合)

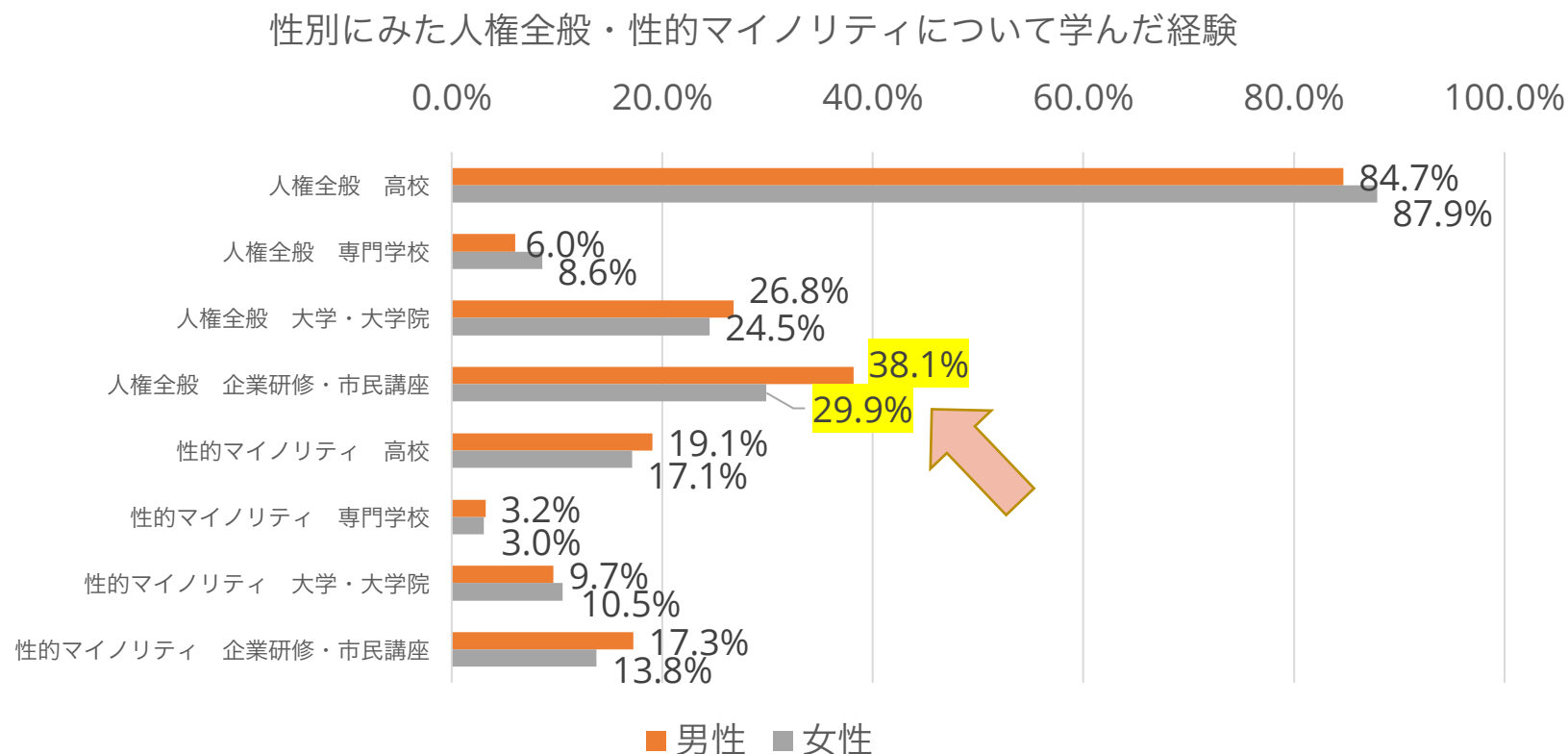


人権全般・性的マイノリティについて学んだ経験

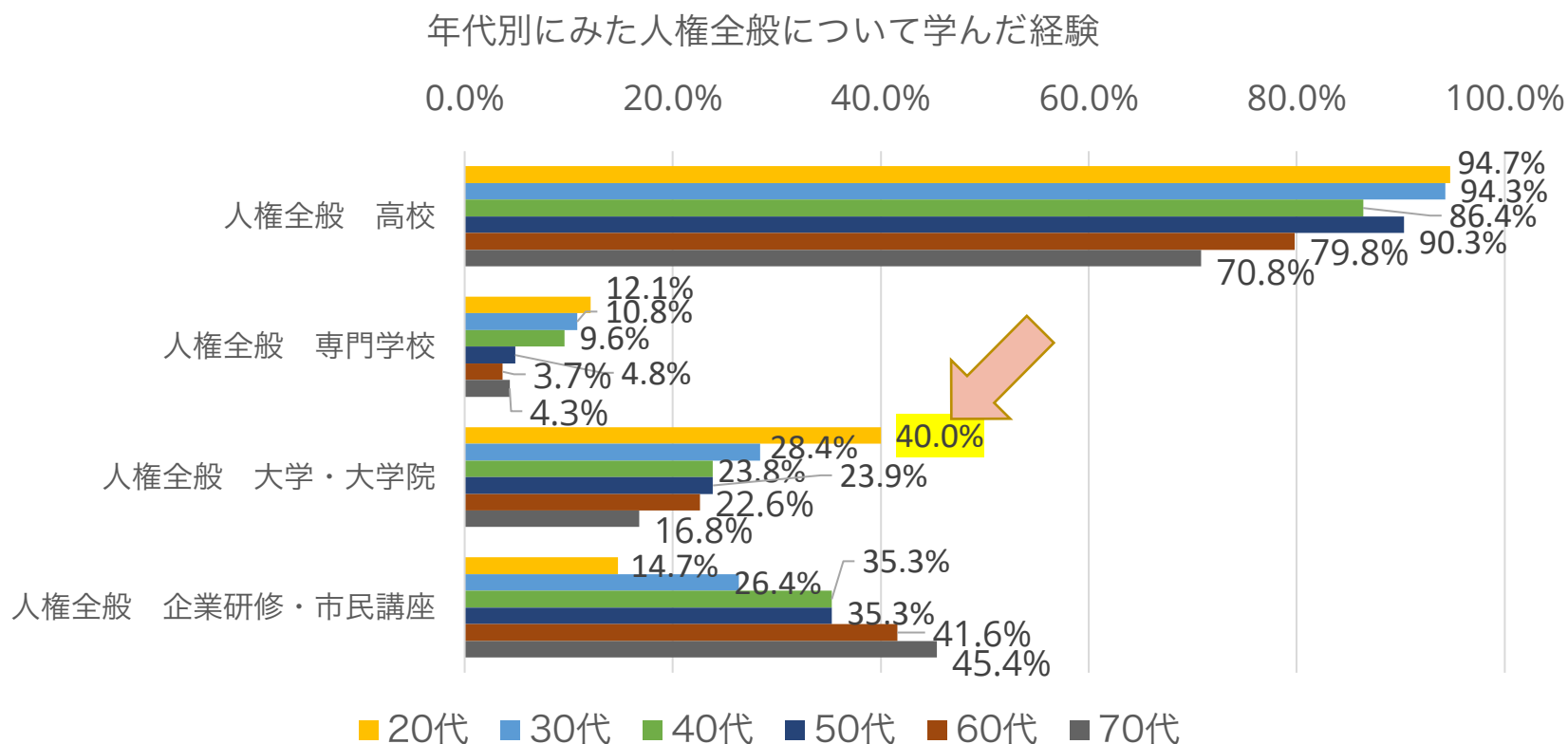
人権全般・性的マイノリティについて学んだ経験



性別にみた人権全般・性的マイノリティについて学んだ経験

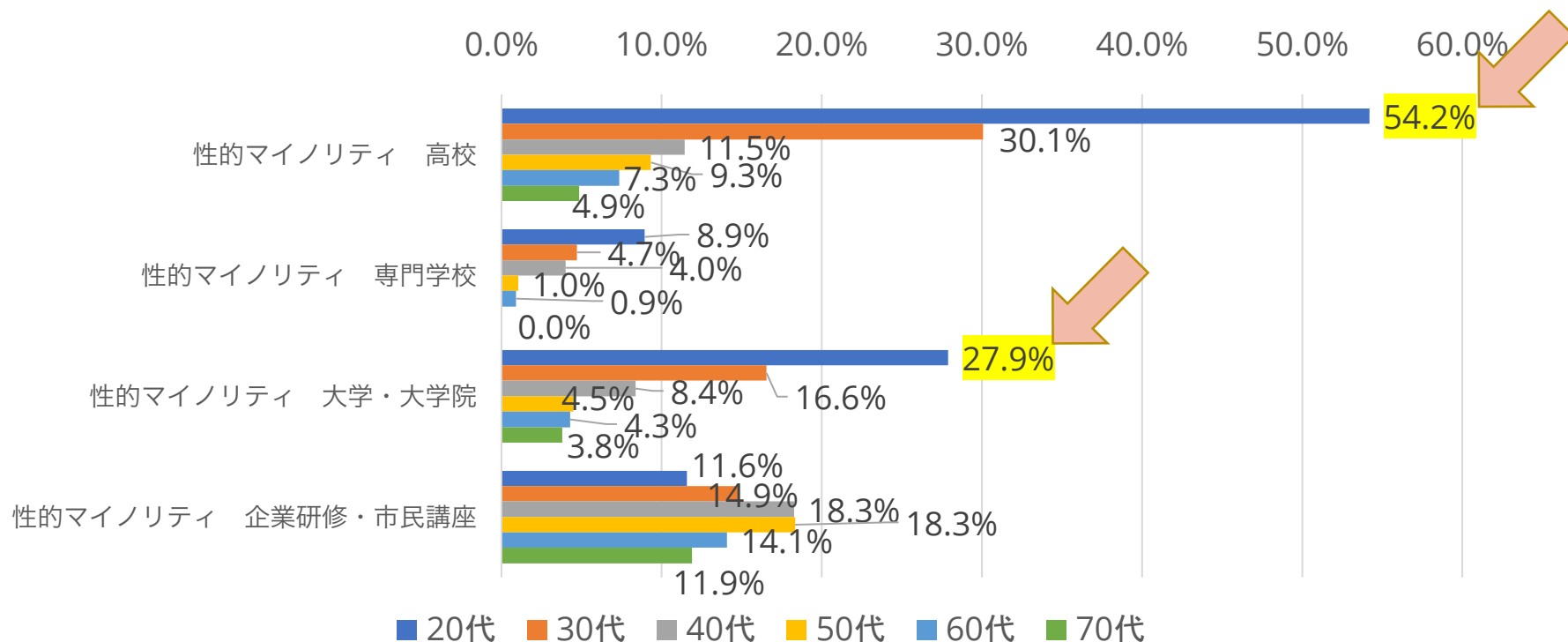


年代別にみた 人権全般について学んだ経験



年代別にみた 性的マイノリティについて学んだ経験

年代別にみた性的マイノリティについて学んだ経験

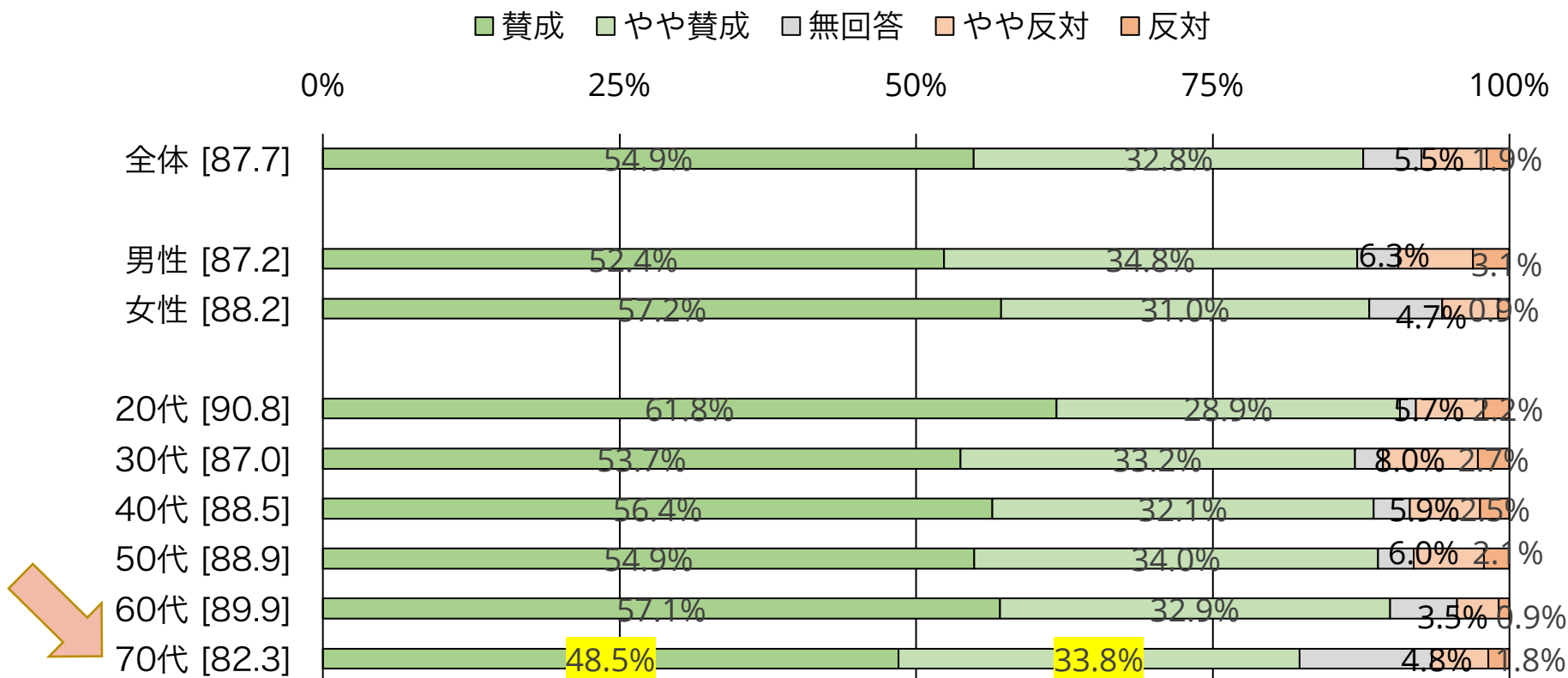


人権全般・性的マイノリティについて学んだ経験（まとめ）

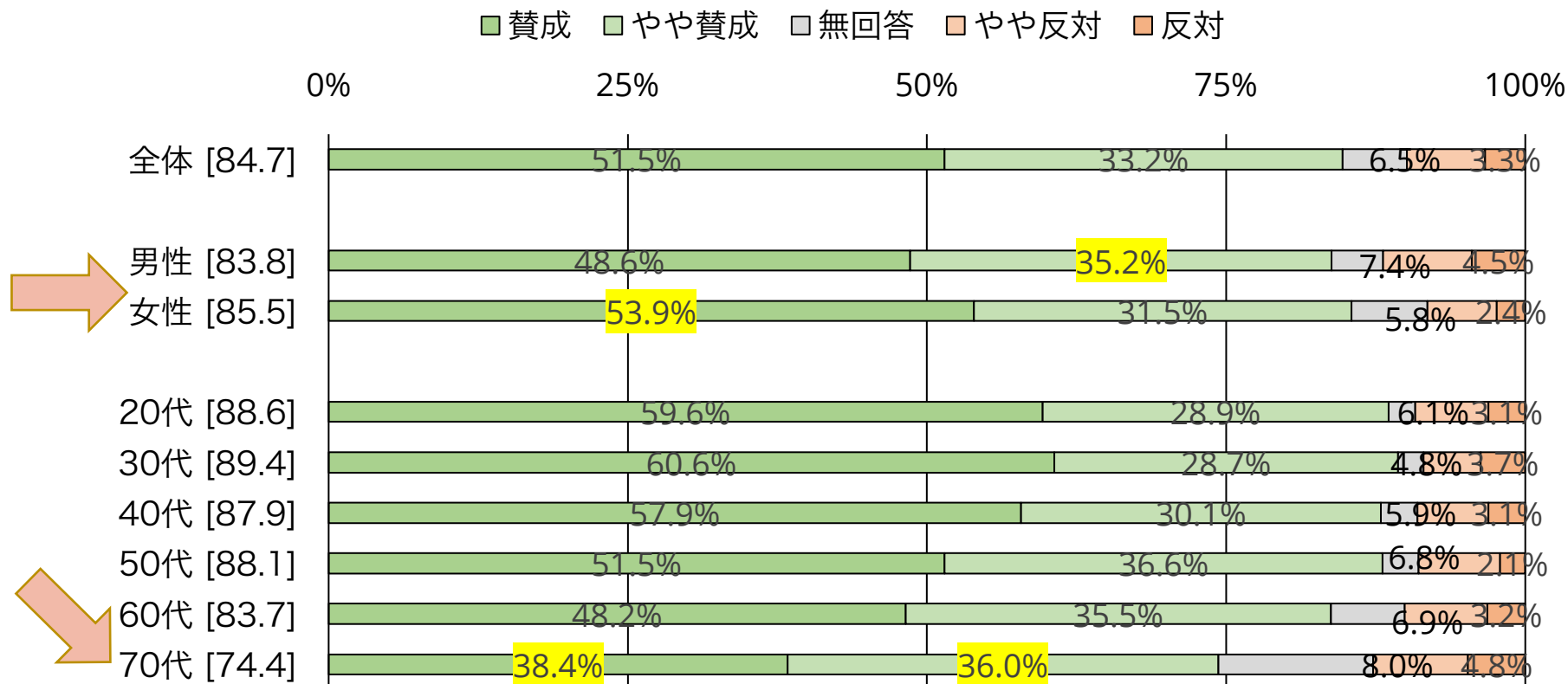
- > 人権全般について学んだ経験のある人と比べて、性的マイノリティについて学んだ経験のある人はまだまだ少ない
- > 企業研修・市民講座を除いて、人権全般・性的マイノリティについて学んだ経験のある人の割合に性別による大きな差はみられなかった
- > 大学・大学院で人権全般について学んだ経験のある人の割合が20代で他の年長世代と比べて高かった
- > 高校で性的マイノリティについて学んだ経験のある人の割合が20代で他の年長世代と比べて特に高かった（割合は低いものの、大学・大学院についても同様の傾向）



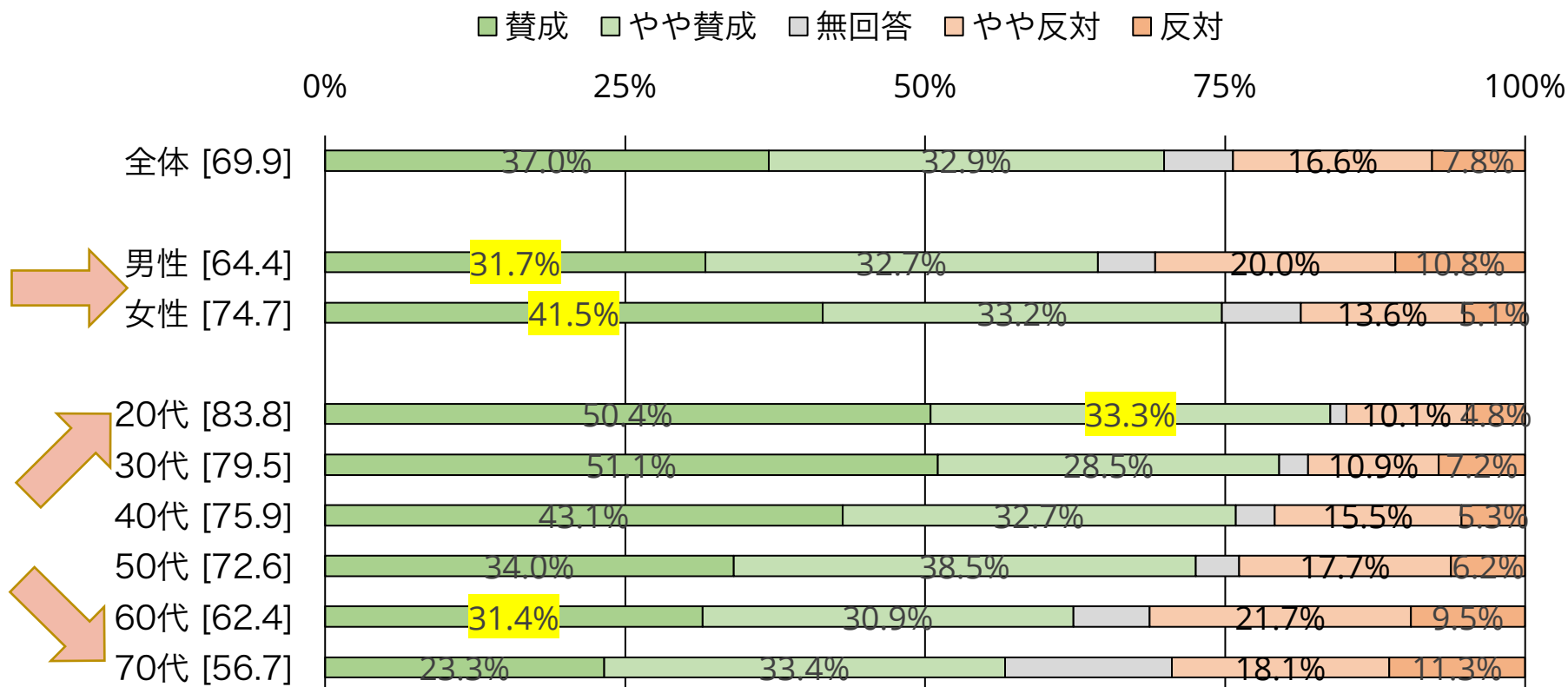
(性的マイノリティに関して) いじめや差別を禁止する法律や条例の制定



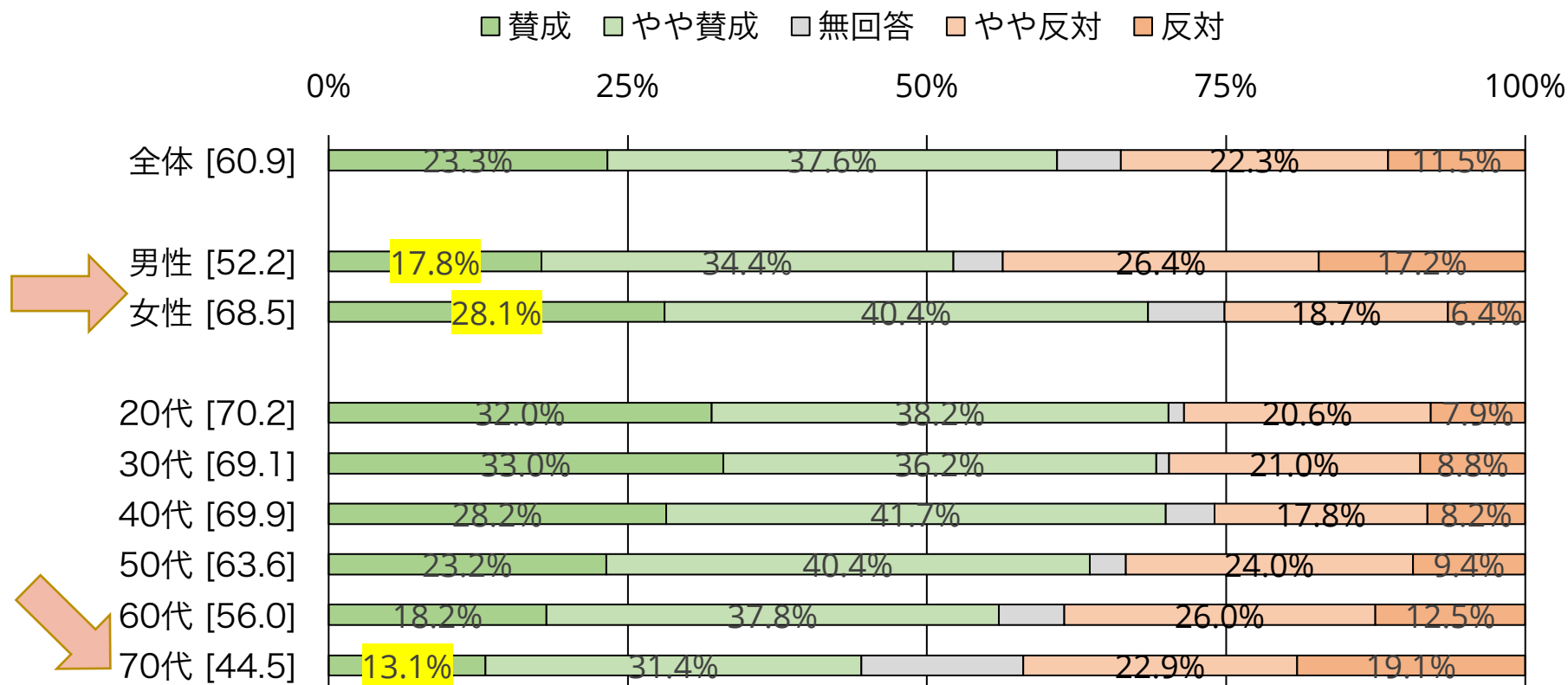
親が育てられない子どもを、男女のカップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度



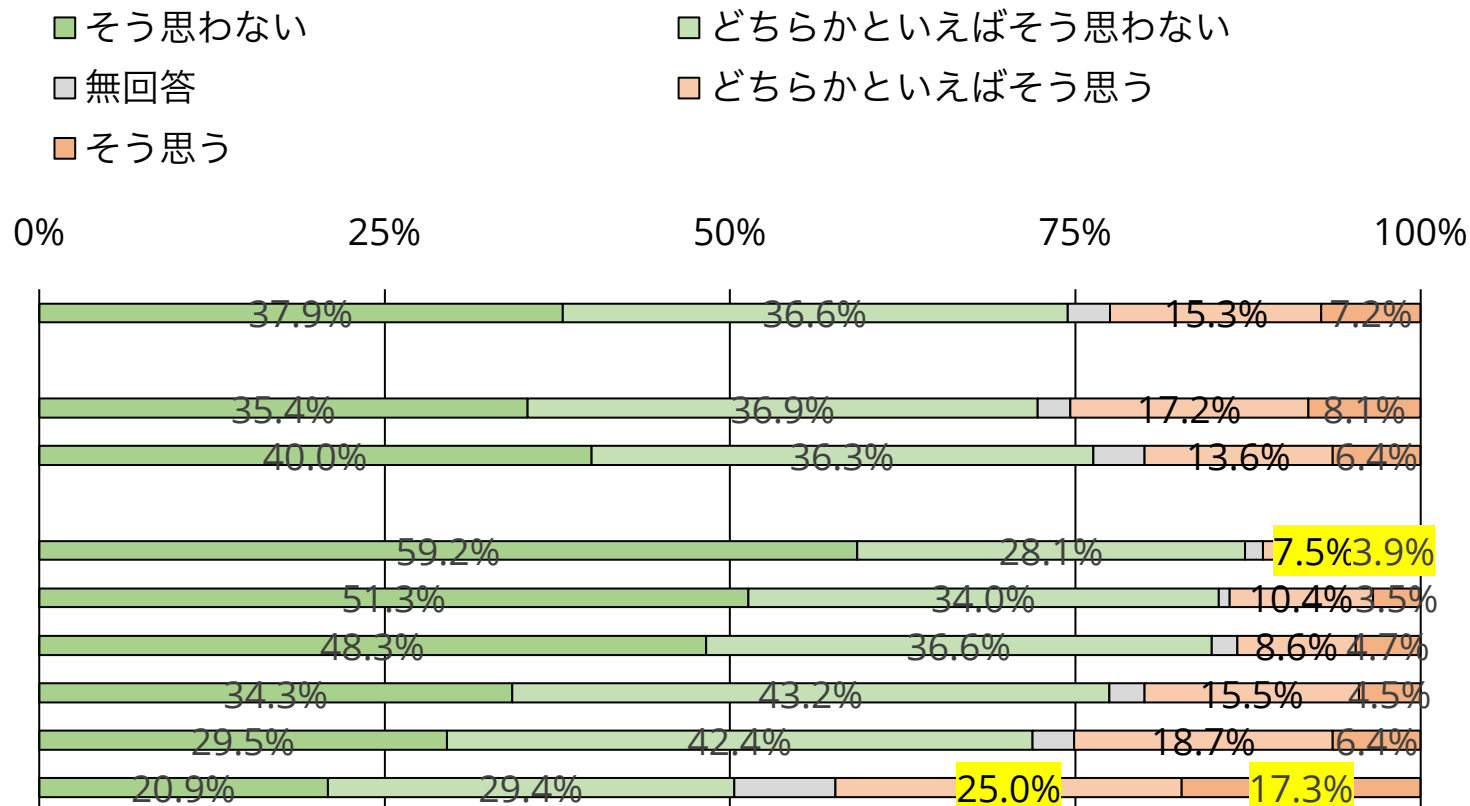
親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度



女子大学が、戸籍は男性でも自らを女性と認識している人の入学を認めること



男性か女性かわからないような人を見ると、不快になる



性的マイノリティ施策等の賛否、「男性か女性かわからないような人」に対する嫌悪感（まとめ）

- > 回答者の9割近くが「いじめや差別を禁止する法律や条例の制定」に賛成（含やや賛成）しているが、70代では賛成割合が若干低い
- > 「親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度」への賛否を「男女のカップル」の場合と比較すると、
 - 女性よりも男性の方が減少幅が大きい
 - 若年層よりも高齢層の方が減少幅が大きい
- > 回答者の6割が「女子大学が、戸籍は男性でも自らを女性と認識している人の入学を認めること」に賛成（含やや賛成）
- > 「男性か女性かわからないような人を見ると、不快になる」人は20代では回答者の1割だが、70代では4割にのぼる



「性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査」からわかったこと

1. 戸籍の性別変更ができることを知っている人は、2015年に30.0%だったが、2019年には37.8%となった。
2. 2015年では、友人が性的マイノリティだとわかったら抵抗があると半数の人が回答していたが、2019年では3分の1に減少した。
3. 2019年の調査で初めて実施した恋愛感情を抱かない人への嫌悪感では、3分の1が恋愛感情を抱かない男性・女性におかしいと回答しており、同性間・両性間の恋愛感情をおかしいと回答した割合とほぼ同じであった。
4. 性的マイノリティが周りにいる、という人は2015年では6%であったが、2019年には10%となった。
5. 同僚が性別を変えた人だった場合、2015年では男性管理職の6割（61.5%）が【いやだ】と回答したが、2019年では3割未満（24.2%）となった。



「性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査」からわかったこと

6. 同性婚の法制化に〈賛成〉は、2019年調査で64.8%、〈反対〉は30.0%。2015年と比べて〈賛成〉は13.6ポイント増加。20代の〈賛成〉は、2019年調査で83.8%と高かった。
7. 教員がどのセクシュアリティであっても、人権全般または性の多様性の教育を受けた経験がある人は、ない人より「小学校の教員になってほしくない」と回答する割合が低かった。また、教育を受けた経験がある人の中で比較すると、人権全般より性の多様性の教育を受けた経験がある人のほうが、その割合はさらに低かった。
8. 性的マイノリティにかかわる施策については、回答者の87.7%が差別禁止法の制定に賛成、60.9%が女子大によるトランスジェンダー女性の入学許可に賛成していた。



調査結果にもとづく全体のまとめ・考察

- > 生まれつきである、育てられ方の影響である、といったことに対する認識はほとんど変わっていない
- > どの角度からみても、否定的な意識をもつ人が減り、肯定的な意識をもつ人が増えている
- > 男女や年代の間に見られる意識の差は、ほとんど変化がみられなかった
- > 否定的な意識をもつ人の減少は、多くの事柄で40代-50代、60-70代が目立つ（性行為についての意識は例外）
- > 今回報告したほぼ全ての項目で、無回答割合が減少した。性的マイノリティに関する質問で、何を聞かれているのかわからない、なぜこんなこと聞かれるのかわからない、考えたことがないので答えられないという人が少なくなった可能性がある

→今後も、性的マイノリティをめぐる社会意識の変容を継続的に、多面的にモニターしていくことが必要



査票に向けた検討を行った。懸念されたのは、大学生なら回答できる調査項目であっても、全国のさまざまな地域に住む背景の異なる人びと、とくに 60 代や 70 代の人が、理解して回答できるものになっているのかということであった。そこで、研究メンバーの知り合いを通じて、年代、性別、職業、学歴等の異なる 30 人余りの人たちに依頼し、調査票に回答してもらったうえで質問文や選択肢へのコメントや調査全体に対する印象を聞き取り、それらも考慮しながら修正を行った。調査票検討のどの過程においても、性的マイノリティの研究に携わっていない社会調査の専門家たちにもコメントをもらった。調査票の確定前には、大学生を対象とした調査を行い、項目数を減らす可能性を探りつつ、質問文や選択肢のワーディングが適切かの確認を行った。さらに、いくつかの質問で設定した回答選択肢が対象者にとって意味のあるものなのか、抜けているものはないのかを検討するために、これらの項目を入れたウェブ調査を行った。ウェブ調査の結果を受けて、追加したり除外したりした選択肢もある。

こうした検討過程を経て、2014 年 12 月末に調査票を確定し、2015 年 3 月に本調査を実施した。最終調査票は質問数 59、項目数 157 からなり、表紙を除くと両面 (A4) で 14 ページであった。使用した調査票は、本報告書の巻末に掲載している。

(2) この調査で扱う性的マイノリティについての補足

① 調査票における「性的マイノリティ」の表現

この調査でとりあげた同性愛、両性愛、トランスジェンダーに関しては、ゲイ、レズビアン、ホモセクシュアル、バイセクシュアル、トランスジェンダー、FtM、MtF、FtX、MtX、X ジェンダー、性別違和、性別適合手術など、このテーマにある程度関心のある人であれば知っているだろう用語・捉え方・括り方が多数ある。研究グループでは、どのような表現をもちいて質問するか議論を重ねた結果、事前知識の有無にかかわらず理解できるだろうと思われる、「同性愛 (者)」、「両性愛 (の人)」、「性別を変えた人」という表現に統一することとした²。トランスジェンダーにかかわる表現の決定はとくに難しく、さまざまな用語・表現を検討したが、最終的には「性別を変えた人」「性別を変えること」という表現を採用した。そのため、トランスジェンダーに関しては、ごく限られた側面に対する意識が調査されていることも述べておきたい。

このような表現の問題に加え、本調査で対象、もしくは言及されなかった性的マイノリティの存在があることも、承知している。「性的マイノリティ」ということばが本調査で扱っているものに限定されえないことは、あらかじめ断っておく必要がある。ここで他の性的マイノリティをとりあげることや性的マイノリティの多様性を描写する表現をもちいることを断念した理由は、質問数、質問文の長さ、選択肢の数の制約に加え、これらの性

² 調査票に定義や説明を含めることも検討したが、回答者の負担がさらに増えることに加え、説明を読んでも理解したうえで回答したかの検証ができないため、今回は回答者が理解している範囲内で回答してもらうことに調査の意義があると考え、あえて定義は入れなかった。例外として「両性愛」は、視覚的に「同性愛」との見間違える可能性もあるため、「男女両方に恋愛感情を持つ」という簡単な説明を含めた。調査の理解度と回答傾向の関連性については、調査の最後に、これらの質問をよく理解できたか、興味をもてる内容だったか、をたずねているので、今後、考察をしていく予定である。

的マイノリティ・表現が、調査票という道具によって信頼性のある回答を得られるほど、「一般的」に認知されているか否かが確認できなかったという点が大きい。多様で複雑な「性的マイノリティ」の存在を捉えつつ、さまざまな人びとを対象とした社会調査を行うための条件を満たす調査票のあり方については、研究グループで引き続き模索していく必要がある。

② この調査で捉える、性的マイノリティについての考え方

今回の調査では、性的マイノリティについての意識を知るにあたって、否定的な感情、たとえば抵抗感や嫌悪感といった側面から性的マイノリティを捉えようとする質問文や選択肢を多くもちいている。(性的マイノリティの権利にかかわる項目については、この限りではない。)

否定的な感情の質問文を中心とした調査票を使うことになったのは、研究グループ内でも、議論や試行を重ねた結果である。調査票の策定過程では、否定的な感情にこだわらず、たとえば、性的マイノリティや同性間の恋愛感情や性行為をよしとする項目や、教員になることや教えることに対して肯定的な意識を前提とした項目、あるいは、否定肯定にかかわらず、あらゆる表現を挙げてあてはまるものを選んでもらう形式などが、幾度ともなく検討された。しかしいくつかの理由から、本調査では抵抗感や嫌悪感といった否定的な感情をストレートに聞くことにした。

第一には、先行研究の多くが大学生を対象にし、否定的な感情をたずねるか、もしくは肯定的/否定的な感情をまぜて調査しており、否定的な感情は無視できないものであることを示している。そこで、今回、一般社会において回答の分布を調べることは、意義があると考えたためである。

第二には、たとえば「同性愛者には繊細な人が多い」、「同性愛は純粋なものである」などの「ポジティブ」なイメージを捉える項目を入れて結果を得たとしても、ある種のステレオタイプを確認するにとどまるのではないか(石丸 2008)という懸念があったためである。肯定的なものであれ否定的なものであれ、イメージを捉える調査にステレオタイプの表出は必然であるため、肯定的なものと否定的なものを公平に混ぜて形式上「中立」を保った調査にするより、現実的な困難をより鮮明に浮き彫りにする否定的な表現の項目に絞るほうが、性的マイノリティの現状把握に必要な情報を捉えることができる、と判断したことも重要な理由である。

第三に、今回の社会調査は、さまざまな年齢や属性の人を対象にしており、そうした調査の場合、調査票は、その多様な回答者が質問文を精読しなくても答えられるように作られていることが望ましいとされているためである。この調査のように対象者になじみのないテーマを扱うさいは、とくにこの点が重要であるとされている。たとえば、性的マイノリティを肯定的に捉える表現を中心にたずねた場合や、中立を保つために否定的な文章と肯定的な文章を混在させた場合、矛盾回答など読み違い・つけ違いと思われる回答が多々起きることが知られている。

事実、一般の回答者を対象とした予備調査後のヒアリングでは、性的マイノリティを肯定的に捉える表現を使った項目について、とくに高齢の協力者から、読み違えているのか

思っただけでも読み直す必要があった、といった意見が寄せられた。また、「否定的感情」と「肯定的感情」、「否定的感情」と「否定的感情の否定」、あるいはこの三者が混在しているものについては、答えにくい、何度も読み直さないとわかりにくい、読み直しているうちに余計わからなくなかった、というコメントが寄せられた。後者の点については、「調査慣れ」をしている大学生ならば、否定的な感情の質問文（おかしい、抵抗がある）と、否定的な感情を否定する質問文（おかしくない、抵抗がないなど）、さらに肯定的な感情からなる質問を混ぜたとしても、問題なく回答できると予想した。しかし実際は、大学生を対象にした予備調査でも、読み違い・つけ違いと思われるものが見受けられた。どのような調査・項目においても読み違い・つけ違いは起こりえるものだが、今回のように経験上予測できる間違いについては、できる限り避けることで、集めたデータの精度を保つことが重要だと考えた。

こうしたことをさまざまな観点から総合的に検討した結果、この調査では、否定的な感情に対する反応を中心に、あいまいな表現を避けてストレートにたずねることにした。

しかしながら、こうした質問がなされることで、あるいは調査結果が公表されることで、人びとの性的マイノリティに対しての否定的な見解・イメージを強化・再構築するのではないかと、という疑念を払拭できないのもまた事実である。また、性的マイノリティの当事者にとっては、そうした調査の実施や調査の公表によって、傷ついたり自信をなくしたり、不快な思いをもたらしたりする可能性についても、研究グループで議論した。実際、この調査の最後に設けた調査に対する感想を述べる自由記入欄には、質問の内容が否定的なのでこの調査を行うこと自体が差別的なのではないかと、という意見が数件寄せられた。覚悟の上とはいえ、このような影響をもたらす調査であることを、本研究グループは改めて実感せざるをえなかった。

このような限界があるとはいえ、調査や研究活動は、単独で存在するのではなく、社会的な文脈の中に置かれているということは強調しておきたい。今回、この調査の実施に踏み切ったのは、当事者もそうでない人びとも、この種の調査とその結果が示すメッセージ—たとえそれが否定的なものであっても—を受け止めて、その結果を原動力として社会の改善へとつなげていく土壌が、今の日本社会にはできつつあると感じたからである。これまでの地道な運動を経て、今では性的マイノリティについての信頼できる情報も増え、性的マイノリティを支援するさまざまな活動や研究は現に多く存在する。お笑いの対象として消費されるだけでなく、等身大の当事者の日常を紹介する報道があり、その存在や生き方を肯定するメッセージが発せられている。また、当事者に対する調査も蓄積しつつある流れの中に、本調査は位置づけられていると言える。本調査は、性的マイノリティに対して向けられている否定的なイメージや、みえないものとされている状況が、どれほど多くの割合の人や、あるいはどのような属性の人によって感じとられているのかについて明らかにすることで、その否定的な感情とどのように対峙していくかを検討していくための、基礎資料にもなりうると考えた。

社会情勢の面から考えると、10年前には全国レベルでこのような調査を行うことは考えられなかった。2、3年前ですら、可能であったかはわからない。しかし全国調査を行う計画を全面的に打ち出した本研究プロジェクトが科研費の課題として採択され、調査の委託先候補となる複数の調査会社が、この内容での調査が実施可能だと判断した。また、130

の自治体が、この調査票を確認したうえで住民基本台帳閲覧に許可を出した。同様の手法をもちいた他の学術的な社会調査と比べて回収率に大きな差はなく、調査の実施期間中に寄せられる対象者からの苦情は他の社会調査と比較しても多くなく、またその内容に目立った違いはなかった。こうした事実は、性的マイノリティについての意識を中心とした社会調査が、全国レベルで実施できるという社会状況の現われであると解釈している。

本研究グループでは、否定的な質問項目がもつ問題や調査票全体が醸し出す否定的なイメージに対しては、引き続き検討・反芻を続ける予定である。今後性的マイノリティの可視化がさらに進み、人権を求める声が大きくなればなるほど、潜在下にある否定的な捉え方は表面化していく可能性があるが、そうした時に、今回の調査結果が一つのいしずえになることを願っている。

(3) 調査手法

本調査は、「男女のあり方と社会意識に関する調査」という名称のもと、全国の全地域において、住民基本台帳に登録している 20 歳から 79 歳の 2,600 人を対象に実施した。調査実施に必要な業務は、一般社団法人新情報センター（以下、新情報センター）に委託した。研究メンバーは準備の段階からデータの納品までの全プロセスにおいて、新情報センターと密に連絡を取り合いながら実施した。

調査実施の概要は以下のとおりである。

調査名：男女のあり方と社会意識に関する調査

調査地域：全国（130 地点）

調査対象：20 歳から 79 歳までの（戸籍上の）男女

抽出方法：住民基本台帳による層化二段無作為抽出法

調査方法：留置調査（訪問留置訪問回収法）※一部郵送による返却

調査実施時期：平成 27（2015）年 3 月

配布数・回収数（回収率）：配布 2,600 票

回収 1,259 票（回収率 48.4%）（郵送返却 61 票、回収票の 4.8%に相当）

質問数：全 59 問、157 項目

① 抽出方法

日本の 20 歳～79 歳の全人口から、この調査への回答を依頼する 2,600 人を選ぶために、住民基本台帳に基づく層化二段無作為法をもちい、第一次抽出では調査地点（平成 22 年国勢調査区）を 130 地点抽出し、第二次抽出では 130 の各地点の住民基本台帳から無作為で地点毎に決めた標本数を抽出した。

手順を詳しく述べると、第一次抽出では、全国の市町村を、都道府県を単位とした 11 地域に分け、各地域をさらに都市規模別（平成 25 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳に基づく人口による）に、「大都市」（政令指定都市と東京 23 区）、「人口 10 万人以上の市」、「人口 10 万人未満の市・郡部」の 3 つに分類し、合計 31 の層を設定した。次に本調査の対象である 20 歳～79 歳の人口に応じて 2,600 の標本数を 31 の各層に比例配分し、各調査地点